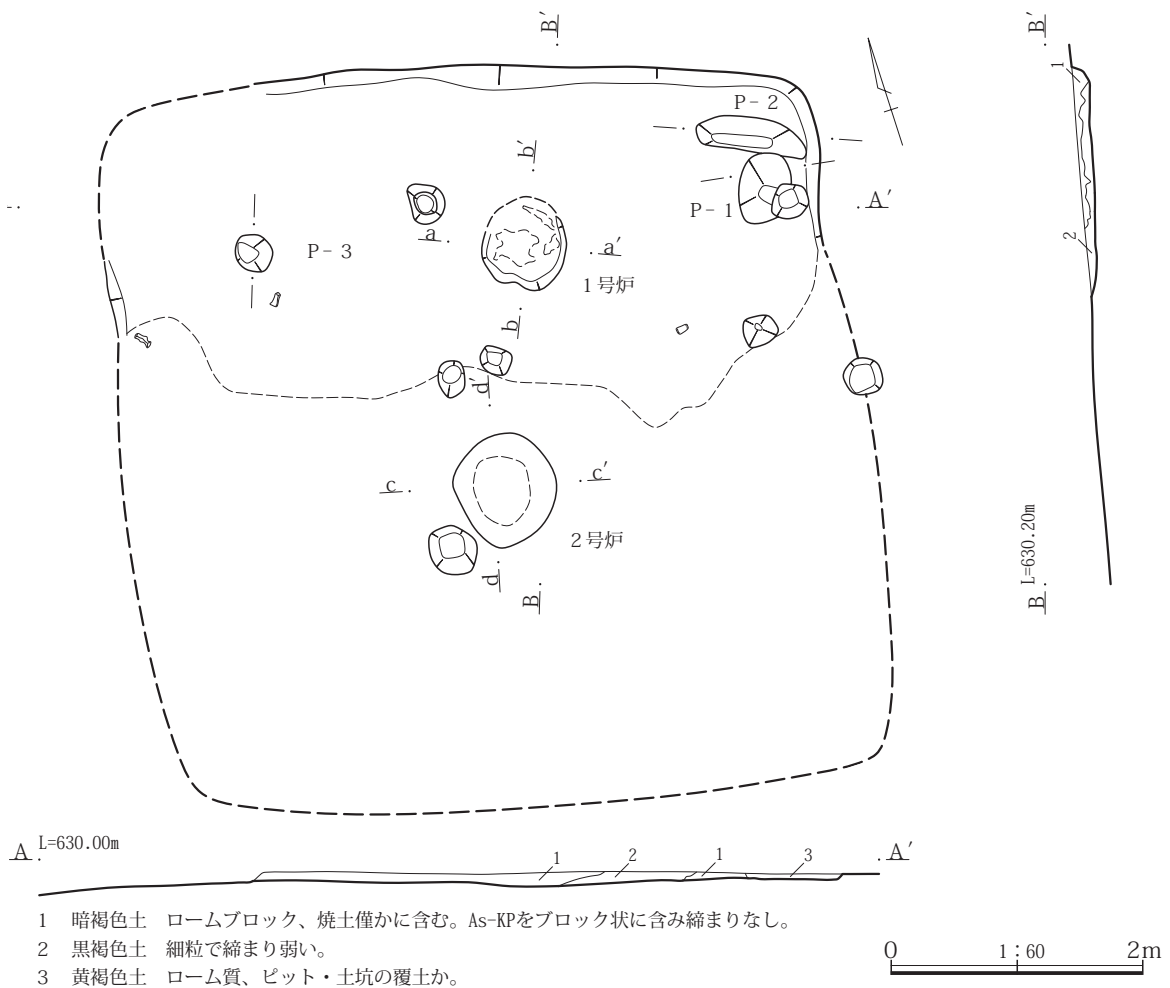


第3節 平安時代以降の遺構と遺物

1 住居跡

7-1号住居跡 (第88～90図：PL.7・69)

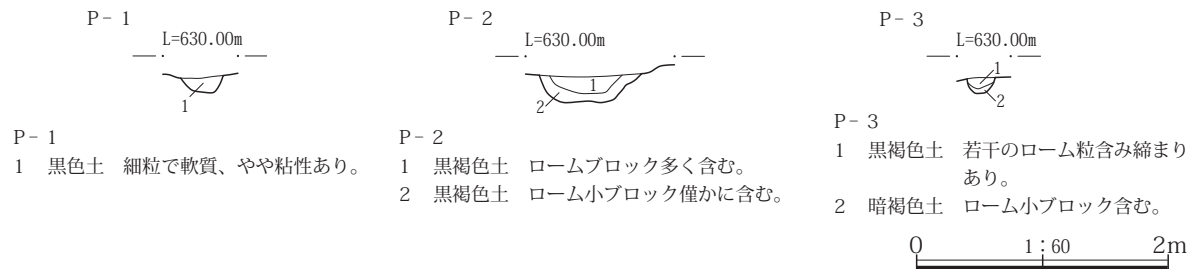
位置 T・U-20・21グリッドに位置する。 **重複** 7-1・2・3・5号掘立柱建物跡と重複する。いずれも詳細な新旧関係は不明だが、覆土の状況から7-1号住→7-1・2・3・5号掘立の順で新しいと判断。 **形状** 全体に掘り込みが浅いため、壁の立ち上がりを確認できたのは北・東・西壁の一部で全形は不明だが、遺構確認の際に南壁のラインを極く浅い覆土で検出したことから方形と推定。 **規模** (600)×(600)×-cm。 **方位** N-15°-E。 **床面** 中央から北側で比較的硬化した面が確認された。住居の南半部は掘り込みが浅く、削平されて確認できない。 **炉** 住居の中央北側と中央部の2か所に、炉と考えられる小穴が確認された。1号炉は直径70cm、深さ20cm、2号炉は直径80cm、深さ20cmで、いずれも播鉢状を呈し、内部は焼土及び炭化物で充填されていた。 **柱穴** 推定する住居外形との位置関係から、この住居に伴う支柱穴はないものと判断した。確認したピットの多くは重複する掘立柱建物跡のものの可能性が高いが、その帰属を明確に確定できない。 **出土遺物** 覆土より須恵器杯・甕の破片、2号炉覆土より炭化種実が出土。



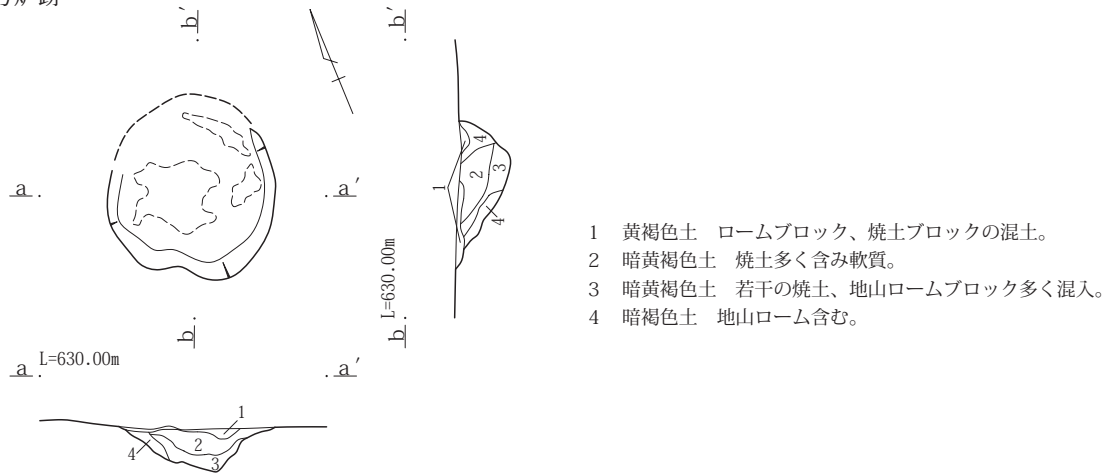
第88図 7-1号住居跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物

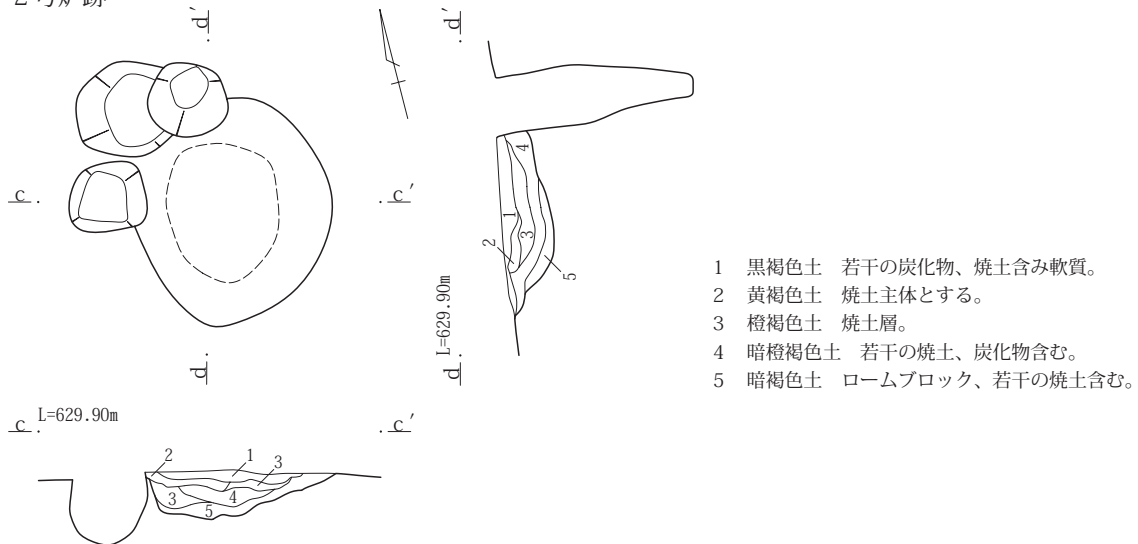
時期・所見 覆土内より出土した須恵器坏片から、9世紀後半と判断される。住居の掘り込みが浅いために外形は不確定で、今のところこの遺跡周辺で炉を伴う平安時代の竪穴住居の類例がないことから、炉はこの遺構に伴わない可能性もある。



1号炉跡



2号炉跡



第89図 7-1号住居跡(2)



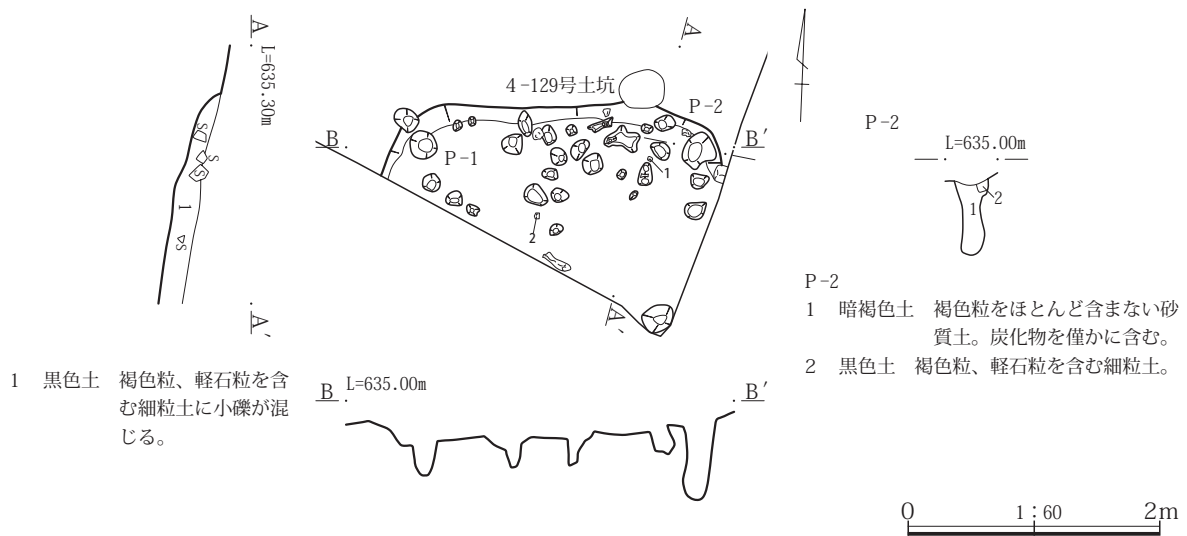
第90図 7-1号住居跡出土遺物

0 1:3 5cm

2 竪穴状遺構

4-7号竪穴状遺構 (第91・92図: PL. 51・69)

位置 Q-14グリッドに位置する。 **形状** 遺構の南側が調査区域外で全形は不明。方形か。 **規模** 250×(150)×25cm。 **方位** N-S。 **床面** 小さな凹凸及び小ピットが確認された。 **炉・竈** 確認した範囲には炉、竈ともに認められない。 **柱穴** 遺構の北西隅と北東隅に、それぞれ直径20cm、深さ30cm、直径25cm、深さ60cmの2個ピットが確認され、これらを柱穴と判断した。他の小ピットの性格は不明。 **出土遺物** 覆土内より縄文時代中期の土器片が出土。 **時期・所見** この遺構に伴う出土遺物がないために時期は不明だが、中世の可能性が高い。覆土内より出土した縄文土器片は混入と判断。



第91図 4-7号竪穴状遺構

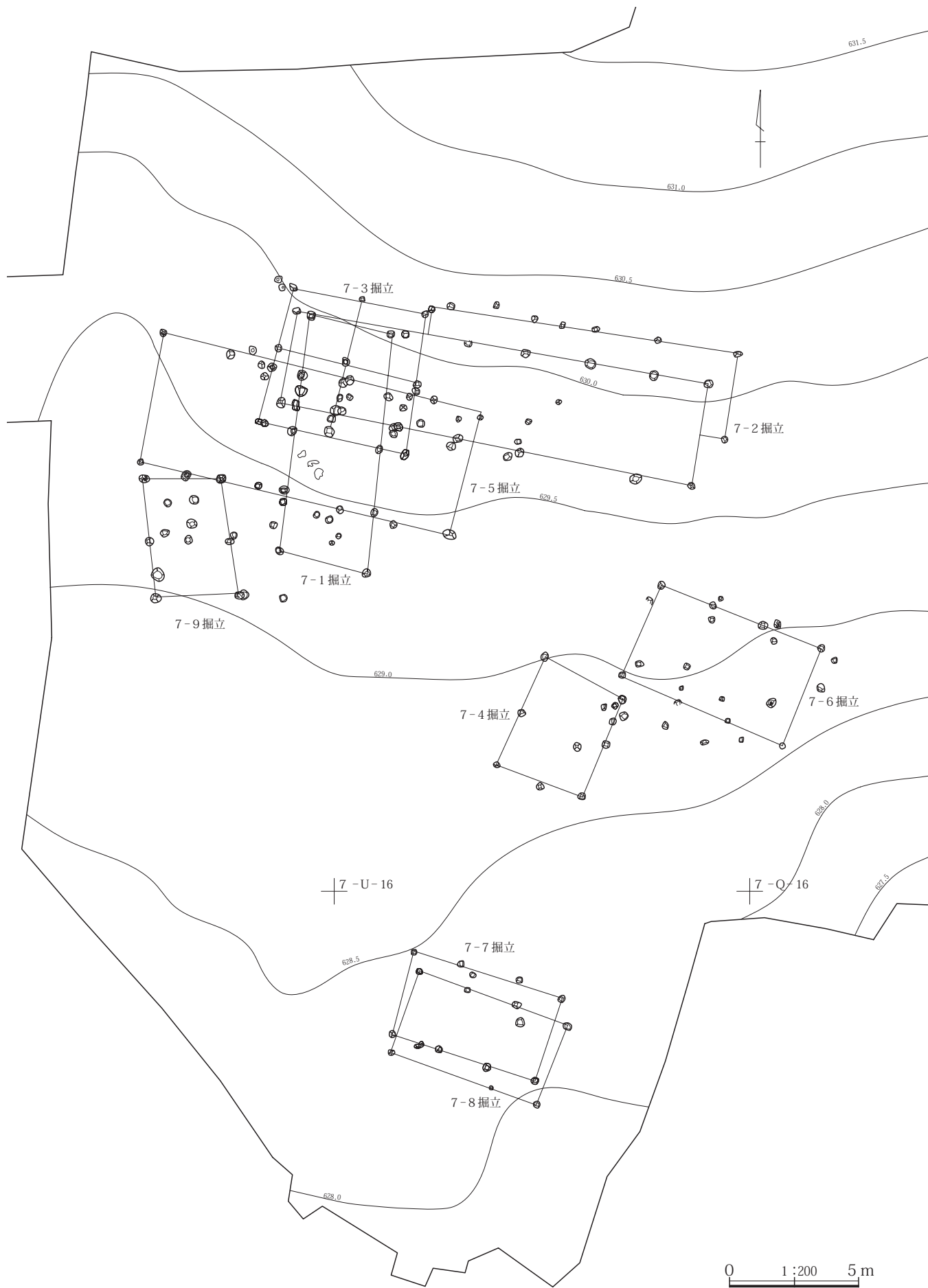


第92図 4-7号竪穴状遺構出土遺物

3 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡群は、南北約35m、東西約30m、面積約1,000m²ほどの範囲に9棟が確認された。これらが立地する地形は最高部の標高が630m、最低部の標高は628mで、北から南に約7%の勾配で下る傾斜地形である。このうち北半部は、北から南への一定の傾斜地形で、南半部は比較的緩やかな舌状に張り出す傾斜地形を示している。

掘立柱建物跡群の立地は、その標高で大きく3群に分かれる。ひとつは最高部である630m付近に7-1・2・3・5・9号掘立柱建物跡が、二つ目は中位の629m付近に7-4・6号掘立柱建物跡が、三つ目は最低部である628m付近に7-7・8号掘立柱建物跡がそれぞれ立地している。長軸を東西にもつものが多く、これは北から南への傾斜地形に対して、等高線に平行する形で長軸を採った結果と考えられる。遺構の年代の詳細は不明であるが、覆土の状況からいずれも近世の可能性が高いものと判断した。



第93图 7区掘立柱建物跡全体図

7-1号掘立柱建物跡 (第94図：PL.51)

位置 T・U-19～21グリッドに位置する。**立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうちの最も高い位置に立地する1群に属す。この遺跡では等高線に平行する形で長軸をとる掘立柱建物跡が多いなかで、この掘立柱建物跡は等高線にほぼ直行する形で南北の斜面に長軸をとる数少ない例。**重複** 7-1号住居跡、7-2・3・5号掘立柱建物跡とそれぞれ重複する。いずれも新旧関係は不明だが、7-1号住居跡は平安時代であることから、7-1号住居→7-1号掘立柱建物跡の順で新しいものと考えられる。他の掘立柱建物跡との関係は不明。**形状** 柱間は1間×4間、10本柱で長軸を南北にもつ。柱穴の芯々を結ぶ四角形は、やや歪んだ平行四辺形状を呈す。**規模** 925×335cm。**主軸方向** N-6°-E。**柱穴** 直径28～38cm、深さ37～85cmの円形掘方。いずれの柱穴にも柱痕は確認できない。**焼土痕** 掘立柱建物跡が囲む四角形の範囲の西辺中央部やや南側に、不整形の焼土範囲3か所を確認。最も東側に位置するものは短軸30cm、長軸40cm、深さ10cmの僅かな窪み内に、焼土、炭化物が層をなしている。この焼土痕がこの遺構に伴うか否かは不確定。**出土遺物** なし。**所見・時期** 本掘立柱建物跡が囲む範囲内で検出した焼土痕はこの遺構に伴うか否かは不明だが、仮に伴うとすれば囲炉裏の底面などが考えられる。この遺構に共伴する遺物が皆無なために詳細な年代は不明だが、柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-1号掘立柱建物跡 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10
直径(cm)	32	38	34	34	29	31	28	29	31	27
深さ(cm)	37	82	85	73	44	48	58	68	84	54

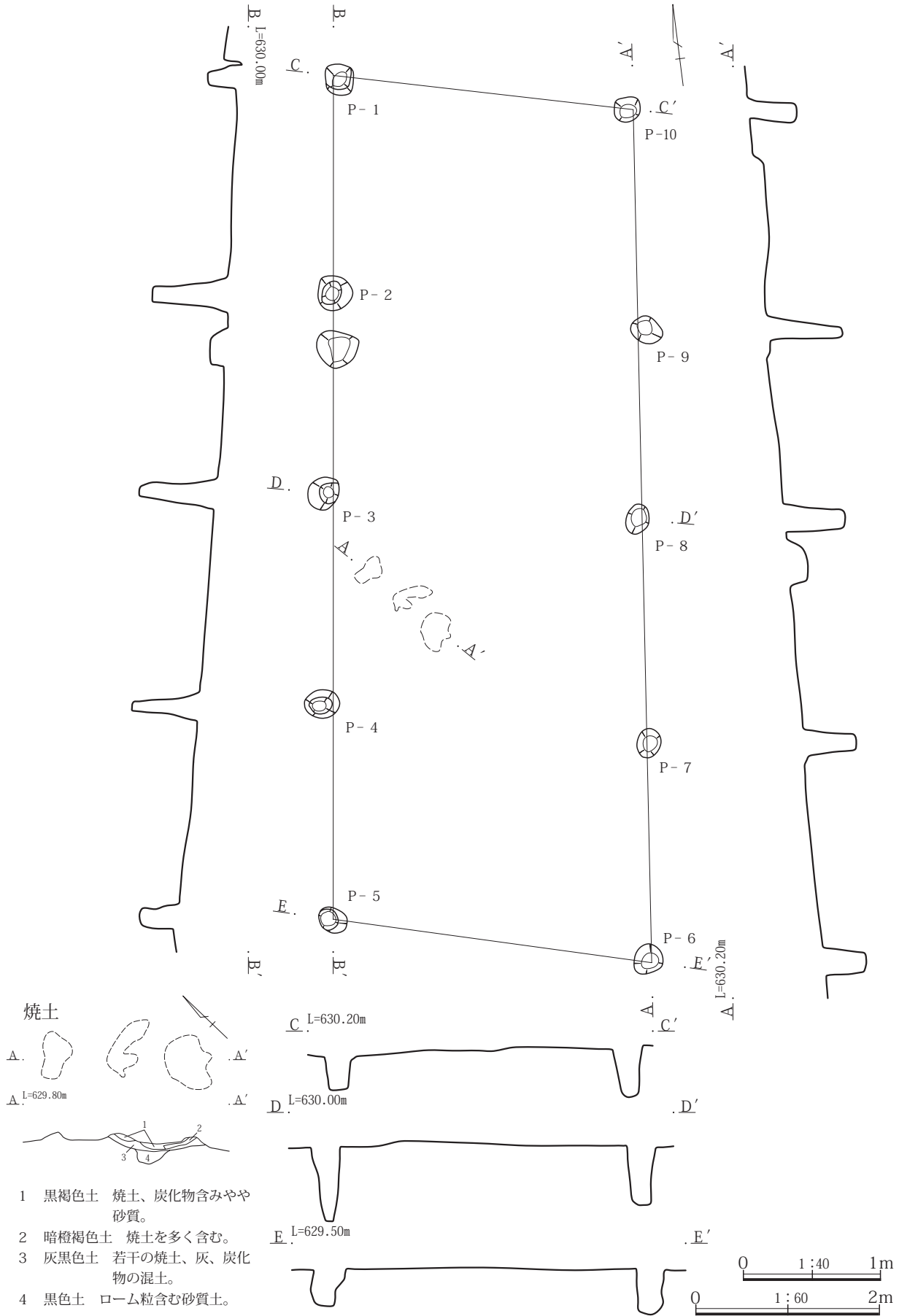
7-2号掘立柱建物跡 (第95・96図：PL.51・53)

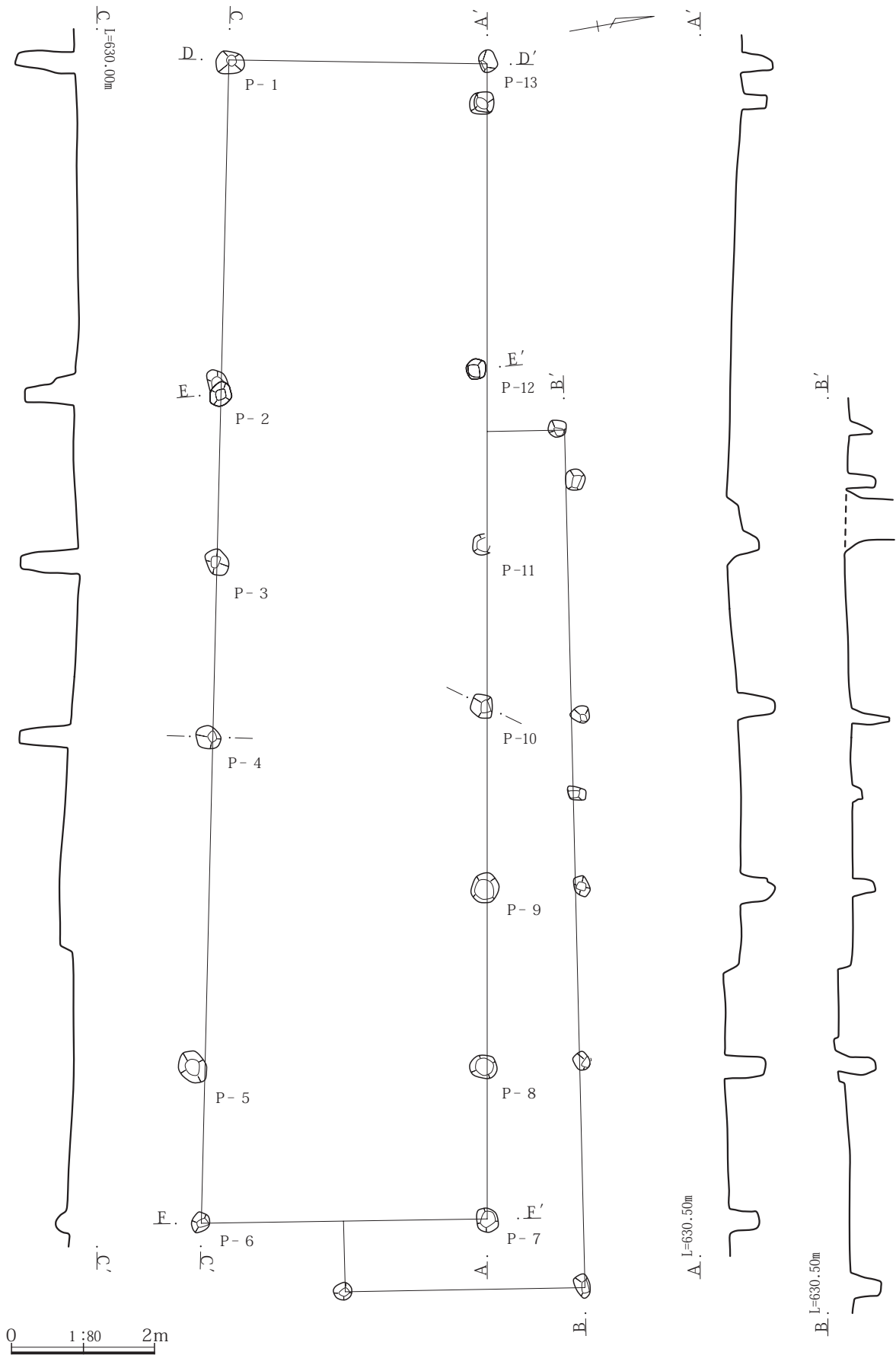
位置 Q-19～21、R～U-20・21グリッドに位置する。**立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうちの最も高い位置に立地する1群に属し、他の掘立柱建物跡と重複して立地する。等高線にほぼ平行する形で、東西方向に長軸をとる。**重複** 7-1号住居跡、7-1・3・5号掘立柱建物跡と重複する。いずれも新旧関係は不明だが、7-1号住居跡は平安時代であることから、7-1号住居→7-2号掘立柱建物跡の順で新しいものと考えられる。**形状** 柱間は梁側が1間で、桁側は不明だが7間の可能性が高く、長軸を東西にもつ。認定した柱穴は13本で、芯々を結ぶ四角形は整った長方形を呈す。**規模** 1610×380cm。**主軸方向** N-80°-W。**柱穴** 直径31～40cm、深さ20～82cmの円形掘方。土層断面において、P-4とP-10には柱痕を確認した。P-4は幅10cm、P-10は幅20cm。**出土遺物** なし。**所見・時期** この遺跡で長軸が最も長い掘立柱建物跡。遺構の北側にほぼ平行して並ぶ柱穴列は、この遺構に伴うか否かは不確定。仮に伴うものであるとしたら、建物と一体のものというより、垣根などが想定される。この遺構に共伴する遺物が皆無なために詳細な年代は不明だが、柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-2号掘立柱建物跡 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10	P-11	P-12	P-13
直径(cm)	36	32	34	33	42	27	33	35	40	31	29	27	27
深さ(cm)	82	70	82	71	39	20	41	57	48	51	45	40	45

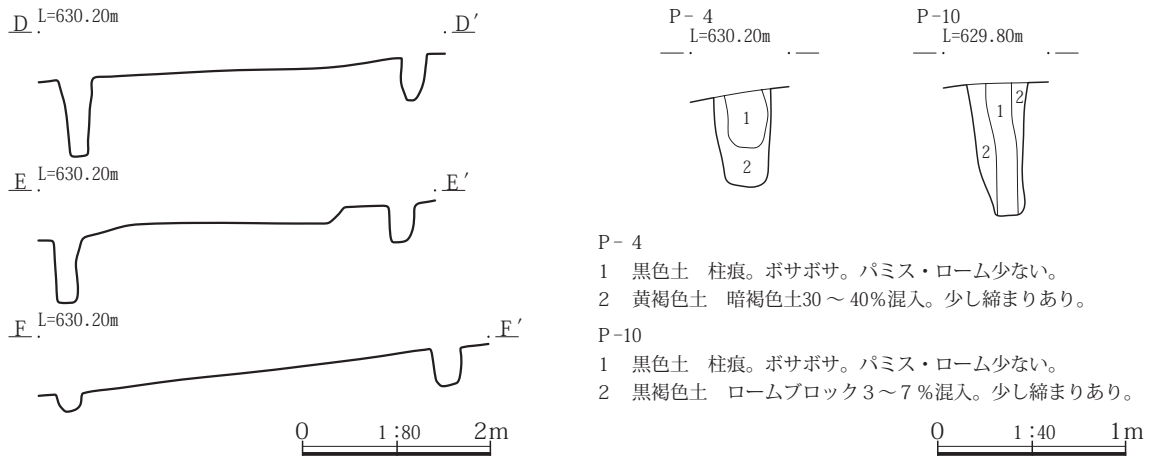
第3章 検出された遺構と遺物





第95図 7-2号掘立柱建物跡(1)

第3章 検出された遺構と遺物



第96図 7-2号掘立柱建物跡(2)

- P-4
 1 黒色土 柱痕。ボサボサ。パミス・ローム少ない。
 2 黄褐色土 暗褐色土30～40%混入。少し縮まりあり。
- P-10
 1 黒色土 柱痕。ボサボサ。パミス・ローム少ない。
 2 黒褐色土 ロームブロック3～7%混入。少し縮まりあり。

7-3号掘立柱建物跡 (第97図：PL.52)

位置 T・U-20・21グリッドに位置する。 **立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうちの最も高い位置に他の掘立柱建物跡と重複して立地する。 **重複** 7-1号住居跡、7-1・2・5号掘立柱建物跡と重複する。いずれも新旧関係は不明だが、7-1号住居跡は平安時代であることから、7-1号住居→7-3号掘立柱建物跡の順で新しいものと考えられる。 **形状** 柱間は1間×2間、6本柱で南辺がやや開いた不整形。 **規模** 550×540cm。 **主軸方向** N-77°-W。

柱穴 直径25～34cm、深さ40～64cmの円形掘方。いずれの柱穴にも柱痕は確認できない。 **出土遺物** なし。 **所見・時期** 長方形が多いこの遺跡の掘立柱建物跡のなかで、唯一の正方形に近い形状を呈す。柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-3号掘立柱建物跡 柱穴計測値

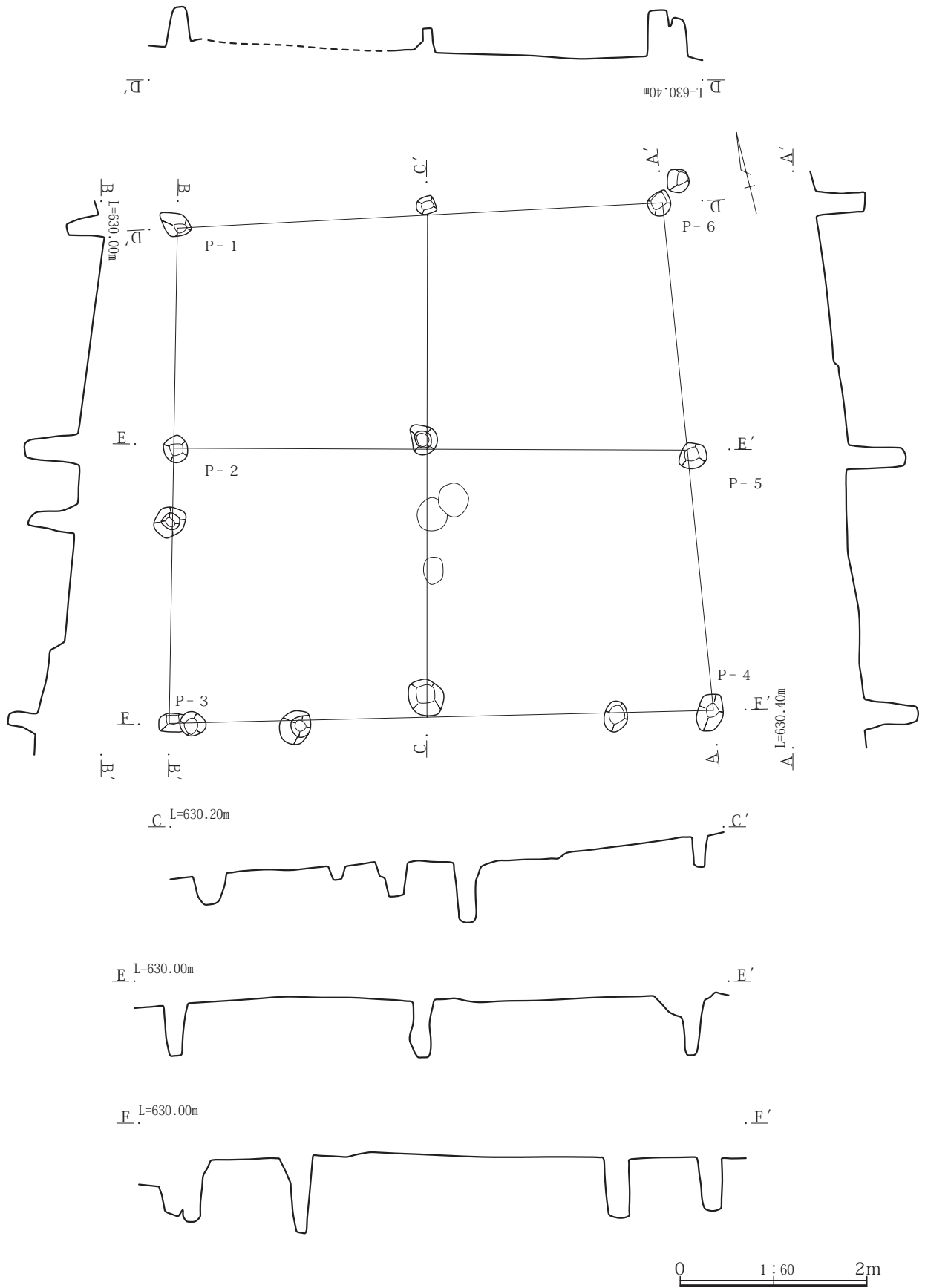
柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6
直径(cm)	26	26	25	34	27	25
深さ(cm)	40	58	32	58	64	54

7-4号掘立柱建物跡 (第98図：PL.52)

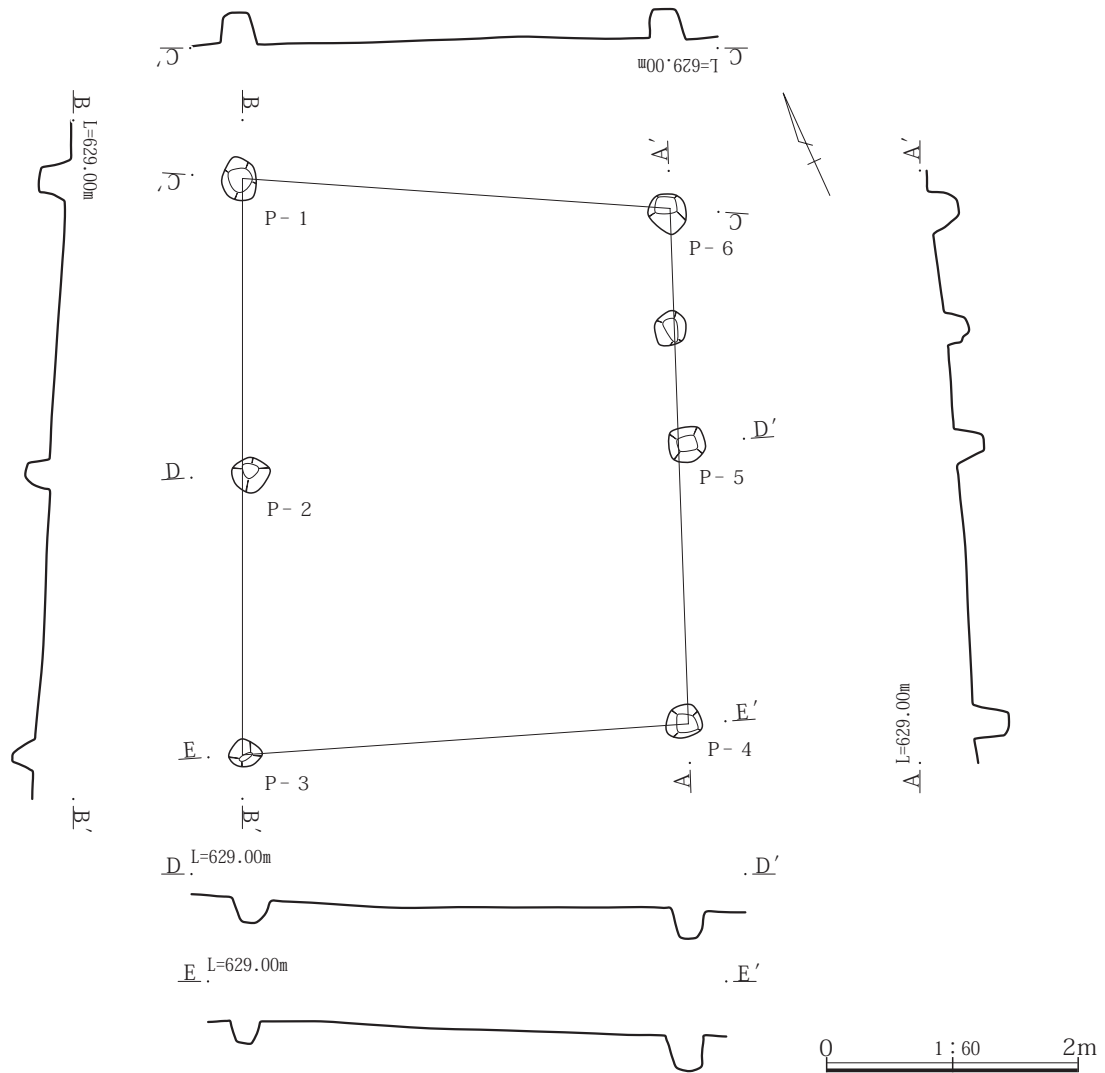
位置 R・S-16～18グリッドに位置する。 **立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうちの中間的な高さの位置に立地する1群に属し、7-6号掘立柱建物跡に近接して立地する。 **重複** なし。 **形状** 柱間は1間×2間で、長軸を南北にもつ6本柱の不整形長方形。 **規模** 430×345cm。 **主軸方向** N-25°-E。 **柱穴** 直径23～31cm、深さ13～29cmの円形掘方。いずれの柱穴にも柱痕は確認できない。 **出土遺物** なし。 **所見・時期** 軸線の傾きが北東側に近接する7-6号掘立柱建物跡とほぼ直交することから関連する建物の可能性があるが、詳細は不明。柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-4号掘立柱建物跡 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6
直径(cm)	31	27	23	27	29	31
深さ(cm)	27	20	18	29	24	25



第97図 7-3号掘立柱建物跡



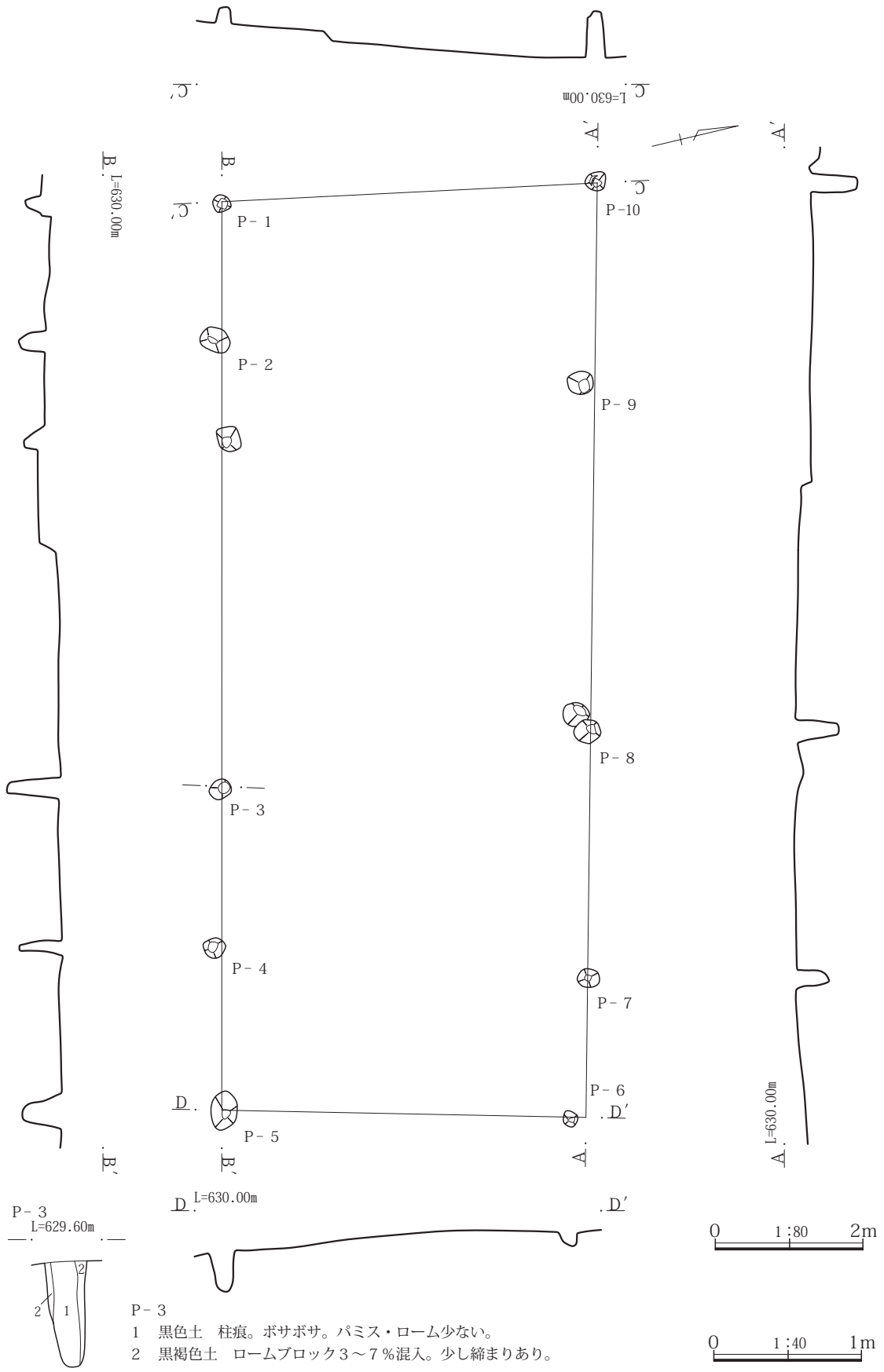
第98図 7-4号掘立柱建物跡

7-5号掘立柱建物跡 (第99図: PL. 52・53)

位置 S・T-19・20、U・V-19～21グリッドに位置する。 **立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうちの最も高い位置に立地する1群に属す。 **重複** 7-1号住居跡、7-1・2・3号掘立柱建物跡と重複する。いずれも新旧関係は不明。 **形状** 柱間は梁側が1間、桁側は不明で、東西に長軸をもつ。認定した柱穴は10本。 **規模** 1250×500cm。 **主軸方向** N-77°-W。 **柱穴** 直径20～44cm、深さ20～73cmの円形掘方。土層断面において、P-3に幅15cmの柱痕を確認した。 **出土遺物** なし。 **所見・時期** 長軸がこの遺跡で2番目に長く、最も長い7-2号掘立柱建物跡と一部が重複して、その軸線はほぼ平行する。柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-5号掘立柱建物跡 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8	P-9	P-10
直径(cm)	23	36	28	26	44	20	28	34	33	27
深さ(cm)	35	37	73	59	52	20	44	58	44	65



第99図 7-5号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物

7-6号掘立柱建物跡 (第100図：PL.52)

位置 P～R-17・18グリッドに位置する。**立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうち中間的な高さの位置に立地する1群に属す。**重複** なし。**形状** 柱間は1間×3間で、東西に長軸をもつ8本柱のほぼ整った長方形。この遺跡の掘立柱建物跡は、柱間が1間×3間ものが3棟、1間×2間ものが3棟であり、柱間、全体の規模ともに平均的なものに近く、長軸の方向も最も多い東西方向に属す。等高線にほぼ平行する形で長軸を配置する。**規模** 670×395cm。**主軸方向** N-68°-W。**柱穴** 直径18～32cm、深さ15～50cmの円形掘方。いずれの柱穴にも柱痕は確認できない。**出土遺物** なし。**所見・時期** 7-4号掘立柱建物跡とともに全体の中間的な標高の位置に立地し、大きく3群に分かれる掘立柱建物跡群のひとつの群をなす。軸線の傾きが南西側に近接する7-4号掘立柱建物跡とほぼ直交し、本掘立柱建物跡の東辺の延長線上に近い位置に7-4号掘立柱の西辺が位置することから、両者は関連した一連の建物の可能性がある。柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-6号掘立柱建物跡 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8
直径(cm)	24	30	18	(24)	28	32	25	28
深さ(cm)	35	21	15	—	49	50	39	28

7-7号掘立柱建物跡 (第101図：PL.52)

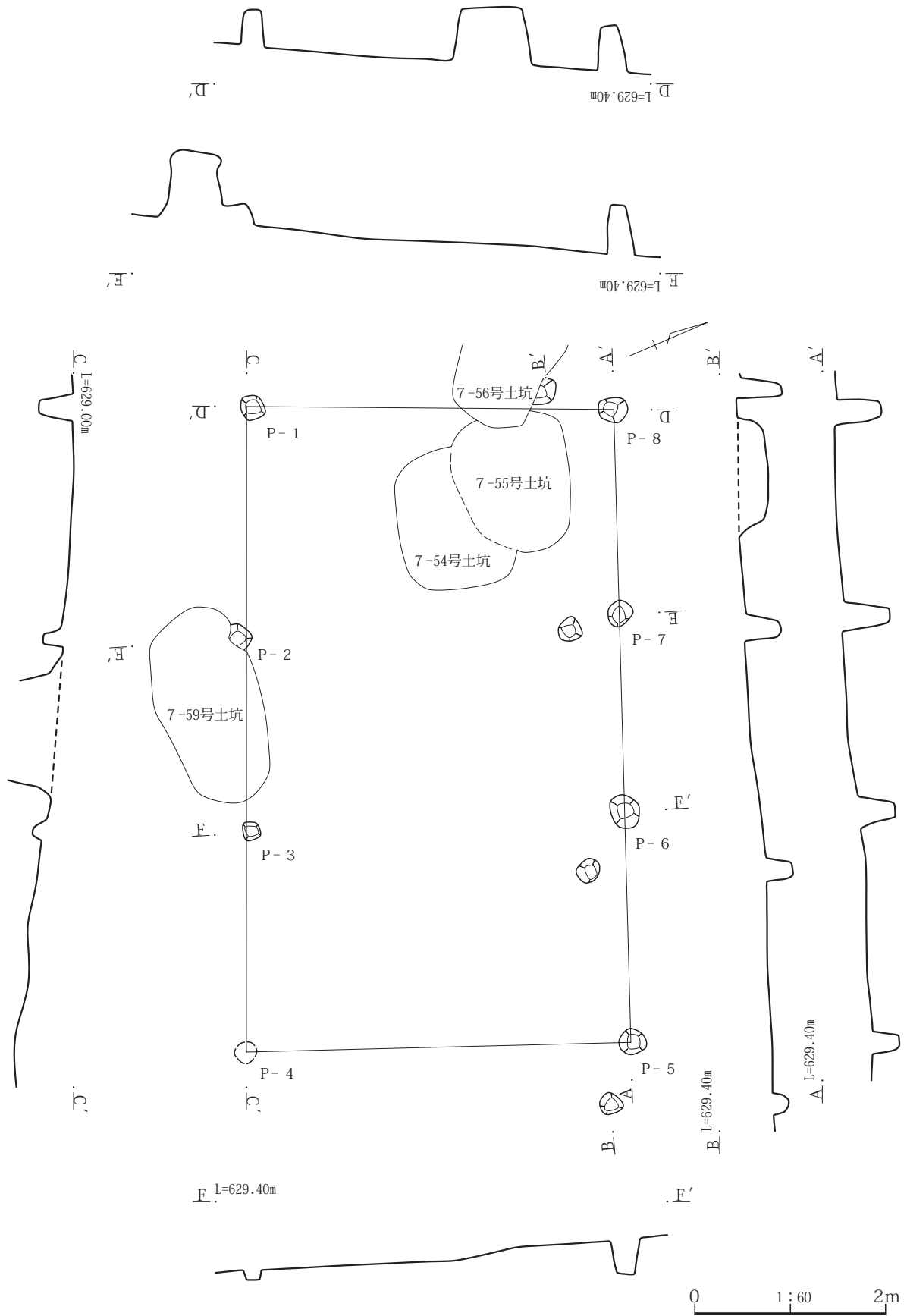
位置 R-14、S・T-14・15グリッドに位置する。**立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうち最も低い位置に立地する1群に属す。**重複** 7-8号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明。**形状** 柱間は1間×3間で、東西に長軸をもつ8本柱の整った長方形。この遺跡の掘立柱建物跡は、柱間が1間×3間ものが3棟、1間×2間ものが3棟であり、柱間、全体の規模ともに平均的なものに近く、長軸の方向も最も多い東西方向に属す。等高線に対してやや斜め方向に長軸を配置する。**規模** 590×330cm。**主軸方向** N-73°-W。**柱穴** 直径20～30cm、深さ20～41cmの円形掘方。いずれの柱穴にも柱痕は確認できない。**出土遺物** なし。**所見・時期** 7-8号掘立柱建物跡とともに全体の最も低い標高の部分に立地し、大きく3群に分かれる掘立柱建物跡群のひとつの群をなす。重複する7-8号掘立柱建物跡と規模、軸線の傾きが近似し、柱間も同じであることから、建て替えの可能性はあるが新旧関係は不明。柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-7号掘立柱建物跡 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7	P-8
直径(cm)	26	25	30	27	26	24	24	20
深さ(cm)	41	35	25	20	26	35	27	23

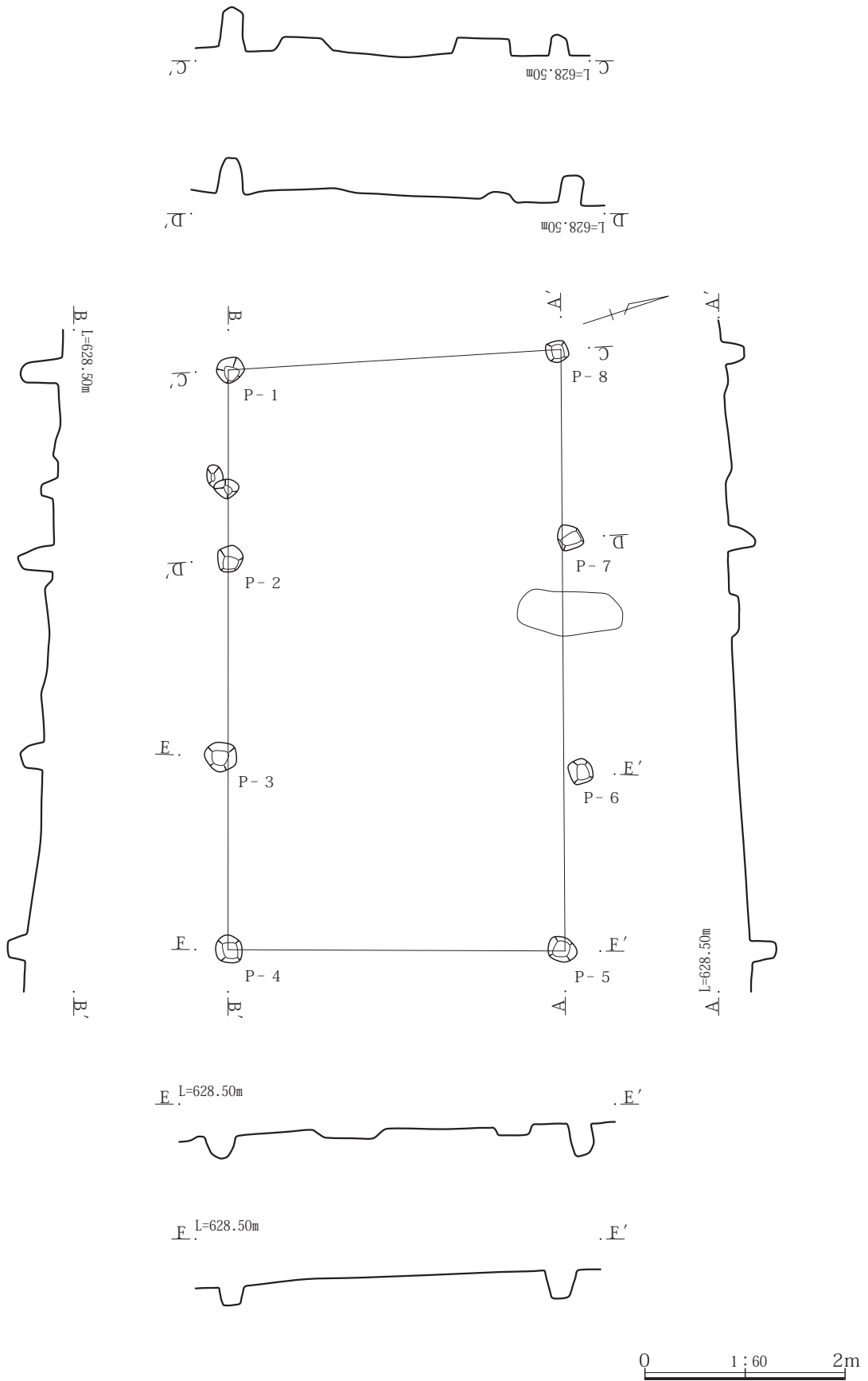
7-8号掘立柱建物跡 (第102図：PL.52)

位置 R-14、S-13～15、T-14・15グリッドに位置する。**立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうち最も低い位置に立地する1群に属す。**重複** 7-7号掘立柱建物跡と重複する。新旧関係は不明。**形状** 柱間は1間×3間と推定。東西に長軸をもつ推定8本柱の整った長方形。南辺の西から2番目に位置する柱穴は未確認だが、おそらく深さの浅い柱穴が存在したものと考えられる。この遺跡の掘立柱建物跡は、柱間が1間×3間ものが3棟、1間×2間ものが3棟であり、柱間、



第100図 7-6号掘立柱建物跡

第3章 検出された遺構と遺物



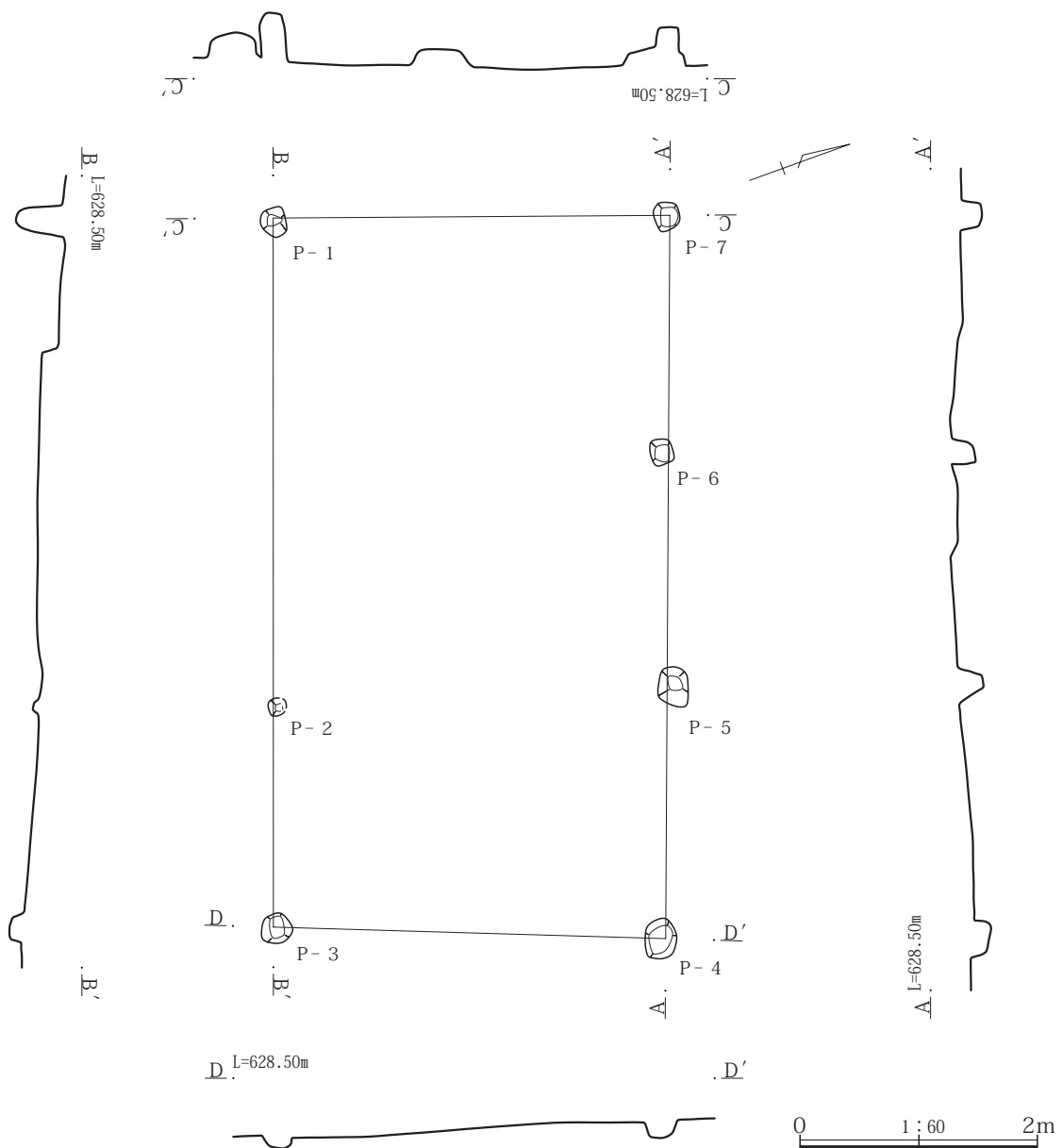
第101図 7-7号掘立柱建物跡

全体の規模ともに平均的なものに近く、長軸の方向も最も多い東西方向に属す。等高線に対してやや斜め方向に長軸を配置する。 **規模** 605×330cm。 **主軸方向** N-70°-W。 **柱穴** 直径15～30cm、深さ13～40cmの円形掘方。いずれの柱穴にも柱痕は確認できない。 **出土遺物** なし。 **所見・時期**

重複する7-7号掘立柱建物跡とともに全体の最も低い標高の部分に立地し、大きく3群に分かれる掘立柱建物跡群のひとつの群をなす。7-7号掘立柱建物跡と規模、軸線の傾きが近似し、柱間も同じであることから、建て替えの可能性があるが新旧関係は不明。柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-8号掘立柱建物跡 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6	P-7
直径(cm)	23	(15)	25	30	30	20	23
深さ(cm)	40	-	13	16	20	20	18



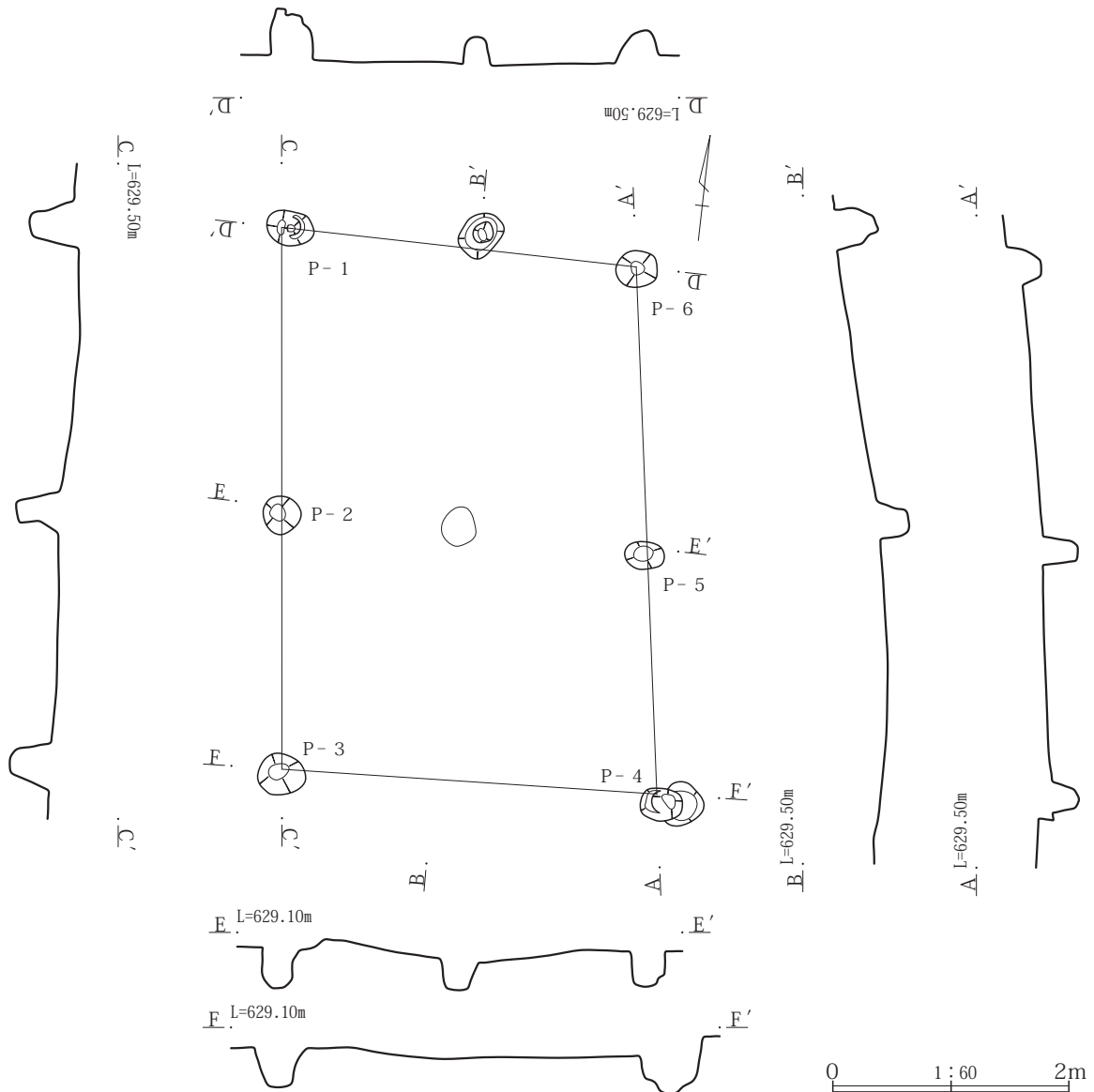
第102図 7-8号掘立柱建物跡

7-9号掘立柱建物跡 (第103図: PL.52)

位置 U・V-18・19グリッドに位置する。**立地** この遺跡の掘立柱建物跡は立地する標高で3群に分かれるが、このうちの最も高い位置に立地する1群に属す。**重複** 7-7号掘立柱建物跡と軸線が重複する。新旧関係は不明。**形状** 柱間は1間×2間で、南北に長軸をもつ6本柱のやや歪んだ不整長方形。**規模** 455×310cm。**主軸方向** N-7°-W。**柱穴** 直径29~38cm、深さ29~46cmの円形掘方。いずれの柱穴にも柱痕は確認できない。**出土遺物** なし。**所見・時期** この遺跡で最も規模の小さい掘立柱建物跡。柱穴の覆土の状況から近世の可能性が高い。

7-9号掘立柱建物跡 柱穴計測値

柱穴	P-1	P-2	P-3	P-4	P-5	P-6
直径(cm)	34	32	38	31	29	33
深さ(cm)	41	46	35	34	29	29



第103図 7-9号掘立柱建物跡

4 土坑 (第104～141図：PL.9～12・15・19～38・42～45・48・69～72)

平成17・19・20年度に調査した、平安時代以降と思われる土坑の総数は92基である。各区毎の内訳は3区4基、4区5基、6区6基、7区59基、8区8基、13区1基、17区2基、96区2基となる。以下、それぞれの区毎に形状や特徴などを概述する。

3区は南に落ち込む谷に面した場所に当たる。検出された4基が陥し穴と判断された。長軸を等高線と平行にするものと、直行するものとに分けられる。いずれも長円形で1基を除き深さは1mを超える。北側に接する13区においても1基を検出している。4区は南に緩やかに落ちる谷部分の谷頭にあたる。平成17年度に調査を行った部分においては、2基を検出している、ほぼ円形で掘り込みは浅い。周辺に多くのピットを伴っている。南側の調査区では、4基を検出、このうち1基(4-124号)は大型の陥し穴である。

6区の調査区に関しては、南に緩く傾斜した地形で、複数の縄文時代の住居、土坑等も検出されている。平安時代以降と判断された土坑は6基で、調査区北側部分では、4基が点在する形であるが、南側の調査区では3基が近接して掘り込まれている。いずれも陥し穴と判断される。

7・8区はやや東西に長い調査区で、遺跡地の西側にあたる。地形的には南に緩く傾斜を持ち、端部はやや傾斜が強くなる。比較的広い調査区であるが、縄文時代の遺構は、数基の土坑以外確認されなかった。

対照的に近世と思われる掘立柱建物跡9棟と、多くの陥し穴が検出された。陥し穴の総数は7・8区合わせると67基にもものぼり、突出している。その分布をみると、ほぼ全面に広がるが、中央部分の等高線に沿うように東西に並ぶように集中して配されている状況が窺える。これらの陥し穴は、基本的に等高線に対し長軸が直行するように掘り込まれていることなどから、計画的に構築されたものと考えられる。また、比較的規模の大きなものと、やや小型のものが交互に配されている様子が見られる。これらの陥し穴の構築時期に関しては、明確には確定できていない。出土遺物は混入品がほとんどである。なお、7-71号土坑は土坑としたが、掘り込みはごく浅く、底面が平坦な形状を呈す。覆土中にAs-Kk(1128年)の堆積を認めた。さらに、大型の陥し穴と考えられる7-53号土坑についてはAs-A(1783年)の軽石と小枝状の炭化材が確認されている。〔長野原一本松遺跡(6) 2013自然化学分析編〕

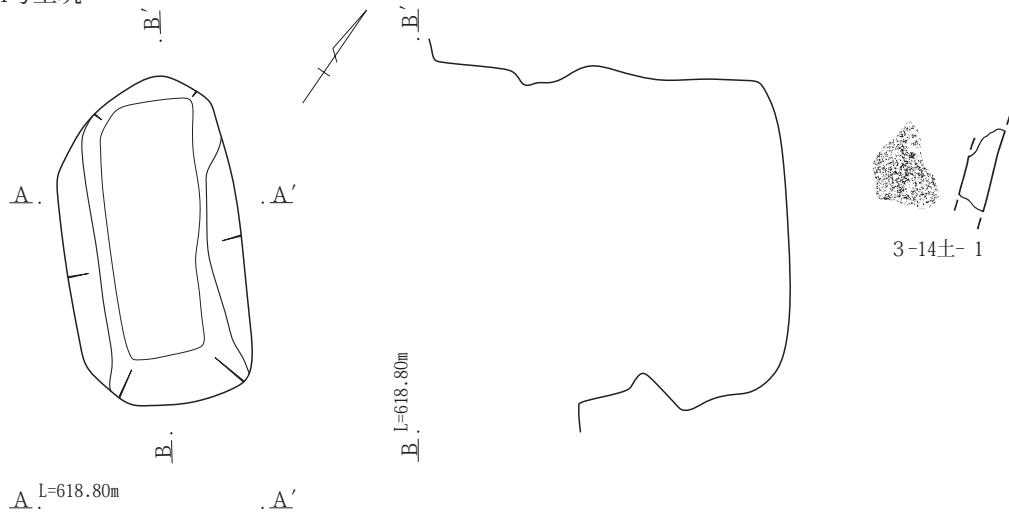
これらの陥し穴は、大型で上面の平面形が長円形、下面が長円あるいは隅丸長方形を呈すものと、上面形が隅丸長方形あるいは長方形で下面が長方形を呈す、やや小型のものに大別できる。前者は長径2.5mを超え、深さも2m近いものも見られる。これらの大型のものは、As-YPk層を抜いており、同層が崩落し易い為に、断面の形状が左右に張り出す袋状を呈すものが多い。両者の違いについては、時期差なのか、対象とする獲物の違いなのかは判断できない。ただ、いずれの陥し穴の土層断面上位に、ローム混じりの軽石や炭化物を多く含む、VまたはU字状の落ち込みが観察されていることから、構築された時間幅は短いものと考えられる。13区では1基、17区では2基の陥し穴が検出された。なお、15区に関しては多くの小土坑を検出したが、いずれも時期不明のものが多かった。根などの攪乱なども含まれているものと考えられる。

96区では2基の陥し穴を検出した。いずれも、前述した区において検出されたものと同種のものと思われる。96-20号土坑は比較的多くの土器片、石器を出土しているが、いずれも混入品である。他の2基は円形で底は平らである。96-27号土坑からは近世の陶磁器底部片が出土している。

長野原一本松遺跡では、縄文時代と思われる陥し穴も確認されているが、多くは平安時代以降と考えられ、その数は300基を超える。中世さらには近世に至るまで、広汎な狩り場として機能していた時期があったものと想定される。

第3章 検出された遺構と遺物

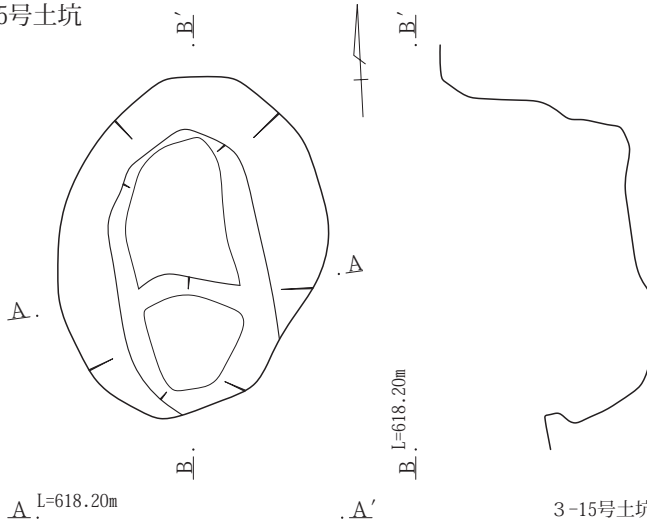
3-14号土坑



3-14号土坑(7号トレンチ内)

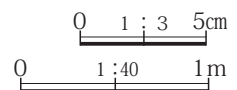
- 1 黒色細粒土
- 2 黒色土 ローム粒子が僅かに混入する。
- 3 黒色土 ローム粒、As-YPk粒を含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック。
- 5 暗褐色土 As-YPkブロックを含む。
- 6 黒色土 As-YPk粒を僅かに含む。
- 7 黒色土 固く締まる。
- 8 褐色土 黒色土とローム粒子が混じる。
- 9 暗褐色土 黒色土とローム粒子が混じる。
- 10 黒色土 As-YPk粒が混じる。

3-15号土坑



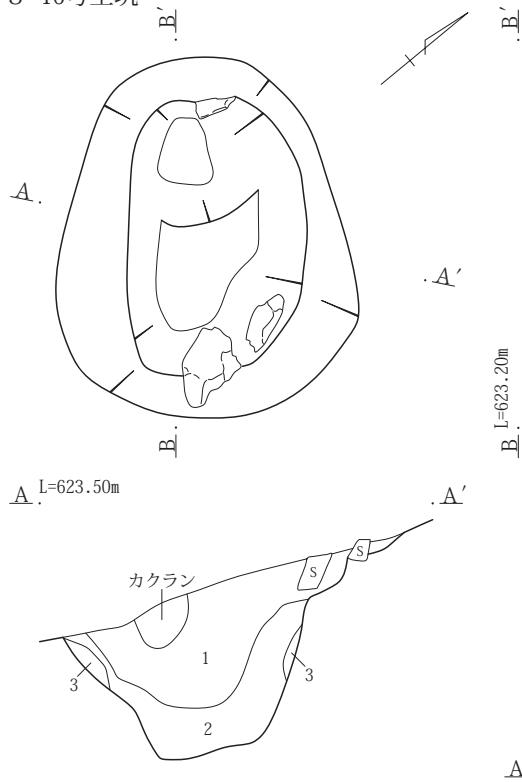
3-15号土坑

- 1 暗褐色土 締まりに欠け、As-YPk粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 やや褐色を帯び、ローム粒子含む。
- 3 暗褐色土 くずれたロームを含む。
- 4 暗褐色土 やや締まり黒味が強く、As-YPk粒僅かに含む。
- 5 暗褐色土 粘性があり、As-YPk粒、くずれたロームを少量含む。



第104図 土坑(1) 3区土坑(平安時代以降)、出土遺物

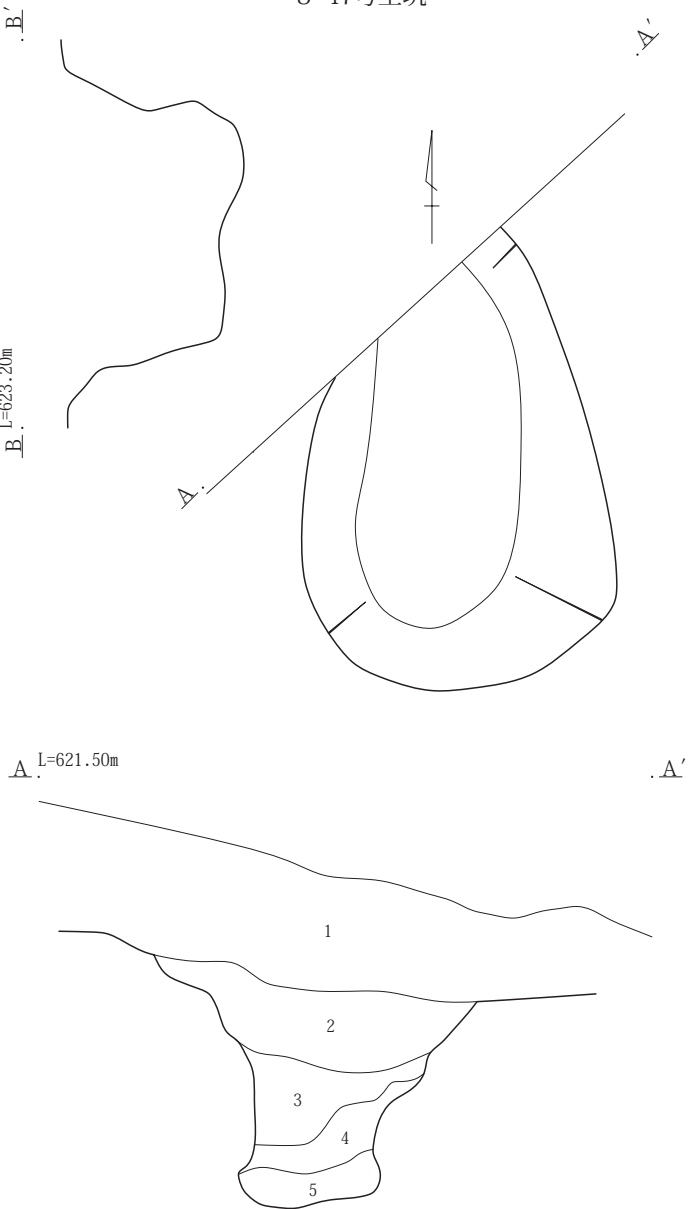
3-16号土坑



3-16号土坑

- 1 にぶい褐色土 細粒土で、As-YPk粒、ローム粒子、褐色粒を含む。
- 2 暗褐色土 締まりに欠け、As-YPk粒、褐色粒を含む。
- 3 にぶい褐色土 くずれたロームや径1cmのAs-YPk粒を含む。

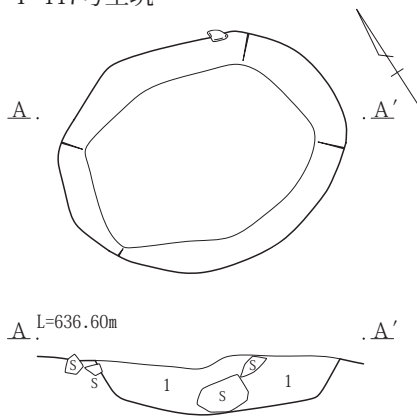
3-17号土坑



3-17号土坑

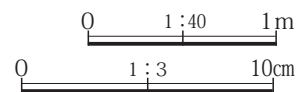
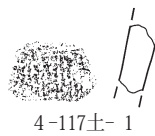
- 1 黒褐色土 樹根を含む表土。
- 2 黒褐色土 As-YPkを均質に3%含み、締まりなく粘性ややあり。
- 3 黒褐色土 As-YPkを不規則に少量含み、崩落と考える10~20cm大のロームブロック含む。
- 4 黒褐色土 3に比べ、As-YPkをやや多く含む。
- 5 暗褐色土 3に比べ、As-YPkを多く含み、不均質。

4-117号土坑



4-117号土坑

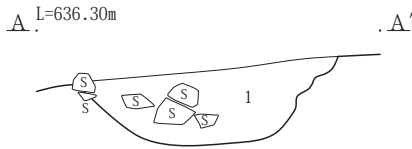
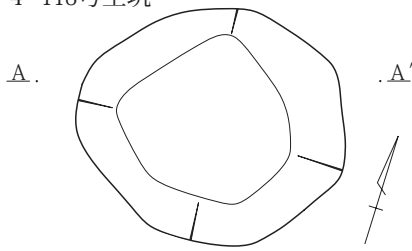
- 1 黒色土 褐色粒、軽石粒を含む細粒土。



第105図 土坑(2) 3・4区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

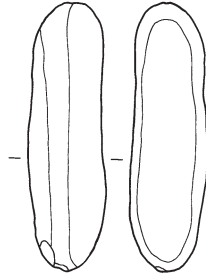
4-118号土坑



- 4-118号土坑
1 黒色土 褐色粒、軽石粒を含む細粒土。

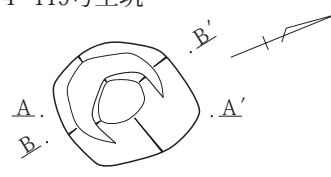


4-118土-1

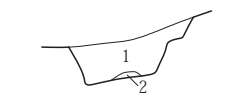


4-118土-2

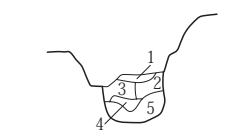
4-119号土坑



A. L=636.90m

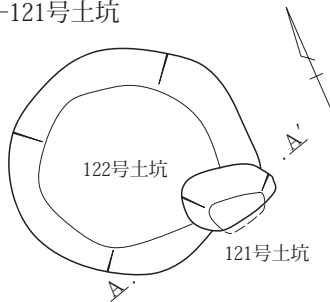


B. L=636.90m

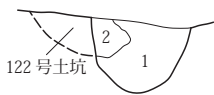


- 4-119号土坑
1 暗褐色土 褐色粒をほとんど含まない砂質土に小礫を多く含む。
2 にぶい橙色土 焼土で締まりがなくもろい。
3 暗褐色土 褐色粒、くずれたAs-YPk粒、小礫を含む。
4 暗褐色土 褐色粒、くずれたAs-YPk粒、小礫に焼土粒が混じる。
5 にぶい橙色 焼土でやや締まる。

4-121号土坑

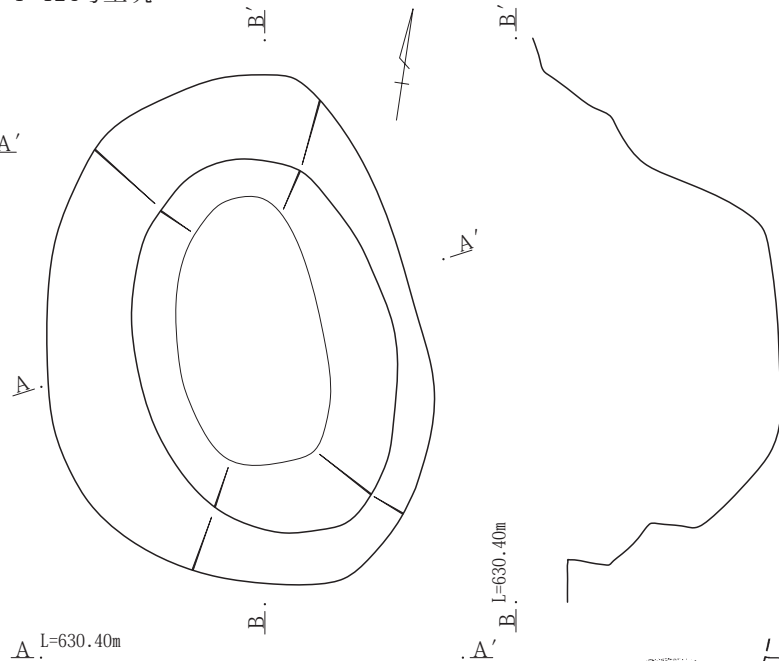


A. L=627.60m

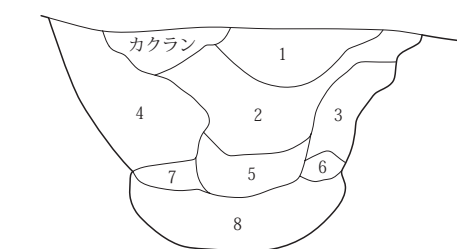


- 4-121号土坑
1 褐色土 締まりのない細粒土。As-YPkを含む。
2 暗褐色土 As-YPk粒、白色軽石を多く含む。

4-124号土坑



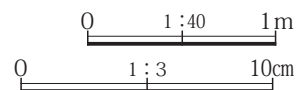
A. L=630.40m



- 4-124号土坑
1 暗褐色土 As-YPk粒、ローム粒子を含む。
2 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を少々含む。
3 暗黄褐色土 ロームブロックを60%程度含む。
4 黄褐色土 くずれたローム。
5 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子を多く含む。
6 白黄褐色土 くずれたAs-YPk粒。
7 暗褐色土 5に黒色土が層状に入る。
8 黒灰色土 くずれて細かくなったAs-YPkに黒色土が混じる。

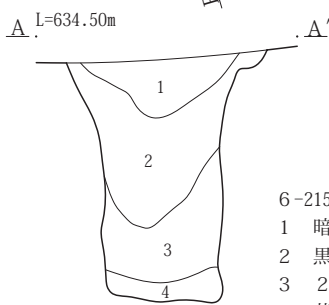
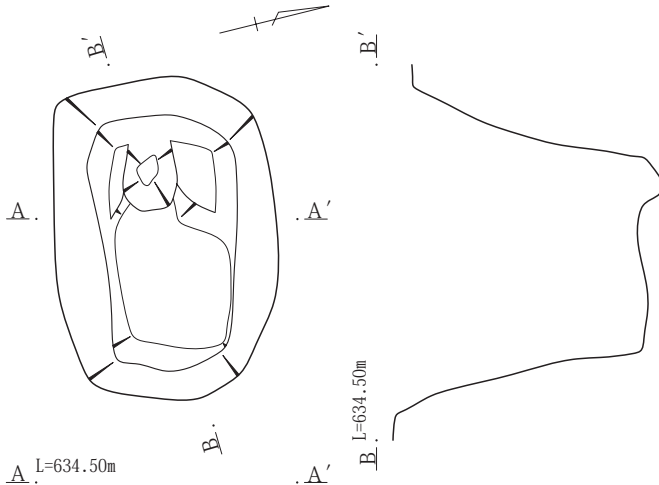


4-124土-1



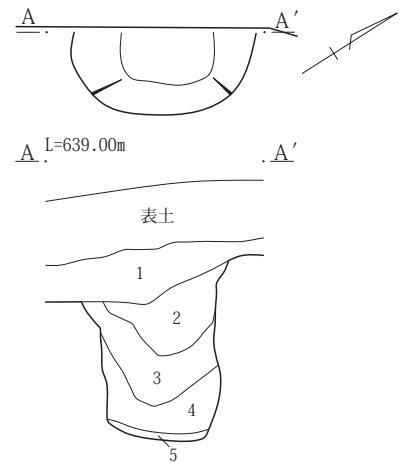
第106図 土坑(3) 4区土坑(平安時代以降)、出土遺物

6-215号土坑



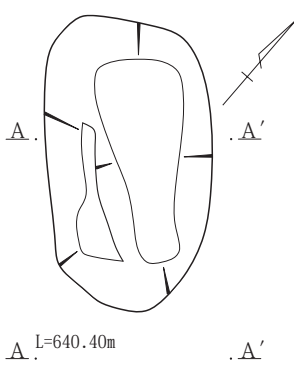
- 6-215号土坑
- 1 暗褐色土 ロームブロック多く含む。
 - 2 黒色土 ごく少量のロームブロック、ローム粒含む。
 - 3 2と似るがロームブロックやや多く含む。
 - 4 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

6-253号土坑

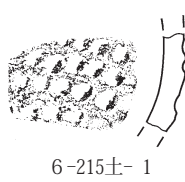


- 6-253号土坑
- 1 黒色土 締まり弱い。
 - 2 黒褐色土 ローム粒含む砂質土(粕川か)。
 - 3 黒褐色土 若干のローム粒小ブロック含む。
 - 4 黒褐色土 ロームブロック若干含む。
 - 5 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

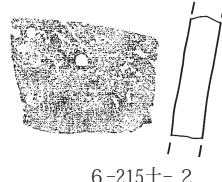
6-231号土坑



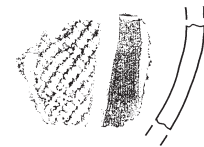
- 6-231号土坑
- 1 黒色土 炭化材含む。
 - 2 暗黒褐色土 若干のローム粒含む。
 - 3 暗黒褐色土 ロームブロック多く含む。
 - 4 黄褐色土 ロームブロック主体。



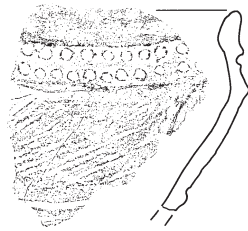
6-215土-1



6-215土-2



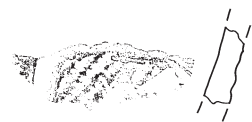
6-253土-1



6-231土-1



6-231土-2



6-231土-3



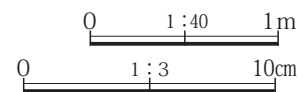
6-231土-4



6-231土-5



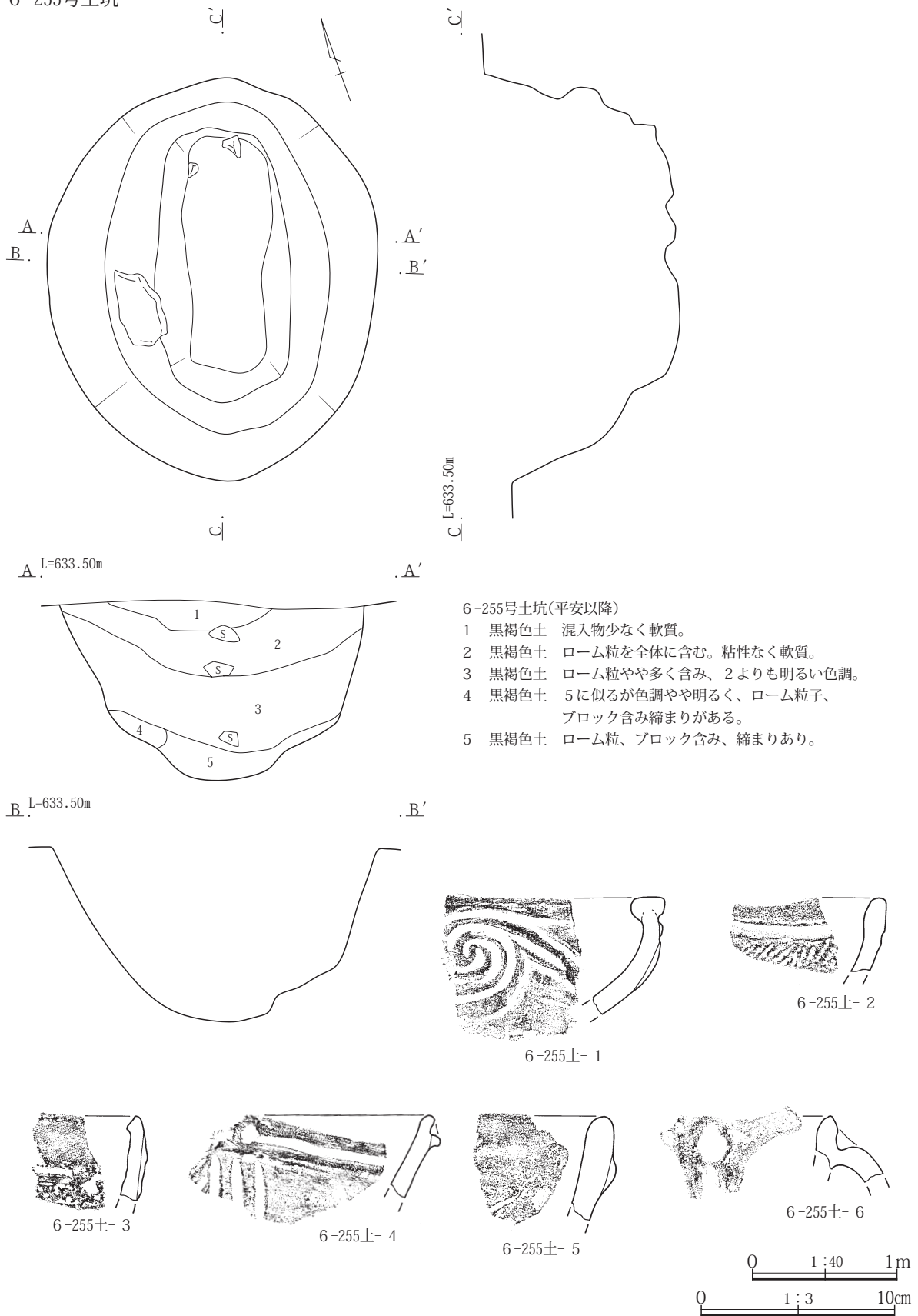
6-231土-6



第107図 土坑(4) 6区土坑(平安時代以降)、出土遺物

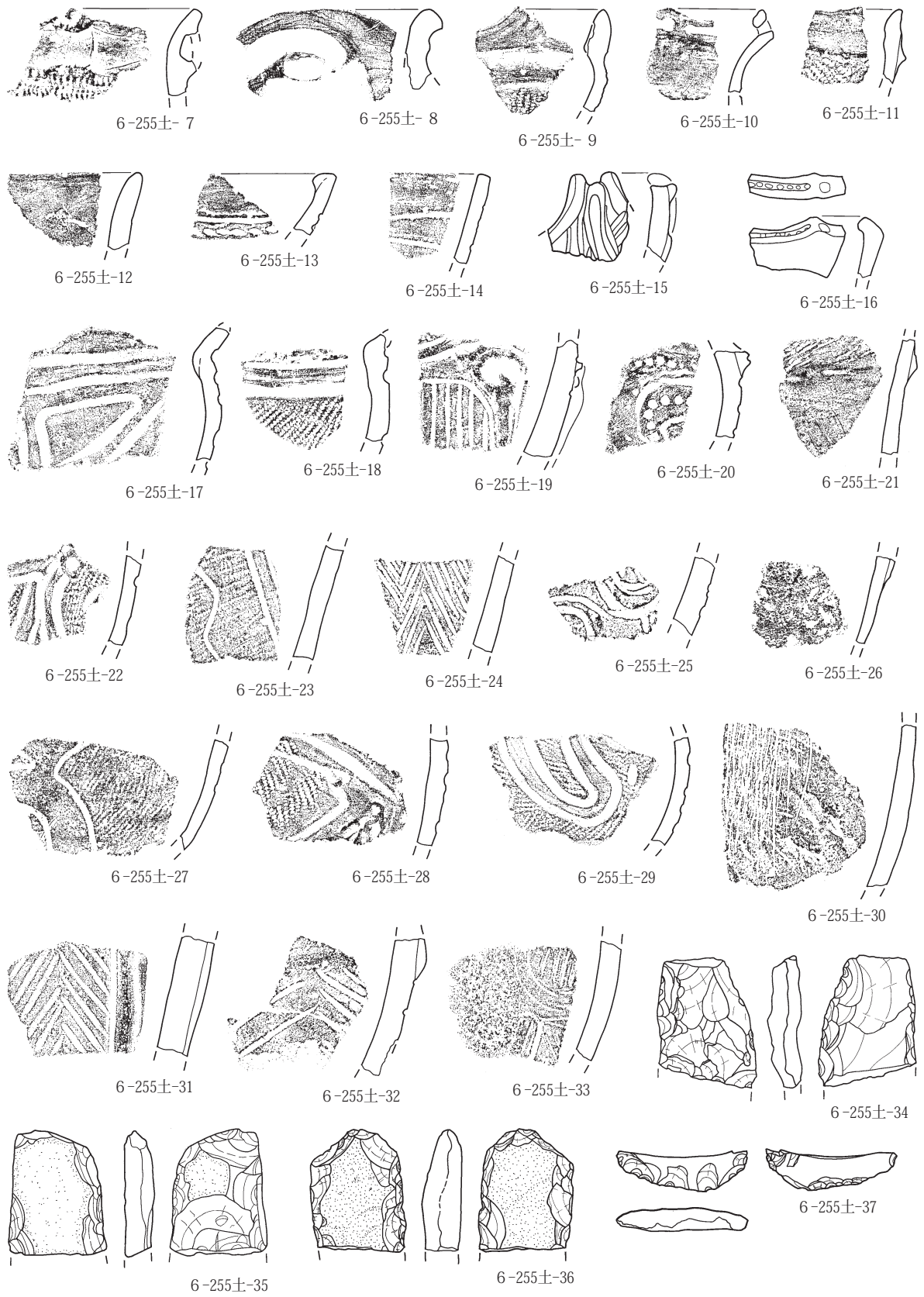
第3章 検出された遺構と遺物

6-255号土坑



- 6-255号土坑(平安以降)
- 1 黒褐色土 混入物少なく軟質。
 - 2 黒褐色土 ローム粒を全体に含む。粘性なく軟質。
 - 3 黒褐色土 ローム粒やや多く含む、2よりも明るい色調。
 - 4 黒褐色土 5に似るが色調やや明るく、ローム粒子、ブロック含み締まりがある。
 - 5 黒褐色土 ローム粒、ブロック含み、締まりあり。

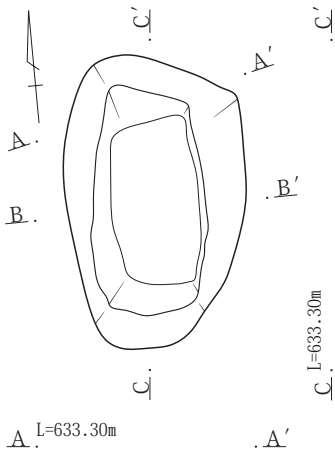
第108図 土坑(5) 6区土坑(平安時代以降)、出土遺物



第109図 土坑(6) 6-255土坑(平安時代以降)出土遺物

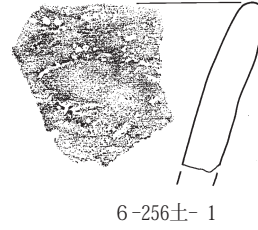
第3章 検出された遺構と遺物

6-256号土坑



6-256号土坑(平安以降)

- 1 黒褐色土 ローム粒僅かに含み縮まりなし、小礫僅かに混入。
- 2 黒褐色土 ローム粒僅かに含み、1よりも色調明るく縮まりあり、小礫混入。
- 3 黒褐色土 ローム粒を少量含む。2より細粒で縮まりあり、小礫含む。

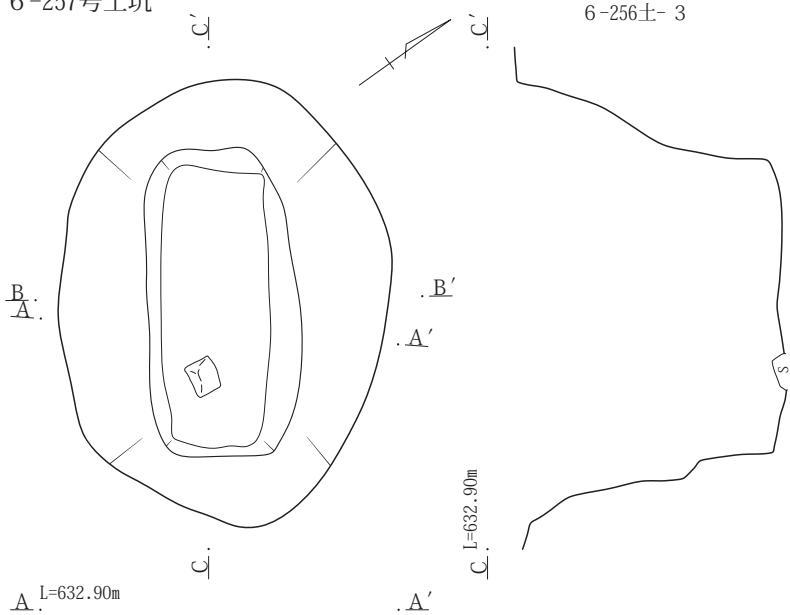
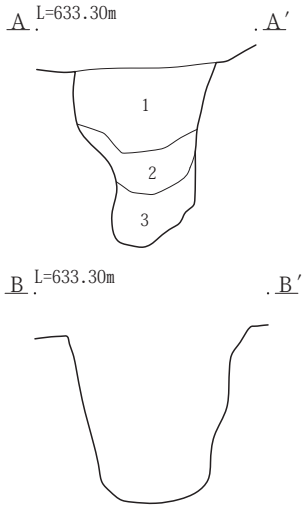


6-256土-2

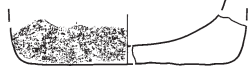


6-256土-3

6-257号土坑



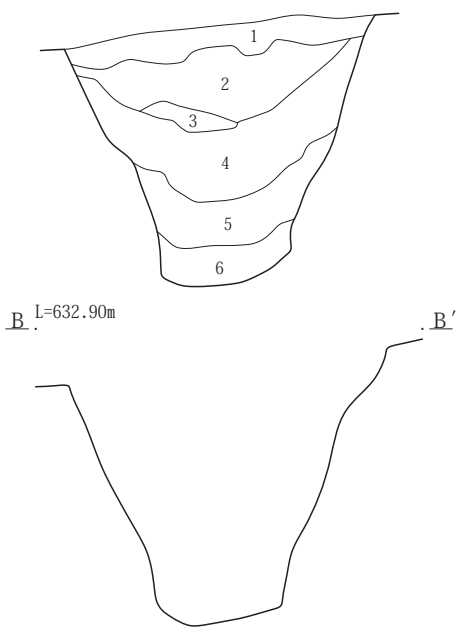
6-256土-4



6-256土-5

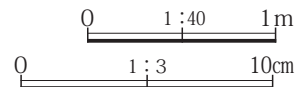


6-256土-6



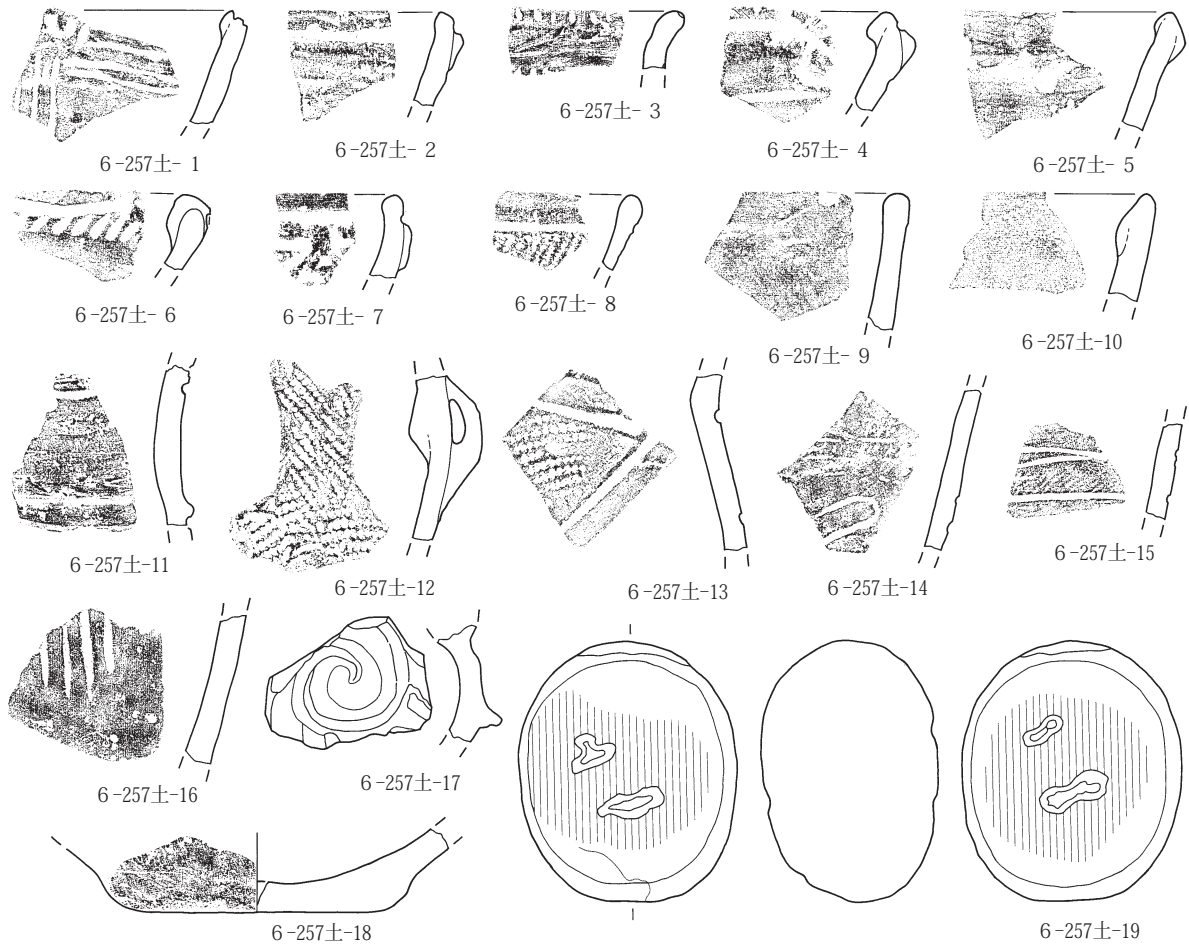
6-257号土坑(平安以降)

- 1 黒褐色土 根による攪乱多く、ボサボサ。
- 2 黒褐色土 ローム粒を全体に含む。粘性なく軟質。
- 3 黒褐色土 ローム粒をやや多く含み、2よりも明るい色調。
- 4 黒褐色土 色調明るく、ローム粒子、ブロック含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒含み縮まりあり。
- 6 黄褐色土 ローム主体、暗褐色土含む。

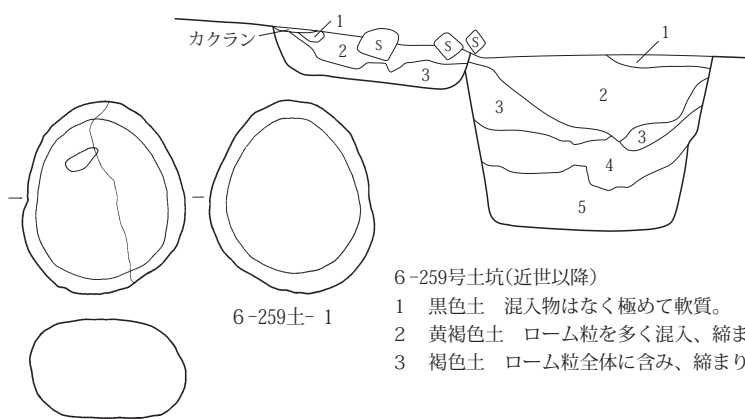
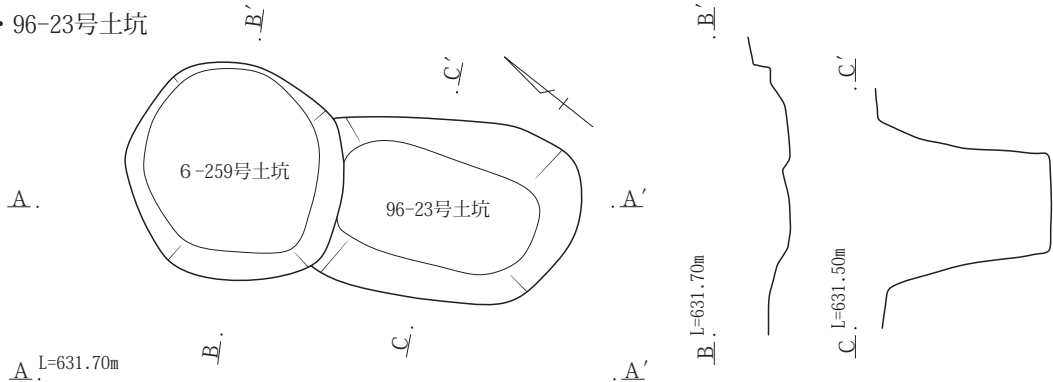


第110図 土坑(7) 6区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3節 平安時代以降の遺構と遺物



6-259・96-23号土坑

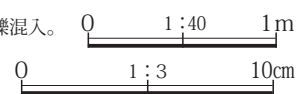


96-23号土坑(平安以降)

- 1 黒色土 若干のローム粒含み、ぼさつく。
- 2 黒色土 1と近似するがやや締まりあり。
- 3 黒褐色土 ローム粒多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、ブロック含む。
- 5 暗黄褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。

6-259号土坑(近世以降)

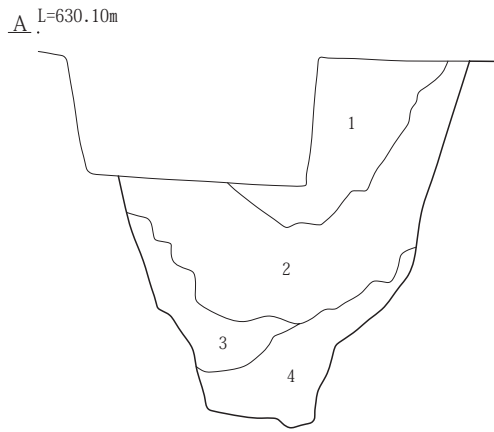
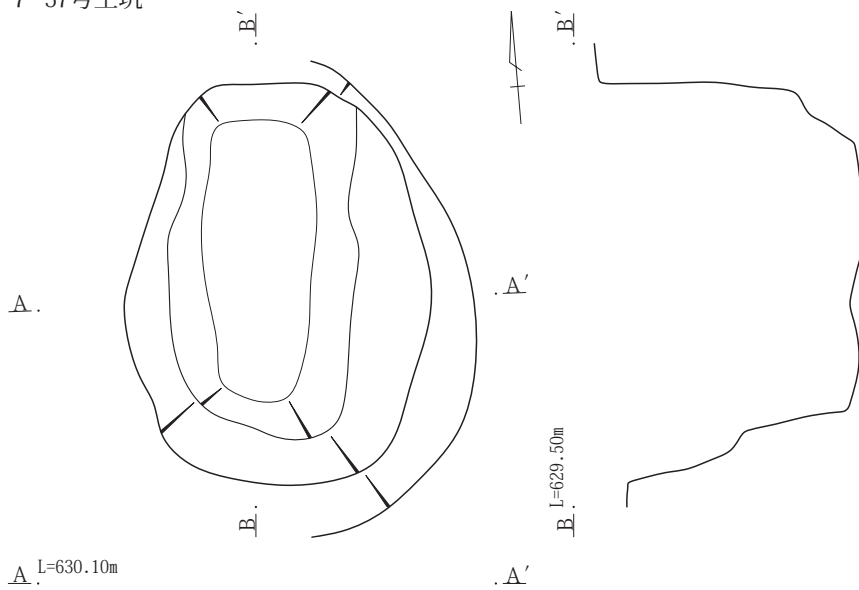
- 1 黒色土 混入物はなく極めて軟質。
- 2 黄褐色土 ローム粒を多く混入、締まりなし、大型の礫混入。
- 3 褐色土 ローム粒全体に含み、締まりなし。



第111図 土坑(8) 6・96区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

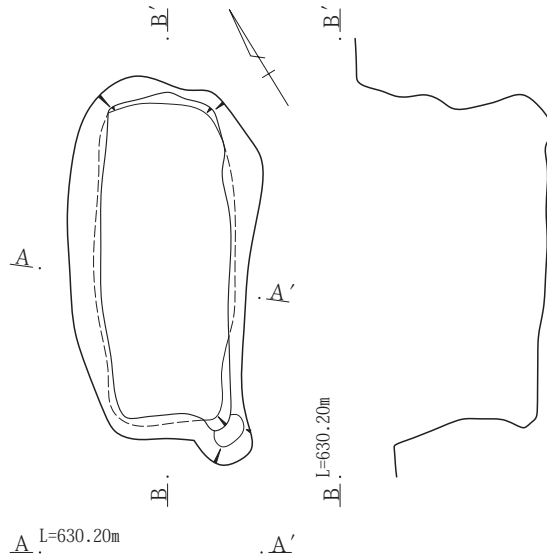
7-37号土坑



7-37号土坑

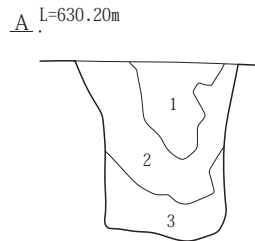
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1～3%と少ない。
- 2 暗褐色土 覆土の上層でありながらロームを混入した(30～40%)土層。
- 3 褐色土 ロームブロック3～5%。
- 4 褐色土 ロームブロック10～15%。

7-38号土坑



7-38号土坑

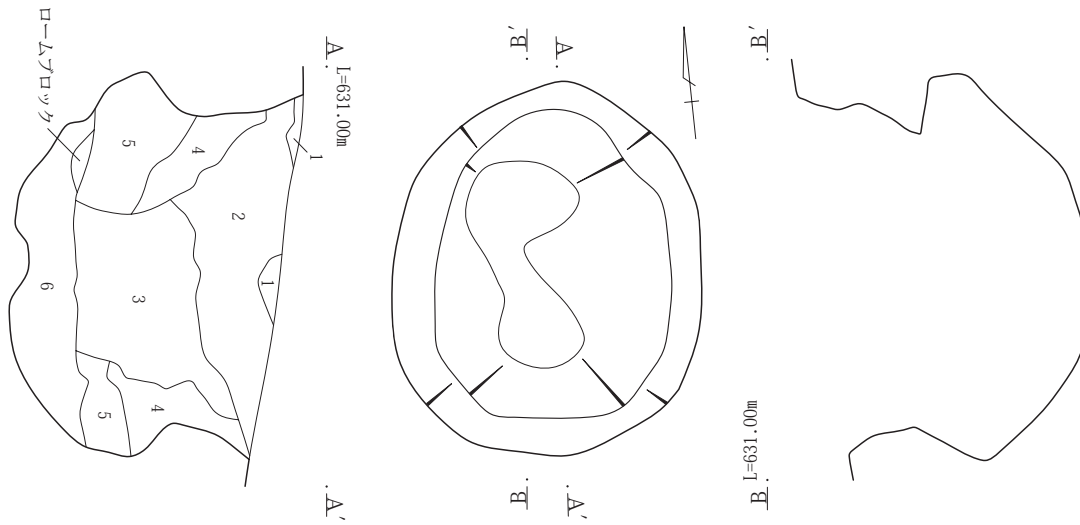
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1～3%と少ない。
- 2 ロームブロック10～20%混入。
- 3 暗褐色土 覆土の上層でありながらロームを混入した(30～40%)土層。調査区に比較的共通した覆土の形態。



0 1:40 1m

第112図 土坑(9) 7区土坑(平安時代以降)

7-39号土坑

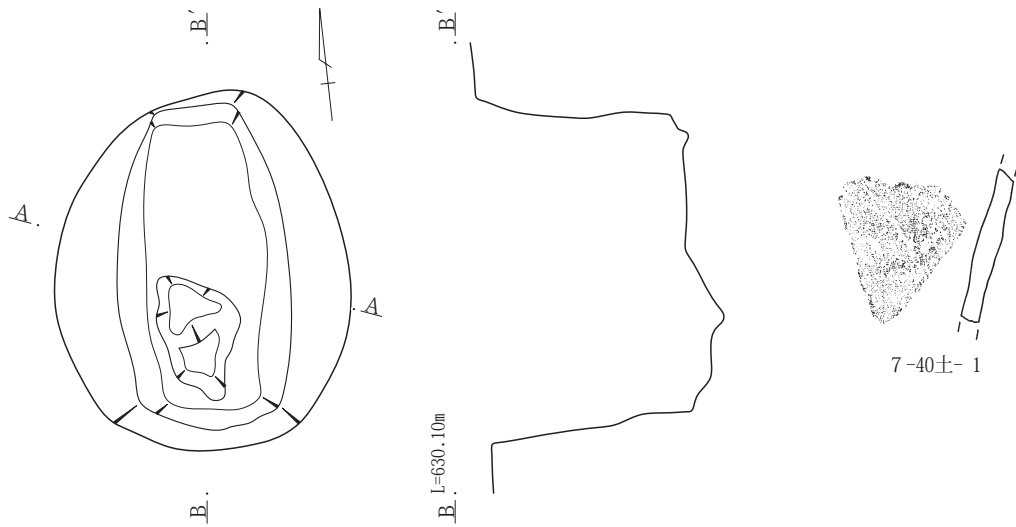


7-39号土坑

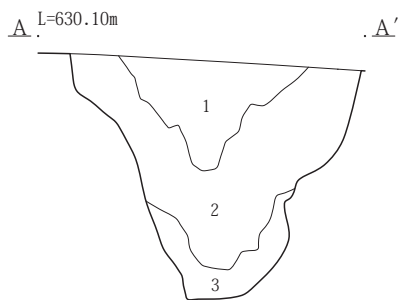
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1～3%と少ない。
- 2 パミス少し多い(10～20%混入)。砂っぽい。
- 3 くずれたロームブロック5～10%混入。
- 4 くずれたロームブロック30～40%混入。
- 5 暗褐色土 パミス7～10%、ロームブロック3～5%混入。
- 6 暗褐色土 パミス7～10%、ロームブロック5～7%混入。

7-39土-1

7-40号土坑

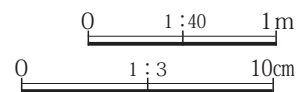


7-40土-1



7-40号土坑

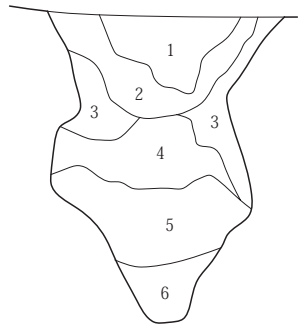
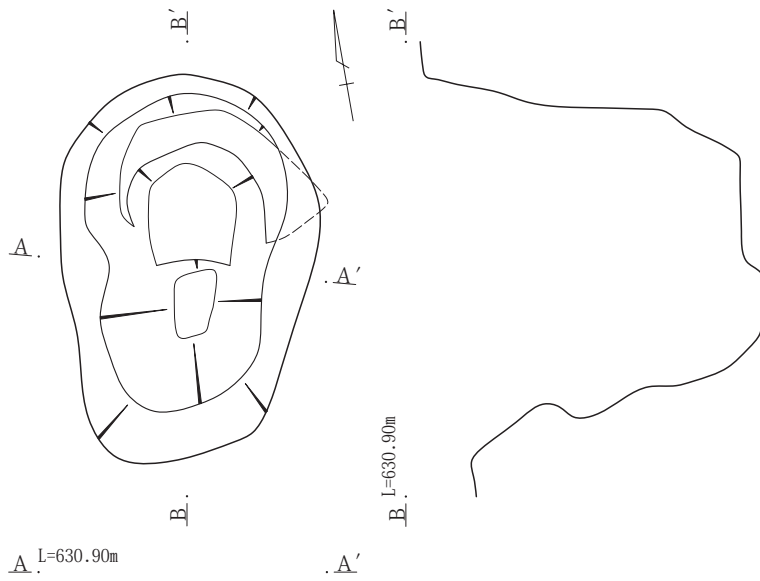
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1～3%と少ない。
- 2 くずれたロームブロック10～15%混入。
- 3 暗褐色土 ロームブロック混入と言うより、褐色土ブロック混入。少し赤茶っぽく見える。パミス1%と少ない。



第113図 土坑(10) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

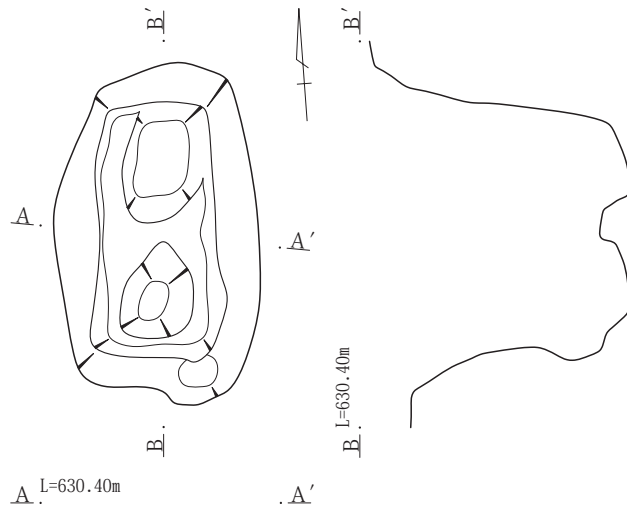
7-41号土坑



7-41号土坑

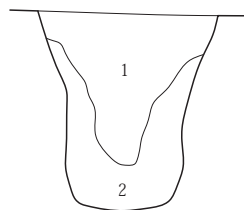
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1～3%と少ない。
- 2 くずれたロームブロック5～10%混入。
- 3 くずれたロームブロック30～40%混入。
- 4 くずれたロームブロック10～15%混入。
- 5 ロームのくずれ1～3%と少ない。
- 6 暗褐色土 パミス7～10%、ロームブロック3～5%混入。

7-42号土坑



7-42号土坑

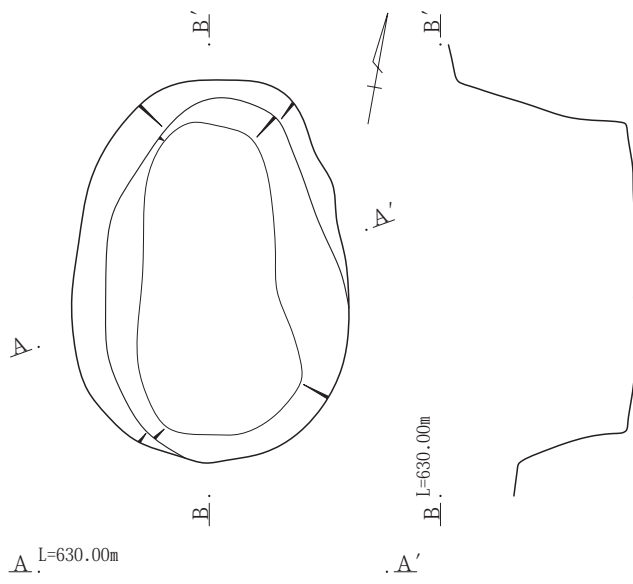
- 1 くずれたロームブロック5～10%混入。
- 2 暗褐色土 パミス7～10%、ロームブロック3～5%混入。



0 1:40 1m

第114図 土坑(11) 7区土坑(平安時代以降)

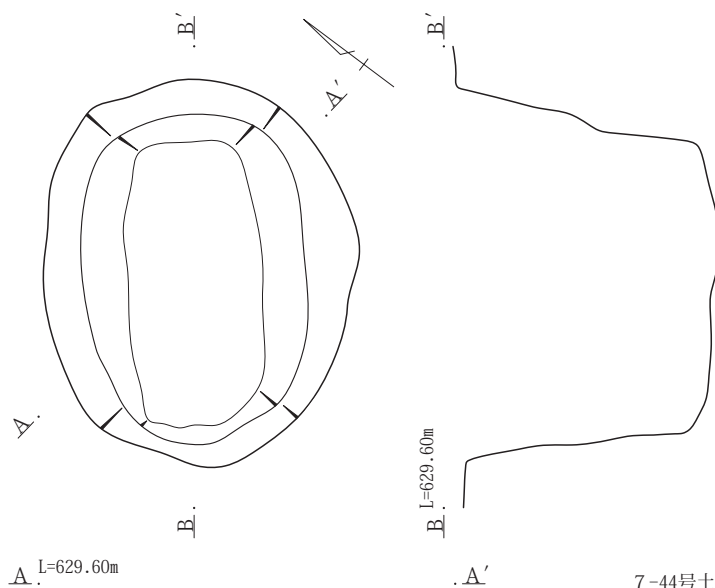
7-43号土坑



7-43号土坑

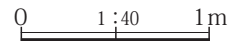
- 1 黒色土 ローム粒含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック若干含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。

7-44号土坑



7-44号土坑

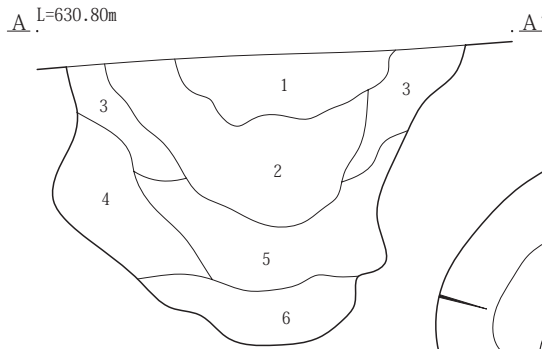
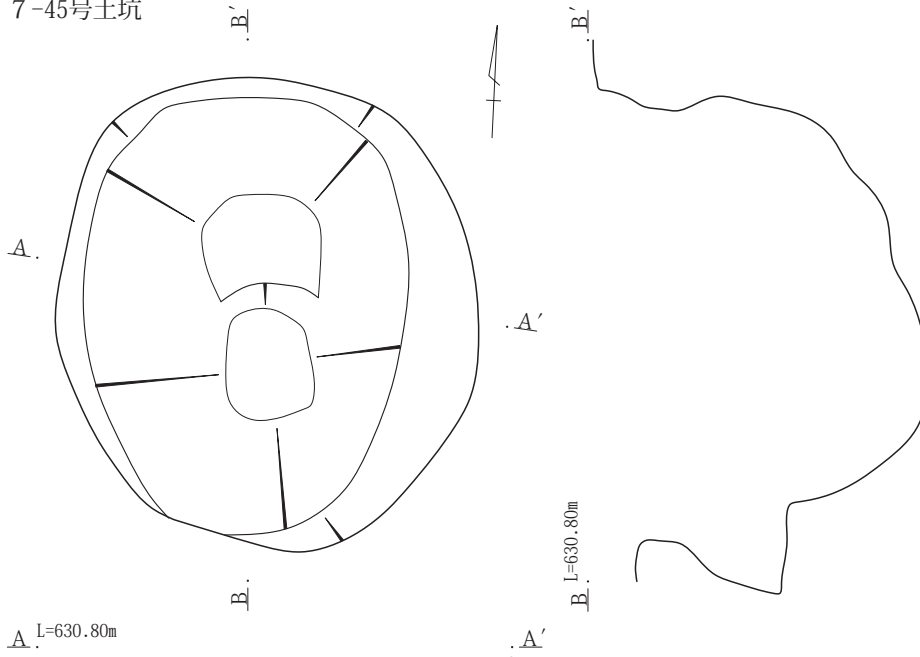
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1～3%と少ない。
- 2 1にくずれたロームブロック30～40%混入。
- 3 暗褐色土 2に近似、ロームブロック混入と言うより、褐色土ブロック混入。少し赤茶っぽく見える。パミス1%と少ない。



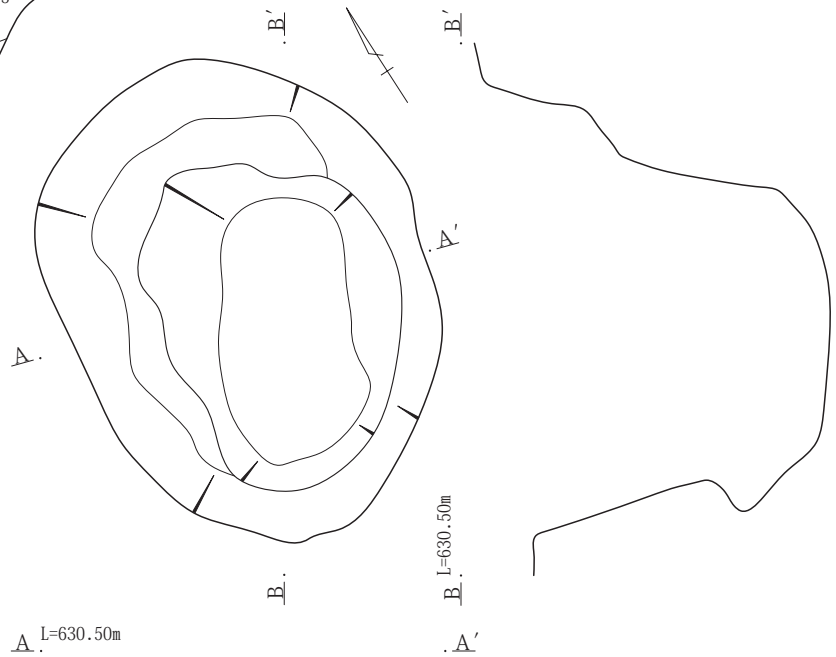
第115図 土坑(12) 7区土坑(平安時代以降)

第3章 検出された遺構と遺物

7-45号土坑



7-46号土坑

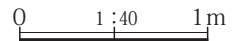


7-45号土坑

- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色
パミス1～3%と少ない。
- 2 1にくずれたロームブロック30～
40%混入。
- 3 2にパミス1～3%混入。
- 4 3にパミス5～7%混入。
- 5 3にパミス10～15%混入。
- 6 褐色土 パミス30～40%混入。

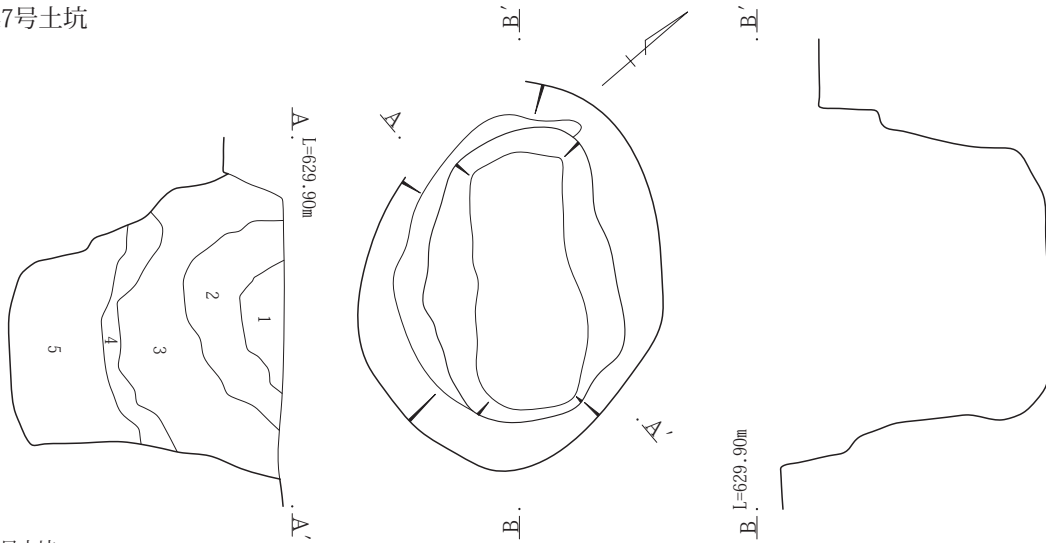
7-46号土坑

- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色
パミス1～3%と少ない。
- 2 1にくずれたロームブロック10～15
%混入。
- 3 2にパミス5～7%混入。
- 4 3にパミス10～15%混入。
- 5 褐色土 パミス30～40%混入。



第116図 土坑(13) 7区土坑(平安時代以降)

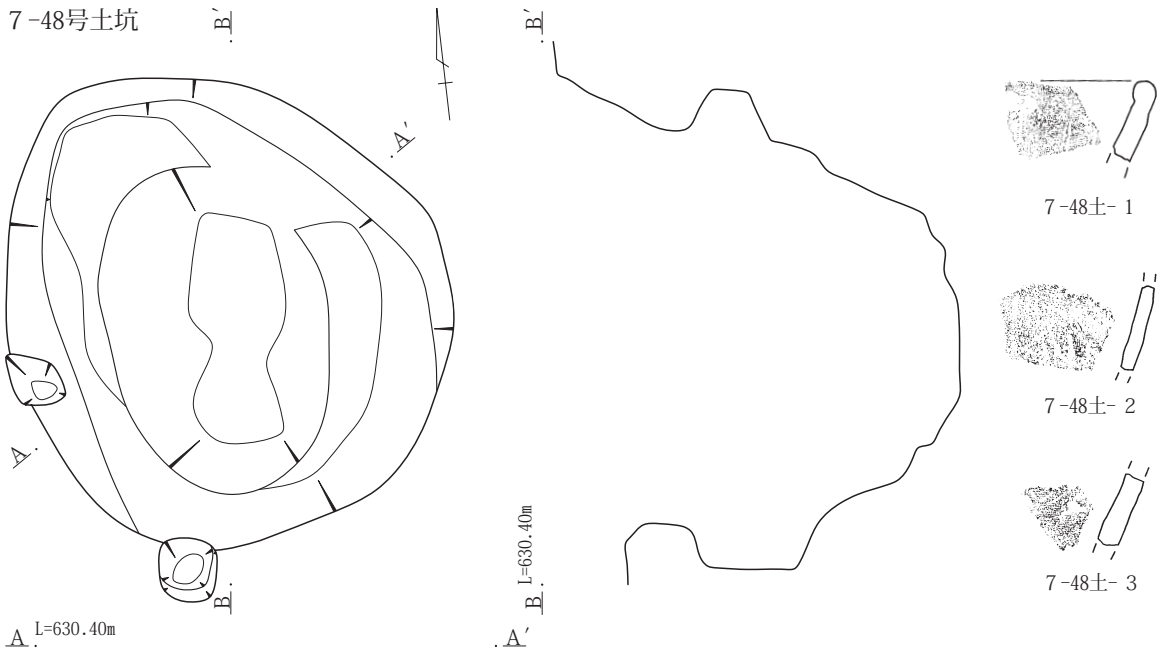
7-47号土坑



7-47号土坑

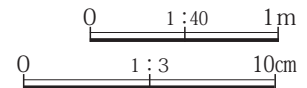
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1～3%と少ない。
- 2 1にくずれたロームブロック10～15%混入。
- 3 2基準 暗褐色土 パミス7～10%。ロームブロック3～5%混入。
- 4 3に似るが、暗褐色土含む。ロームブロック混入と言うより、褐色土ブロック混入。少し赤茶っぽく見える。パミス1%と少ない。
- 5 暗褐色土 粘土層の様な締めりがある。7・8区の他の土坑には見られない層。ロームブロック5～10%混入。

7-48号土坑



7-48号土坑

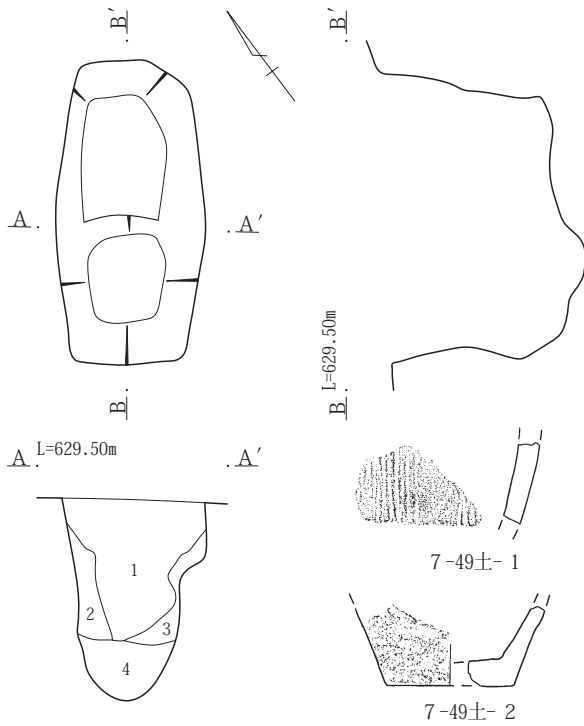
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1～3%と少ない。
- 2 1と近似、パミス少し多い(10～20%混入)。
- 3 1にくずれたロームブロック10～15%混入。
- 4 2にパミス10～15%混入。
- 5 褐色土 パミス30～40%混入。



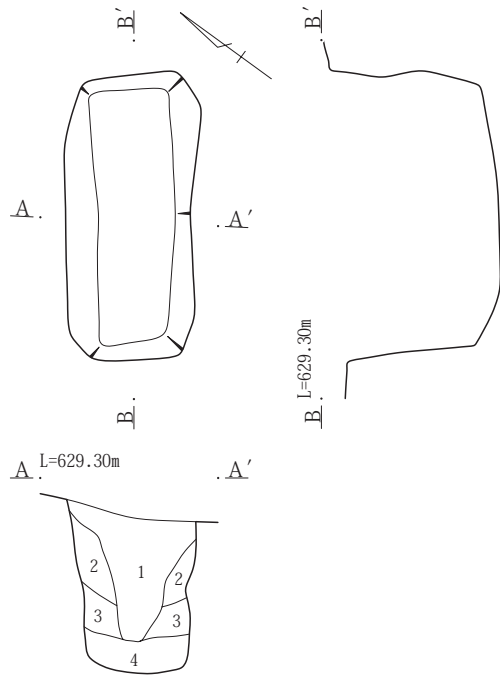
第117図 土坑(14) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

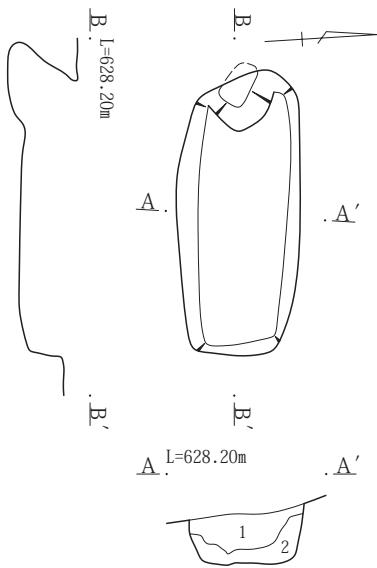
7-49号土坑



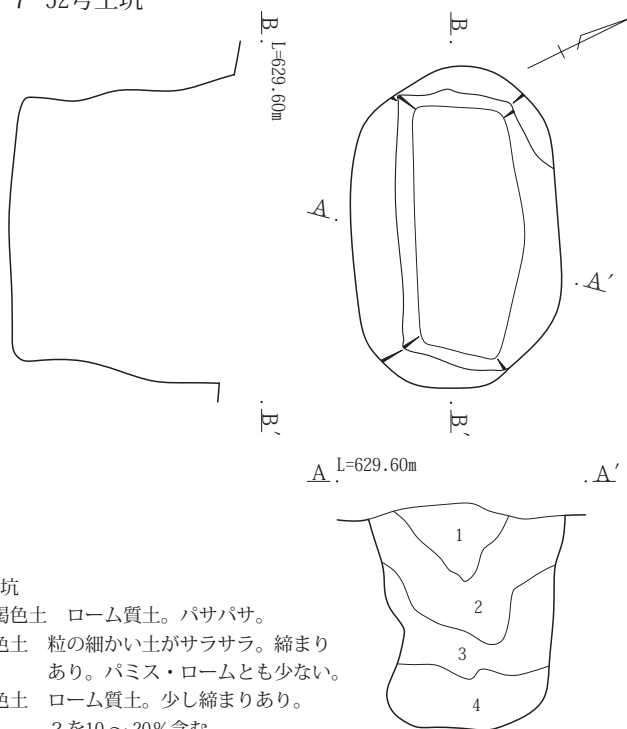
7-50号土坑



7-51号土坑



7-52号土坑

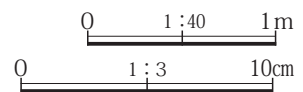


7-49～51号土坑

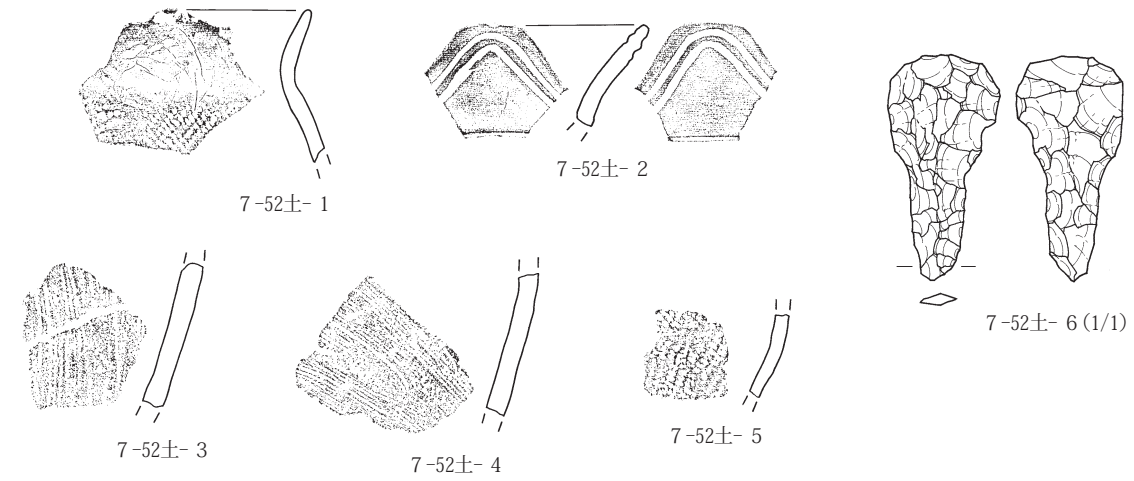
- 1 黒色土 パミス・ロームとも少ない。
- 2 暗褐色土 ロームブロック5～7%。
- 3 黄褐色土 ローム質土。暗褐色土ブロック10～20%混入。
- 4 暗褐色土 As-YPk10～20%、ロームブロック5～10%混入。

7-52号土坑

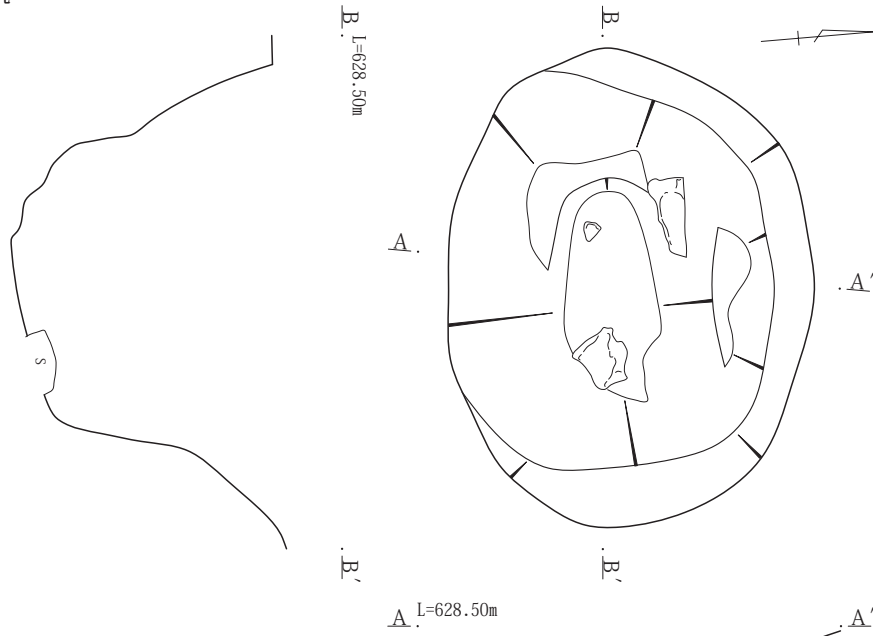
- 1 明黄褐色土 ローム質土。パサパサ。
- 2 黒褐色土 粒の細かい土がサラサラ。縮まりあり。パミス・ロームとも少ない。
- 3 黄褐色土 ローム質土。少し縮まりあり。2を10～20%含む。
- 4 黒褐色土 固く縮まる。3のローム質土5～10%含む。



第118図 土坑(15) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

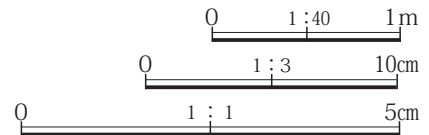
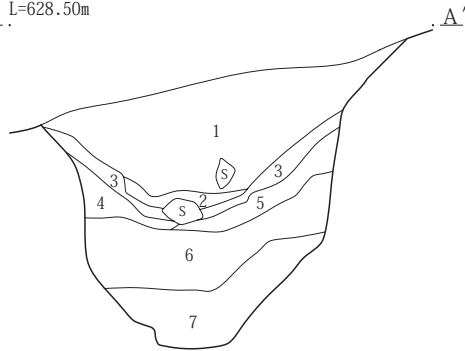


7-53号土坑



7-53号土坑

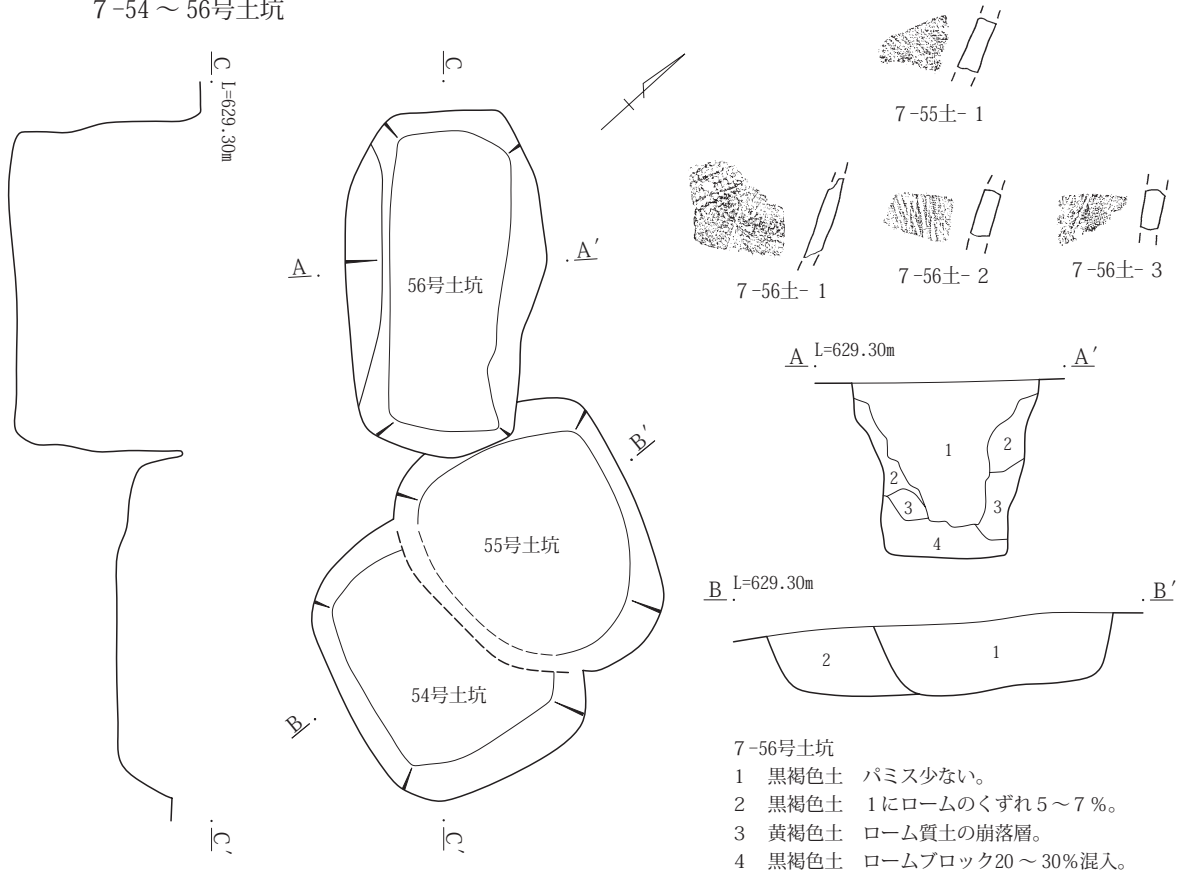
- 1 にぶい黄褐色土 As-YPkの混入土。ガサガサ感あり。
斜面上方からのくずれ土か？
- 2 黒色土 炭化層。
- 3 黒褐色土 締めりのある粘土層。
- 4 明黄褐色土 ローム質土。
- 5 黒褐色土 3にAs-YPk粒 5～7%混入。
- 6 黒褐色土 3に似ている。締めった粘土層。
- 7 暗褐色土 締めった粘土層にAs-YPk粒 5～10%混入。



第119図 土坑(16) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

7-54 ~ 56号土坑



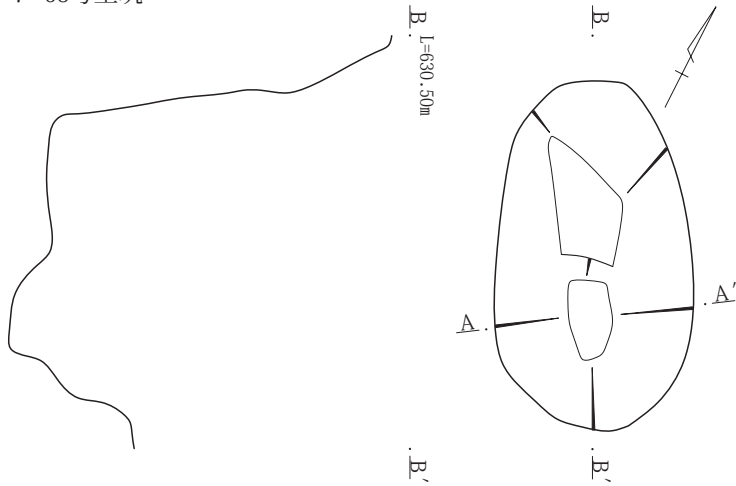
7-54・55号土坑

- 1 褐色土 大きな(φ10~100mm)ロームブロック10~20%混入。
- 2 褐色土 中程度(φ10~50mm)のロームブロック5~7%混入。

7-56号土坑

- 1 黒褐色土 パミス少ない。
- 2 黒褐色土 1にロームのくずれ5~7%。
- 3 黄褐色土 ローム質土の崩落層。
- 4 黒褐色土 ロームブロック20~30%混入。

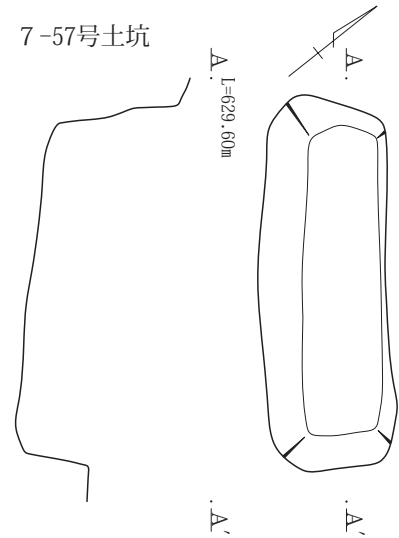
7-58号土坑



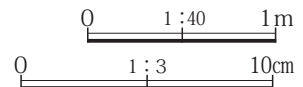
7-58号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック若干含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック(大)多く含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック。As-YPk多く含む。
- 4 黒褐色土 粗粒でAs-YPk多く混入する。

7-57号土坑

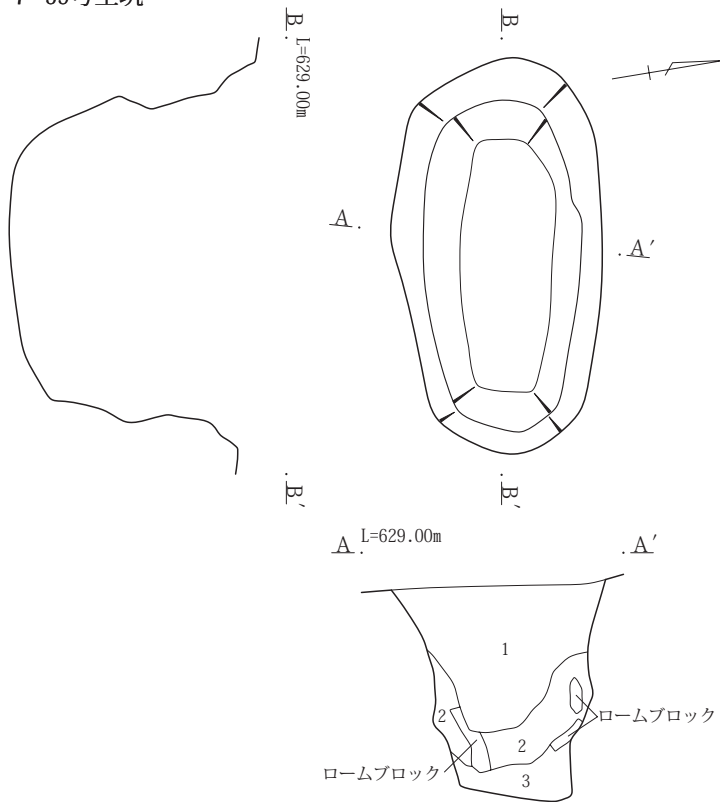


7-58土-1



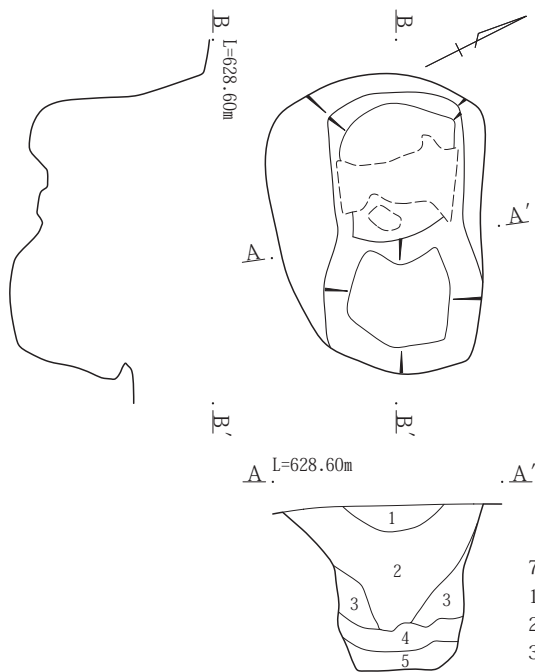
第120図 土坑(17) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

7-59号土坑

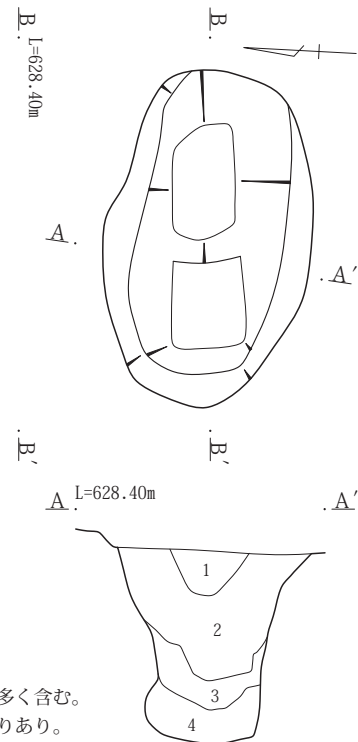


- 7-59号土坑
 1 黒褐色土 ローム粒、ローム小ブロック若干含む。
 2 黄褐色土 ロームブロック(大)多く含む。
 3 黒褐色土 ロームブロック。As-Ypk多く含む。

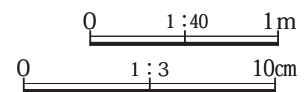
7-60号土坑



7-61号土坑



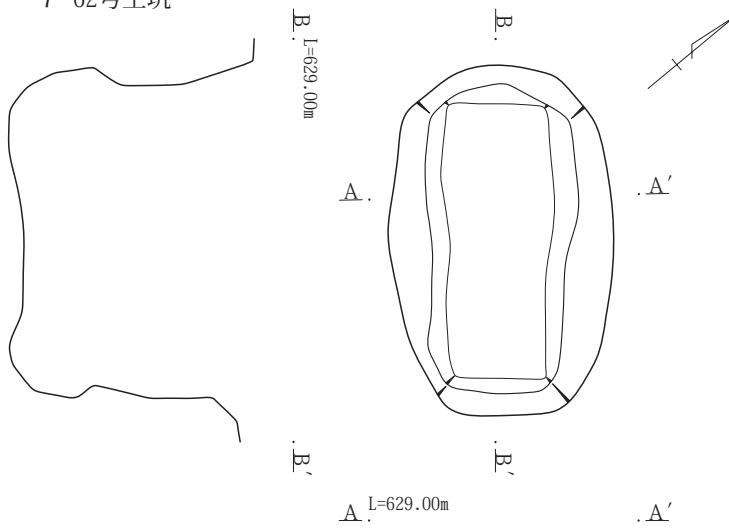
- 7-60・61号土坑
 1 灰黒褐色土 やや砂質。
 2 黒褐色土 ローム粒若干含む。
 3 黒褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。
 4 黒褐色土 3と似るがやや縮まりあり。
 5 黄褐色土 ローム粒、ブロック主体とする。



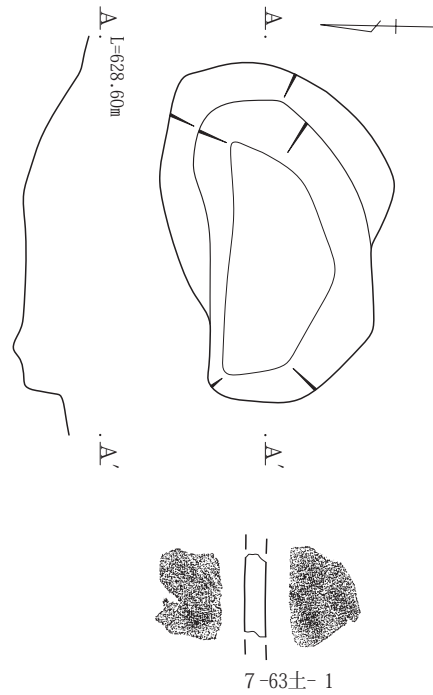
第121図 土坑(18) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

7-62号土坑



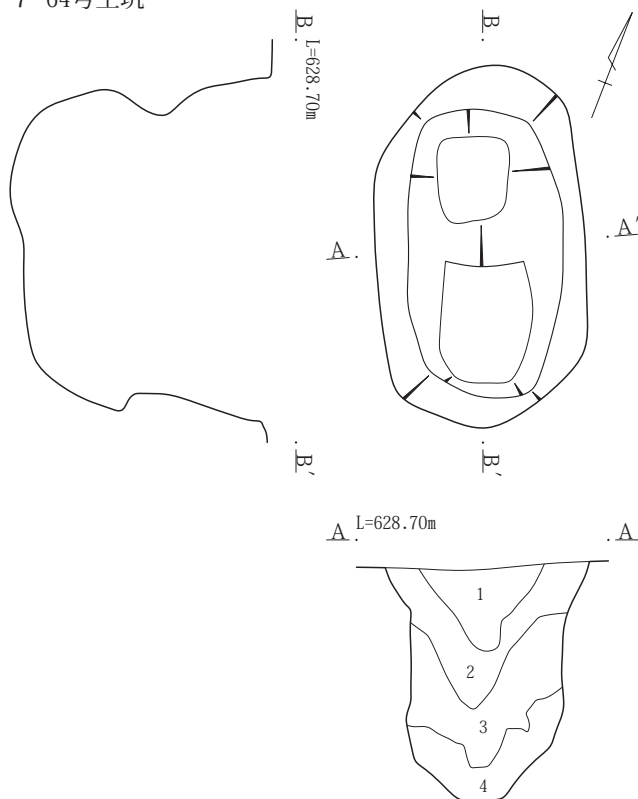
7-63号土坑



7-62号土坑

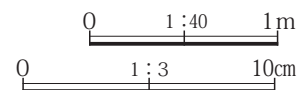
- 1 灰黒色土 As-YPk混入。
- 2 灰黄褐色土 As-YPk、ローム(砂質)含む。
- 3 黒色土 混入物少なく軟質。
- 4 黒褐色土 3と似るがローム若干含む。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック層状に含む。
- 6 暗黄褐色土 ロームブロック、ローム粒多く含む。

7-64号土坑



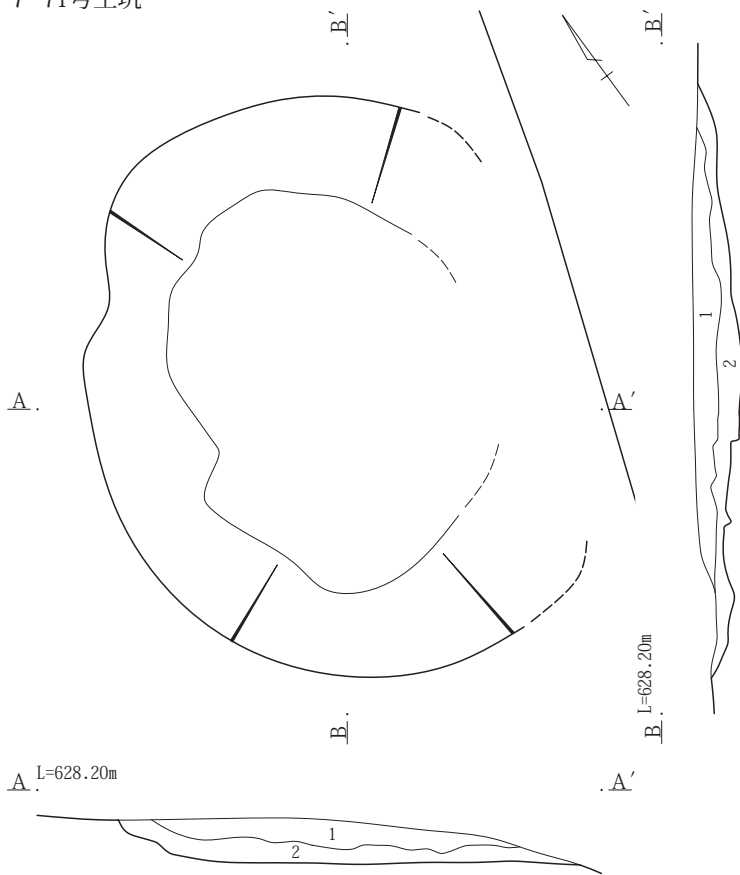
7-64号土坑

- 1 暗褐色土 As-YPk 7~10%混入。基本土層5相当。
- 2 黒褐色土 パミス・ロームとも少ない。基本土層5相当。
- 3 黒褐色土 2にロームのくずれ15~25%混入。
- 4 明黄褐色土 ローム質土。貼壁材のくずれた層か？



第122図 土坑(19) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

7-71号土坑



7-71号土坑

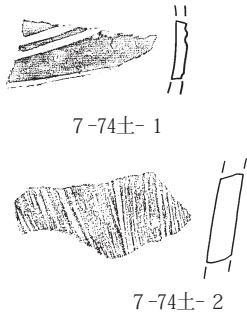
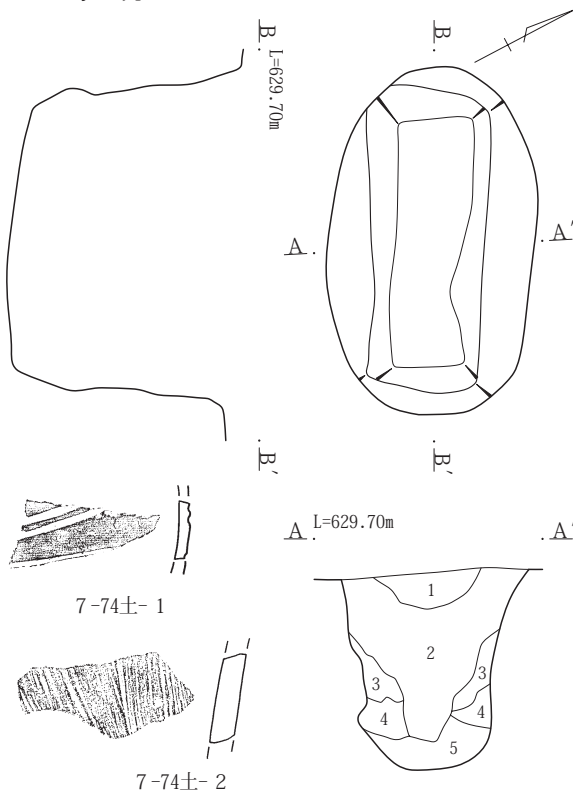
- 1 黒褐色土 性質的には7区1住覆土と似ている。ボサボサしてAs-Kkブロック状に含む。パミス・ローム少ない。
- 2 黒褐色土 1に似ている。ロームブロック5~10%混入。As-Kkも床直上に確認できる。



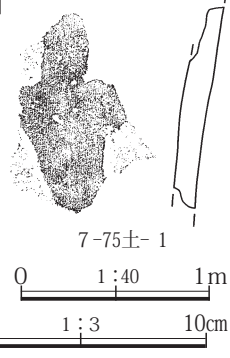
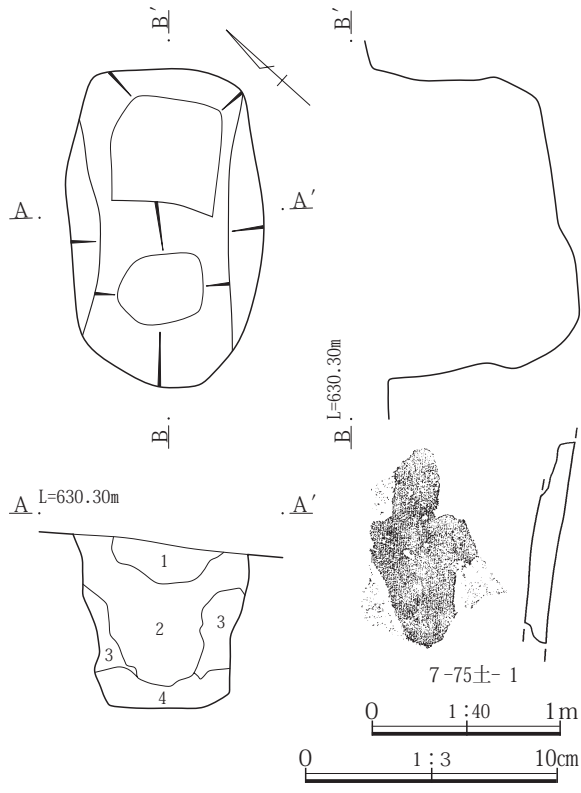
7-74・75号土坑

- 1 暗褐色土 パミス(φ10~20mm)3~7%混入。
- 2 黒褐色土 パミス1%程度と少ない。
- 3 黒褐色土 2にロームブロック1~3%混入。
- 4 黄褐色土 ロームの崩落層。2層が20~30%混入。
- 5 黒褐色土 パミス3~5%混入。

7-74号土坑



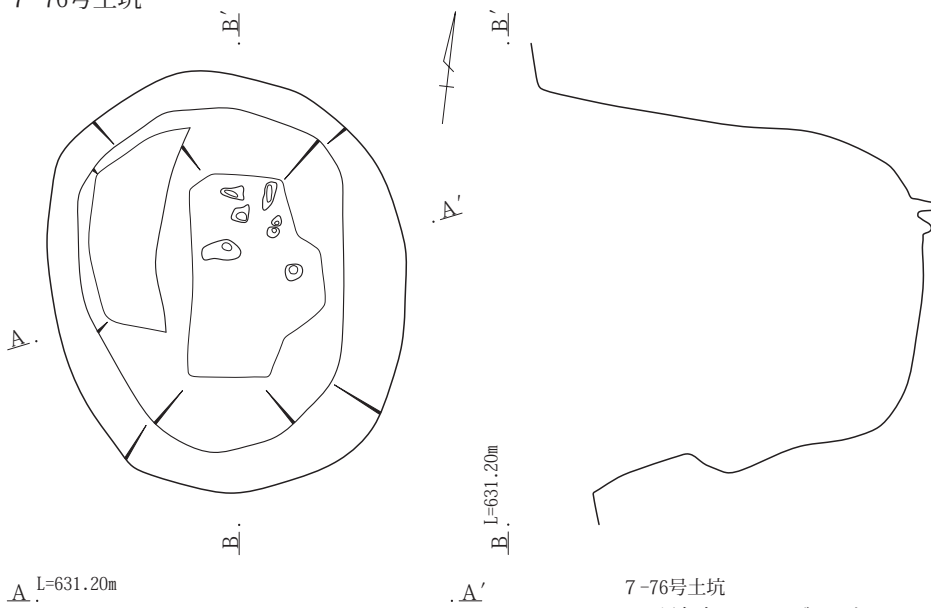
7-75号土坑



第123図 土坑(20) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

7-76号土坑

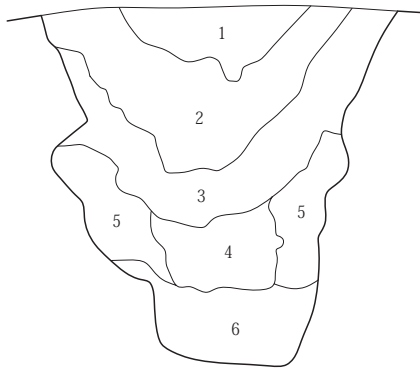


A. L=631.20m

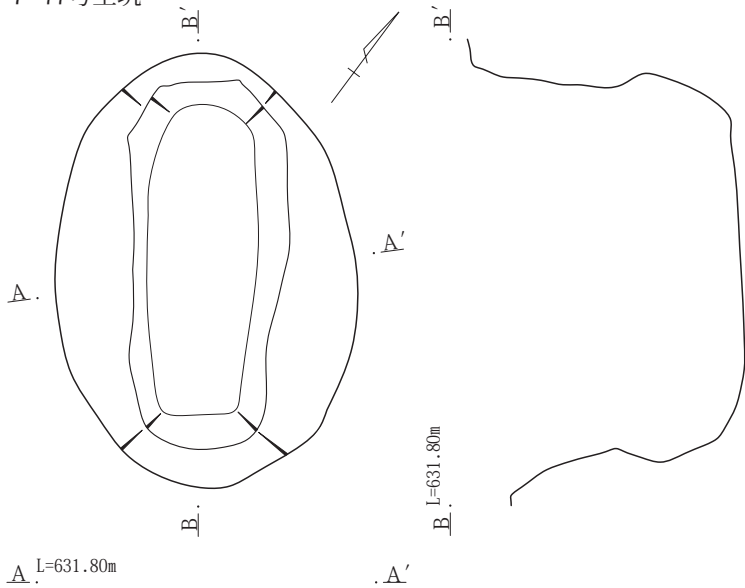
B. L=631.20m

7-76号土坑

- 1 黒色土 ロームブロック10～20%混入。
- 2 暗褐色土 パミス(φ10～30mm) 10～20%混入。
- 3 黒褐色土 パミス1%程度と少ない。
- 4 黄褐色土 ロームの崩落層。2が20～30%混入。
- 5 黒褐色土 ロームブロック3～5%。パミス3～5%混入。
- 6 黒褐色土 As-YPkブロック20～30%混入。



7-77号土坑



A. L=631.80m

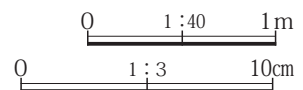
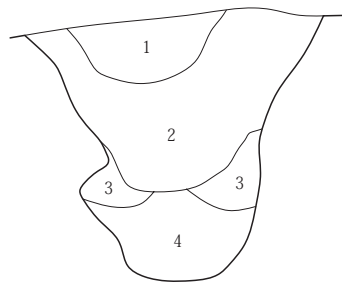
B. L=631.80m



7-77土-1

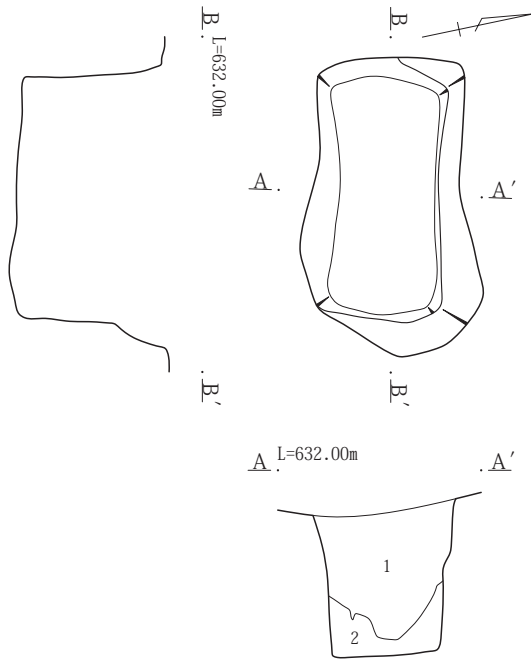
7-77号土坑

- 1 暗褐色土 パミス(φ10～20mm) 3～7%混入。
- 2 黒褐色土 パミス1%程度と少ない。
- 3 黄褐色土 ロームの崩落層。2が20～30%混入。
- 4 黒褐色土 パミス3～5%混入。



第124図 土坑(21) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

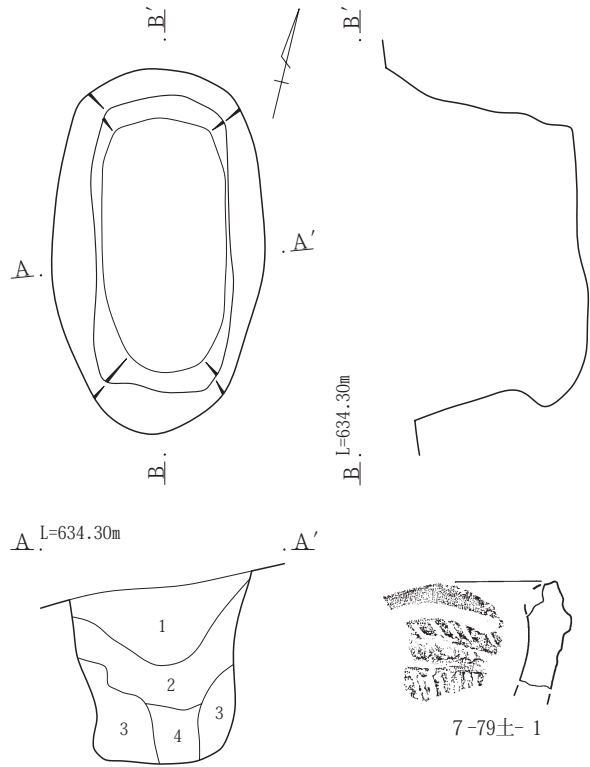
7-78号土坑



7-78号土坑

- 1 黒褐色土 パミス1%程度と少ない。
- 2 黒褐色土 2にロームブロック1~3%混入。

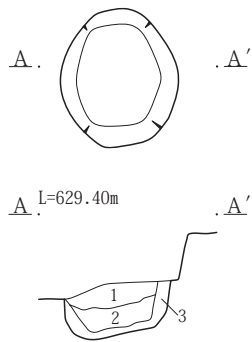
7-79号土坑



7-79号土坑

- 1 黒色土 パミス1%程度と少ない。少し締まる。
- 2 黒色土 パサパサ。
- 3 黄褐色土 ロームの崩落層。2が20~30%混入。
- 4 黒褐色土 パミス3~5%混入。

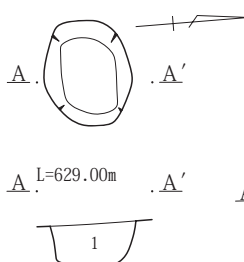
7-80号土坑



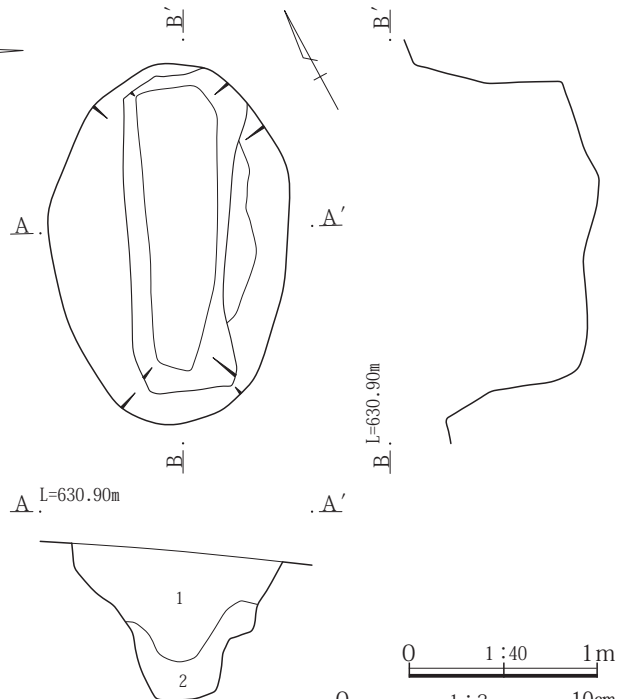
7-80・81号土坑

- 1 暗褐色土 締まった土。ローム粒5~10%混入。
- 2 暗褐色土 締まった土。ローム粒少ない。
- 3 黄褐色土 1が10~20%混入。

7-81号土坑



7-84号土坑



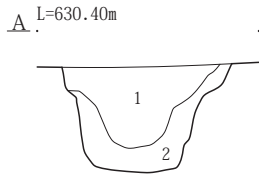
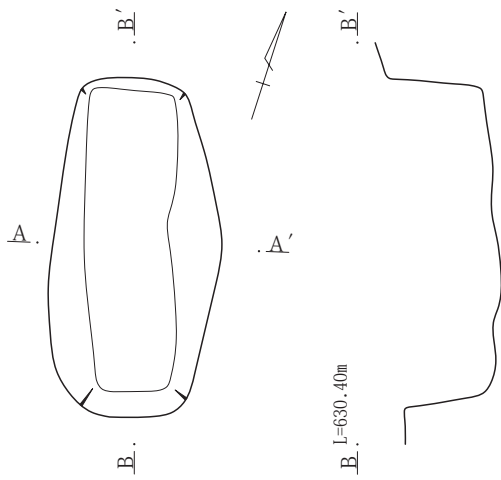
7-84号土坑

- 1 黒色土 締まりなし。混じり気ない。
- 2 黒色土 ローム粒とAs-YPk粒僅かに含む。

第125図 土坑(22) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

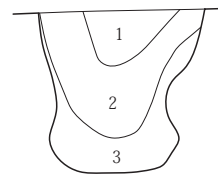
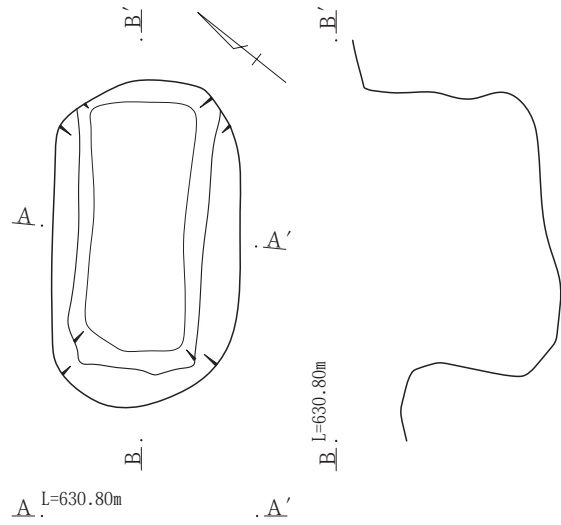
第3章 検出された遺構と遺物

7-85号土坑



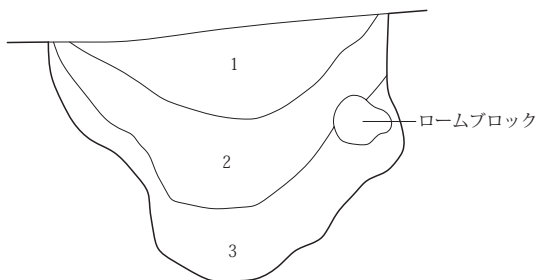
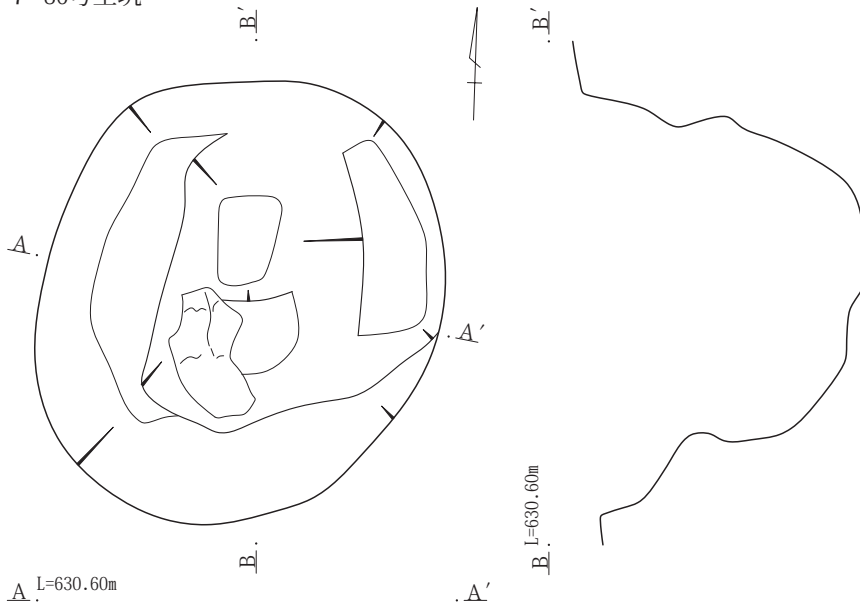
- 7-85号土坑
 1 黒色土 ローム粒若干含む、やや粘性あり。
 2 黒色土 ローム粒、小ブロック含む、粘性あり。

7-87号土坑

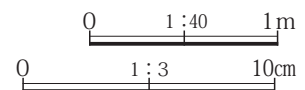
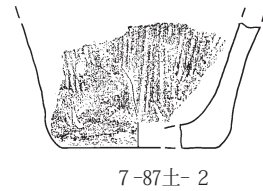


- 7-87号土坑
 1 暗褐色土 ロームブロック、As-YPk多く含む。
 2 黒色土 As-YPk僅かに含む。
 3 暗黄褐色土 ロームブロック若干含む。

7-86号土坑

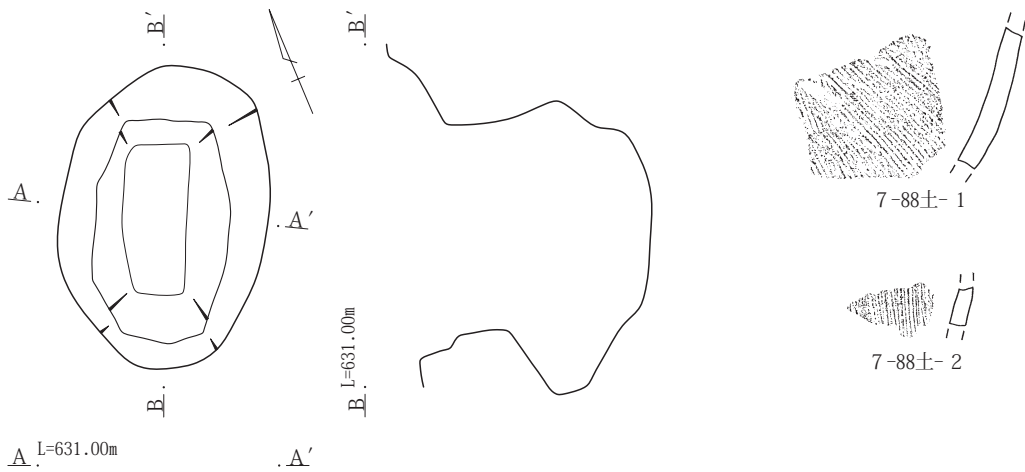


- 7-86号土坑
 1 暗褐色土 ロームブロック、As-YPk多く含む。
 2 黒色土 As-YPk僅かに含む。
 3 暗黄褐色土 ロームブロック若干含む。



第126図 土坑(23) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

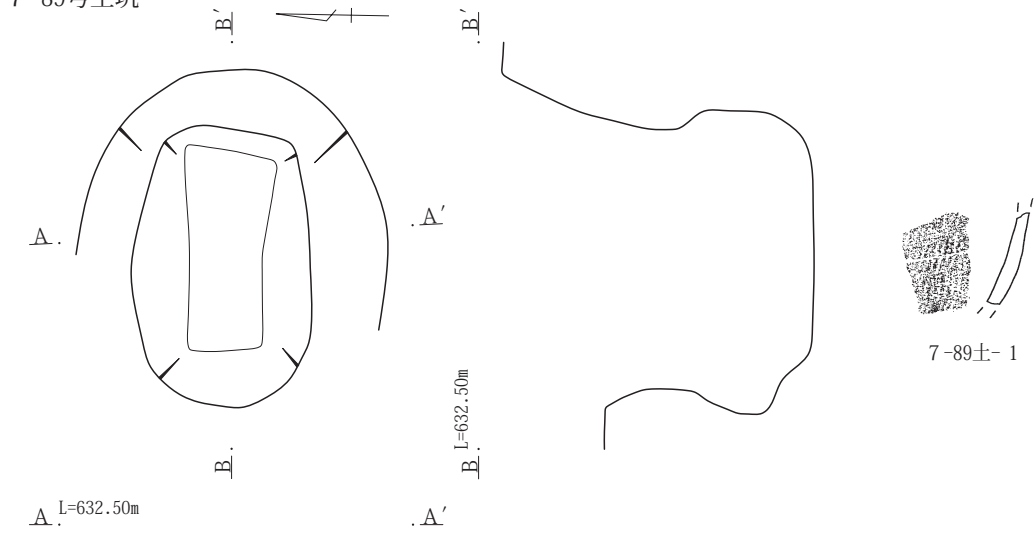
7-88号土坑



7-88号土坑

- 1 暗褐色土 ロームブロック、As-YPk多く含む。
- 2 黒色土 As-YPk僅かに含む。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック若干含む。
- 4 暗黄褐色土 As-YPk多く含む。

7-89号土坑

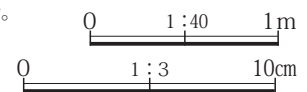


7-89号土坑

- 1 黒色土 As-YPk (小粒)含む。
- 2 暗黒褐色土 As-YPk多く含む。
- 3 暗褐色土 1と似るが黒味強い。
- 4 暗褐色土 3より軽石多く含む。
- 5 暗褐色土 ローム小ブロック若干含む。
- 6 黄褐色土 ロームブロック、As-YPk多く含む。

ローム
ブロック

ローム
ブロック



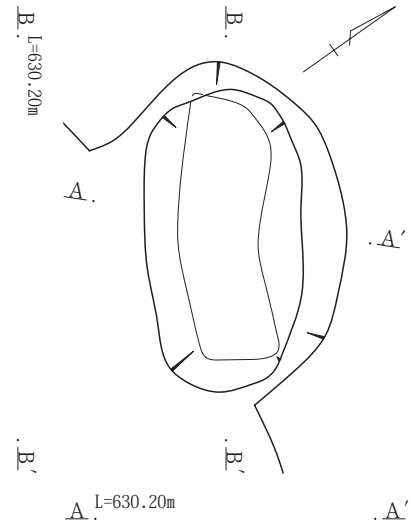
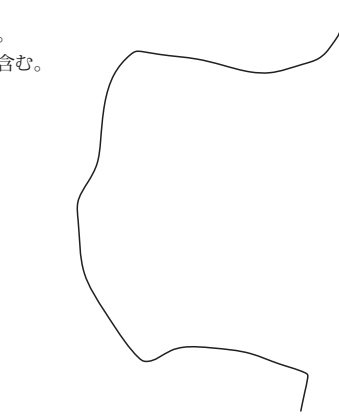
第127図 土坑(24) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

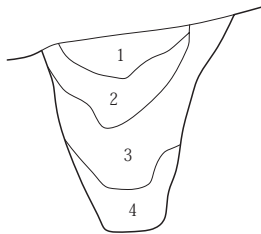
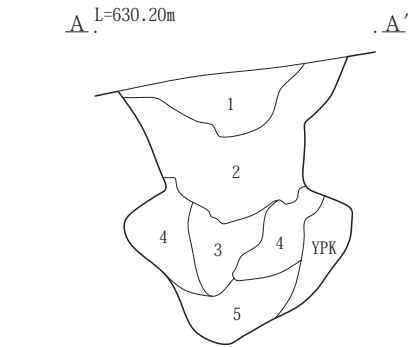
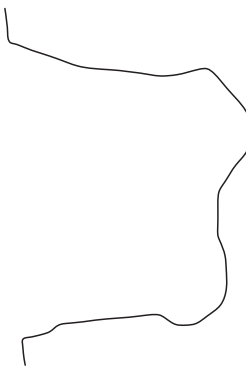
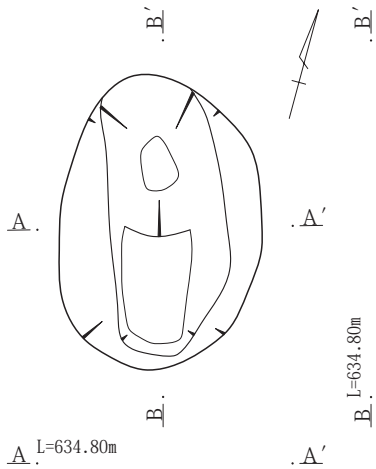
7-90号土坑

7-90号土坑

- 1 黒色土 軽石含む。
- 2 黒色土 軽石、小ロームブロック含む。
- 3 暗黄褐色土 ローム粒、ブロック多く含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック多く含む。
- 5 黄褐色土 As-YPkの崩落土層。



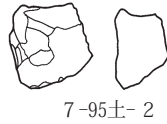
7-94号土坑



7-95号土坑

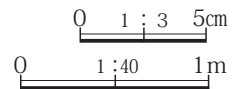
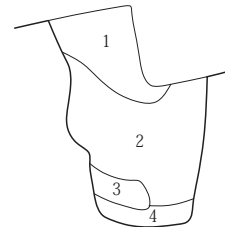
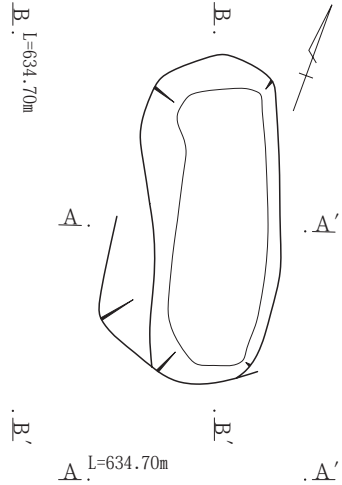
7-94号土坑

- 1 黒色土 ローム粒、若干の炭化物含む。
- 2 黒色土 少量のローム粒含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、ブロック含む。



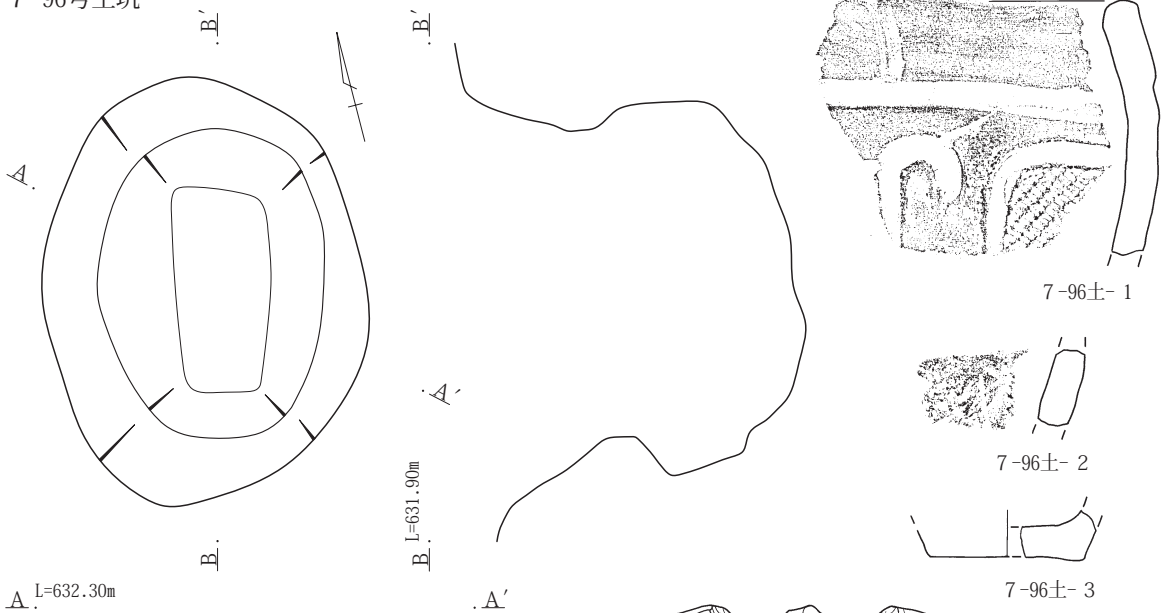
7-95号土坑

- 1 黒色土 少量のローム粒含み軟質。
- 2 黒色土 1と似るがローム粒やや多く含む。
- 3 黒褐色土 ローム粒、多く含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、ブロック含む。



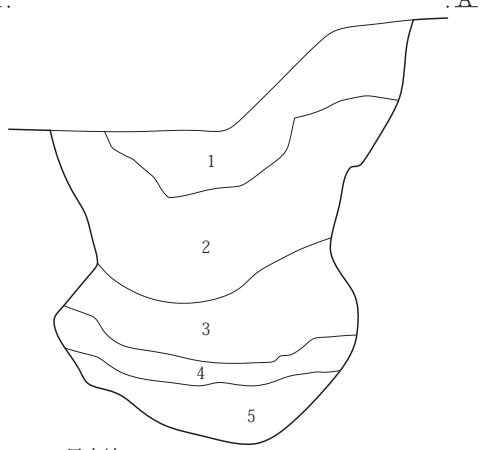
第128図 土坑(25) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

7-96号土坑



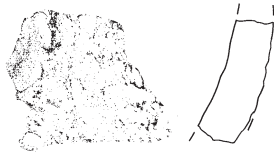
A. L=632.30m

B. L=631.90m

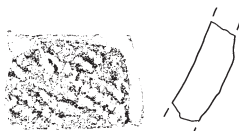


7-96号土坑

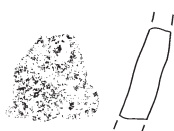
- 1 黒色土 As-YPk若干含む。
- 2 黒色土 1より細粒。
- 3 黒色土 (As-YPk)黄色粒含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック多く含む。
- 5 黒褐色土 As-YPk、ロームブロック含む。



7-97土-1

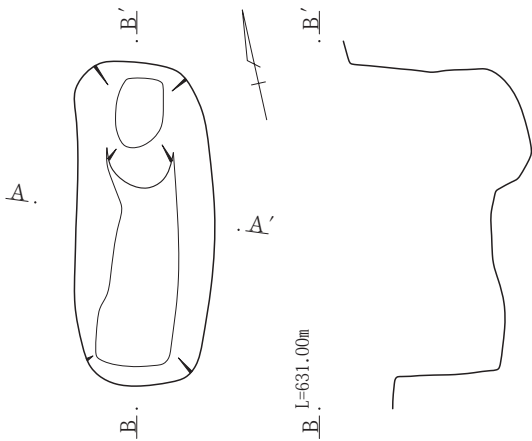


7-97土-2



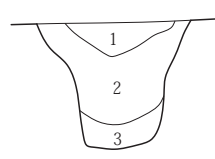
7-97土-3

7-97号土坑



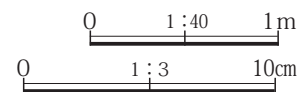
A. L=631.00m

B. L=631.00m



7-97号土坑

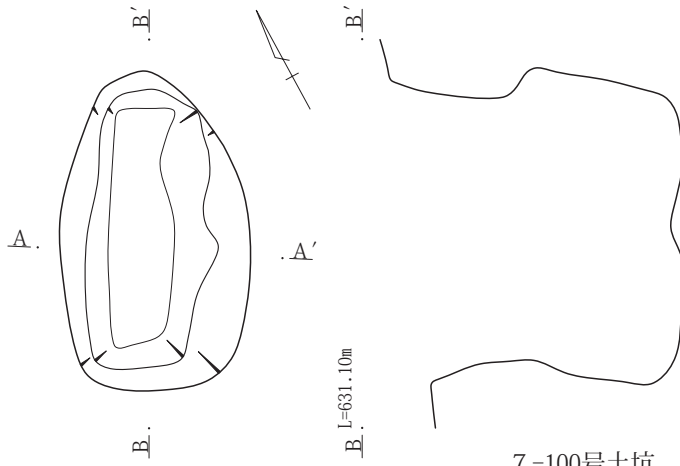
- 1 黒色土 若干のAs-YPk含む。
- 2 黒色土 若干のローム粒含む。
- 3 黒色土 ローム粒多く含む。



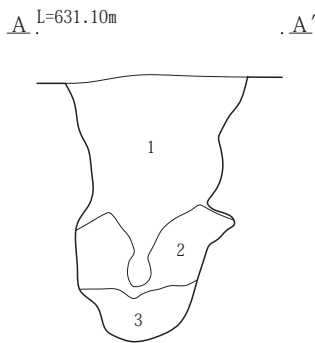
第129図 土坑(26) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

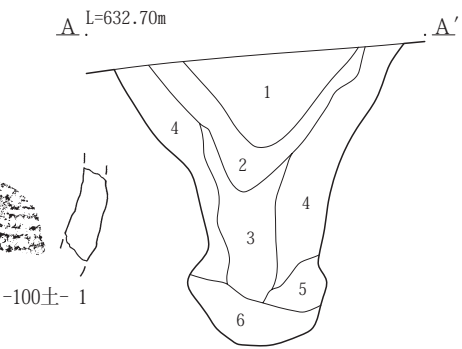
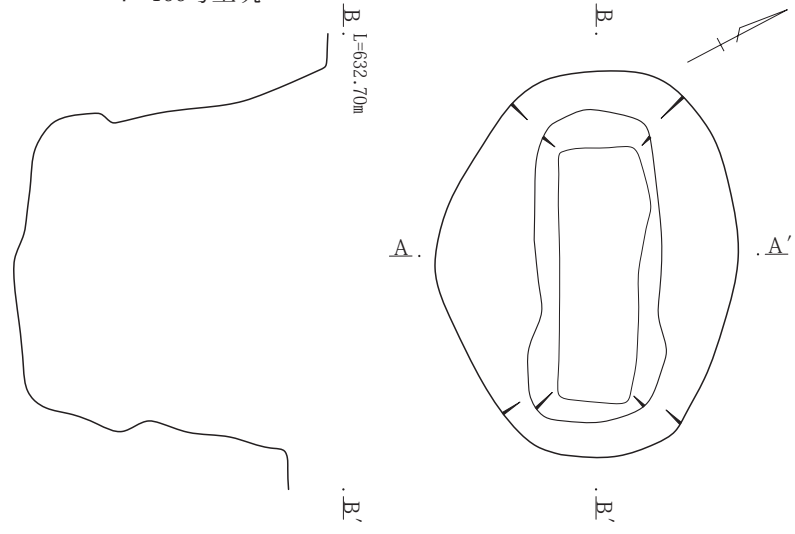
7-98号土坑



- 7-98号土坑
- 1 黒色土 若干のAs-YPk混入。
 - 2 黒褐色土 ロームブロック多く含む。
 - 3 黒褐色土 2と似るがAs-YPkやや多く含む。

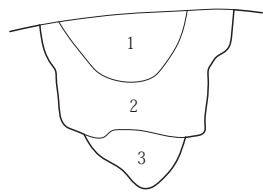
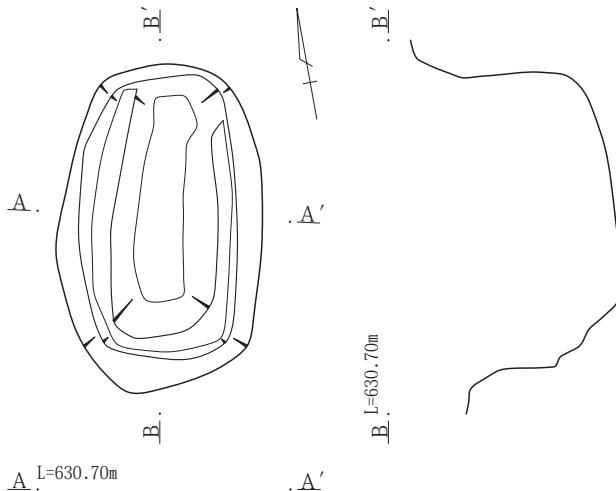


7-100号土坑

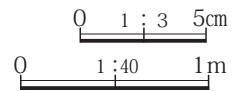


- 7-100号土坑
- 1 黒色土 As-YPkまばらに混入。
 - 2 黒褐色土 As-YPk多く含む。
 - 3 黒褐色土 2と似るがAs-YPkの混入少ない。
 - 4 黒色土 As-YPkの混入少ない。
 - 5 黒褐色土 ロームブロック若干含む。
 - 6 黒褐色土 ロームブロック、As-YPk多く含む。

7-99号土坑

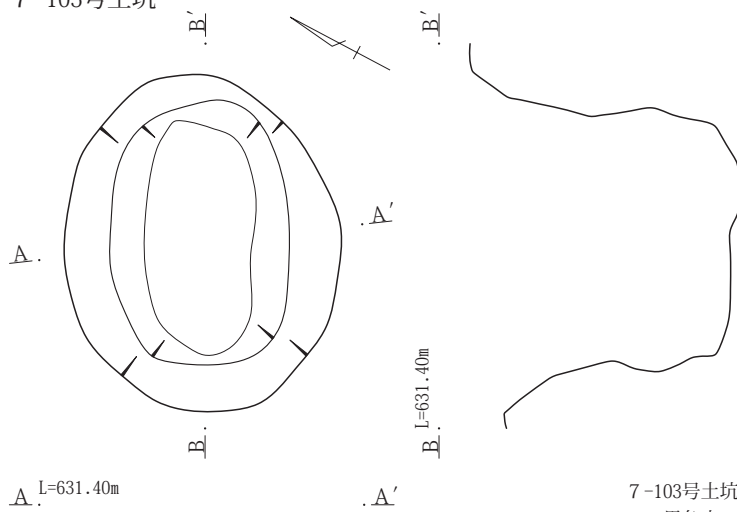


- 7-99号土坑
- 1 黒色土 As-YPk若干混入。
 - 2 黒色土 1よりAs-YPk多く含む若干のロームブロック含む。
 - 3 黄褐色土 ロームブロック、As-YPkの混土、やや縮まりあり。



第130図 土坑(27) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

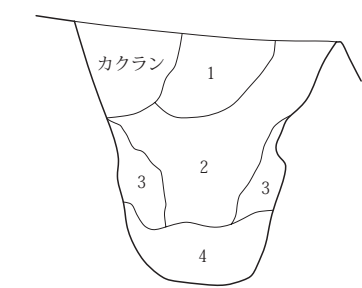
7-103号土坑



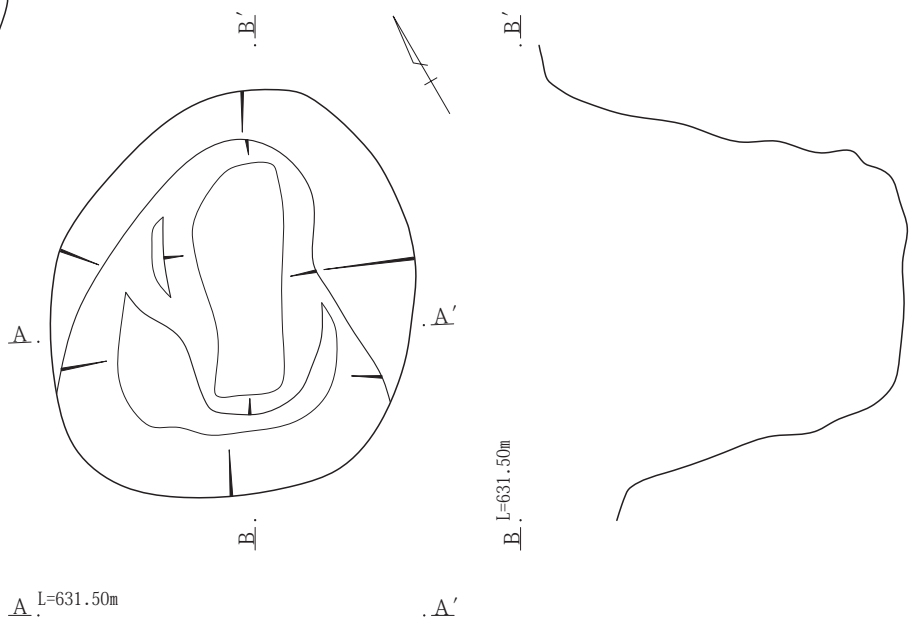
7-103号土坑

- 1 黒色土 (As-YPk)含む。
- 2 黒色土 1と似るがAs-YPkの混入少ない。
- 3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。
- 4 黒褐色土 As-YPk、ロームブロック多く含む。

A. L=631.40m



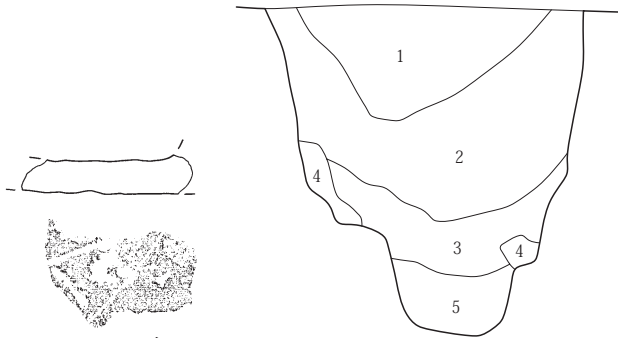
7-104号土坑



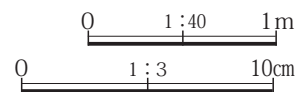
7-104号土坑

- 1 黒褐色土 As-YPk含む。
- 2 黒色土 若干のAs-YPk含み砂質。
- 3 黒色土 若干のAs-YPk、ロームブロック含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒、ロームブロック含む。
- 5 黄褐色土 多量のロームブロック含む。
(地山崩落土)

A. L=631.50m



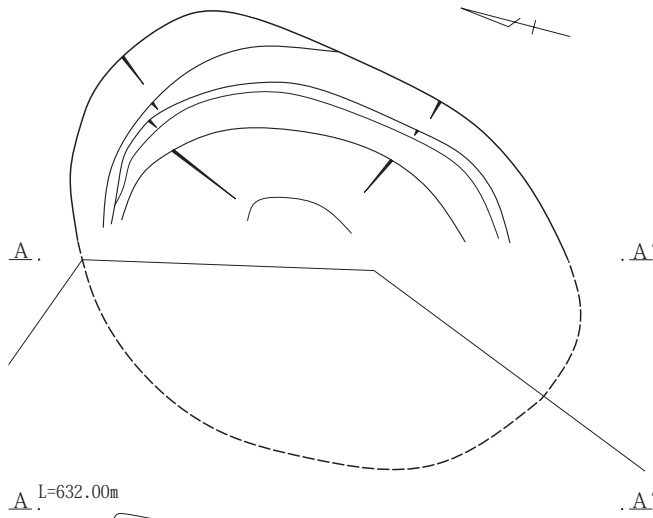
7-104土-1



第131図 土坑(28) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

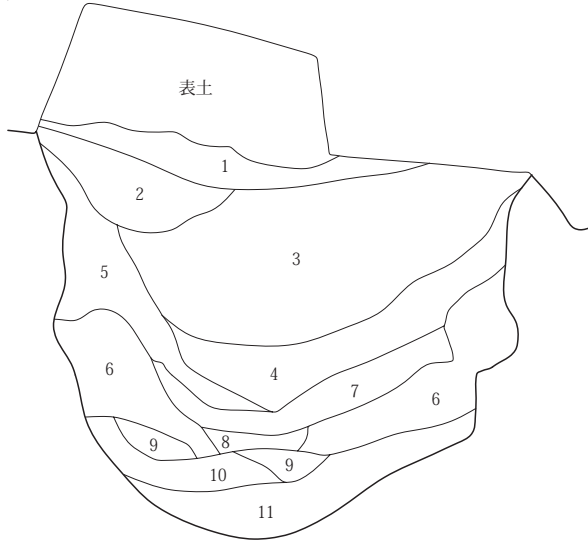
7-105号土坑



7-105号土坑

- 1 黒色土 少量のAs-YPk混入。
- 2 黒色土 1と同質だがやや色調明るい。
- 3 黒褐色土 As-YPk多く混入。
- 4 黒褐色土 若干のAs-YPk、ロームブロック混入。
- 5 黄褐色土 多量のロームブロック含む。
(地山崩落土)
- 6 暗褐色土 ロームブロック、粒子多く含む。
- 7 暗褐色土 6と似るが黒色土含む。
- 8 灰黄褐色土 As-YPk主体とする。
- 9 暗褐色土 黒色土含み汚れた感じ。
- 10 黄褐色土 ローム粒多く含む。
- 11 黄褐色土 ローム粒、ブロック多く含み軟質。

A L=632.00m



7-105土-1



7-105土-2



7-105土-3



7-105土-4



7-105土-5



7-105土-7



7-105土-8



7-105土-9



7-105土-6



7-105土-10



7-105土-11



7-105土-12



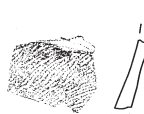
7-105土-13



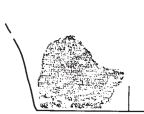
7-105土-14



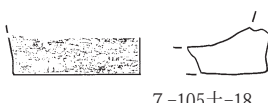
7-105土-15



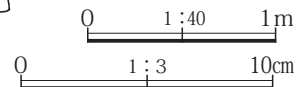
7-105土-16



7-105土-17

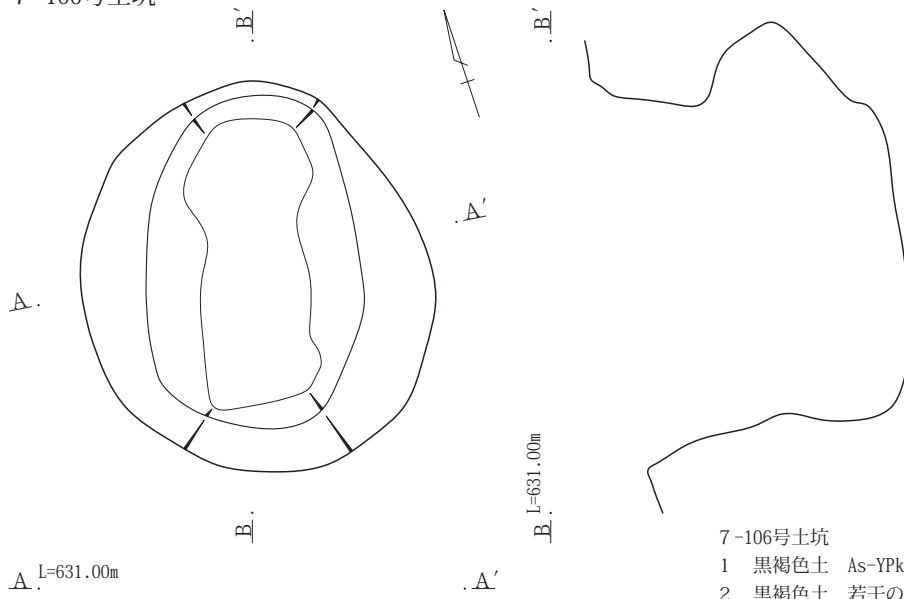


7-105土-18



第132図 土坑(29) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

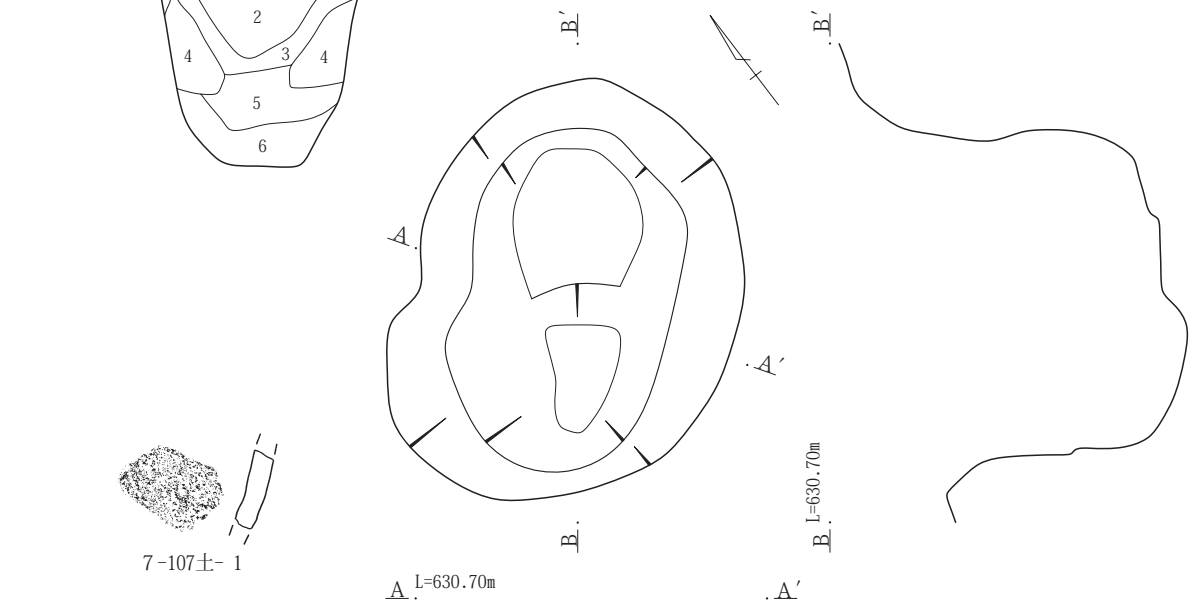
7-106号土坑



7-106号土坑

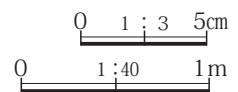
- 1 黒褐色土 As-YPk (大粒)含む。
- 2 黒褐色土 若干のAs-YPk含み、1より黒味あり。
- 3 黒褐色土 若干のAs-YPk、ロームブロック含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック(崩落土)。
- 5 黒褐色土 As-YPk、ロームブロック含み粘性あり。
- 6 黒褐色土 As-YPk多く含む。

7-107号土坑



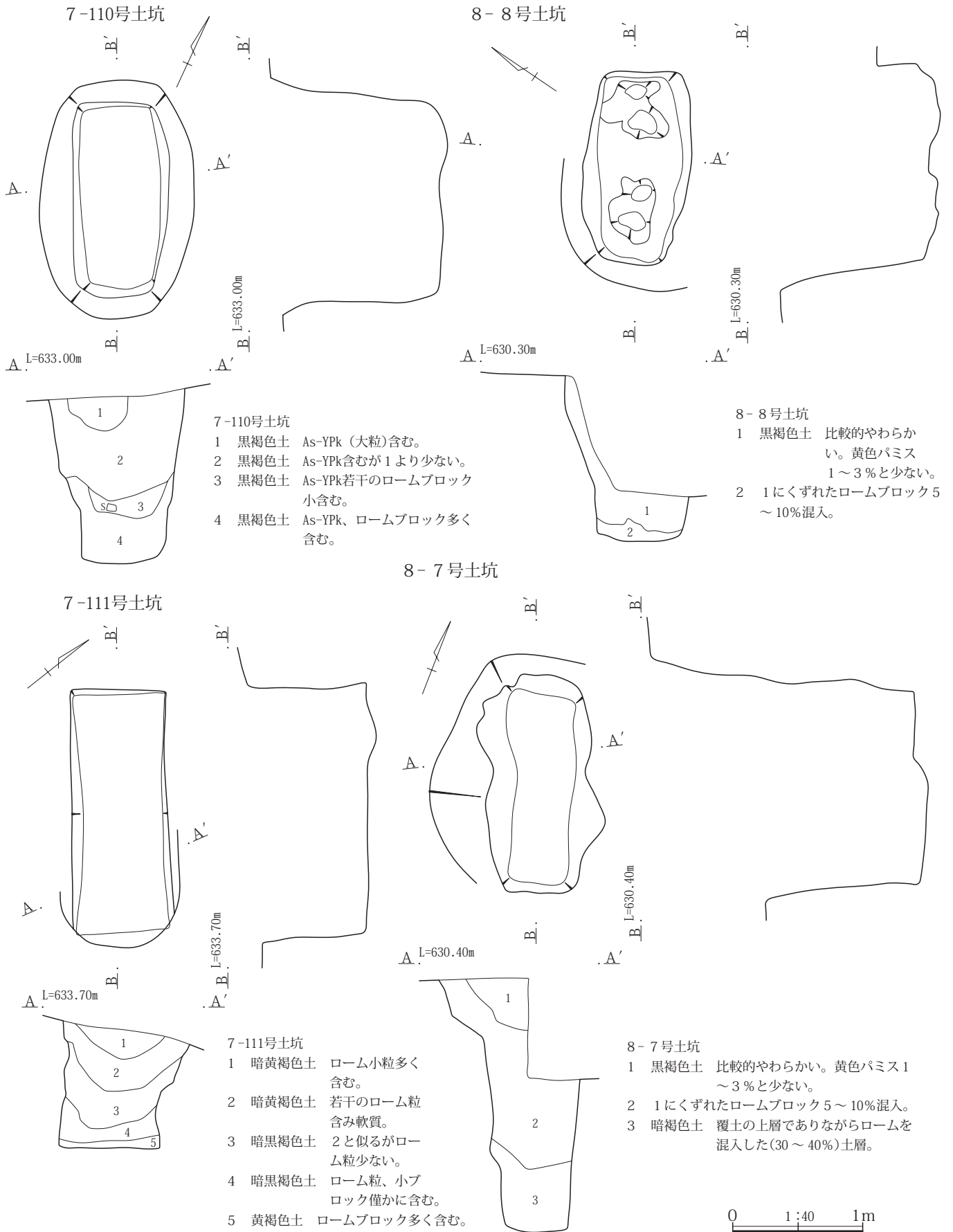
7-107号土坑

- 1 黒褐色土 As-YPk (大粒)含む。
- 2 黒褐色土 As-YPk含むが1より少ない。
- 3 黒褐色土 As-YPk若干のロームブロック小含む。
- 4 黒褐色土 As-YPk、ロームブロック多く含む。



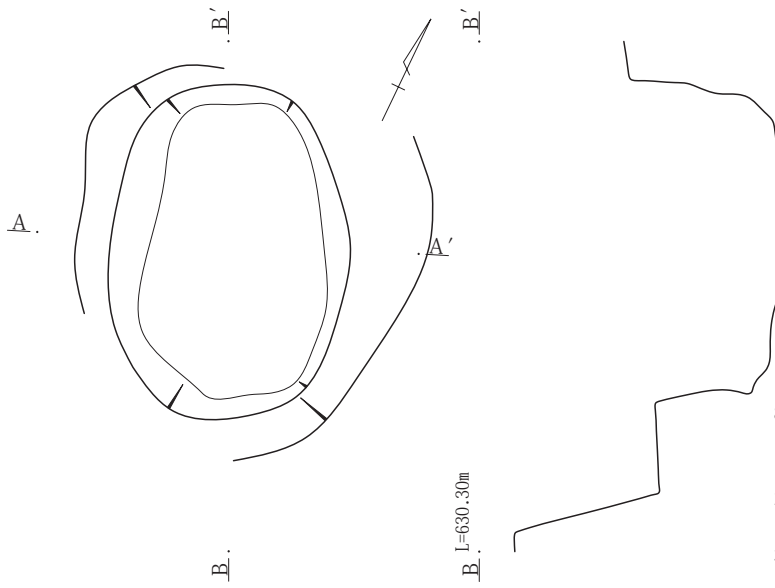
第133図 土坑(30) 7区土坑(平安時代以降)、出土遺物

第3章 検出された遺構と遺物

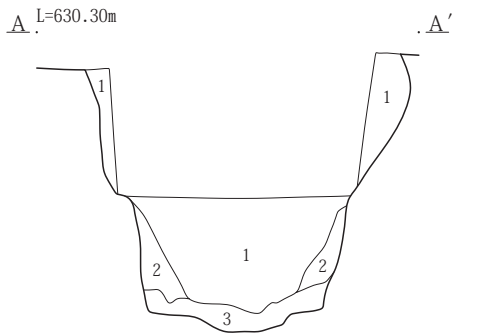


第134図 土坑(31) 7・8区土坑(平安時代以降)

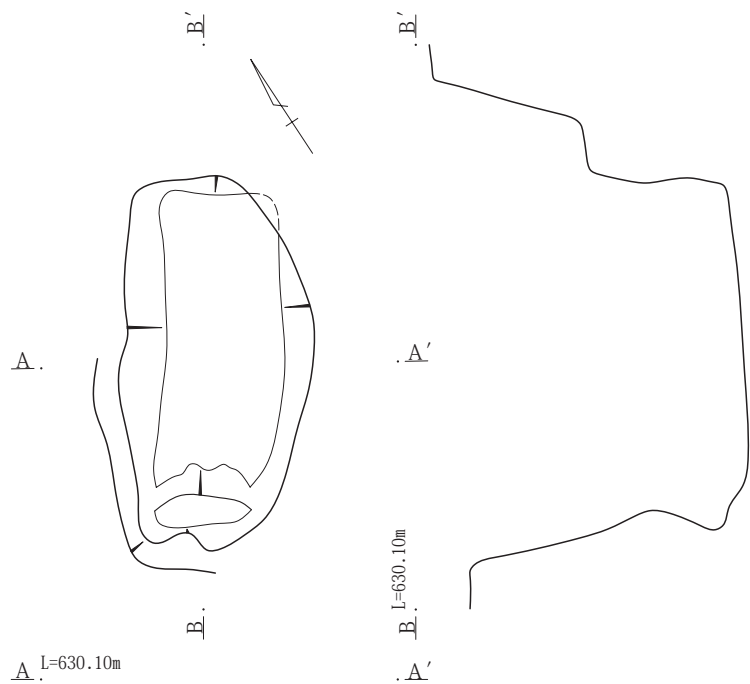
8-9号土坑



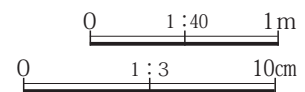
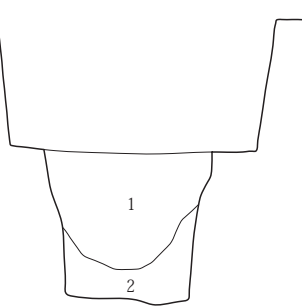
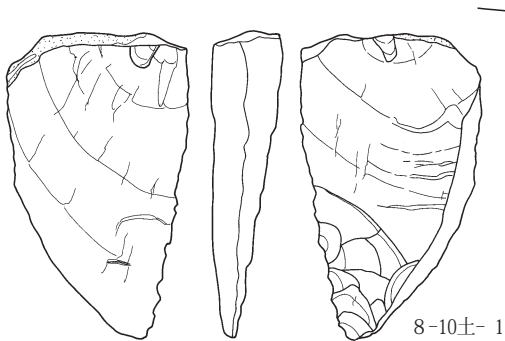
- 8-9号土坑
- 1 黒褐色土 土坑覆土。比較的やわらかい。黄色パミス1~3%と少ない。
 - 2 暗褐色土 覆土の上層でありながらロームを混入した(30~40%)土層。
 - 3 褐色土 貼床部。砂っぽいが締まっている。



8-10号土坑

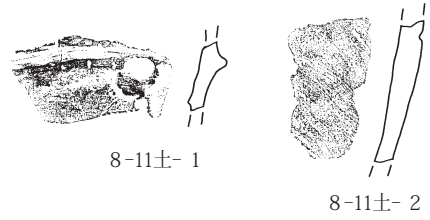
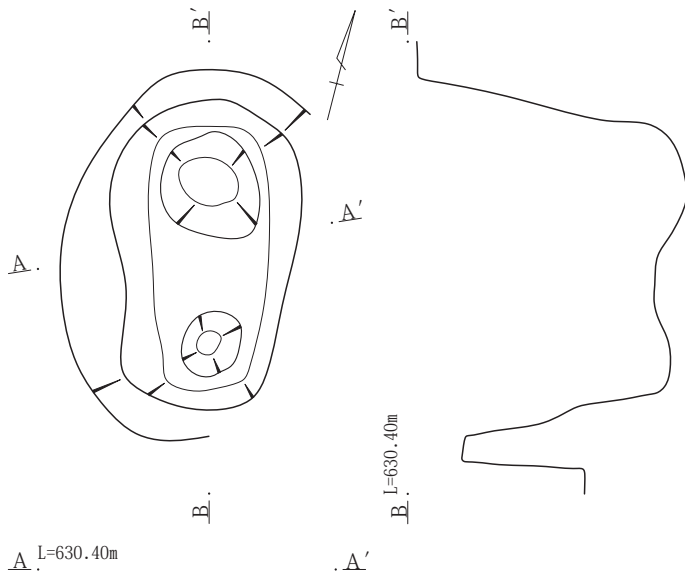


- 8-10号土坑
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1~3%と少ない。
 - 2 くずれたロームブロック5~10%混入。

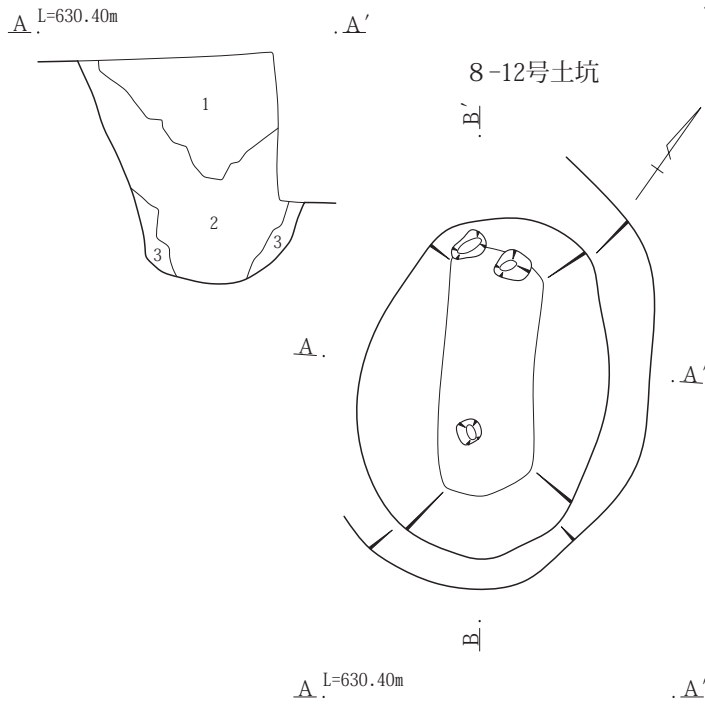


第135図 土坑(32) 8区土坑(平安時代以降)、出土遺物

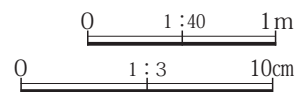
8-11号土坑



- 8-11号土坑
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1~3%と少ない。
 - 2 くずれたロームブロック5~10%混入。
 - 3 暗褐色土 ロームを混入(30~40%)。

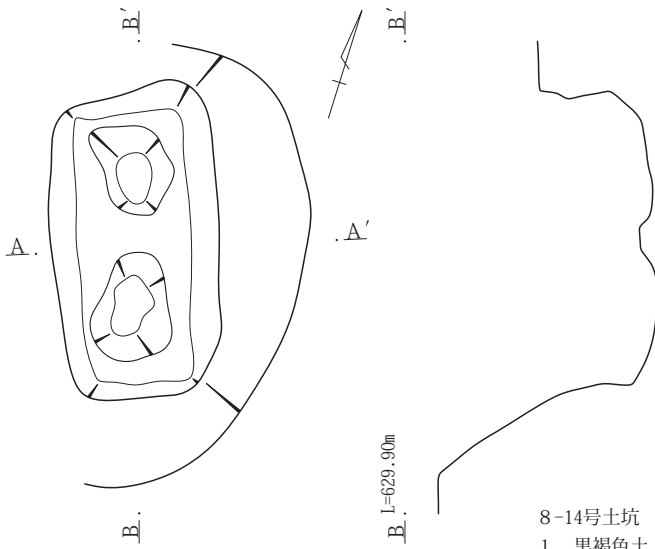


- 8-12号土坑
- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1~3%と少ない。
 - 2 黒褐色土 くずれたロームブロック混入。
 - 3 暗黄褐色土 くずれたロームブロック若干混入。
 - 4 暗褐色土 覆土の上層でありながらロームを混入(30~40%)。
 - 5 褐色土 貼床部。砂っぽいが締まっている。



第136図 土坑(33) 8区土坑(平安時代以降)、出土遺物

8-14号土坑



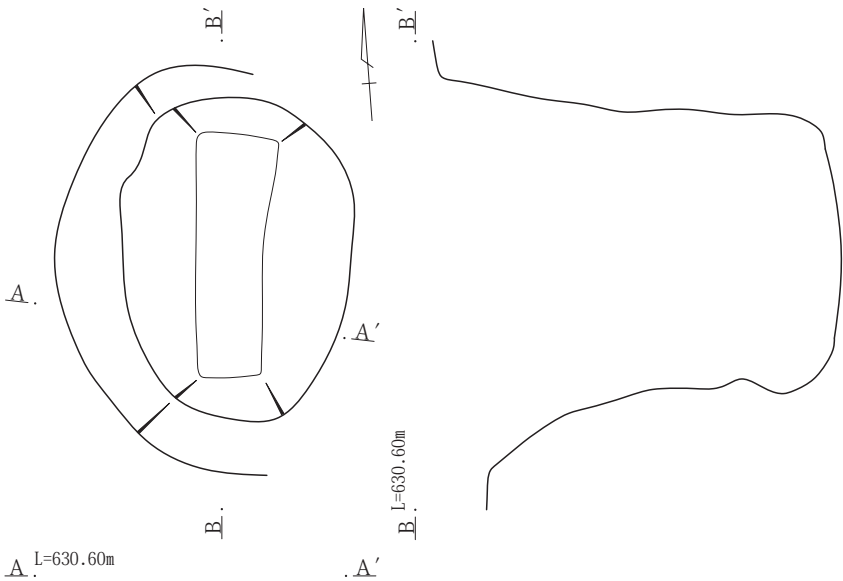
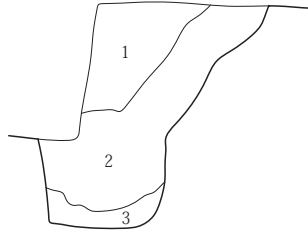
A. L=629.90m

B. L=629.90m

8-14号土坑

- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス 1～3%と少ない。
- 2 黄褐色土 くずれたロームブロック 5～10%混入。
- 3 黄褐色土 ローム多く含む。

8-15号土坑



A. L=630.60m

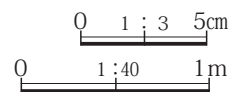
B. L=630.60m

8-15号土坑

- 1 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス 1～3%と少ない。
- 2 暗褐色土 くずれたロームブロック 5～10%混入。
- 3 黄褐色土 くずれたロームブロック 10～15%混入。
- 4 暗褐色土 ロームを多く混入。
- 5 褐色土 貼床部。砂っぽいが締まっている。



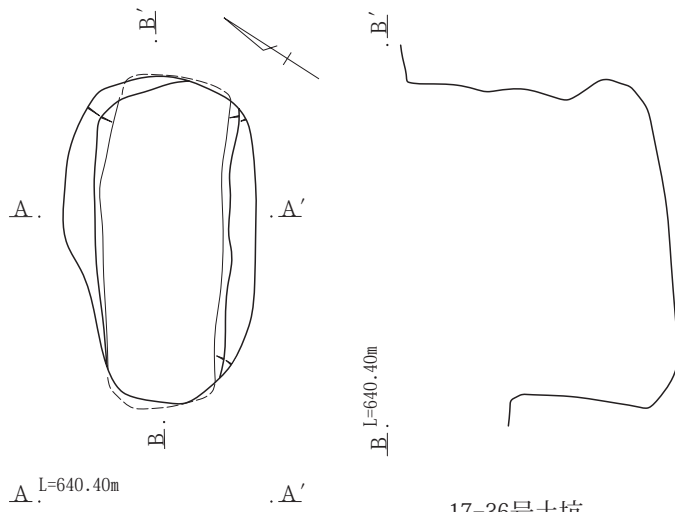
8-15土-1



第137図 土坑(34) 8区土坑(平安時代以降)、出土遺物

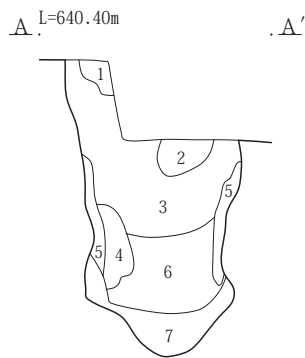
第3章 検出された遺構と遺物

13- 1号土坑

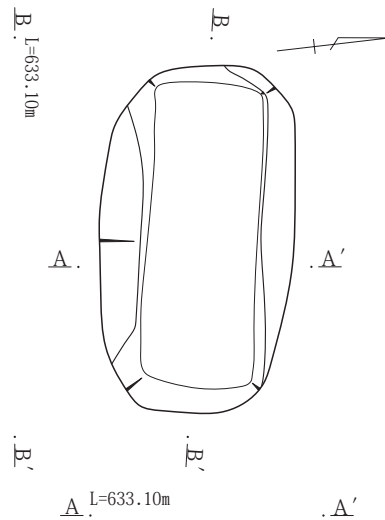
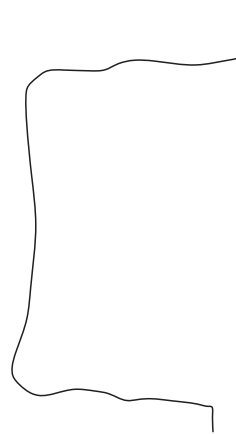


13- 1号土坑

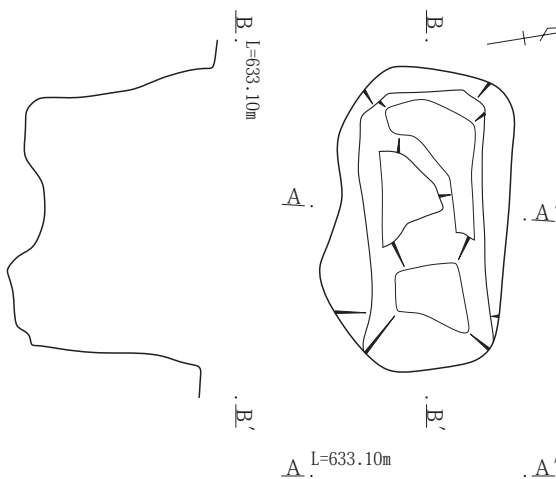
- 1 にぶい褐色土 細粒土でローム粒子、褐色粒を含む。
- 2 暗褐色土 締まりなし。ローム粒子、褐色粒を僅かに含む。
- 3 黄褐色土 黒色土混じりのロームでAs-YPk粒が混入する。
- 4 黄褐色土 くずれたロームで締まりなし。
- 5 黒褐色土 ロームブロックが混じる。
- 6 黒褐色土 くずれたAs-YPkに黒が染みだしたもの。
- 7 暗黄褐色土 地山であるAs-YPk粒層に黒が染みだしたもの。



17-36号土坑



17-37号土坑

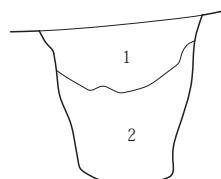


17-36号土坑

- 1 黒褐色土 黒ボク土。縄文以降の生きた土層。黄色パミス僅か1~3%含む。
- 2 黒褐色土 比較的やわらかい。黄色パミス1~3%と少ない。
- 3 暗褐色土 ロームブロック10~20%混入。

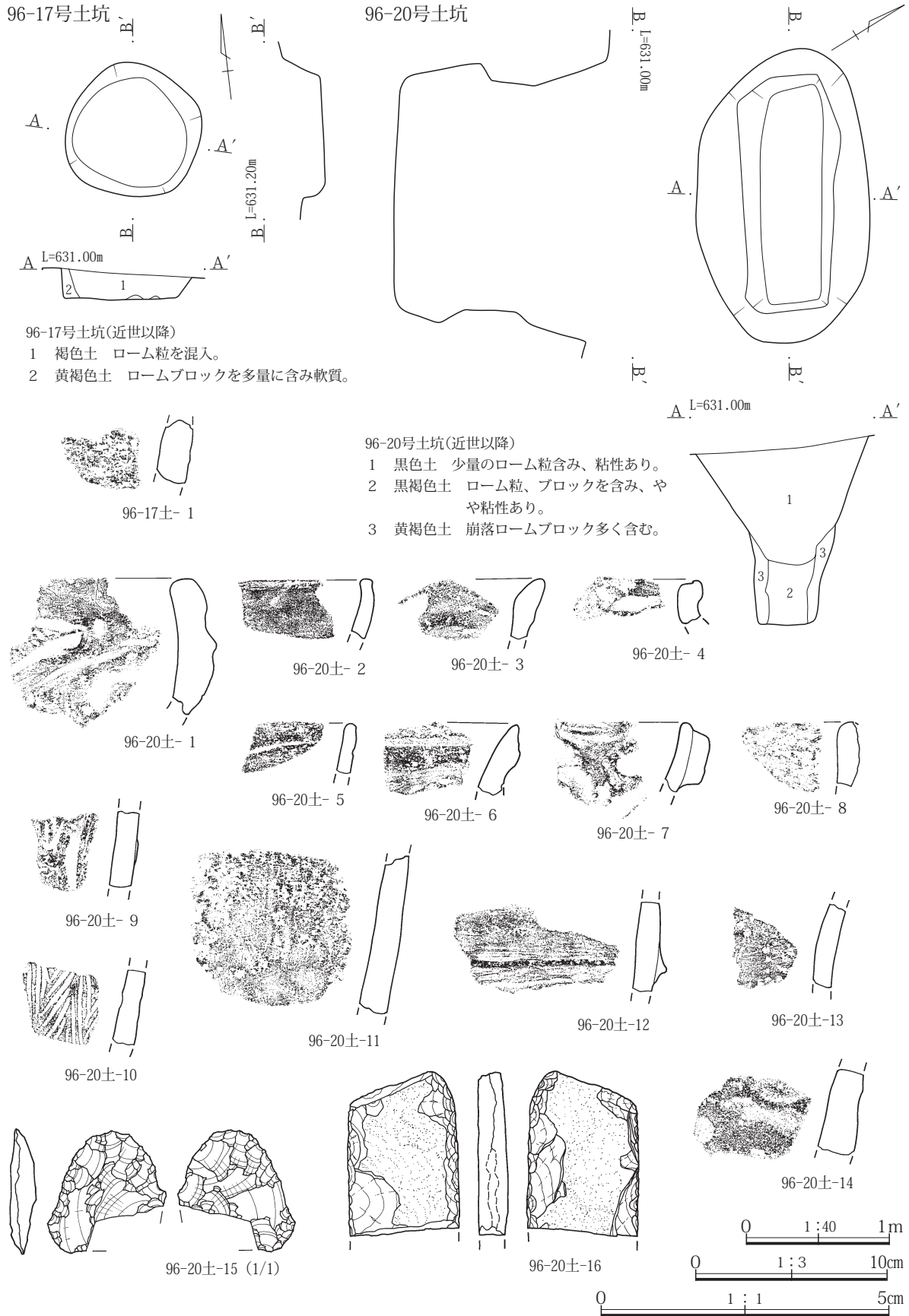
17-37号土坑

- 1 黒褐色土 比較的軟質、黄色パミス少量含む。
- 2 暗褐色土 崩落ロームブロック若干混入。



0 1:40 1m

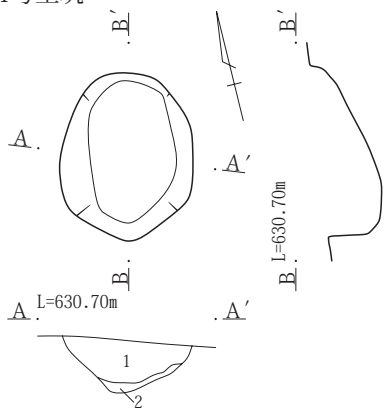
第138図 土坑(35) 13・17区土坑(平安時代以降)



第139図 土坑(36) 96区土坑(平安時代以降)、出土遺物

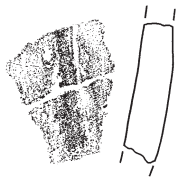
第3章 検出された遺構と遺物

96-21号土坑



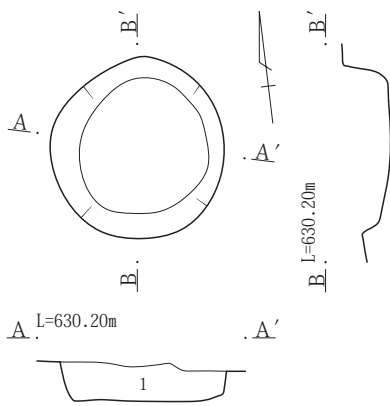
96-21号土坑(近世以降)

- 1 黒色土 ローム粒僅かに含み、締まる。
- 2 暗褐色土 ローム粒含み、締まる。



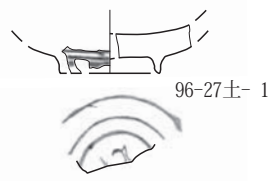
96-21土- 1

96-27号土坑



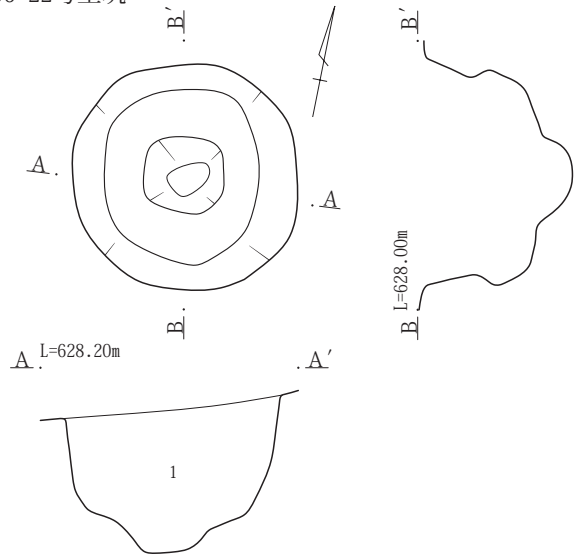
96-27号土坑

- 1 黒褐色土 ローム粒を全体に混入、締まりなし。



96-27土- 1

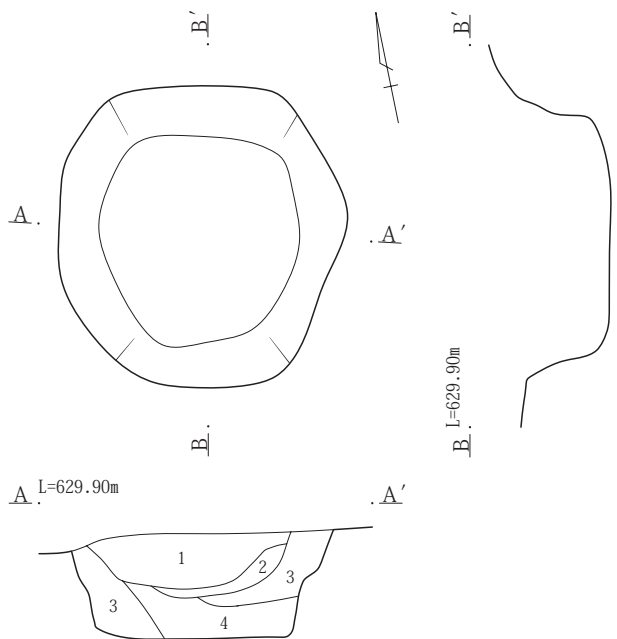
96-22号土坑



96-22号土坑(近世以降)

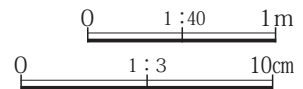
- 1 黒色土 粘性なくボサボサ、ローム粒、ブロックを含む。

96-42号土坑



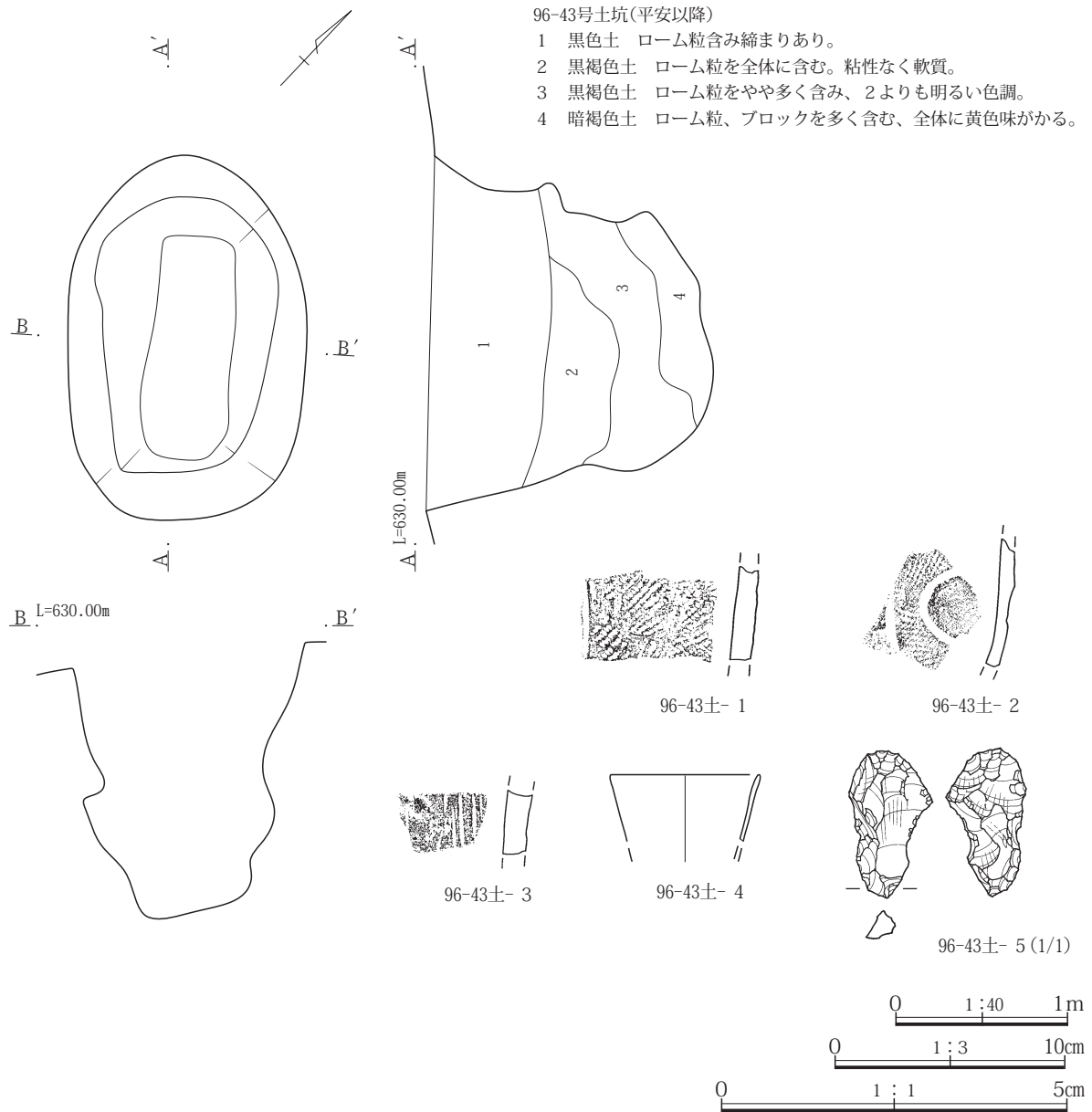
96-42号土坑(平安以降か)

- 1 褐色土 軽石を全体に混入、軟質。
- 2 黄褐色土 軽石主体。
- 3 褐色土 ローム粒を少量混入、軟質。
- 4 黄褐色土 軽石主体で褐色土を混入。



第140図 土坑(37) 96区土坑(平安時代以降)、出土遺物

96-43号土坑



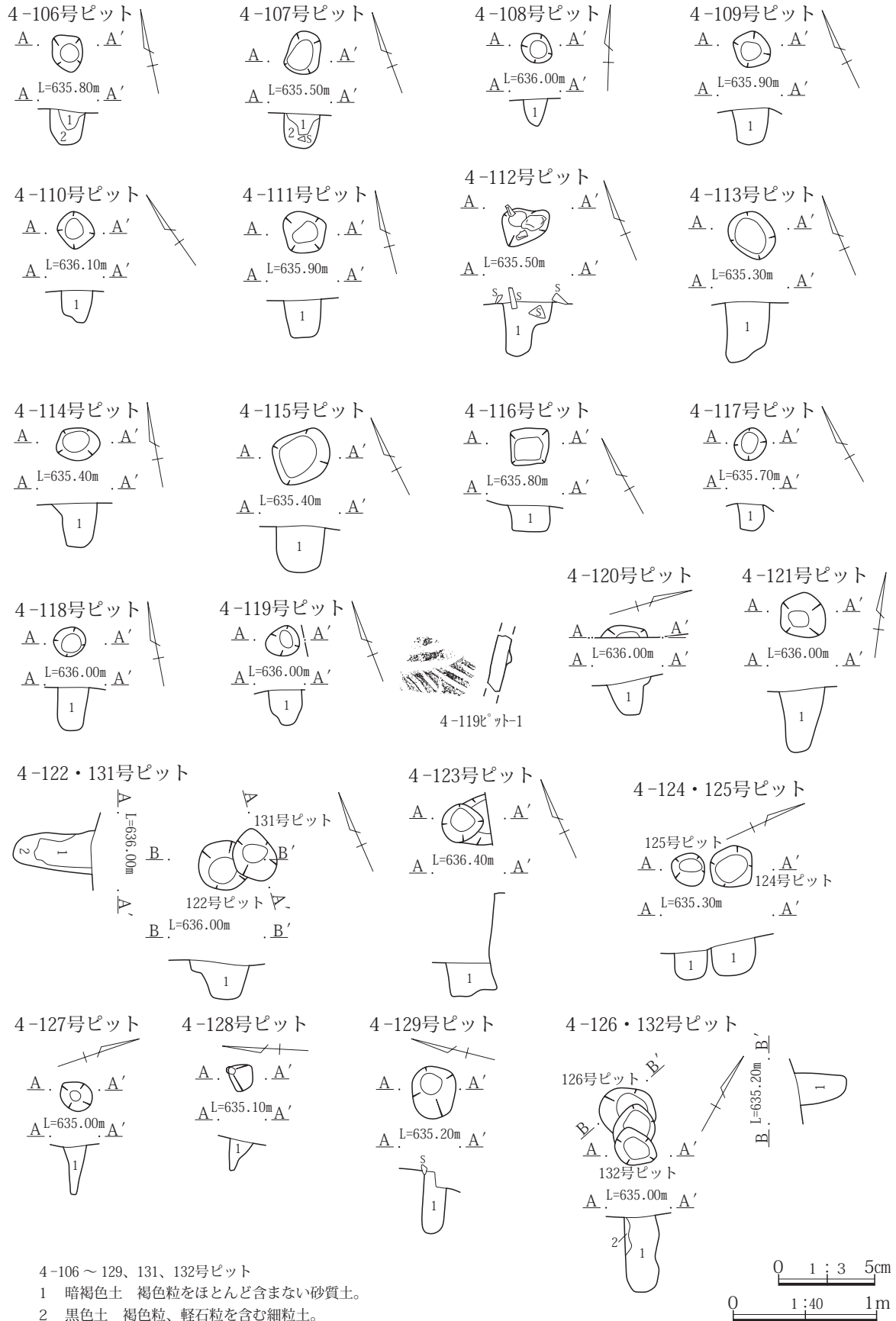
第141図 土坑(38) 96区土坑(平安時代以降)、出土遺物

5 ピット (第142・143図：PL. 50・72)

4区、16区においてピットを確認した。4区は北から南へ約16%の勾配で下る傾斜地に立地し、32基を確認した。ピットのほとんどは円形～長円形を呈し、規模は短径12～35cm、平均24.6cm、長径16～39cm、平均28.1cm、深さ15～56cm、平均30.2cm。遺物を伴出したものは3基で全体に詳細な年代は不明だが、覆土の状況から近世の可能性が高い。

16区では2基を確認した。16区は北東から南西へ約18%の勾配で下る傾斜地に立地。短径36～44cm、長径38～50cm、深さ44～40cm。伴出遺物がなく詳細な年代は不明だが、覆土の状況から近世の可能性が高い。

第3章 検出された遺構と遺物



4-106 ~ 129, 131, 132号ピット
1 暗褐色土 褐色粒をほとんど含まない砂質土。
2 黒色土 褐色粒、軽石粒を含む細粒土。

第142図 ピット(1) 4区ピット、出土遺物



第143図 ピット(2) 4・16区ピット、出土遺物

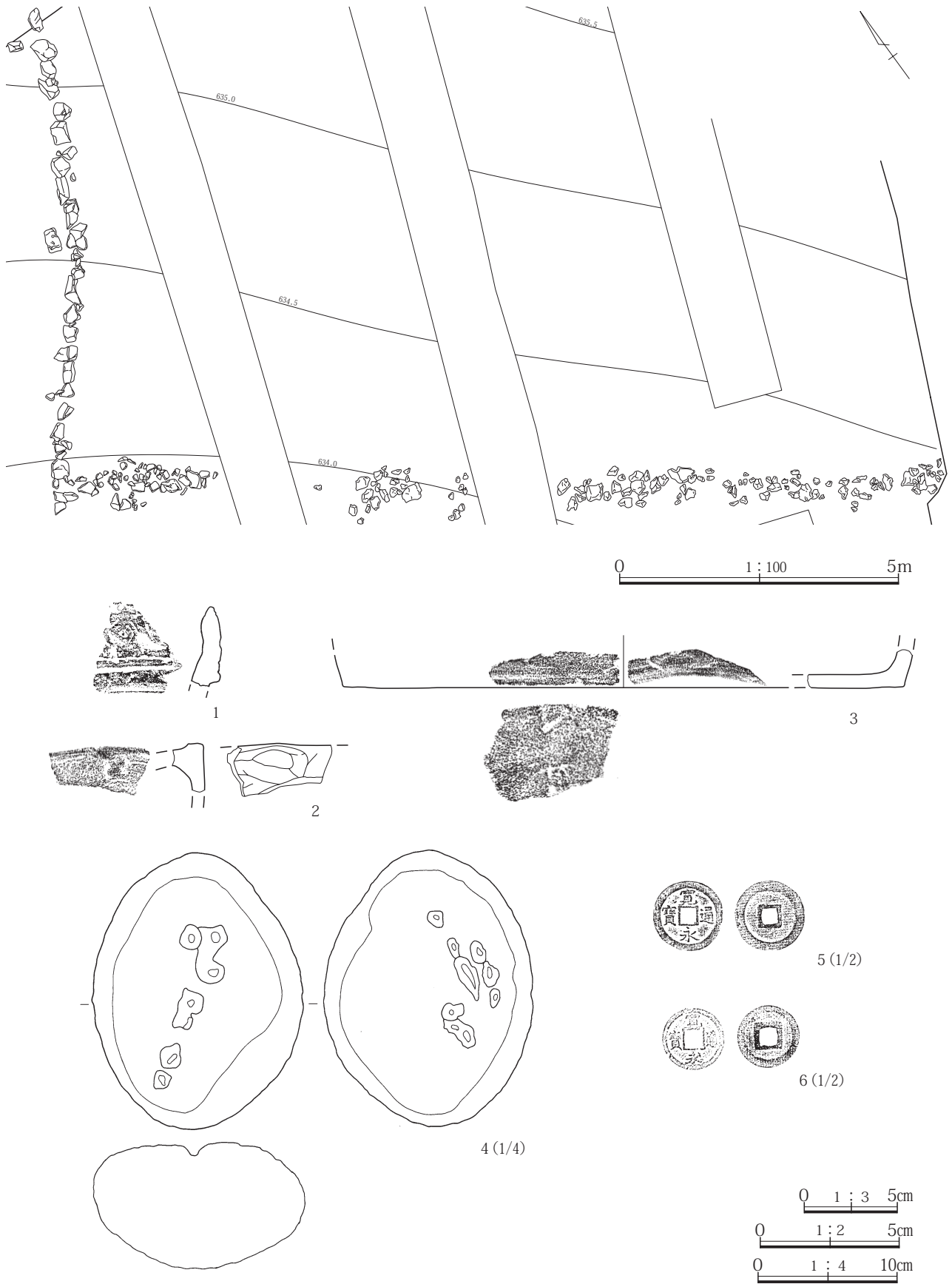
6 石列・石垣・ヤックラ

石列

7-1号石列 (第144図: PL. 53・72)

位置 B～E-21～25グリッドに位置する。**立地** 北東から南西の方向へ、約15%の勾配で下る傾斜地に立地。東西方向は等高線にほぼ沿い、南北方向は等高線にほぼ直行する形でL字形に石列を確認。但し、遺構の北側と東側が調査区域外であるために、全体の石列の配置は不明。**重複** 東西方向の石列上で7-79号土坑と重複。7-79号土坑覆土の上位に本石列を確認したことから、7-79号土坑→7-1号石列の順で新しい。**形状** 南北方向の石列はほぼ中央で小さく屈曲するが、全体は直線的に構成。残存状況が良好な南北方向の石列では、基部に短辺30cm、長辺40cmほどの角礫を横口積みで配置。東西方向の石列は拳大～短辺30cm、長辺40cmほどの角礫を確認。**規模** 850(南北)×1600(東西)cm。**出土遺物** 内耳鍋、古銭が出土。**時期・所見** 出土遺物から近世と判断。耕作面は不明だが、棚田状の畑耕作地などにおいてその下端部を固定するための石垣の基部である可能性が高い。

第3章 検出された遺構と遺物



第144図 7-1号石列、出土遺物

石垣

3-1号石垣 (第145図: PL. 53)

位置 N~P-4~6グリッドに位置する。**立地** 北側から南側へ約17%の勾配で下る傾斜地に、等高線に対してやや斜めに立地。**重複** なし。**形状** 長さ8.5mで直線に配置される西側の1列と、大きく屈曲してやや不規則的に置かれた東側の石列を確認。両者が一連のものか否かは不明だが、石列の状況は大きく異なる。西側の1列は全体に直線的に構成され、基部には短辺20cm、長辺30cmほどの角礫を横口積みで配置し、最大のもは短辺50cm、長辺1m。東側の石列は、全体に大きく屈曲し、拳大~人頭大の角礫がやや不規則に並ぶ。西側の1列は、北西側が調査区域外で、全形は不明。**規模** 直線的な1列は850(長さ)×50(幅)×30(高さ)cm。**方位** 直線的な1列はN-51°-W。**出土遺物** なし。**時期・所見** 耕作面は不明だが、棚田状の畑耕作地などにおいてその下端部の斜面を固定するための石垣と判断。近世の可能性が高い。



第145図 3-1号石垣

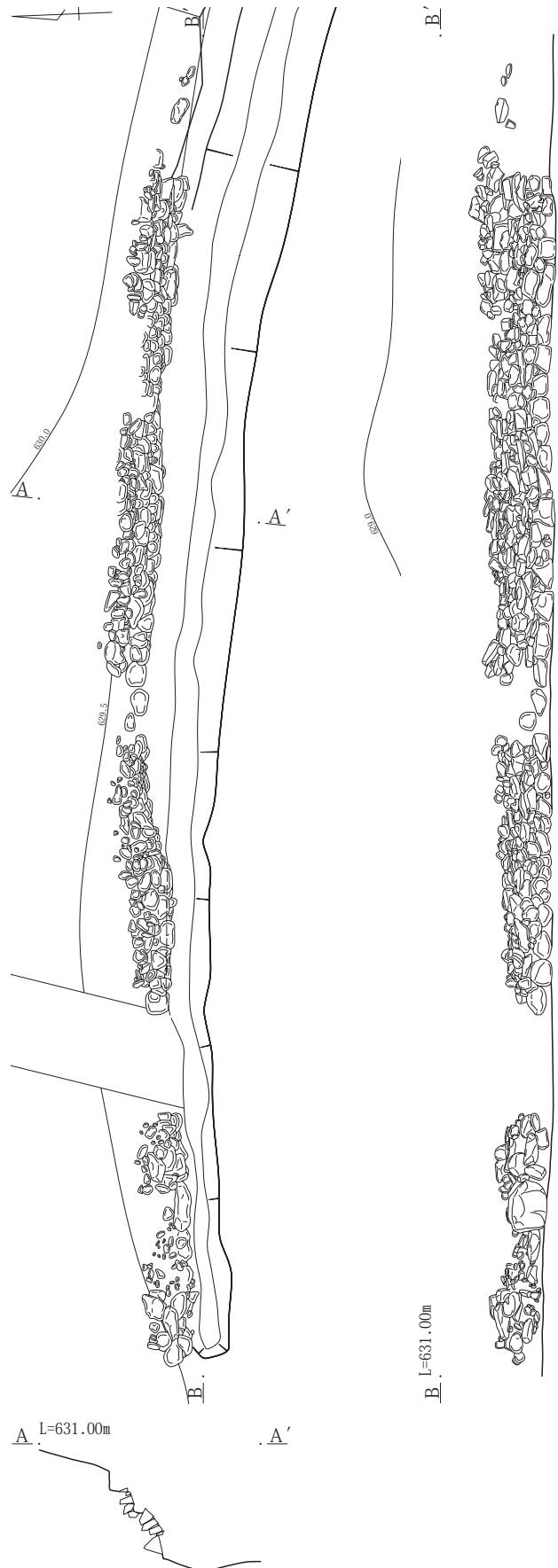
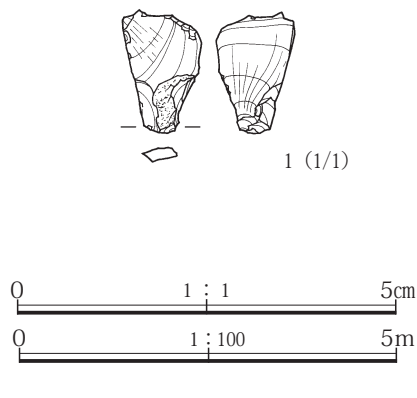
7-1号石垣 (第146図: PL. 53・72)

位置 K~P-19グリッドに位置する。 **立地** 北から南へ約9%の勾配で下る傾斜地の、比高約1mの傾斜変換点の段差に、等高線にほぼ沿う形で東西方向に立地。 **重複** 石列の東端部付近で7-58号土坑と重複。7-58号土坑覆土の上位に本石垣を確認したことから、7-58号土坑→7-1号石垣の順で新しい。

形状 平面的には中央部付近で僅かに屈曲し、全体的に北側に僅かに膨らんで緩やかな弧を描く。基部に短辺30cm、長辺50cmほどの比較的大きな角礫を配置し、その上位に拳大~短辺20cm、長辺30cmほどの角礫を横口方向に積んで構成し、上位ほど小さい礫を配置する。比高約1mの斜面に沿って約50°の傾斜角度で礫を積み、その基部はローム層上面に位置する。全体に緻密で堅固に積まれている。 **溝状の窪み** 石列の南側はローム層上面において幅0.5~1.3m、平均的な深さ10cmの溝状で石垣にほぼ平行して窪み、この溝状の窪みは東側ほど幅が広く、深さも深くなる。この窪みの上位に本石垣が構築されていることから、石垣構築以前の所産と考えられるが、その性格は不明。

規模 1800(長さ)×70(幅)×120(高さ)cm。

方位 N-87°-W。 **出土遺物** なし。伴出した縄文時代の石器は混入と判断。 **時期・所見** 耕作面は不明だが、棚田状の畑耕作地などにおいてその下端部の斜面を固定するための石垣と判断。年代を判定する出土遺物はないが、近世の可能性が高いものと考えられる。

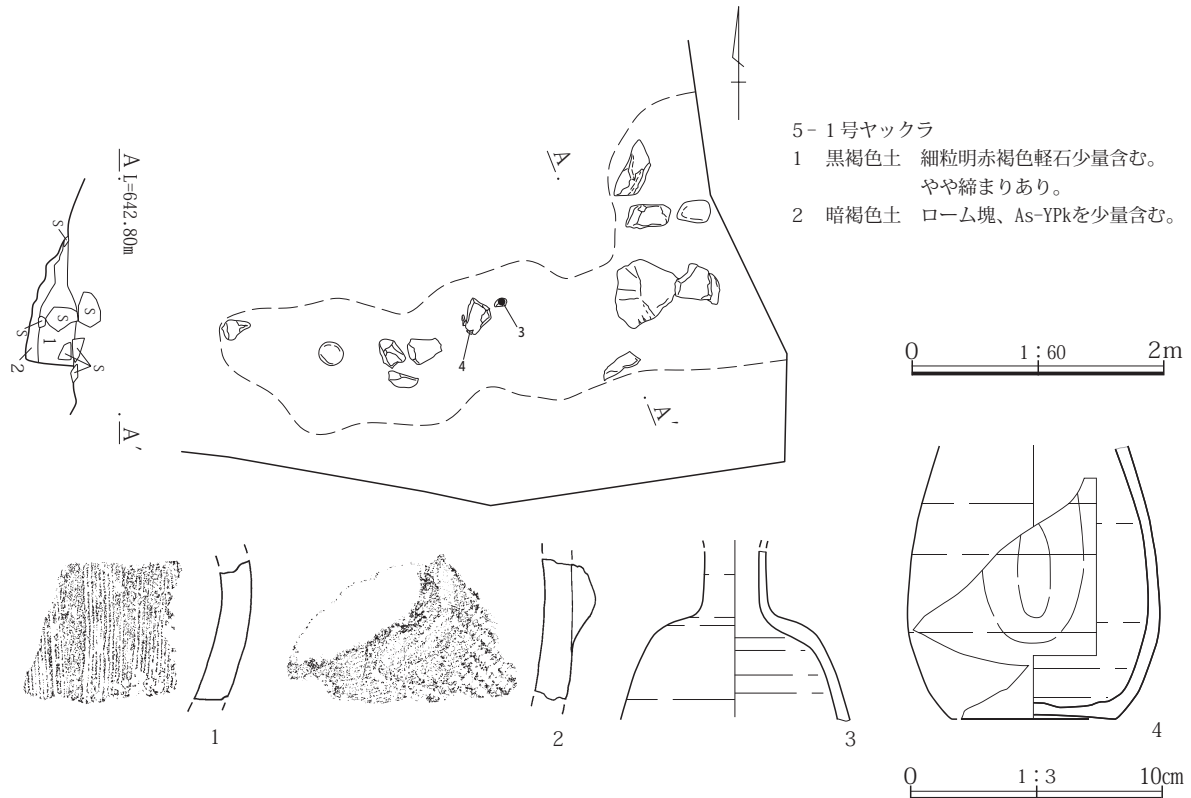


第146図 7-1号石垣、出土遺物

ヤックラ

5-1号ヤックラ (第147図: PL.53・72)

位置 O・P-24グリッドに位置する。本遺構は、「長野原一本松遺跡(5)」2009 所収の5-1ヤックラの北端部の一部。**立地** 北から南へ約15%の勾配で下る傾斜地に立地。**重複** なし。**規模・形状** 幅1m、確認した長さ4.5mにわたって、拳大～幅50cm、長さ50cmの角礫が積まれる。**方位** N-80°-E。**出土遺物** 陶器徳利が出土。**時期・所見** 耕作に支障を及ぼす礫を、おそらく地境などに積んだものと判断。出土遺物から近世の可能性が高い。



第147図 5-1号ヤックラ、出土遺物

6-1号ヤックラ (第148図: PL.54・72)

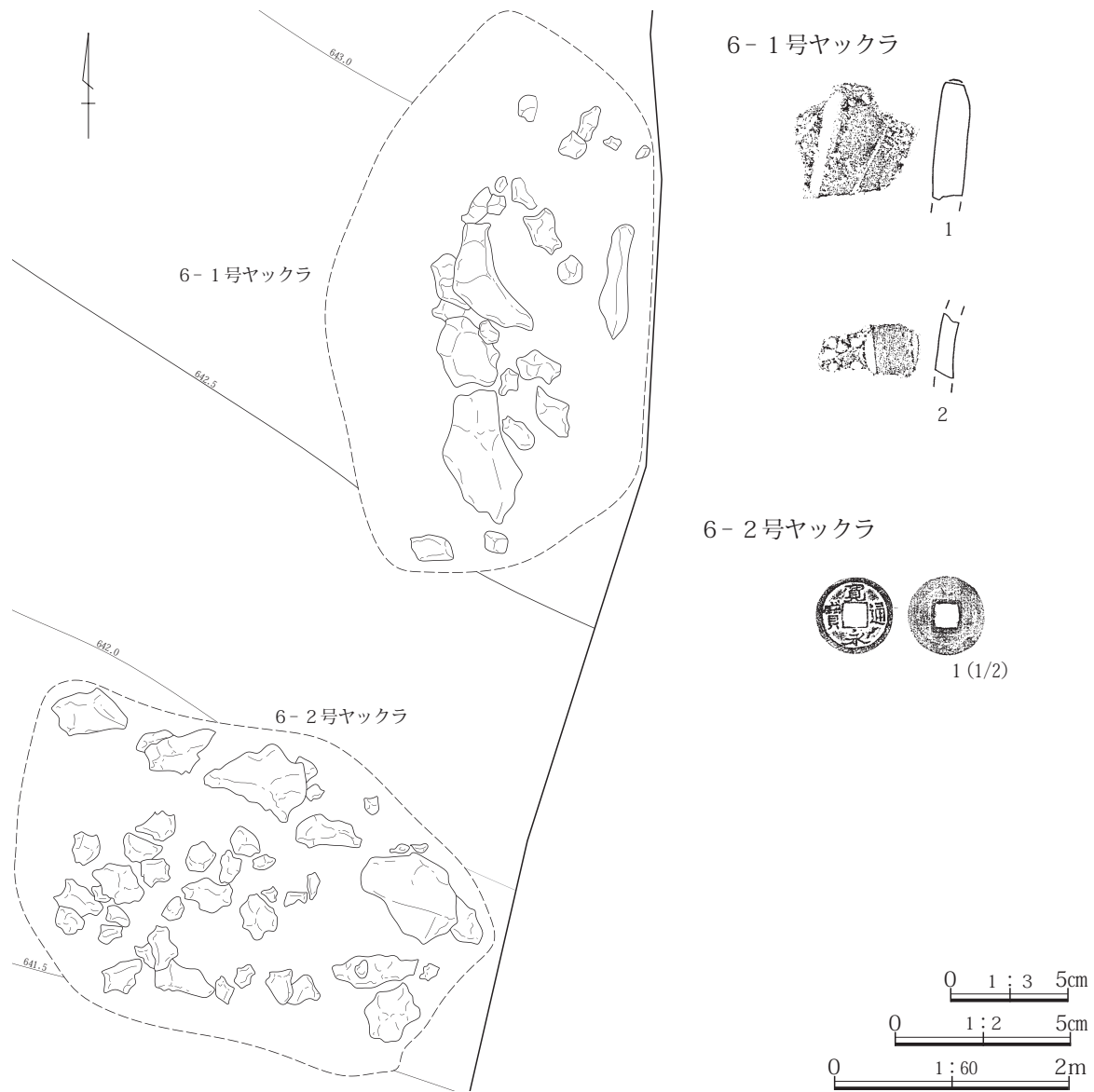
位置 B・C-25グリッドに位置する。**立地** 北東から南西へ約18%の勾配で下る傾斜地に、長軸を等高線にほぼ直行する形で立地。近接する6-2号ヤックラとは1.5mの距離。**重複** なし。**規模・形状** 幅2.7m、長さ4.8mにわたって、拳大～幅50cm、長さ110cmの角礫が積まれる。**方位** N-S。**出土遺物** なし。伴出した縄文土器片は、礫とともに混入したものと判断。**時期・所見** 耕作に支障を及ぼす礫を、おそらく地境などに積んだものと判断。近世の可能性が高い。

6-2号ヤックラ (第148図: PL.54・72)

位置 C-24グリッドに位置する。**立地** 北東から南西へ約18%の勾配で下る傾斜地に、長軸を等高線にほぼ平行する形で立地。近接する6-1号ヤックラとは1.5mの至近距離に位置する。**重複** なし。**規模・形状** 幅2.7m、長さ4.2mにわたって、拳大～幅50cm、長さ90cmの角礫が積まれる。

第3章 検出された遺構と遺物

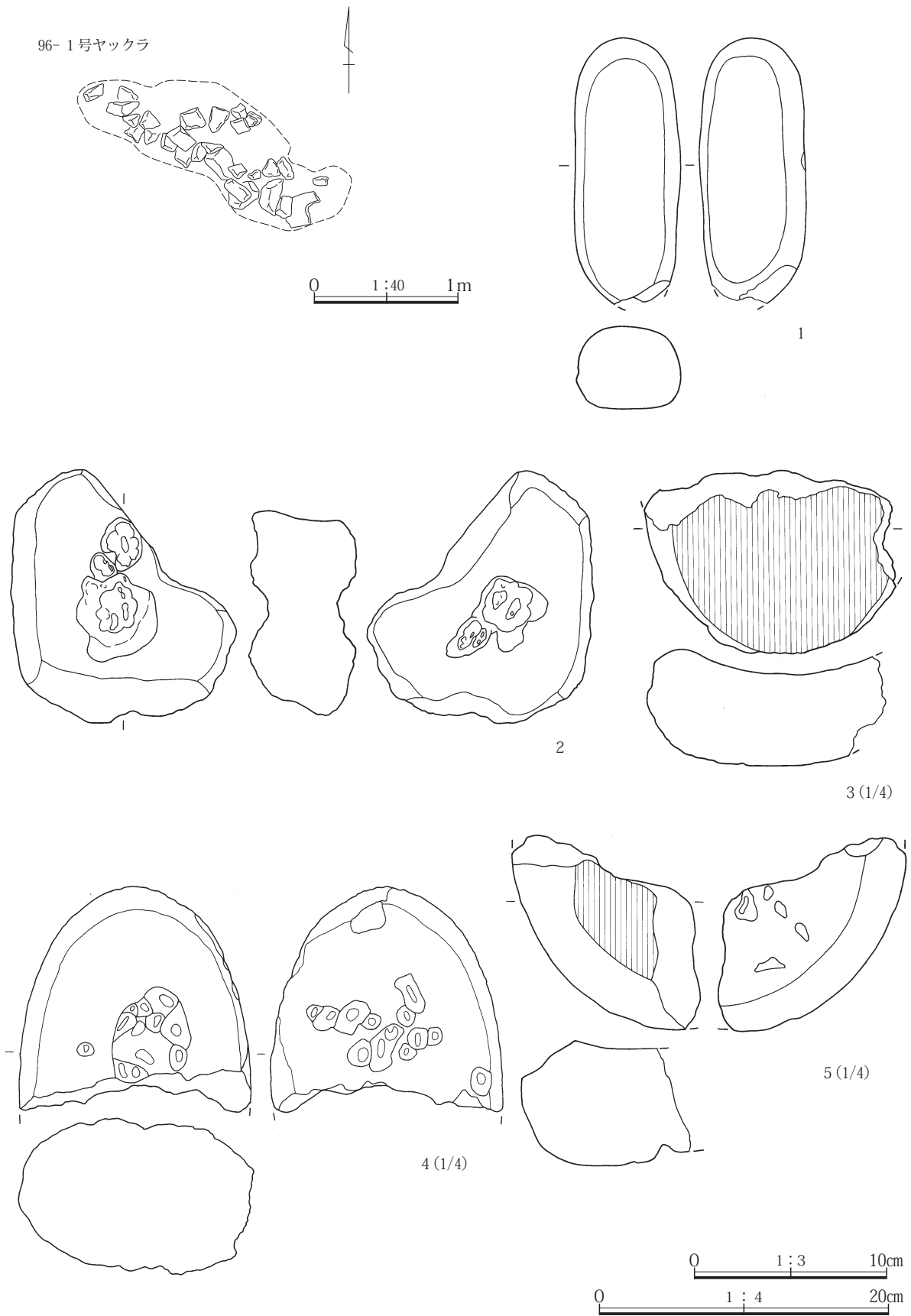
方位 N-65°-W。 **出土遺物** 古銭が出土。 **時期・所見** 耕作に支障を及ぼす礫を、おそらく地境などに積んだものと判断。出土遺物から近世の可能性が高い。



第148図 6-1・2号ヤックラ、出土遺物

96-1号ヤックラ (第149図: PL.54・72)

位置 F-23グリッドに位置する。 **立地** 北から南へ約13%の勾配で下る傾斜地に立地。付近には平安時代以降の陥し穴が点在する。 **重複** 96-43号土坑と重複。96-43号土坑覆土の上位に本集石を確認した。 **形状・規模** 幅50cm、長さ2.0mの紡錘形に、拳大~人頭大の角礫が集石し、一部に石皿を含む。 **方位** N-63°-W。 **出土遺物** 「集石」されたものの一部に縄文時代の石皿があるが、これらが遺構の年代を示すものではないと考えられる。 **時期・所見** 構築面は不明だが、断ち割り断面の観察から、おそらく下位から積まれたというより、土坑を掘ってそこに礫を投げ込み、これが結果として「集石」した形になったものと考えられる。構築年代は不明だが、平安時代以降の土坑(陥し穴)の上位に構築していることから、近世の可能性が高い。



第149図 96-1号ヤックラ、出土遺物

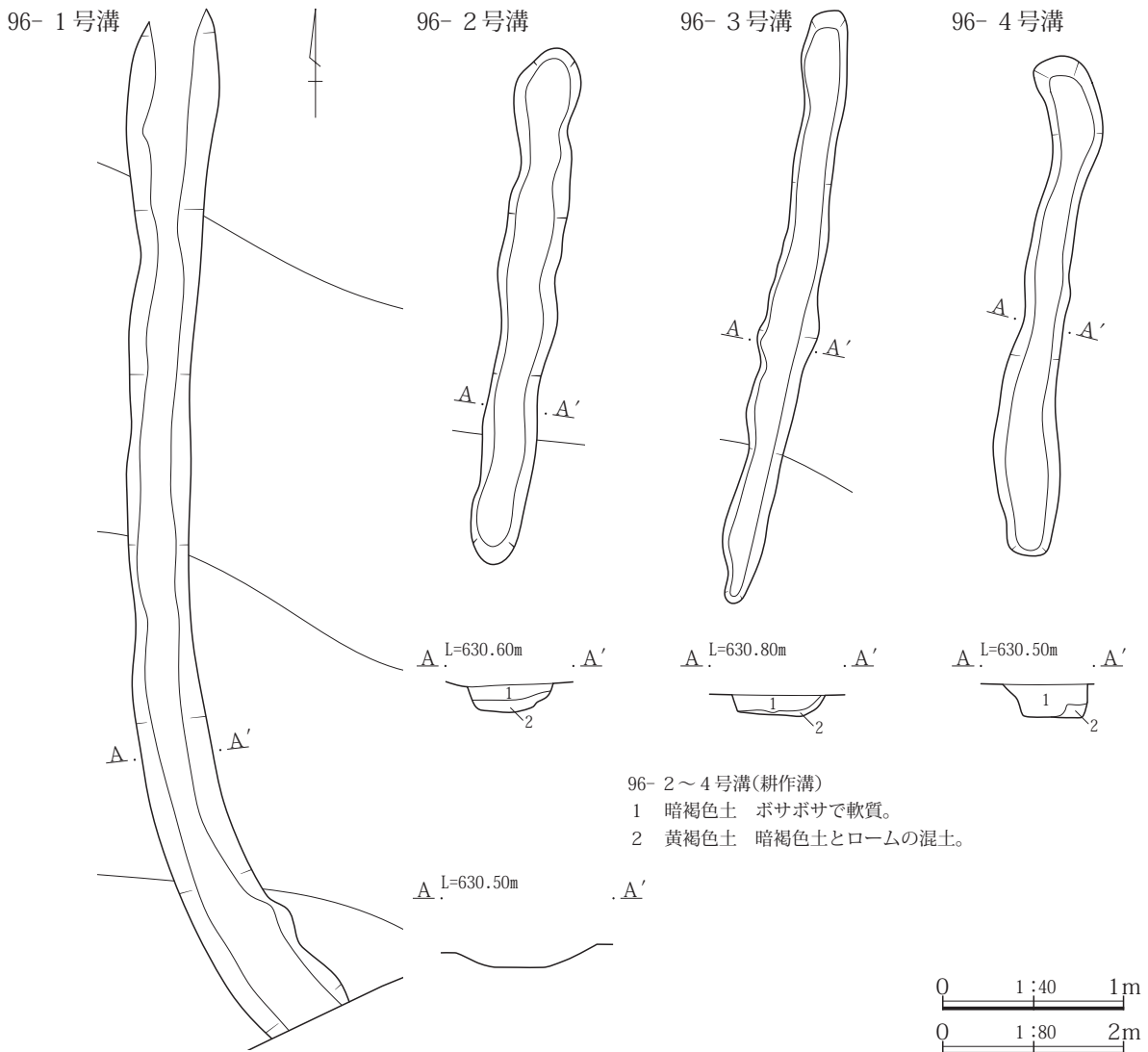
7 溝

96-1号溝 (第150図)

位置 I-23~25グリッドに位置する。**立地** 北から南へ約13%の勾配で下る傾斜地に立地し、等高線にほぼ直交して南端部は緩やかに東側へ蛇行。**重複** なし。**形状・規模** 上幅80cm、下幅40cm、深さ10cmの逆台形状。**出土遺物** なし。**時期・所見** 水路などの溝というより、地境の道の可能性が高い。覆土の状況から近世と考えられる。

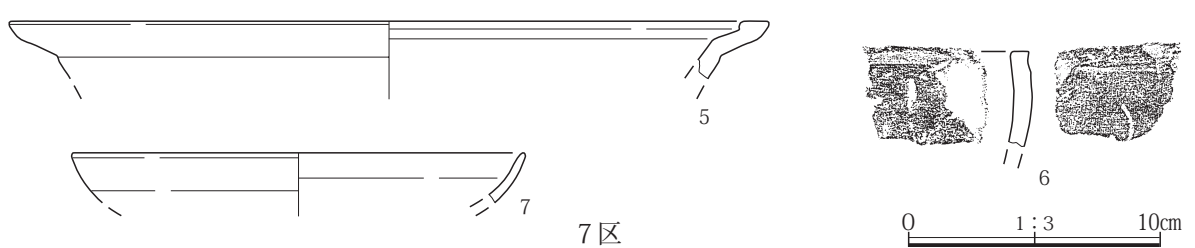
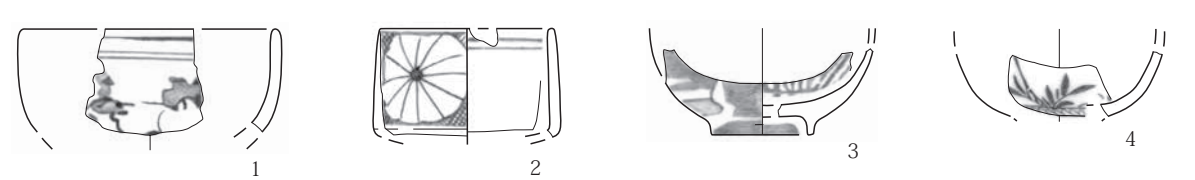
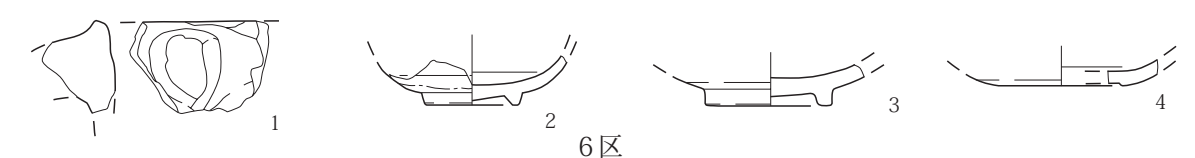
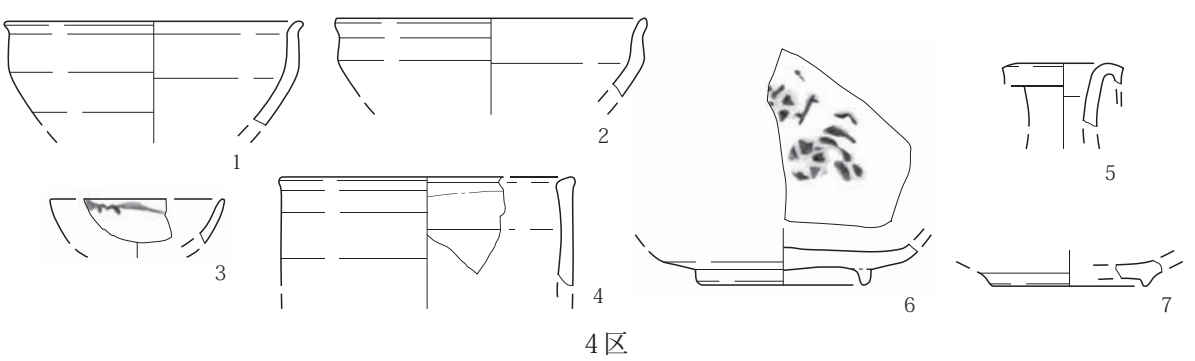
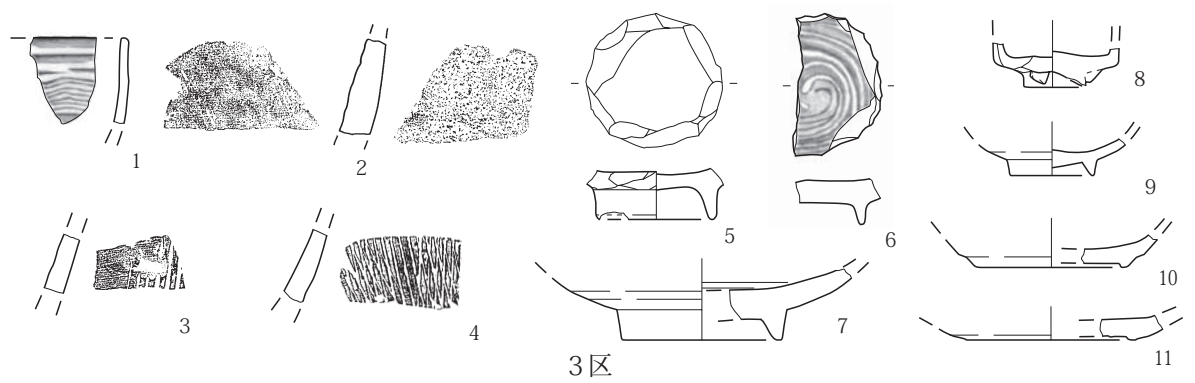
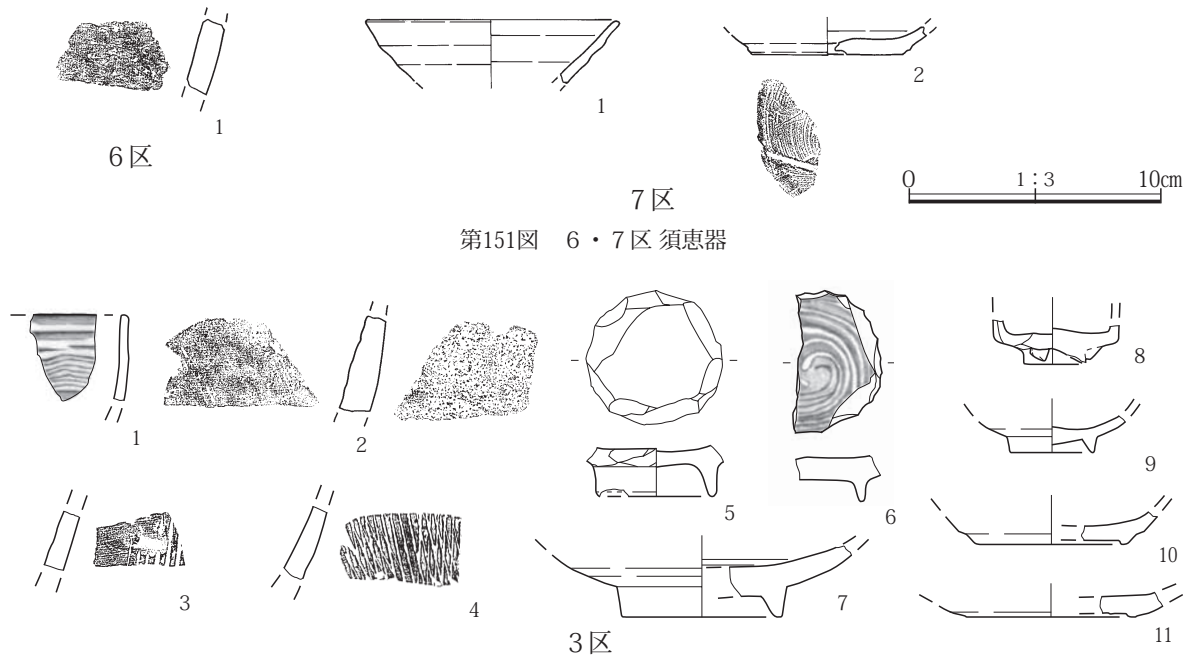
96-2・3・4号溝 (第150図)

位置 K~M-24・25グリッドに位置する。**立地** 北から南へ約13%の勾配で下る傾斜地に立地し、等高線にほぼ直交して3条がほぼ平行する。**重複** なし。**形状・規模** 上幅50cm、下幅40cm、深さ30cmの逆台形状。**方位** N-10°-E。**出土遺物** なし。**時期・所見** 3条が平行することから、畑耕作に伴う溝と判断。覆土の状況から近世と考えられる。



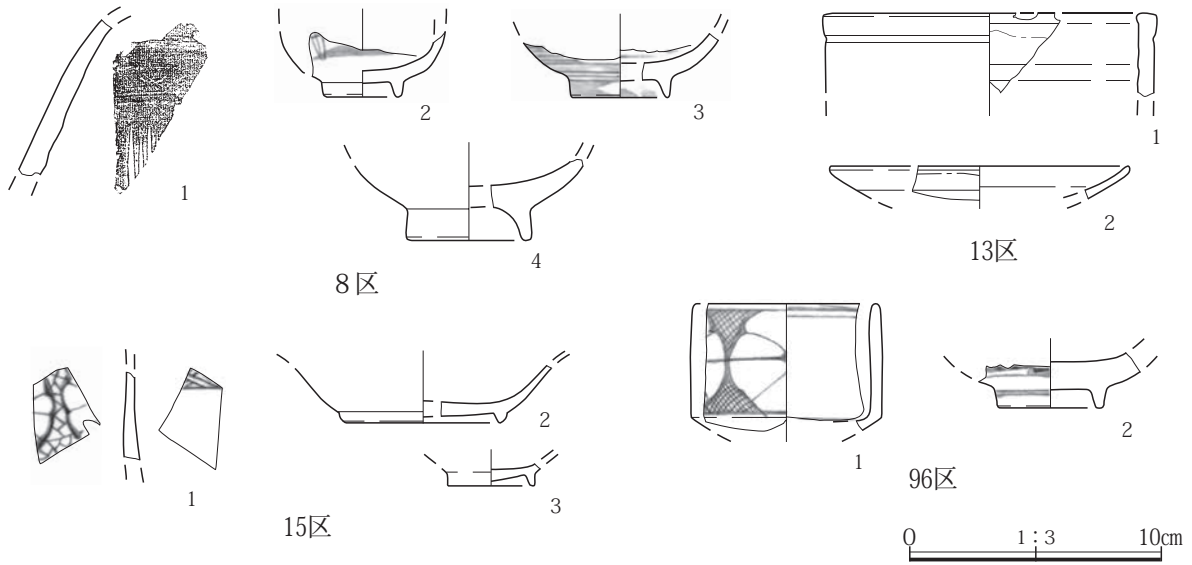
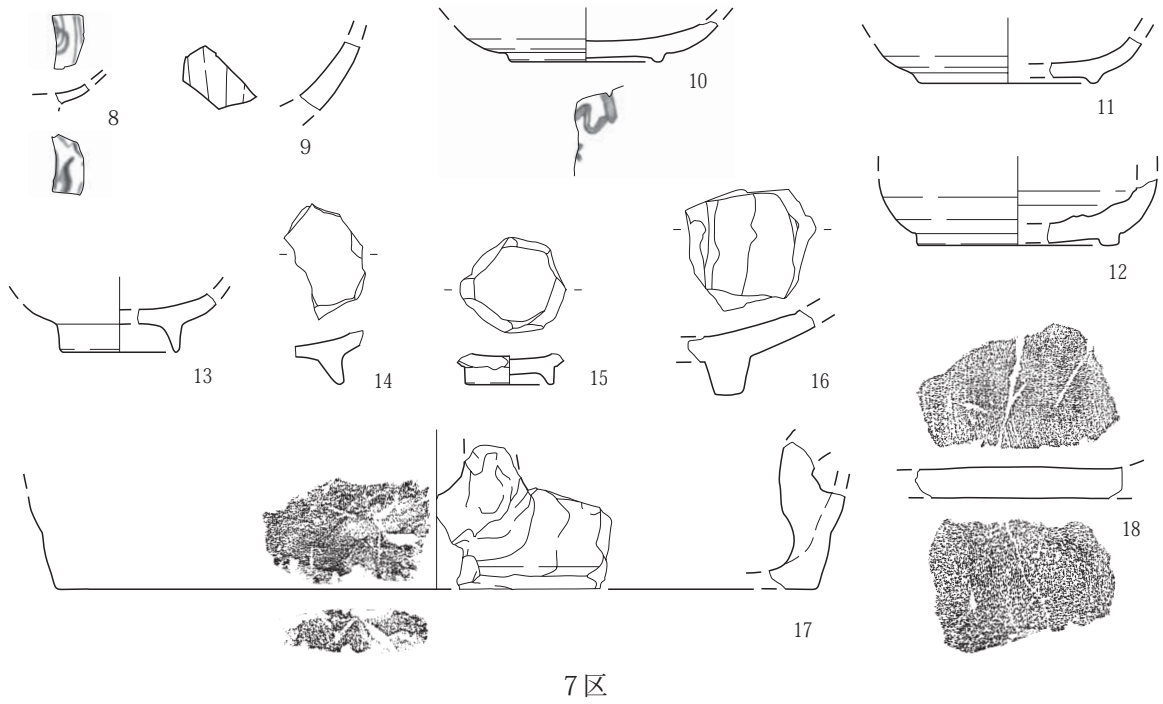
第150図 96-1・2・3・4号溝

8 遺構外出土遺物 (第151～154図: PL.73・74)

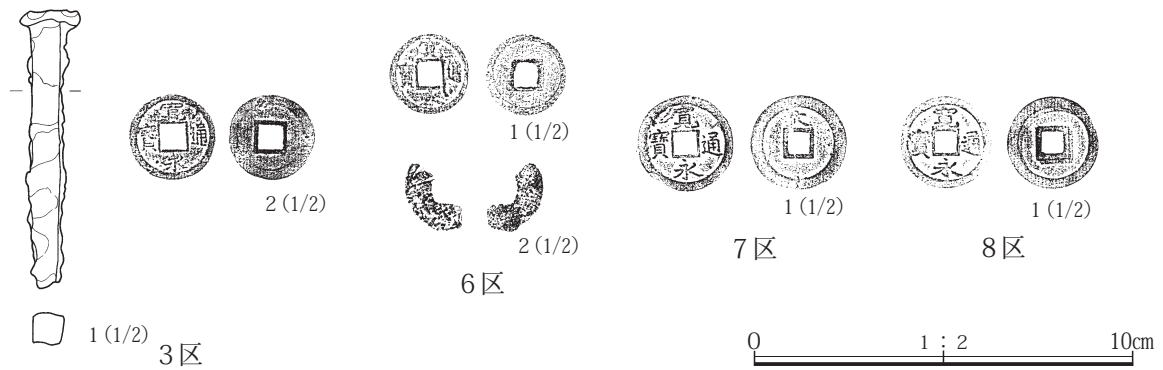


第152図 3・4・6・7区陶磁器

第3章 検出された遺構と遺物



第153図 7・8・13・15・96区 陶磁器



第154図 3・6・7・8区 鉄製品

第4章 調査の総括

第1節 平成17・19・20年度の調査成果

長野原一本松遺跡は、遺跡の南を東流する吾妻川を望む上位段丘上に展開する。これまでの調査で、縄文時代中期後半から後期前半にかけての環状集落の構造がほぼ明らかになった。遺跡ののる台地は、東および西側については、南に谷が入るために台地がやや狭まっており、集落の中心部分は北からの傾斜がなだらかになり、且つ広く舌状に南に張り出す台地となっている。集落は台地のほぼ全体に外径約90～110m、内径約50mの環状を呈す。南にやや突き出た地形に規制を受けたためか、集落の形状は全体的に北西、南東方向にやや伸びた楕円形を呈している。

平成17年度の調査では、3区・4区に関しては集落の東端部にあたり、住居の検出はなく、土坑(陥し穴)および埋甕が1基検出されている。また、6区に関しては、やはり集落の中心部分からはやや西に位置するが、縄文中期の住居7軒および土坑が集落の外縁に沿うように検出されている。また、縄文時代の掘立柱建物跡1棟も検出され、本遺跡での総数は17棟となる。

7区・8区は縄文時代の集落域からは西に外れた場所である。東西に長い調査区で、広い南斜面部分である。ここでは近世と思われる掘立柱建物跡9棟と、多くの陥し穴が検出された。陥し穴の総数は7・8区合わせると67基にものぼる。ほぼ全面に構築されており、等高線に沿うように東西に配されている状況が窺える。これらの陥し穴は、基本的に等高線に対して長軸が直行するように掘り込まれていることなどから、計画的に構築されたものと考えられる。多くの陥し穴の土層断面上位に、ローム混じりの軽石や炭化物を多く含む、V字状またはU字状の落ち込みが観察されるという特徴が見られる。これらの時期に関しては平安時代以降と考えられ、台地のほぼ全域にかなり計画的に作られていることも明らかになってきている。今後他の地域を含めて、遺構の重複関係や出土遺物の検討などで構築時期の確定を進める必要があろう。

掘立柱建物跡群に関しては重複も見られ、主軸方向の違いなどから、一定期間の占地がうかがえるが、出土遺物に関してはほとんど見られなかった。これらに関しては次節で検討する。

平成19年度の調査では、縄文時代の遺構として住居跡1軒および土坑を検出した。調査区は6区南端および96区北端にあたる。住居は調査区の東端に検出されたが、東半分を削られた状態であった。環状集落域の西側端にあたる位置にある。時期は中期後半で、やや古く位置づけられる。

土坑は縄文時代のものが、調査区中央部分において40基以上が集中して検出された。この中で円形を呈し、径1mから1.5m前後、深さ60cmから1m程の土坑が見られる。これらはほぼ垂直に掘り込まれ、底が平坦であるという特徴を持つ。出土遺物は少なく、時期の特定は難しいが、住居と離れた場所に集中して掘られていることから、墓坑、あるいは貯蔵穴などが想定される。

平成20年度の調査は、5区の南側および15区の北側部分、三角形の範囲を行った。調査区は集落の中心部のある比較的平坦部分から北側の傾斜がやや強くなる場所にあたる。住居の検出はなく、調査区の東側において、多くの小土坑、ピットを検出した。各遺構の概要でも触れているが、これらの多くは人為的な所見はあまり見られず、時期も不明なものが多かった。

以上、長野原一本松遺跡は縄文中期後半から後期前半にかけて、環状構造の大規模集落として発展、完成期を迎えたものの、その後は急速に衰退した遺跡である。その後は平安時代、さらには中世、近世において、限定的な居住が見られるが、その分布が台地の全域に広がることはなかった。

第2節 7区掘立柱建物群の検討

はじめに

掘立柱建物の認定について、筆者は調査段階で認定を行った。本報告書では、ほぼそのままの報告となっている。調査段階では、図上において柱穴の有無が疑われる場合、確認作業を行っている。このため、未検出の場合は、少なくとも見落としではない。したがって、下屋などやや強引な認定もあるが、そうした作業の結果であることを付け加えておきたい。

本稿は建物群の分析を行うものである。出土遺物を含めた変遷の検討は行わない。なぜなら、本事例では出土遺物がほとんどなく、周辺の遺構確認面で出土した遺物の分布状態などを加味しなければ困難だからである。それらは後日の課題とし、本稿では調査段階の所見と、本文の記載に従って概ね近世と仮定して以下の論を進める。

1 建物の分類

9棟の建物は主軸方位の違いにより、表3のとおり4つに分類できる。分類は、真北に対して主軸方位または直交する方位が、東へ傾くものから西へ傾くものの順で、任意に行った。1類は真北に対して東へ17～24度傾く一群である。2類は同じく東へ10度から14度傾き、3類は同じく東へ6～7度傾き、4類は大きく異なり西へ7～9度傾く一群である。分類は概ね時期的なつながりを意味すると考えており、重複する場合、建て替えられたと考えている。

表4はこれらの分類別に建物の状況を総括したものである。1類は東西棟が3棟と多く、1棟は重複するため、最低2時期となる。分布も整然としており、3棟が並存していた可能性が高い。

2類は東西棟2棟と正方形1棟であり、相互に重複し合い3時期となる。3・4類はともに南北棟である。

2 建物の特徴と構成

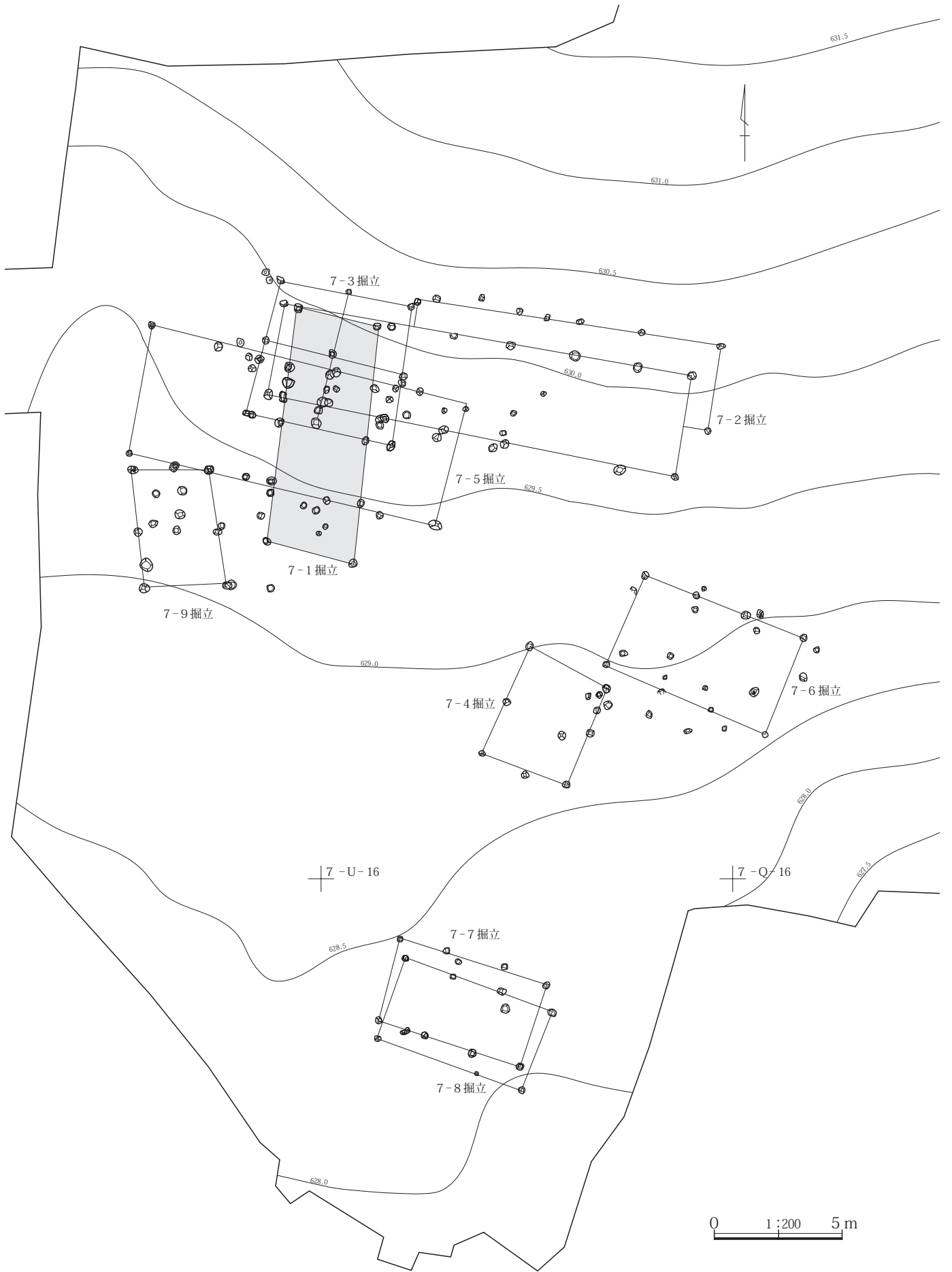
1類の4棟は概ね小規模で、6号掘立柱建物(以下建物)がわずかに大きく、主屋と見なされる。配置からみて、4号建物は6号建物の附属屋と考えられる。7・8号建物はやや離れており、別の世代の家屋とも考えられる。

2類は桁行の長い東西棟が特徴的である。2号建物は桁行7間で、下屋の面積を加算すれば、面積も最大となる。南向きの東西棟であり、居宅として理想的である。内部に間仕切りを持たない点は異例で、おそらく土間と床を持つ居室に分かれると考えられる。梁間1間型のまま桁行を伸ばしたため細長く、下屋を北と東に設けることで、空間を広げている。形態として中世段階の建物の系統に属している。5号建物も桁行5間の東西棟で、2号建物と前後する主屋である。こちらは梁間が5.4mと広いため、桁行に比して面積は広

表3 7区掘立柱建物仕様一覧

番号	分類	面積(m ²)	主軸方位	規模(cm)		規格					桁行平均柱間(cm)	寸尺
				桁行	梁間	梁	×	桁	主軸			
7-4	1	14.84	N-22~24°-E	430	345	1	×	2	南北棟		-	-
7-6	1	26.47	N-67~69°-W	670	395	1	×	3	東西棟		223.33	7.4
7-7	1	19.47	N-72~73°-W	590	330	1	×	3	東西棟		196.67	6.5
7-8	1	19.97	N-70°-W	605	330	1	×	3	東西棟		201.67	6.7
7-2	2	61.18	N-79~80°-W	1,610	380	1	×	7	東西棟/東・北下屋		230	7.6
7-3	2	29.70	N-77~80°-W	550	540	2	×	2	正方形		-	-
7-5	2	62.50	N-76~78°-W	1,250	500	1	×	5	東西棟/南張出		250.00	8.3
7-1	3	30.99	N-6~7°-E	925	335	1	×	4	南北棟		231.25	7.6
7-9	4	14.11	N-7~9°-W	455	310	1	×	2	南北棟		-	-

※面積に下屋・張出は含まれていない。



第155图 7区掘立柱建物跡全体图

第4章 調査の総括

くなっている。両建物の柱穴は柱痕がはっきりしている点で共通している。3号建物は2間四方の正方形で、面積は29.70㎡と構造の割りに広い。柱間が広いことが要因となる。総柱構造であり、居宅とは見なし難い。他の2棟との連続性はうかがわれないため、やや不可解な建物である。

3類1号建物は30.99㎡の規模を持つが、梁間は狭く下屋なども追加されていない。南北棟でもあり、居宅とは見なし難い。性格は不明である。

4類9号建物は内部に皿状の土坑を持ち、馬屋と考えられる。遺構の性格から単独で存在するとは考えられず、1～3類のいずれかに伴うと考えたい。おそらく、西側に障害物などがあり、主軸方位を大きく変えたものと想像する。したがって、西辺が一致する5号建物と同時期として、後から付加されたと想定できる。

桁行平均柱間は、3種類に分かれる。このうち、5号建物は8.3尺で特異値である。桁側柱筋の通りも悪く、規格性は良くない。状況的には建て替えなどによる数値のばらつきと考えたい。残る5棟をみると、7.4～7.6尺の3棟はいずれも面積30㎡を超える主屋級の建物である。6.5～6.7尺の2棟は重複する同規模の建物であり、建て替えが想定できる。ともに20㎡以下の建物である。ここでは、建物規模によって、1尺程度の違いを持つ2種類の桁行平均柱間が使い分けられていたことを確認しておきたい。

おわりに

以上の検討により、7区の建物群は2～3か所の建物群に分けることができた。これは時期的な違いでもあり、屋敷地としての時期差と考えることができる。1・2類の建物群の構造および構成の違いは、ある程度の建築技術の違いがある。この点で時期的には、連続しない印象を受ける。

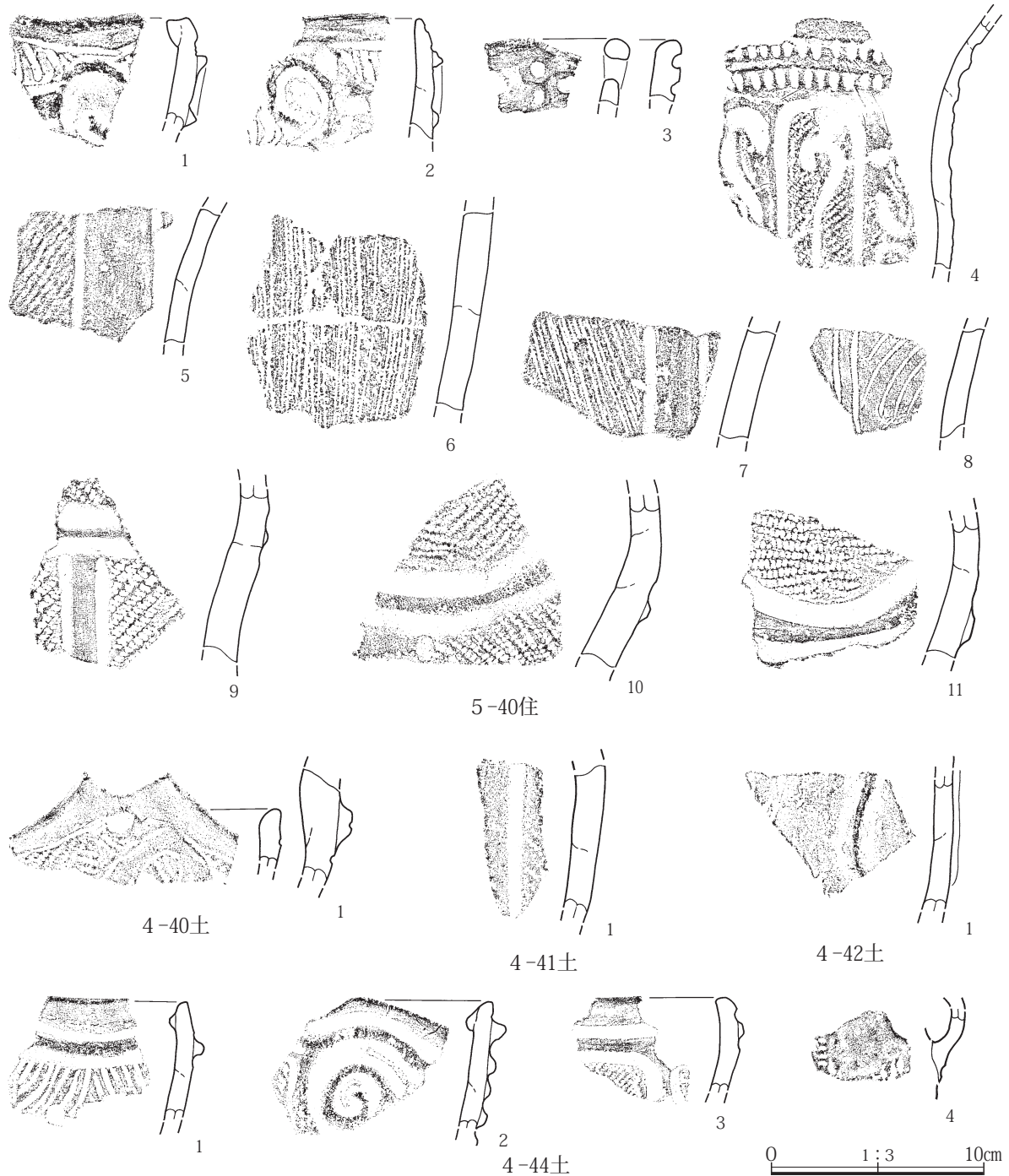
表4 建物総括表

種別	1類	2類	3類	4類	計	比率(%)
東西棟	3	2			5	55.6
南北棟	1		1	1	3	33.3
正方形		1			1	11.1
計	4	3	1	1	9	100.0
規模	1類	2類	3類	4類	計	比率(%)
1×2間	1			1	2	22.2
2×2間		1			1	11.1
1×3間	3				3	33.3
1×4間			1		1	11.1
1×5間		1			1	11.1
1×7間		1			1	11.1
計	4	3	1	1	9	100.0
面積㎡	1類	2類	3類	4類	計	比率(%)
～20	3			1	4	44.4
～30	1	1			2	22.2
～40			1		1	11.1
～50						
～60						
～70		2			2	22.2
計	4	3	1	1	9	100.0
桁行平均柱間(尺)	1類	2類	3類	4類	計	比率(%)
(6.5)～6.7	2				2	33.3
～7.2						
(7.4)～(7.6)	1	1	1		3	50.0
～8.2						
8.3		1			1	16.7
計	3	2	1	0	6	100.0

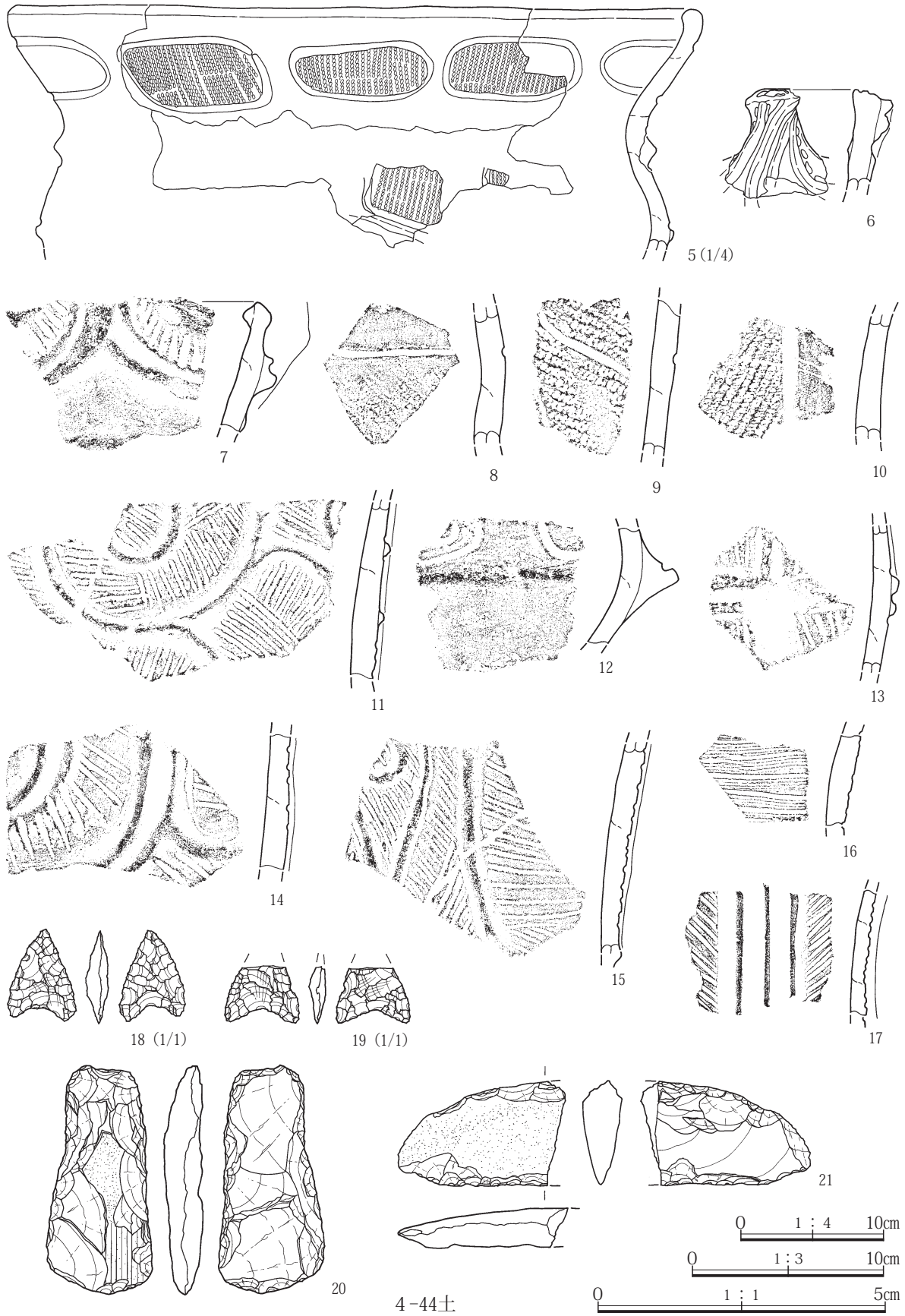
長野原一本松遺跡 既刊報告書の補遺編 (第156～165図：PL.74～78)

本報告書は、平成14年度(2002)から24年度(2013)にかけて刊行した長野原一本松遺跡調査報告書(1)～(6)の一連の最終報告書(7)になるが、既刊の報告書における遺物を見直した結果、整理作業の過程で漏れていた遺物が存在したことから、以下にそれらを報告する。

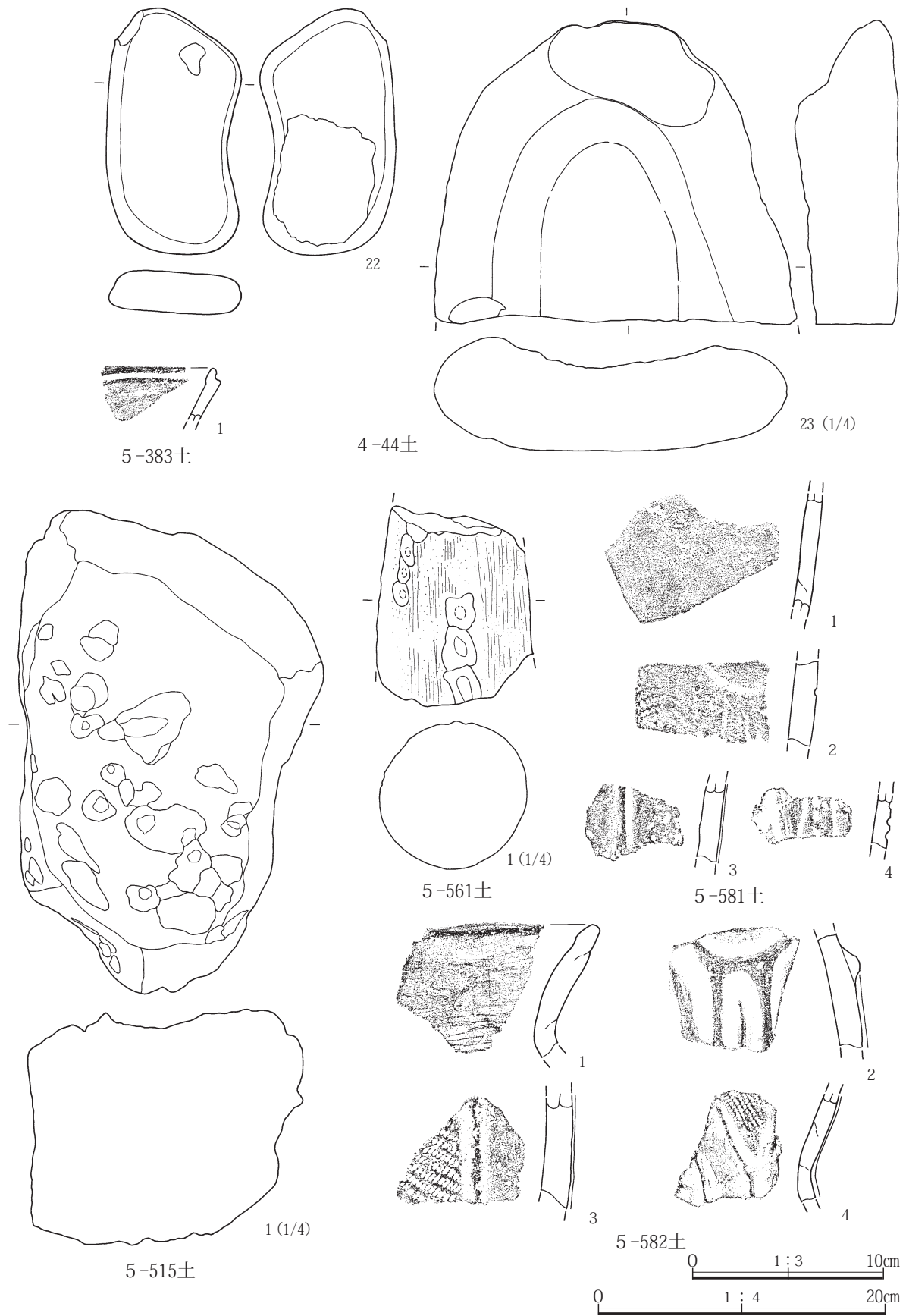
「長野原一本松遺跡(2)」2007



第156図 「長野原一本松遺跡(2)」補遺編出土遺物(1)

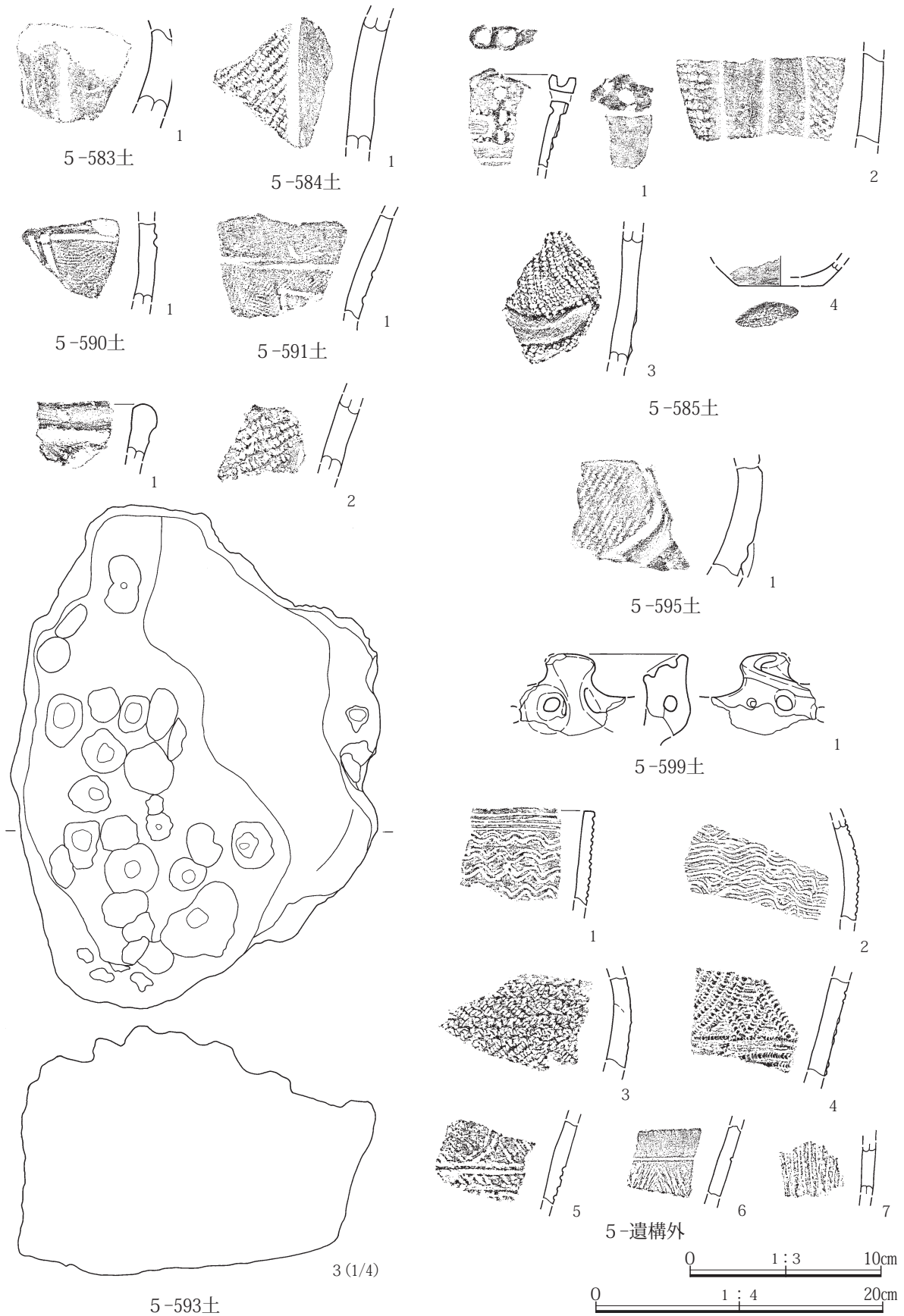


第157図 「長野原一本松遺跡(2)」補遺編出土遺物(2)

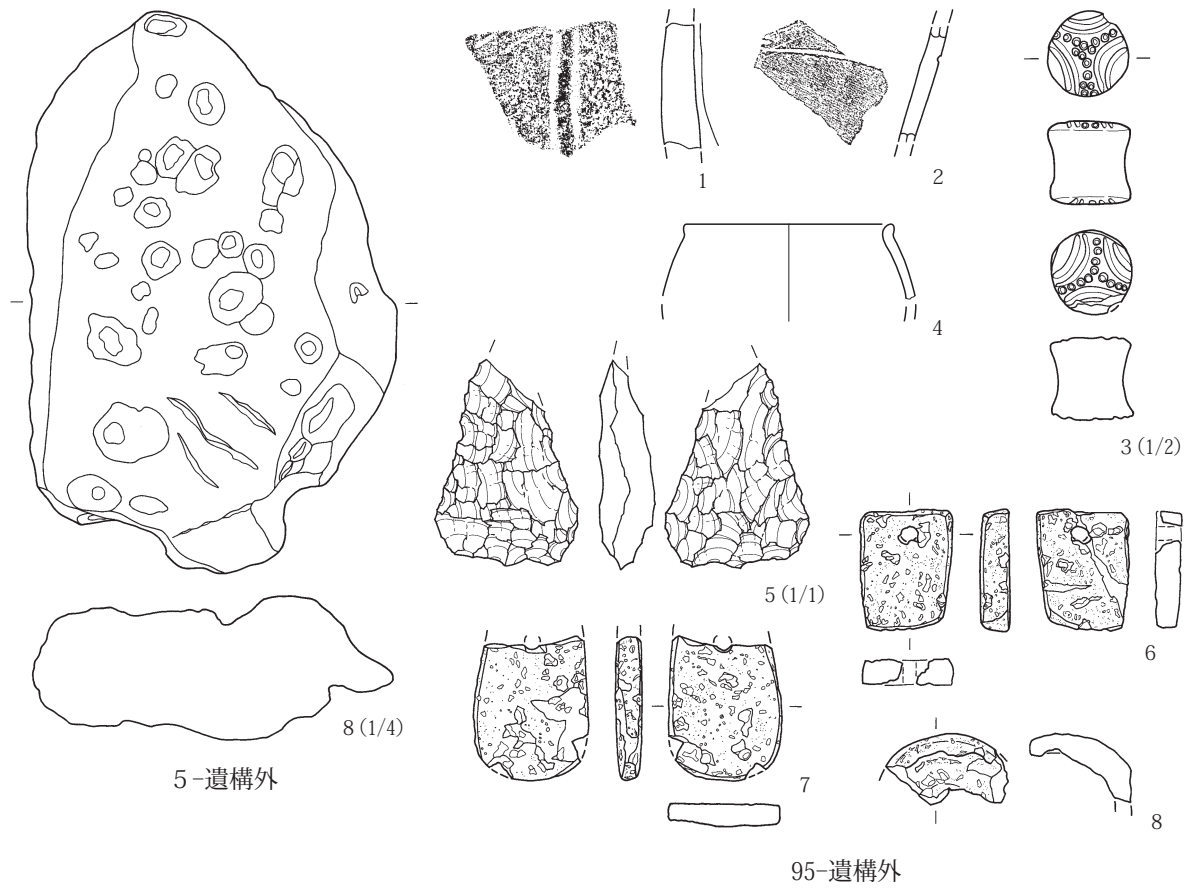


第158図 「長野原一本松遺跡(2)」補遺編出土遺物(3)

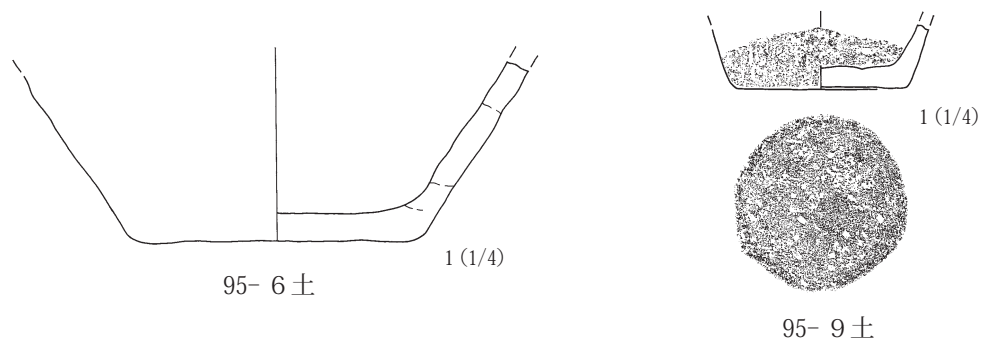
補遺編



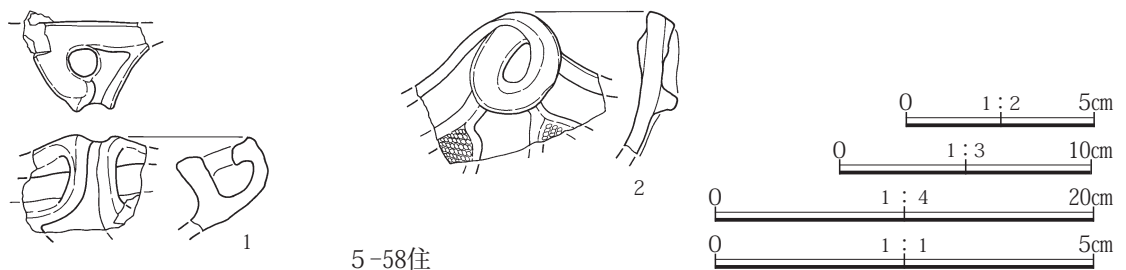
第159図 「長野原一本松遺跡(2)」補遺編出土遺物(4)



「長野原一本松遺跡(3)」2008

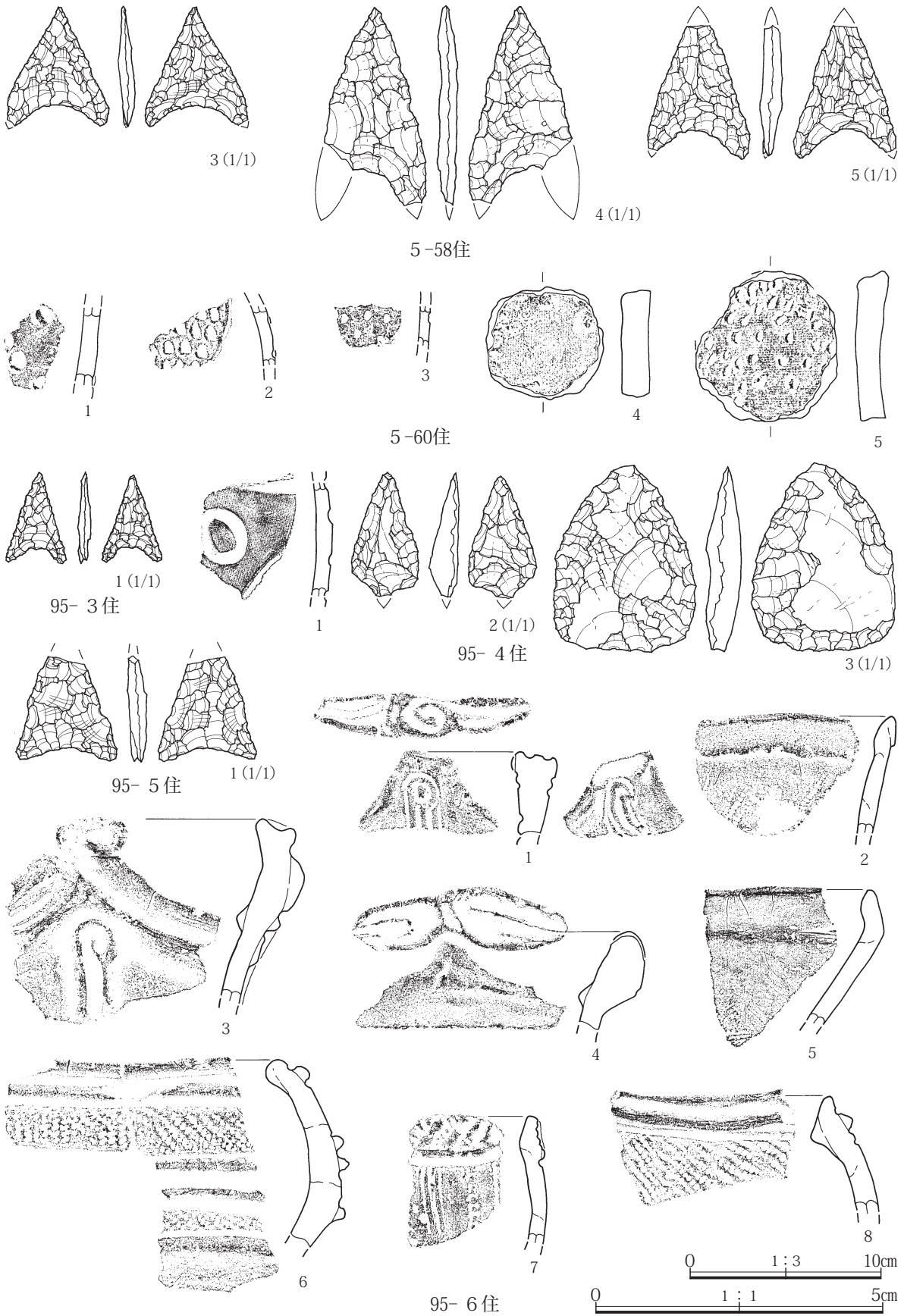


「長野原一本松遺跡(4)」2008

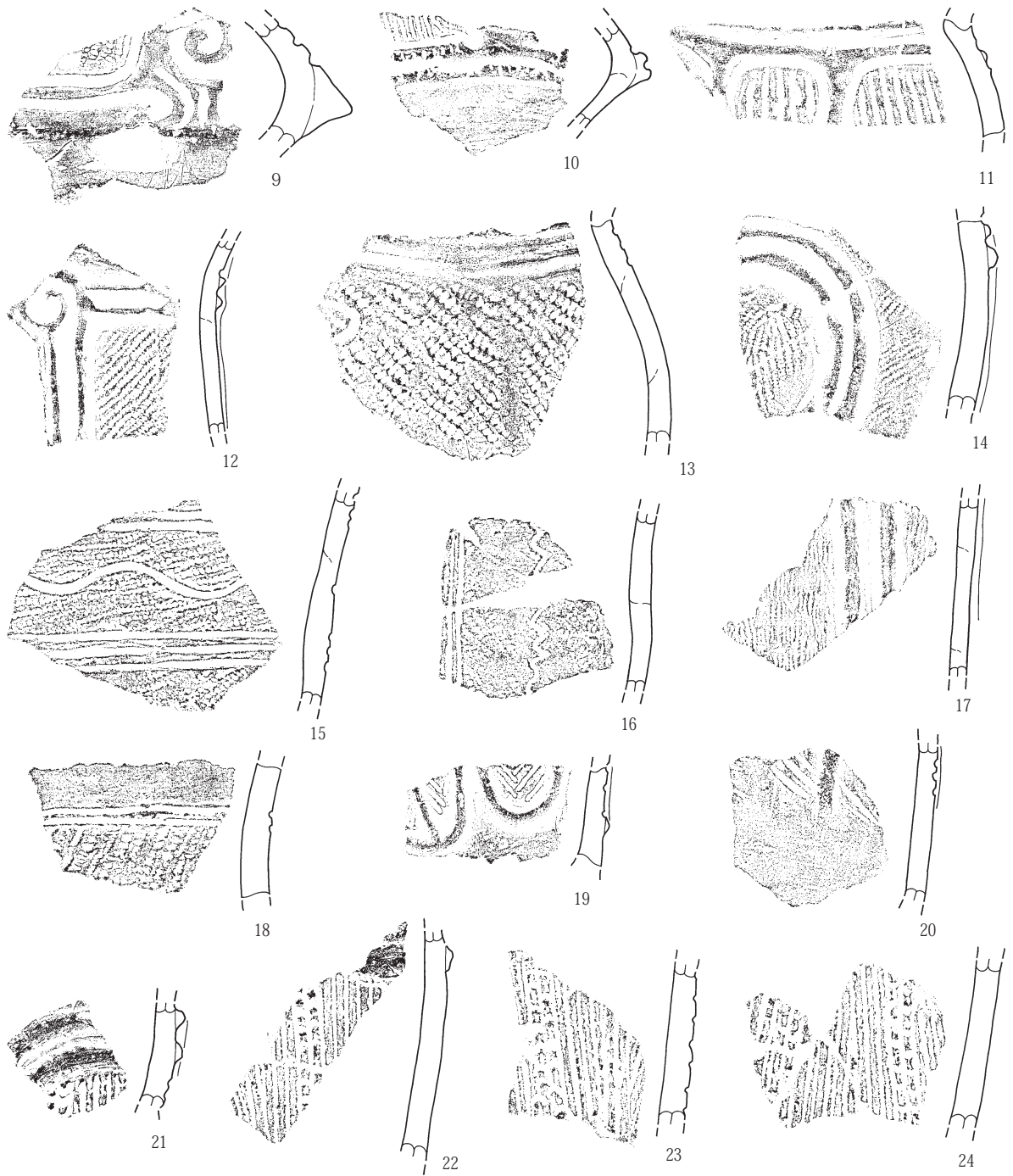


第160図 「長野原一本松遺跡(2) (3) (4)」補遺編出土遺物

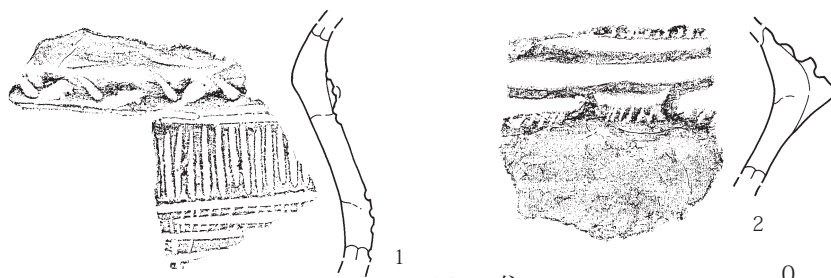
補遺編



第161図 「長野原一本松遺跡(4)」補遺編出土遺物(1)



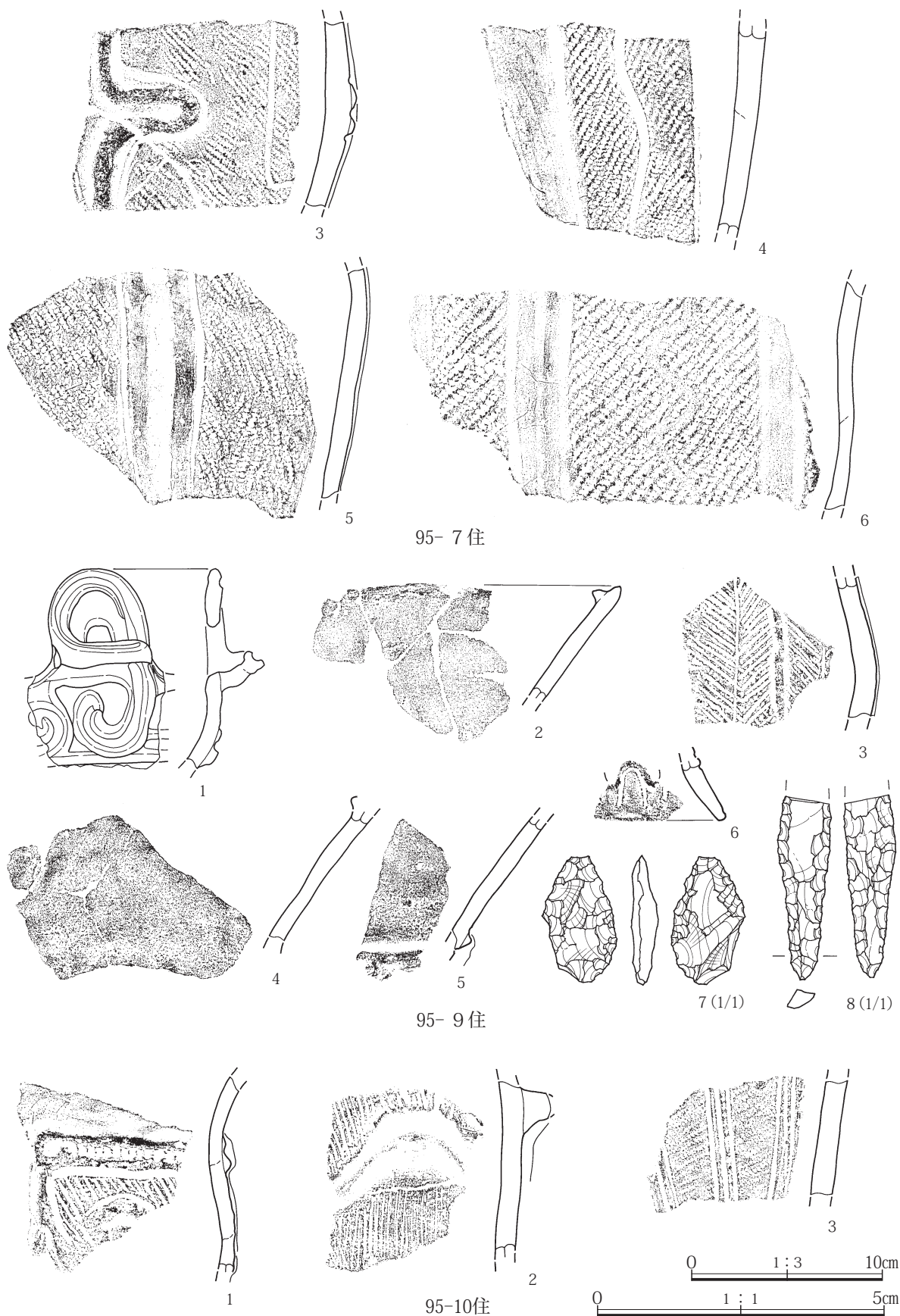
95- 6 住



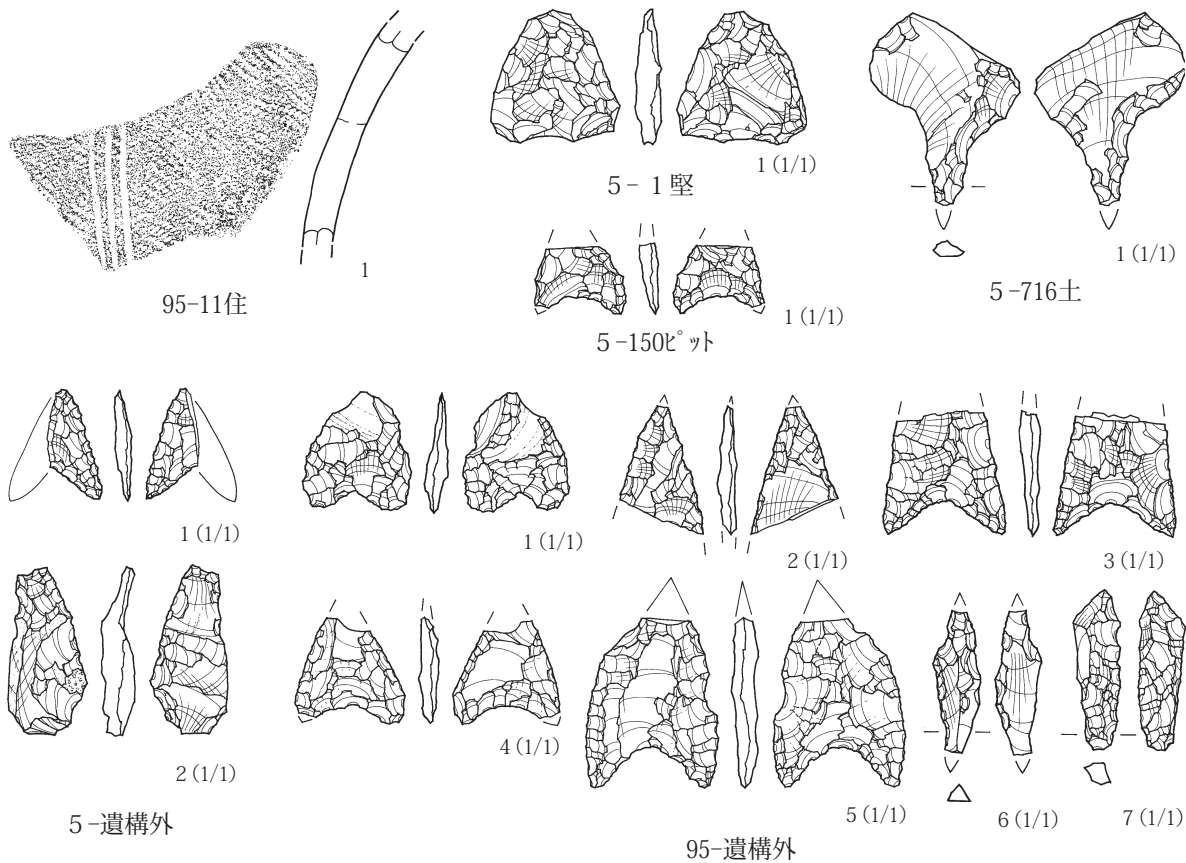
95- 7 住

0 1:3 10cm

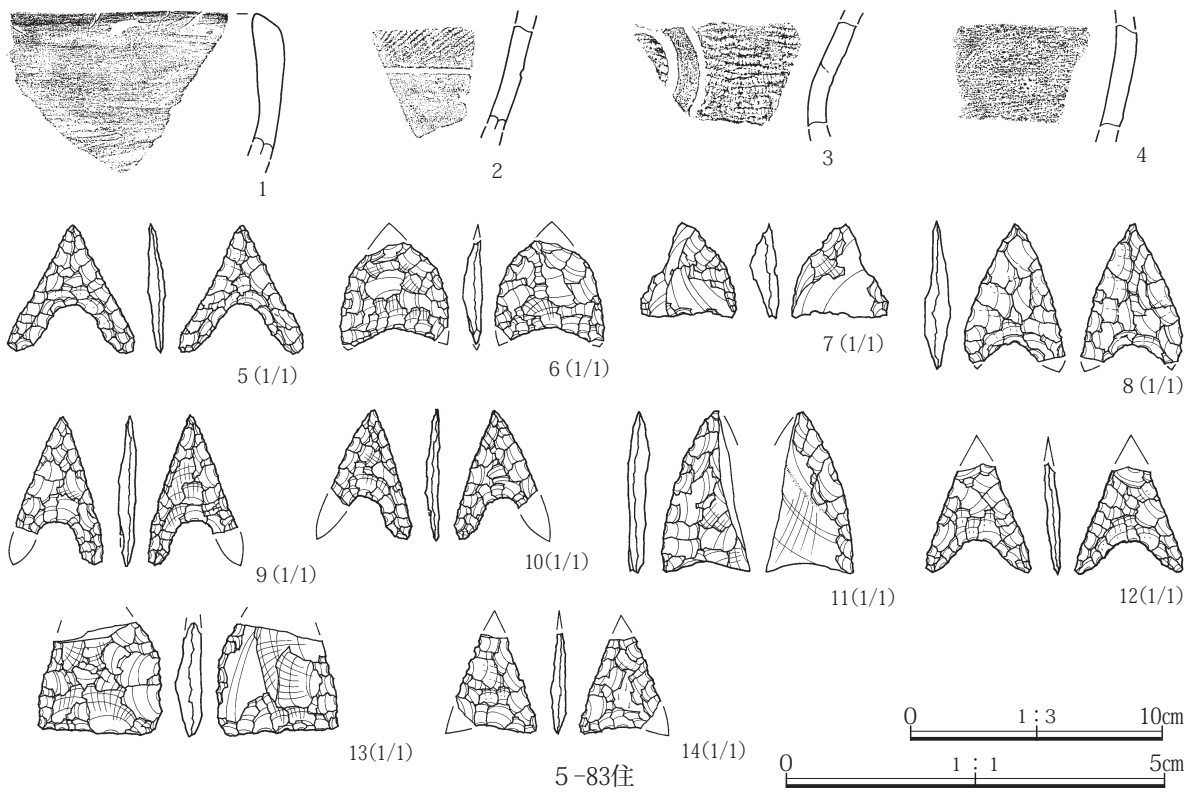
第162図 「長野原一本松遺跡(4)」補遺編出土遺物(2)



第163図 「長野原一本松遺跡(4)」補遺編出土遺物(3)

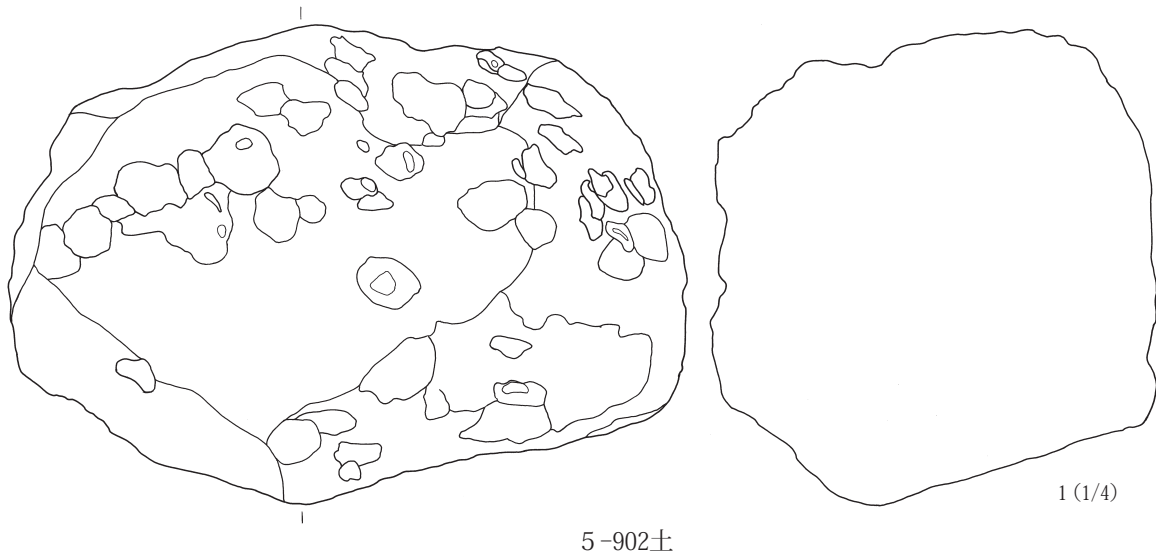
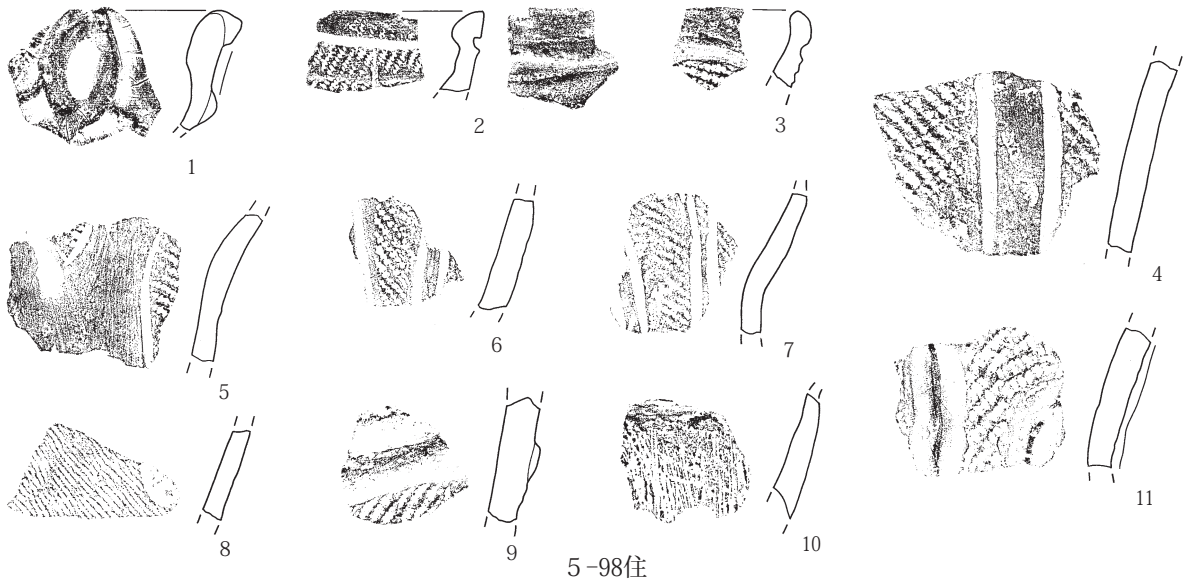


「長野原一本松遺跡(5)」2009

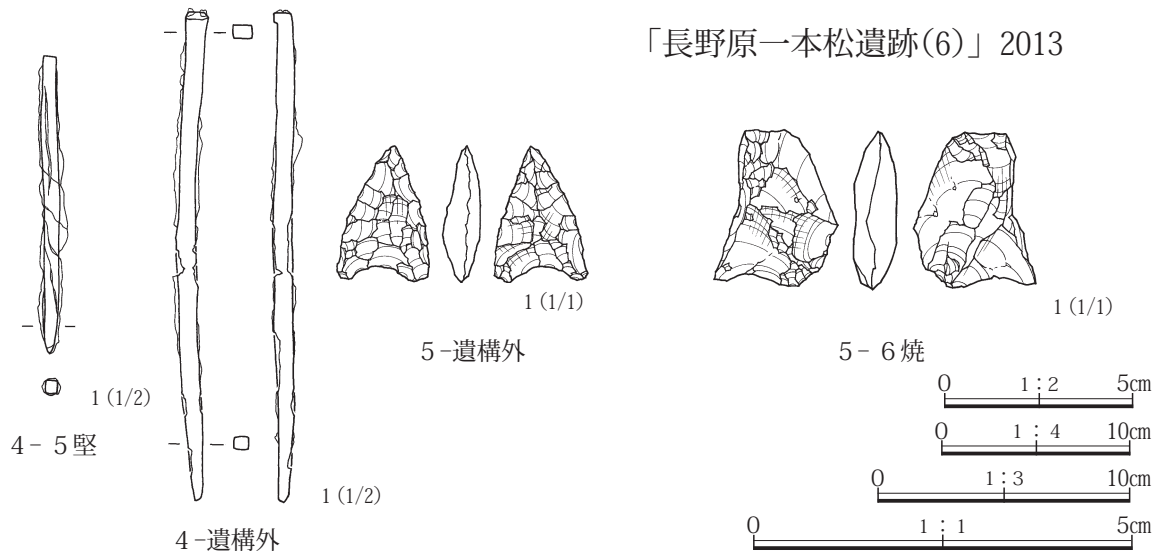


第164図 「長野原一本松遺跡(4) (5)」補遺編出土遺物

補遺編



「長野原一本松遺跡(6)」2013



第165図 「長野原一本松遺跡(5) (6)」補遺編出土遺物

表5 出土遺物観察表

4-22号住居跡

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第17図 PL.55	1	深鉢	胴部		+3	石英・白色粒/にぶい黄褐色/良	胴部上位部分片、上端部が強く内湾。3本の沈線による懸垂文、内2本は逆U状に繋がるか、地文には縦位RL縄文施文。内面研磨。	外面上位部分に煤
第17図 PL.55	2	深鉢	口縁部		床	石英・白色粒/灰黄褐色/良	直立気味の無文口縁部片。	中期後葉

6-13号住居跡

第19図 PL.55	1	深鉢	口縁部		+10	微石英・雲母粒/にぶい赤褐色/良	口唇下に横位の沈線、内側肥厚。	中期後葉
第19図 PL.55	2	深鉢	胴部		+15	微石英粒少/明赤褐色/良	隆帯による区画文描くか、以下沈線による逆U字状沈線文垂下。	中期後葉
第19図 PL.55	3	深鉢	胴部		+8	白色砂粒/暗褐色/良	隆線による曲線文、間隙に集合短沈線文施文。	中期後葉
第19図 PL.55	4	深鉢	胴部		覆土	微砂粒/にぶい褐色/普通	横位、隆帯から2本の懸垂隆帯、斜位の沈線が見える。	中期後葉
第19図 PL.55	5	深鉢	胴部		+30	微石英粒/灰褐色/良	縦位の隆線、および斜位集合沈線文。	中期後葉
第19図 PL.55	6	深鉢	胴部		+12	砂粒少/にぶい褐色/良	縦位平行沈線。	中期後葉
第19図 PL.55	7	深鉢	胴部		+19	石英粒少/橙色/普通	太い低隆帯上に連続の円形刺突文。	中期後葉
第19図 PL.55	8	深鉢	胴部		+15	石英・長石粒多/にぶい赤褐色/良	無文。	中期後葉
第19図 PL.55	9	深鉢	胴部		+15	小石英粒/褐色/良	無文、内外面研磨。	中期後葉

6-18号住居跡

第22図 PL.55	1	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒少/にぶい黄褐色/良	口縁部くの字に内屈、横位沈線が廻る。	後期前葉
第22図 PL.55	2	深鉢	口縁部		床	砂粒多/黒褐色/普通	口縁部肥厚、上端に沈線廻る。	後期前葉
第22図 PL.55	3	深鉢	口縁部		+8	微砂粒少/明黄褐色/良	無文。	後期前葉
第22図 PL.55	4	深鉢	胴部		床	微石英粒少/にぶい褐色/良	斜位に走る2本隆線、縦位矢羽根状集合沈線。	中期後葉 信州系
第22図 PL.55	5	深鉢	胴部		覆土	白色・石英粒/橙/普通	隆線による懸垂文様。	中期後葉
第22図 PL.55	6	深鉢	胴部		+6	石英粒少/にぶい赤褐色/良	縦位隆線、弧状集合沈線文。	中期後葉 信州系
第22図 PL.55	7	深鉢	胴部		床	石英・長石粒多/暗褐色/良	隆線による渦巻き文様、内部放射状に短沈線。	中期後葉 信州系
第22図 PL.55	8	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒/にぶい褐色/良	隆線による懸垂文、下端部U状となり、中にも1本の隆線が付される。	中期後葉
第22図 PL.55	9	深鉢	胴部		覆土	微石英・雲母粒少/橙/良	隆線および沈線文が見える。	中期後葉
第22図 PL.55	10	深鉢	胴部		+16	石英粒少/にぶい橙/良	2本の平行沈線文垂下。	後期初頭
第23図 PL.55	11	深鉢	胴部		+9	微砂粒少/にぶい黄褐色/普通	隆線によるU状懸垂文描き、中には縄文LRが充填施文される。12は同一個体片か。	中期後葉
第23図 PL.55	12	深鉢	胴部		+19	白色粒/暗黄褐色/普通	磨消懸垂文、縄文RLを縦位施文。	中期後葉
第23図 PL.55	13	深鉢	胴部		覆土	石英・白色粒/にぶい赤褐色/普通	無文、外面研磨。	中期後か
第23図 PL.55	14	深鉢	胴部		+6	石英・長石粒/明暗褐色/良	縦位方向、縄文LRを充填施文。	中期後葉
第23図 PL.55	15	深鉢	胴部		+8	微砂粒少/にぶい黄褐色/普通	縦位方向、縄文LR施文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第23図 PL.55	16	深鉢	底部	底:(11.0)	+15	石英・長石粒少/にぶい 黄褐色/普通	胴部、やや開きながら立ち上がる。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置		残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第23図 PL.55	17	石鏃	+ 7		欠損	(1.1) (1.4) 0.3 (0.4)	凹基無莖、先端部を欠く。	黒曜石
第23図 PL.55	18	打製石斧	床		完形	10.4 3.6 1.2 65.7	縦長で細身、刃部幅狭で片側縁に弱い抉れを持つ。刃部摩耗。	黒色頁岩
第23図 PL.55	19	打製石斧	+ 8		欠損	(7.5) 4.3 1.6 (73.5)	刃部片か、やや幅狭となり、刃部も薄くなる。基部の可能性も有る。	黒色頁岩
第23図 PL.55	20	磨石	+15		完形	9.0 7.2 4.4 467.1	小円礫利用、敲打によるものか、表面にざらつき顕著に見られる。	粗粒輝石 安山岩
第23図 PL.55	21	磨石	+16		完形	11.6 7.6 6.6 908.9	俵型であるがやや不定形な礫、顕著な打痕や磨り面等は見られない。	粗粒輝石 安山岩
第23図 PL.55	22	石皿	炉内		完形	35.4 40.8 8.3 18,050	大型でおむすび形の礫を利用、使用面はほぼ平坦で裏面にやや膨らみ有す。煤付着。炉石に転用。	粗粒輝石 安山岩

6-19号住居跡

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第25図 PL.55	1	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/にぶい褐色/良	口唇先端部分削がれて尖る。無文。	後期
第25図 PL.55	2	深鉢	口縁部		覆土	微石英・雲母粒少/褐灰色/良	口唇部僅かに内傾し丸くなる。横位に刻み隆帯。	後期前葉
第25図 PL.55	3	深鉢	口縁部		覆土	白色粒少/橙/普通	無文、器面剥落。	後期前葉
第25図 PL.55	4	深鉢	口縁部		覆土	砂粒少/にぶい黄褐色/良	口縁部肥厚し内屈、端部に横位太沈線。内外面研磨。	後期前葉
第25図 PL.55	5	鉢か	口縁部		覆土	微砂粒/橙/良	外面無文、内側に端部に円形文持つ重弧状沈線文。	後期前葉
第25図 PL.55	6	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/灰黄褐色/良	無文、口唇内面に2条の沈線。	後期前葉
第25図 PL.55	7	鉢	口縁部		覆土	微石英粒少/黒褐色/良	内側に斜位沈線で区画された中に口縁から描かれる、重弧状沈線文。内外面良く研磨される。内面に煤付着。	後期前葉
第25図 PL.55	8	深鉢	胴部		覆土	微石粒・雲母粒/にぶい赤褐色/良	沈線による磨消文様描く、縄文LR地文。	後期初頭
第25図 PL.55	9	深鉢	胴部		覆土	白色粒少/にぶい褐色/普通	沈線による矩形懸垂文、地文にはLR縄文縦位施文。	中期後葉
第25図 PL.55	10	深鉢	胴部		覆土	長石粒/にぶい褐色/普通	沈線による懸垂文様描く。地文にはLR縄文。	後期初頭
第25図 PL.55	11	深鉢	胴部		覆土	石英粒/にぶい黄褐色/普通	縄文LR施文。	中期後葉か
第25図 PL.55	12	深鉢	胴部		覆土	石英粒少/赤黒褐色/普通	沈線による曲線文様。	後期初頭
第25図 PL.55	13	深鉢	胴部		覆土	石英粒/褐色/普通	重層する刺突文列。	後期初頭 越後系
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置		残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第25図 PL.55	14	打製石斧	覆土		欠損	(3.8) 3.6 1.4 (24.4)	打製石斧の基部片、全体に風化が進む。	黒色頁岩
第25図 PL.55	15	磨石	覆土		完形	10.3 6.0 3.5 344.8	扁平な長円礫利用、表裏面に磨り面見られる。	粗粒輝石 安山岩
第25図 PL.55	16	磨石	覆土		完形	12.7 9.1 4.2 758.5	扁平な礫利用、側縁および端部に若干の打痕有り。	細粒輝石 安山岩

6-20号住居跡

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第27図 PL.56	1	深鉢	口縁部		+ 4	石英粒・微砂粒少/にぶい黄褐色/普通	口縁部無文で、横位隆帯廻る。隆帯上に円形押圧文か。	後期初頭

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第27図 PL.56	2	深鉢	口縁部	+ 2	石英・小礫/褐色/普通	やや内湾、口縁下に横位の太い凹線が廻り、以下縄文R Lが横位施文される。3・5と同一個体か。外面に煤付着。	中期後葉
第27図 PL.56	3	深鉢	口縁部	炉	石英・小礫/褐色/普通	やや内湾、口縁下に横位の太い凹線が2条廻り下部に、横位沈線の一部が看取される。縄文R Lが横位施文される。	中期後葉
第27図 PL.56	4	深鉢	口縁部	+14	砂粒/名褐色/不良	口縁部に楕円文か。二次的な被熱。	中期後葉
第28図 PL.56	5	深鉢	口縁～胴部 口：(43.8)	炉	石英・小礫/明褐色/普通	口縁部に隆帯による楕円区画文様を画し、縄文R Lを横位充填施文、以下胴部には平行沈線による磨消懸垂文を13単位描く。地文には縦位R L施文。胴部内面中位に円く煤付着。	中期後葉
第28図 PL.56	6	深鉢	口縁部	+ 4	微砂粒/灰褐色/良	隆帯による渦巻き文。	中期後葉
第28図 PL.56	7	深鉢	把手部	不明	石英・長石粒/赤褐色/良	橋状把手上部片か、上位部分の突起は剥離、中央に押圧の凹線が見られる。	中期後葉
第28図 PL.56	8	深鉢	胴部	床	白色砂粒/赤褐色/良	隆帯による渦巻き文(楕円)、これにつながり、2本の隆線が横に延びる。渦巻き文中には縄文L Rが施文される。	中期後葉
第28図 PL.56	9	深鉢	胴部	+ 7	長石粒/にぶい黄褐色/良	低隆帯による曲線文様描き、区画文様内に縄文施文。表面研磨。	中期後葉
第28図 PL.56	10	深鉢	胴部	+13	微砂粒/褐色/良	沈線による蛇行文、沈線両側が盛り上がる。	中期後葉
第28図 PL.56	11	深鉢	胴部	+ 7	微砂粒少/にぶい黄褐色/良	2本の平行隆帯による懸垂文、および沈線によるU状文、いずれも下端部。地文には、R L細縄文が縦位施文される。	中期後葉
第28図 PL.56	12	深鉢	胴部	+ 7	微砂粒/にぶい黄褐色/普通	縄文L Rが施文される。器面剥落。	中期後葉
第28図 PL.56	13	深鉢	胴部	+15	長石・白色粒/橙色/良	2本の平行隆帯による懸垂文、R L縄文が縦位施文される。	中期後葉
第28図 PL.56	14	深鉢	胴部	+13	石英・長石粒/赤褐色/良	幅広の磨消帯、縄文帯。縄文帯端部分には肥厚隆線。L R縦位縄文施文。	中期後葉
第28図 PL.56	15	深鉢	胴部	床	微石英粒少/黄橙色/普通	垂下隆線により磨消帯、縄文帯を画す。縄文はR Lの縦位施文。	中期後葉
第28図 PL.56	16	深鉢	胴部	+ 5	白色小粒/橙色/普通	3本の沈線、および蛇行沈線による垂下文、地文には無節縄文Lを縦位施文か。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第28図 PL.56	17	打製石斧	+ 5	欠損	(8.0) 4.1 2.2 67.3	断面三角の剥片利用、薄くなった側縁に簡単な剥離調整を施す。刃部欠損。	黒色頁岩

6-21号住居跡

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第30図 PL.56	1	深鉢	胴部	+ 4	白色粒/にぶい黄褐色/普通	体部屈曲、上位部分に撫でによる磨消、地文に縄文R L縦位施文。内面に煤付着。	中期後葉
第30図 PL.56	2	深鉢	胴部	+ 3	白色粒/にぶい黄褐色/普通	垂下沈線。1と同一個体片。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第30図 PL.56	3	石刃	+ 4	完形	19.2 6.8 1.5 258.2	縦長の板状大型石片素材とする、片側に弧状の刃部を作出。	黒色頁岩
第30図 PL.56	4	磨石	+ 4	ほぼ完形	10.1 8.0 4.1 567.4	両端打撃によるものか欠落有り、表裏に凹み穴、および顕著な磨り面見られる。	粗粒輝石 安山岩

6-22号住居跡

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第33図 PL.56	1	深鉢	口縁～底部 口：16.4 高：23.2 底：6.0	+15	白色小粒/褐色/良	4単位の小波状を呈す。口縁部に4単位の隆帯による渦巻き楕円文様描き、楕円文内横位重弧状沈線文描く。胴部は2本沈線による懸垂文で縦位4分割し、縦位稜杉状の沈線文充填。	中期後葉
第33図 PL.56	2	深鉢	口縁部	+21	砂粒/にぶい赤褐色/良	口縁部に凹線による楕円文か。文様内に縄文施文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第33図 PL.56	3	深鉢	胴部	+25	石英・長石粒多/黄褐色/良	隆帯による曲線文、円形文か。	中期後葉
第33図 PL.56	4	深鉢	胴部	+13	砂粒少/橙色/良	沈線による縦位磨消帯、縄文R L縦位施文後、蛇行垂下沈線文。	中期後葉
第33図 PL.56	5	深鉢	胴部	+28	石英粒/灰褐色/良	縄文L R縦位施文後、3本の垂下沈線および蛇行沈線。	中期後葉 古
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第33図 PL.56	6	石片	床	完形	3.9 4.7 1.5 19.6	五角形を呈す剥片。短辺部分に僅かな剥離調整か。	黒曜石
第33図 PL.56	7	石片	+11	完形	3.7 3.8 1.0 11.8	三角形を呈す剥片。	黒曜石
第33図 PL.56	8	打製石斧	床	欠損	(4.1) 3.5 (0.7) (15.1)	打製石斧の基部片と見られ、剥離している。	粗粒輝石 安山岩
第34図 PL.56	9	磨石	+ 9	完形	13.7 6.5 3.8 526.2	丸みをもつ撥型の礫、表裏面平坦で使用による摩耗見られる、煤附着。	石英閃緑 岩
第34図 PL.56	10	磨石	+ 2	完形	14.3 6.4 3.0 403.2	丸みをもつ撥型の礫、表裏に凹み穴を有す。	粗粒輝石 安山岩
第34図 PL.56	11	磨石	+11	完形	5.4 4.3 3.7 119.2	卵形の礫、表面に若干の摩耗痕あり、被熱か。	粗粒輝石 安山岩

6-24号住居跡

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第38図 PL.57	1	深鉢	胴～底部 底：9.5	+32	石英粒/にぶい赤褐色/良	両耳壺、一對の環状把手を持つ。把手上下部分から横に隆帯が延び、文様帯を画す、内部には縄文L Rが充填施文される。以下胴部は沈線による懸垂紡錘文が描かれ無文部、縄文部が交互に画される。	中期末葉
第38図 PL.57	2	深鉢	口縁～底部 口：15.5 高：25.4 底：5.8	+39	石英粒/にぶい茶褐色/普通	口縁部に小突起と大きく突起した環状把手がそれぞれ対となる。把手上部は円く広がり平坦を成す。把手環状部分、および胴部には縄文L Rが疎らに施文される。	中期後葉 古
第38図 PL.57	3	深鉢	口縁～胴部 口：(34.0)	床	石英・長石・雲母粒/暗褐色/良	頸部大きく外反し、口縁部文様帯部分は直立する。口縁部に凹線巡り、隆帯による渦巻き楕円文を構成。渦巻き文は交互上下に描かれ、上下隆線と繋がる2本の短隆線が見られる。隆線側線は沈線が伴う。楕円文内には横位R L縄文が施文される。隆線剥離面には縄文が看取される。口縁部無文帯部を挟み3本の横位沈線が廻り、以下縦位L R縄文が施文される。内面研磨。	中期後葉 古
第38図 PL.57	4	深鉢	口縁部	床	石英粒・金雲母粒/茶褐色/良	4単位の波状口縁、波頂部に隆帯による渦巻き文、ここから2本の隆帯が下位から横に走り区画文を構成、縦位の連続沈線が埋められ、以下頸部は無文。	中期後葉
第38図 PL.57	5	深鉢	口縁部	床	石英粒・金雲母多/暗茶褐色/良	口縁部、隆帯による渦巻き文から延びた2本の隆帯による弧状渦巻き文構成、弧状文内には縦位集合沈線文充填。以下頸部に無文部を設け縄文R L施文。	中期後葉
第38図 PL.57	6	深鉢	口縁部	+66	砂粒/にぶい褐色/普通	口縁部に付く帯状環状把手、縄文把手部分から胴部にかけて縄文L Rが施文。沈線による曲線文の上端部が見える。	中期末葉
第38図 PL.57	7	深鉢	口縁部	+22	石英粒・金雲母粒/茶褐色/良	口縁部は内傾し、隆帯による区画文を構成、縦位の連続沈線が埋められる。4と同一個体か。	中期後葉
第38図 PL.57	8	深鉢	口縁部	床	石英粒・金雲母粒/茶褐色/良	波頂部の渦巻き文から2本の隆帯が延びる。縦位沈線文。4と同一個体か。	中期後葉
第38図 PL.57	9	深鉢	口縁部	+14	砂粒・雲母粒少/茶褐色/良	口縁小波状、上部に4本の隆線を貼り付ける。下位には沈線を重弧状に描く。内面に稜を有す。	中期後葉
第38図 PL.57	10	深鉢	口縁部	覆土	石英粒・金雲母/灰褐色/良	やや外反し、口縁部内外面に隆帯が廻る。外面隆帯下は無文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第38図 PL.57	11	深鉢	口縁部		床	石英粒・金雲母多/暗茶褐色/良	口縁部、隆帯による渦巻き文から延びた2本の隆帯による弧状渦巻き文構成、弧状文内には縦位集合沈線文充填。5と同一個体。	中期後葉
第39図 PL.57	12	深鉢	口縁部		+16	微砂粒/褐色/良	横位隆帯で文様帯を画し、斜位の集合沈線で埋める。	中期後葉
第39図 PL.57	13	深鉢	口縁部		+65	石英粒少/褐色/普通	隆帯による横位、渦巻き文様か。	中期後葉
第39図 PL.57	14	深鉢	口縁部		覆土	砂粒少/にぶい褐色/良	やや外傾する無文口縁部片。内外面研磨。	中期後葉
第39図 PL.57	15	深鉢	口縁部		覆土	石英粒少/褐色/良	やや内湾、口縁下に横位の沈線廻らし、以下縄文LRを斜位方向施文。	中期末葉
第39図 PL.57	16	深鉢	口縁部		床	微砂粒/にぶい黄褐色/良	やや外傾する無文口縁部片。内外面研磨。	中期後葉
第39図 PL.57	17	深鉢	口縁部		覆土	砂粒・褐色粒少/にぶい黄褐色/良	外傾する無文口縁、頸部に横位の凹線か、内外面研磨。	中期後葉
第39図 PL.57	18	深鉢	口縁部		覆土	砂粒多/灰黄褐色/普通	口縁下に横位沈線、以下縄文LR縦位施文。	中期後葉
第39図 PL.57	19	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/にぶい黄褐色/良	やや外傾、無文口縁部。内外面研磨。	中期後葉
第39図 PL.57	20	深鉢	口縁部		床	微石英粒/にぶい褐色/良	やや外傾、無文口縁部。口唇部がやや肥厚する。内外面研磨。	中期後葉
第39図 PL.57	21	深鉢	口縁部		+37	石英・長石粒/褐色/普通	やや外傾、無文口縁部。器面の風化顕著。	中期後葉
第39図 PL.57	22	深鉢	口縁部		+20	砂粒・金雲母少/にぶい赤褐色/良	口縁部外傾、口唇部は短く内屈し肥厚する。器肉厚く無文。内面に煤附着。	中期後葉
第39図 PL.57	23	深鉢	胴部		床	砂粒少/黄褐色/良	内傾する肩部片、隆帯による渦巻き文が突起状となる。内外面研磨、内面に煤附着。	中期後葉
第39図 PL.57	24	深鉢	胴部		+30	微砂粒多/褐色/良	屈曲する頸部片、2条の横位隆帯付し、上位隆帯に交互刺突文配す。以下沈線による曲線文様描く。	中期後葉
第39図 PL.57	25	深鉢	胴部		覆土	砂粒多/褐色/普通	隆帯による口縁部連続弧状文構成し、斜位の沈線で埋める。以下胴部には縄文RLを縦位施文後、逆U字状の垂下沈線文、蕨手文を描く。	中期後葉
第39図 PL.57	26	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒多/褐色/良	縦位沈線文施文後、隆帯による縦位、斜位の懸垂文様構成。	中期後葉
第39図 PL.57	27	深鉢	胴部		+20	褐色粒・微砂粒/褐色/良	頸部無文下に2本単位の横位沈線3条廻る。これから逆U字の懸垂文で胴部を画す。区画内には縄文LR縦位施文。	中期後葉 古
第39図 PL.57	28	深鉢	胴部		+57	砂粒少/にぶい褐色/良	地文に縦位LR縄文施文、垂下隆帯で無文帯を画すか。	中期後葉 古
第39図 PL.57	29	深鉢	胴部		+70	砂粒少/黄褐色/良	幅広の無文帯に縦位3本の垂下沈線、地文は縦位RLの細縄文施文。	中期後葉
第39図 PL.58	30	深鉢	胴部		覆土	砂粒少/黄褐色/良	縦位沈線で画した磨り消し帯、縦位RL施文。	中期後葉
第39図 PL.58	31	深鉢	胴部		+13	石英・長石粒多/灰褐色/良	縦位磨り消し縄文、縄文は縦位LR。	中期後葉
第39図 PL.58	32	深鉢	胴部		+21	石英粒・金雲母多/暗茶褐色/良	地文に縦位RL縄文施文後、平行沈線による波状懸垂文描く。	中期後葉 古
第39図 PL.58	33	深鉢	胴部		+5	石英粒・金雲母多/暗茶褐色/良	縄文RL縦位施文後、3本の垂下沈線描く。	中期後葉
第39図 PL.58	34	深鉢	胴部		覆土	砂粒多/褐色/普通	2本単位の隆帯による端部渦巻き文様描く。渦巻き文から下位、横位方向にも、隆帯が延びる。地文には縦位の沈線文が描かれる。	中期後葉 信州系
第39図 PL.58	35	深鉢	胴部		床	砂粒少/にぶい灰褐色/良	縄文RL施文後、3本の横位沈線、さらに下位に横位波状文描く。内面研磨。	中期後葉
第39図 PL.58	36	深鉢	胴部		+20	砂粒少/暗褐色/良	胴部屈曲部分に、横位の波状隆帯文(2単位)が付される。	中期後葉
第39図 PL.58	37	深鉢	胴部		+13	石英粒・金雲母多/暗茶褐色/良	複数単位の平行沈線、および結節沈線文施文。	中期後葉
第40図 PL.58	38	深鉢	胴部		覆土	石英粒/暗茶褐色/良	隆帯による楕円文様、文様間には斜位の沈線文充填。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	39	深鉢	胴部		+20	石英粒/暗茶褐色/良	沈線による複数単位の曲線文描く。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第40図 PL.58	40	深鉢	胴部		+40	石英粒/にぶい灰褐色/良	3本単位の沈線による曲線文様を描くか、地紋には縦位の沈線文。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	41	深鉢	胴部		+20	石英粒/暗茶褐色/良	縦位の集合沈線文。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	42	深鉢	胴部		床	砂粒少/暗褐色/良	左右方向からの斜行沈線文描く。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	43	深鉢	胴部		床	石英粒・金雲母多/暗茶褐色/良	内湾する部位片、縦位集合沈線施文。隆帯の剥離痕残る。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	44	深鉢	胴部		+20	石英粒/暗茶褐色/良	複数単位の縦位沈線、間には波状の縦位平行沈線文。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	45	深鉢	胴部		+17	砂粒少/暗褐色/良	縦位擦糸文Lを充填施文。沈線による懸垂文描く。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	46	深鉢	胴部		+16	石英粒/暗茶褐色/良	沈線による曲線文様描く。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	47	深鉢	胴部		床	砂粒少/にぶい褐色/良	沈線による渦巻き文。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	48	深鉢	胴部		+ 4	石英粒/暗茶褐色/良	渦巻き隆帯文。	中期後葉 信州系
第40図 PL.58	49	深鉢	胴部		床	砂粒少/黄褐色/良	縦位平行隆帯による無文帯、縦位の連続短沈線文付す。	中期後葉
第40図 PL.58	50	深鉢	胴部		床	砂粒少/暗褐色/良	縦位の集合平行沈線文と交互刺突文。	中期後葉
第40図 PL.58	51	深鉢	胴部		+13	微砂粒・金雲母/褐色/良	擦糸文Lが縦位施文される。	中期後葉 古
第40図 PL.58	52	深鉢	胴部		炉	砂粒少/暗褐色/良	横位、縦位の沈線文様描く、地紋にはL R 縄文施文。	中期後葉
第40図 PL.58	53	深鉢	胴部		+13	砂粒少/にぶい黄褐色/普通	縦位沈線で磨り消し帯画す、縄文はR L 縦位。	中期後葉
第40図 PL.58	54	深鉢	胴部		+26	砂粒少/暗褐色/良	隆帯による区画文構成か、区画文内にはR L 横位充填施文。	中期後葉 古
第40図 PL.58	55	深鉢	胴部		床	石英粒/にぶい灰褐色/良	不均一な横位4単位の沈線、以下R L 縄文。	中期後葉
第40図 PL.58	56	深鉢	胴部		+21	石英粒/暗茶褐色/良	縦位R L 縄文施文後、沈線により垂下文様描く。	中期後葉
第40図 PL.58	57	深鉢	胴部		覆土	石英粒/暗茶褐色/良	縄文L Rを縦位施文後、平行竹管により曲線文様を描く。	中期後葉
第40図 PL.58	58	深鉢	底部	底:(5.6)	+42	砂粒/にぶい褐色/普通	径はやや小さく、天部やや上げ底を呈す。無文。	中期後葉
第40図 PL.58	59	深鉢	底部	底:(8.0)	+ 2	砂粒少/にぶい褐色/良	無文、厚手の底部片。	中期後葉
第40図 PL.58	60	浅鉢	底部	底:(7.6)	床	砂粒少/暗褐色/良	大きく開く浅鉢の底部、内外面研磨され、内面赤彩。	中期後葉
第40図 PL.58	61	深鉢	底部	底:10.0	床	微砂粒/褐色/良	縄文R Lを全面に縦位施文。欠け口が摩耗。	中期後葉
第40図 PL.58	62	深鉢	底部	底:(10.0)	+ 4	微砂粒/褐色/良	擦糸文Lが縦位施文される。	中期後葉 古
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材	
第41図 PL.58	63	石鏃	覆土	欠損	(1.4) (1.2) 0.3 (0.3)	凹基無茎、先端部片か	黒曜石	
第41図 PL.58	64	打製石斧	覆土	欠損	4.7 4.7 1.2 41.1	四角形を呈し、基部片の可能性も有る。	黒色頁岩	
第41図 PL.58	65	打製石斧	覆土	欠損	11.5 5.4 2.2 149.6	大型礫からの剥離片利用、粗い作りで片面に自然面。刃部僅かに欠損。	黒色安山岩	
第41図 PL.58	66	打製石斧	覆土	欠損	(4.6) 4.3 1.4 (49.2)	撥型打製石斧の基部片である。	黒色頁岩	
第41図 PL.58	67	打製石斧	+ 5	欠損	(4.2) 3.4 1.5 (29.4)	刃部片と見られる、刃部が薄く、作りは雑である。	黒色頁岩	
第41図 PL.58	68	磨石	覆土	完形	11.1 8.2 5.7 728.7	粗い石質の長円礫利用、表裏面に複数の不揃いな凹み穴見られる。	粗粒輝石 安山岩	
第41図 PL.58	69	磨石	+11	欠損	13.7 7.3 4.1 588.3	扁平な長円礫利用、表裏に打撃による不定形な凹み穴、側縁部にも打痕。	粗粒輝石 安山岩	

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第41図 PL.58	70	石棒	床	完形	28.5 9.8 8.7 3,900	大型の棒状礫、表面に若干の磨り痕見られるが、加工痕は無い。	粗粒輝石 安山岩
第41図 PL.58	71	磨石	覆土	欠損	(10.8) (10.3) (7.7) 924.4	やや大型の円礫、被熱によるひび割れ顕著、大きく欠損する。	粗粒輝石 安山岩
第42図 PL.59	72	多孔石	+34	完形	23.9 18.6 10.9 5,500	大型自然礫利用、両面に10個前後の凹み穴有すが、裏面の穴は浅く不正形なものが多い。	粗粒輝石 安山岩
第42図 PL.59	73	石皿	床	欠損	(14.5) (19.7) 8.7 2,540	両面使用、片面の使用部は深く、裏面は交差方向に浅く凹み、極めて平滑で使用痕顕著、また縁辺に数カ所の凹み穴有す。	粗粒輝石 安山岩

7-1号住居跡

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部 位	出土位置	胎土/色調/焼成	成 形 の 特 徴 等	備 考
第90図 PL.69	1	須恵器 杯	胴部片	覆土	微砂粒/灰色/良	ロクロ成形	硬質な感じ

4-7号竪穴

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第92図 PL.69	1	深鉢	口縁部	不明	砂粒少/暗褐色/良	やや肥厚した口唇下に横位沈線、以下縄文施文か。	中期後葉
第92図 PL.69	2	深鉢	胴部	不明	砂粒少/暗褐色/良	低い隆帯および沈線による楕円文を画し、集合沈線で埋める。	中期後葉

3-1号埋甕

第45図 PL.59	1	深鉢	口縁部	—	微砂粒/にぶい褐色/普通	口縁部くの字に屈曲、波状口縁、隆帯による楕円渦巻き文様描き、文様内には縄文を充填施文する。以下胴部は垂下平行線による磨り消し縄文帯。	中期後葉
第45図 PL.59	2 3 4	深鉢	胴部	—	微砂粒/にぶい褐色/普通	胴上部は内彎する、沈線による横位連続するU状文を描くが、一部沈線端部が鈎状を為す。U字部分には縄文RLを縦位施文する。極めて脆弱な土器である。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第45図 PL.59	5	磨石	埋甕内	欠損	10.9 6.6 5.6 (286.7)	卵形の礫、被熱によるひび割れ顕著で、非常に脆弱。	細粒輝石 安山岩

3-14号土坑(陥し穴)

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第104図 PL.69	1	深鉢	胴部	覆土	微砂粒/にぶい褐色/普通	無文か、器面風化。	中期後葉 か

4-117号土坑(陥し穴)

第105図 PL.69	1	深鉢	胴部	覆土	微砂粒/にぶい褐色/普通	撚糸文L縦位施文。	中期後葉
----------------	---	----	----	----	--------------	-----------	------

4-118号土坑

第106図 PL.69	1	深鉢	口縁部	覆土	微砂粒/褐色/良	連続押圧文を有す横位の隆帯。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第106図 PL.69	2	磨石	覆土	完形	10.6 3.0 2.6 123.3	小型の棒状礫、両端に僅かな打痕有り、片側端部に煤付着。	細粒輝石 安山岩

4-124号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第106図 PL.69	1	甕	胴部	覆土	微砂粒/にぶい褐色/良	横位条線文。	弥生中期

6-215号土坑(陥し穴)

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第107図 PL.69	1	深鉢	胴部	覆土	微砂粒/にぶい褐色/良	刺突文を充填。	後期前葉 越後系
第107図 PL.69	2	深鉢	胴部	覆土	微砂粒/褐色/良	無文、内面研磨。	中期後葉

6-218号土坑(陥し穴)

第47図 PL.60	1	深鉢	口縁～胴部	+ 5 ~ 22	砂粒/橙褐色/普通	口縁部外傾、肩部に隆帯による曲線文。器面は著しく風化し、砂粒が浮き上がっている。被熱。	後期
第47図 PL.60	2	深鉢	口縁部	+19	微砂粒/にぶい橙褐色/良	口縁部肥厚し、少突起を持つ、口縁部には隆帯による曲線文描くか。	中期後葉

6-220号土坑

第47図 PL.60	1	深鉢	胴部	覆土	砂粒/暗褐色/良	浅い沈線文。器面研磨。	中期後葉
---------------	---	----	----	----	----------	-------------	------

6-223号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第47図 PL.60	1	打製石斧	+13	完形	10.7 6.9 3.0 180.5	撥型、基部厚みを有し、刃部横に広がる。片面丸みを持った自然面残る。両側縁部の刃潰し顕著。	粗粒輝石 安山岩

6-225号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第47図 PL.60	1	深鉢	口縁部	+ 4	微砂粒/にぶい褐色/良	口縁部無文、以下縄文施文か。内湾、	中期後葉 末
第47図 PL.60	2	深鉢	胴部	+ 9	砂粒、金雲母/暗褐色/良	縦位の沈線、縄文R L縦位施文。	中期後葉

6-231号土坑

第107図 PL.69	1	深鉢	口縁部	覆土	砂粒、金雲母/暗褐色/良	内屈した口縁部に2本の横位隆帯巡り、内側に沿って2列の円形刺突文が配される。以下隆帯による曲線文及び粗い無節Rの縄文が施文される。	後期初頭
第107図 PL.69	2	深鉢	胴部	覆土	砂粒、金雲母/暗褐色/良	隆帯による環状文、沈線によるO状文、中に刺突文。	後期前半
第107図 PL.69	3	深鉢	胴部	覆土	砂粒/暗褐色/良	楕円区画文内に、縄文L R横位施文か。	中期後葉
第107図 PL.69	4	深鉢	胴部	覆土	砂粒/暗褐色/良	無文。	中期後葉
第107図 PL.69	5	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/暗褐色/良	縄文R L縦位施文。	中期後葉
第107図 PL.69	6	深鉢	胴部	覆土	砂粒/にぶい褐色/良	2本単位の沈線による曲線文描き、縄文L R充填施文。	中期後葉

6-232号土坑

第48図 PL.60	1	深鉢	胴部	覆土	石英粒/暗茶褐色/良	撚糸文Rを縦位施文。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第48図 PL.60	2	凹石	+11	完形	15.2 8.0 4.1 611.8	扁平な長円磔、両面に1対づつの浅い凹み穴有す。被熱によるひび割れ顕著。	粗粒輝石 安山岩

6-233号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第48図 PL.60	1	深鉢	胴部	+65	石英粒/暗茶褐色/良	隆帯による並行懸垂文、左右には斜位の集合沈線文。	中期後葉 信州系
第48図 PL.60	2	深鉢	胴部	覆土	石英粒/暗茶褐色/良	撚糸文Lを縦位施文、縦位沈線文。	中期後葉 古
第48図 PL.60	3	深鉢	胴部	+29	金雲母/暗茶褐色/良	横位結節文、縦位の並行沈線文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特徴	石材
第48図 PL.60	4	打製石斧	+71	欠損	(8.5) 4.4 1.5 (78.0)	基部を欠損か、撥型で刃部は丸みを持ち摩耗見られる。	黒色頁岩

6-234号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第49図 PL.60	1	深鉢	胴部	+110	砂粒少/暗褐色/良	地文に細い襷糸Rを縦位施文、竹管による曲線文、および沈線による波状懸垂文描く。	中期後葉
第49図 PL.60	2	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/暗褐色/良	縄文RL縦位施文後、沈線による波状懸垂文。	中期後葉
第49図 PL.60	3	深鉢	胴部	+119	金雲母/暗茶褐色/良	横位の低隆線、縦位の集合沈線文。	中期後葉
第49図 PL.60	4	深鉢	胴部	+104	砂粒少/茶褐色/良	無文土器。	後期

6-236号土坑

第49図 PL.60	1	深鉢	胴部	覆土	微石英粒/黒茶褐色/良	隆帯による曲線文と縄文の一部が見られる。	中期後葉
第49図 PL.60	2	深鉢	胴部	覆土	微石英粒/淡褐色/良	垂下沈線で画した縄文帯。	中期後葉

6-240号土坑

第49図 PL.60	1	深鉢	胴部	+18	砂粒/茶褐色/良	垂下沈線、および縦位襷糸R施文。	中期後葉
第49図 PL.60	2	深鉢	胴部	+11	砂粒少/黄茶褐色/良	隆帯下に沈線文か。	後期前葉
第49図 PL.60	3	深鉢	胴部	+17	砂粒少/黄茶褐色/良	無文。器面一部剥離が見られ、僅かに煤が付着。	後期前葉

6-241号土坑

第49図 PL.60	1	深鉢	胴部	+15	砂粒少/黄茶褐色/良	無文。内面研磨。	後期前葉
第49図 PL.60	2	深鉢	胴部	+14	砂粒少/黄茶褐色/良	横位の隆帯巡る。	後期前葉

6-251号土坑

第50図 PL.60	1	深鉢	口縁部	+17	砂粒・石英粒多/茶褐色/良	口縁部に断面三角の隆帯が巡る。	後期中葉
第50図 PL.60	2	深鉢	胴部	+32	砂粒・石英粒/茶褐色/良	縄文RL施文。	中期後葉
第50図 PL.60	3	深鉢	胴部	+18	微砂粒・石英粒/暗茶褐色/良	垂下する並行沈線文間を磨り消す。間には縄文LRが縦位施文される。器面やや風化する。	中期後葉

6-253号土坑

第107図 PL.69	1	深鉢	胴部	覆土	微砂粒・石英粒/暗黒褐色/良	垂下する並行沈線文間を磨り消す。間には縄文RLが縦位施文される。	中期後葉
----------------	---	----	----	----	----------------	----------------------------------	------

6-255号土坑

第108図 PL.69	1	深鉢	口縁部	覆土	微砂粒・石英粒/暗黒褐色/良	やや内湾する口縁部、口唇端部は肥厚し上端部は平に成形される。沈線を伴う隆線による渦巻き文が意匠される。	中期後葉
第108図 PL.69	2	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/黄褐色/良	波状口縁、口縁に沿って浅い凹線が巡り、以下縄文施文。	後期初頭
第108図 PL.69	3	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/灰黄褐色/良	口縁部肥厚し、端部内側に張り出す、肥厚部分は無文で、下部に隆帯渦巻き文見られる。	後期前葉
第108図 PL.69	4	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/黄茶褐色/良	口縁に円形文と左右に延びた沈線が巡る、沈線下に隆帯、円形文下から複数の垂下文。	後期前葉
第108図 PL.69	5	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/黒褐色/良	口縁部に低隆帯、以下沈線文の端部が見える。	中期後葉
第108図 PL.69	6	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/黄橙茶褐色/良	口縁部に付く環状取手部分、接合部に円形文が付され、そこから取手部に沿って凹線が延びる。	後期前葉
第109図 PL.69	7	深鉢	口縁部	覆土	微砂粒/にぶい橙茶褐色/良	口縁部の突起部につながる橋状取手が付く、以下横位の連続する刺突文が多段施文される。	後期初頭

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第109図 PL.69	8	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/暗黒茶褐色/良	円形に突起した波状口縁部、隆帯による渦巻き文様か。	中期後葉
第109図 PL.69	9	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/にぶい茶褐色/良	口縁部突起状を呈す、低隆線で画された下位には縄文が見られる。	中期後葉
第109図 PL.69	10	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒少/黒褐色/良	口縁部くの字に内屈し、円孔を有す瘤条小突起、左右に刺突文から延びる沈線が付される。	後期前葉
第109図 PL.69	11	深鉢	口縁部		覆土	金雲母粒/暗茶褐色/良	口縁部波状を呈し、隆線により無文部が画される。以下縄文LRの施文見られる。口演部分研磨顕著。	後期初頭
第109図 PL.69	12	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/にぶい茶褐色/良	無文の口縁部片。	後期前葉か
第109図 PL.69	13	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/暗茶褐色/良	口唇部内側に肥厚、横位沈線間に連続する刺突文。	後期初頭
第109図 PL.69	14	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/にぶい橙茶褐色/良	横位の粗い沈線文。	後期前葉
第109図 PL.69	15	深鉢	口縁部		覆土	砂粒/暗茶褐色/良	波頂部が凹み両側から口縁に沿って隆帯が垂下、中央からも逆U状に隆帯がやや曲がりながら垂下。間隙には沈線文。	中期後葉
第109図 PL.69	16	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/暗茶褐色/良	口縁部瘤状に突起し、円形文が付される。口唇部上端部に延びる沈線内に連続の刺突文が付される。	後期前葉
第109図 PL.69	17	深鉢	口縁部		覆土	微砂粒/にぶい茶褐色/良	口縁部外反、屈曲部に横位の沈線巡り、以下沈線による三角意匠の幾何学文描く。	後期前葉
第109図 PL.70	18	深鉢	口縁部		覆土	石英粒/暗茶褐色/良	平行する横位沈線下に幾何学紋様描くか、文様内を縄文で充填施文。	後期前葉
第109図 PL.70	19	深鉢	胴部		覆土	石英粒/暗茶褐色/良	端部渦巻き文隆帯、区画文内には縦位の集合沈線文。	中期後葉
第109図 PL.70	20	深鉢	口縁部		覆土	砂粒/にぶい黄茶褐色/良	刺突文を伴う隆帯、および沈線で描かれた曲線文にも連続する刺突文が見られる。	後期初頭
第109図 PL.70	21	深鉢	胴部		覆土	砂粒少/暗茶褐色/良	肥厚する波状の口縁部に縄文施文か。	後期初頭
第109図 PL.70	22	深鉢	胴部		覆土	石英粒/暗茶褐色/良	沈線による曲線文様、文様間には部分的に細縄文が施文される。	後期初頭
第109図 PL.70	23	深鉢	胴部		覆土	砂粒少/茶褐色/良	沈線よる平行、波状の懸垂文、間隙部分には細縄文縦位施文される。	中期後葉
第109図 PL.70	24	深鉢	胴部		覆土	砂粒/暗灰褐色/良	綾杉状の縦位集合沈線文。	中期後葉
第109図 PL.70	25	深鉢	胴部		覆土	石英粒/暗茶褐色/良	沈線による曲線文様。	中期後葉
第109図 PL.70	26	深鉢	胴部		覆土	微砂粒/にぶい灰黄褐色/良	器面に瘤状の突起有す、連続するハ状刺突文。	後期初頭か
第109図 PL.70	27	深鉢	胴部		覆土	石英粒/暗黒褐色/良	縄文施文後、沈線による曲線文様描き、文様内を磨り消す。	後期初頭
第109図 PL.70	28	深鉢	胴部		覆土	石英粒/暗茶褐色/良	沈線による曲線文様、区画文内には部分的に細縄文が施文される。	後期初頭
第109図 PL.70	29	深鉢	胴部		覆土	砂粒少/暗茶褐色/良	沈線よる磨り消し曲線文様描く。	後期前葉
第109図 PL.70	30	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい褐色/良	縦位の条線文。内面に煤付着。	後期初頭か
第109図 PL.70	31	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい茶褐色/良	縦位隆帯と矢羽根状沈線文。	中期後葉
第109図 PL.70	32	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい暗褐色/良	横位隆帯下に矢羽根状の沈線文。	中期後葉
第109図 PL.70	33	深鉢	胴部		覆土	砂粒、石英粒/暗茶褐色/良	細沈線による円形文、横U状文などが描かれる。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材	
第109図 PL.70	34	打製石斧	覆土	欠損	(6.7) 5.0 1.7 (54.0)	撥型打製石斧の基部片。	細粒輝石 安山岩	
第109図 PL.70	35	打製石斧	覆土	欠損	(6.2) 4.6 1.2 (59.2)	板状礫利用、撥型打製石斧の基部片。	細粒輝石 安山岩	
第109図 PL.70	36	打製石斧	覆土	欠損	(6.2) 4.8 2.6 (72.6)	基部片、両面に自然面残る。	細粒輝石 安山岩	

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特徴	石材
第109図 PL.70	37	スクレイ パー	覆土	完形	6.6 2.0 1.1 14.6	弧状石片の下辺部に粗い刃部作出。	黒色頁岩

6-256号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第110図 PL.70	1	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	無文の口縁部片、口唇端部は丸みを呈す。	中期後葉
第110図 PL.70	2	深鉢	胴部	覆土	砂粒/暗赤茶褐色/良	円形文および横位沈線文が重層して見られる。	後期前葉
第110図 PL.70	3	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/暗褐色/良	口縁部僅かに内屈し、瘤条の小突起、両側に付された円形文から左右に沈線が延びる。器面には横位の沈線見られる。	後期前葉
第110図 PL.70	4	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/灰黄褐色/良	厚手、口縁部には隆帯による楕円渦巻き文か、以下縦位の磨り消し縄文帯。	中期後葉
第110図 PL.70	5	深鉢	底部 低:(8.0)	覆土	石英粒/黄茶褐色/良	底部片、端部に丸み有す。底面には網状痕。	中期後葉 か
第110図 PL.70	6	深鉢	底部 低:-	覆土	砂粒少/灰黄褐色/良	底部片、文様は不明、無文か。	中期後葉 か

6-257号土坑

第111図 PL.70	1	深鉢	口縁部	覆土	微砂粒/暗褐色/良	口縁部突起に小渦巻き文と両側に押圧文、左右に沈線が延びる。以下突起文下に縦位、横位の沈線文を描く。	後期前葉
第111図 PL.70	2	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	口縁部端部に沈線が延びる。	後期前葉
第111図 PL.70	3	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	口唇部に連続する刻み、下位にも横位に刺突文が巡るか。	後期前葉
第111図 PL.70	4	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	口縁部肥厚し端部に横位沈線延び、下位にも横位に沈線。	後期前葉
第111図 PL.70	5	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	口縁部肥厚しやや内屈、無文。	後期前葉
第111図 PL.70	6	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	口縁部に小突起。内側に押圧文。突起から横位沈線が延び、連続する短沈線文。	後期前葉
第111図 PL.70	7	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	隆帯による楕円文構成か。	中期後葉
第111図 PL.70	8	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	口縁下に横位の沈線、以下L R縄文横位施文。	中期後葉
第111図 PL.70	9	深鉢	口縁部	覆土	砂粒少/褐色/良	無文。	後期か
第111図 PL.70	10	深鉢	口縁部	覆土	砂粒・雲母/暗褐色/良	無文、口縁部内側が肥厚。	中期後葉
第111図 PL.70	11	深鉢	胴部	覆土	砂粒/暗褐色/良	横位の隆帯と沈線により画された無文帯が見られる。	後期
第111図 PL.70	12	深鉢	口縁部	覆土	砂粒/褐色/良	口縁部に肥厚した環状突起が付く。器面には縄文L Rが施文される。	中期後葉 新
第111図 PL.70	13	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/にぶい褐色/良	沈線による矩形文、区画内には縄文L R施文。	後期前葉
第111図 PL.70	14	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/にぶい褐色/良	沈線による曲線文、および沈線文間に刻み。	後期前葉
第111図 PL.70	15	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/にぶい褐色/良	沈線により画された磨り消し縄文。	後期前葉
第111図 PL.70	16	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/にぶい褐色/良	縦位の垂下沈線文の端部が見える。	後期前葉
第111図 PL.70	17	深鉢	口縁部	覆土	砂粒/灰褐色/良	肥厚した渦巻き隆帯文。	中期後葉
第111図 PL.70	18	深鉢	底部 低:(10.0)	覆土	砂粒少/にぶい褐色/良	無文。	中期か
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特徴	石材
第111図 PL.70	19	磨石	覆土	完形	10.2 8.7 7.0 872.7	拳大の円礫、両面に不定型な1対の凹み穴を持ち、磨り面は平滑、被熱。	粗粒輝石 安山岩

6-258号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第50図 PL.60	1	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい橙褐色/普通	無文、器面風化。	中期か
第50図 PL.60	2	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい橙褐色/普通	縦位の隆帯および沈線文。	中期後葉

6-259号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特徴	石材
第111図 PL.70	1	磨石	覆土	完形	7.6 6.4 3.9 284.8	やや扁平な円礫利用、両面は比較的平滑。	粗粒輝石 安山岩

6-263号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第51図 PL.60	1	深鉢	胴部		覆土	砂粒多/にぶい褐色/良	無文。	後期
第51図 PL.60	2	深鉢	胴部		覆土	砂粒少/にぶい灰褐色/良	無文。	後期
第51図 PL.60	3	深鉢	胴部		覆土	砂粒少/にぶい灰褐色/良	無文。	後期

6-264号土坑

第52図 PL.60	1	深鉢	口縁部		+18	砂粒・雲母粒/にぶい暗褐色/良	口縁はやや内湾、口縁部下に横位沈線有し、2本の横位隆線で連結された突起文、楕円文が描かれる。文様内は斜位集合沈線で埋める。体部、隆線による懸垂文。懸垂文間は異方向斜位沈線を施文。	中期後葉 信州系
第52図 PL.60	2	深鉢	胴部		+15	砂粒・雲母粒/にぶい暗褐色/良	隆線により渦巻き文、曲線文描き、間隙を異方向斜位沈線で埋める。	中期後葉 信州系
第52図 PL.60	3	深鉢	胴部		+15	砂粒・雲母粒/にぶい暗褐色/良	隆線により渦巻き文、曲線文描き、間隙を異方向斜位沈線で埋める。	中期後葉 信州系
第52図 PL.60	4	深鉢	胴部		+18	砂粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	2本の沈線による懸垂文、間にも波状懸垂文。地紋にRL縄文施文。	中期後葉

6-270号土坑

第53図 PL.60	1	深鉢	胴部		覆土	砂粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	沈線による浅い懸垂文。	中期後葉
第53図 PL.60	2	深鉢	胴部		覆土	砂粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	縦位磨り消し縄文か。	中期後葉
第53図 PL.60	3	深鉢	胴部		覆土	砂粒多/にぶい褐色/良	厚手の無文土器。	中期後葉

7-39号土坑

第113図 PL.70	1	深鉢	胴部		覆土	石英粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	胎土中に砂粒が目立つ、無文だが、制作時のものか表面にやや不規則な凹凸が見られる。	弥生
----------------	---	----	----	--	----	------------------	--	----

7-40号土坑

第113図 PL.70	1	甕	胴部		覆土	石英粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	無文、表面に砂粒の移動痕。	弥生
----------------	---	---	----	--	----	------------------	---------------	----

7-48号土坑

第117図 PL.70	1	甕	口縁部		覆土	砂粒/にぶい灰黄褐色/良	口唇部折り返されてやや肥厚、内側に沈線、器面には縦位に粗い細沈線見られる。	弥生
第117図 PL.70	2	甕	胴部		覆土	微砂粒/にぶい灰黄褐色/良	無文、器面やや風化見られる。	弥生
第117図 PL.70	3	甕	胴部		覆土	砂粒少/にぶい灰黄褐色/良	無文。	弥生

7-49号土坑

第118図 PL.70	1	甕	胴部		覆土	石英粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	縦位の条痕文。	弥生
第118図 PL.70	2	甕	底部	低:(5.0)	覆土	砂粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	無文、体部はやや外反気味に立ち上がる。	弥生か

7-52号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第119図 PL.71	1	甗	口縁部	覆土	砂粒少・金雲母粒/暗茶褐色/良	口縁部に小波状突起、口縁部は外反、肩部以下に縄文施文。口縁部外面研磨。	弥生
第119図 PL.71	2	甗	口縁部	覆土	精製/にぶい灰茶褐色/良	やや外反する丸みを持った波頂部分、口縁に沿って2条の沈線巡り、下位には横位沈線か。器内外面ともに丁寧な研磨見られる。極めて堅致。	弥生
第119図 PL.71	3	甗	胴部	覆土	石英粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	縦位条痕文。	弥生か
第119図 PL.71	4	甗	胴部	覆土	砂粒・石英粒/暗茶褐色/良	縦位条痕文。	弥生
第119図 PL.71	5	甗	胴部	覆土	砂粒少/茶褐色/良	縄文施文。	弥生
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第119図 PL.71	6	石錐	覆土	完形	3.0 1.5 0.4 1.6	つまみ部、錐部ともにやや偏平、つまみ部は丸みを持つ。	頁岩

7-55号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第120図 PL.71	1	甗	胴部	覆土	石英粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	縦位条痕文。	弥生

7-56号土坑

第120図 PL.71	1	甗	胴部	覆土	砂粒少/黒茶褐色/良	縄文施文。	弥生
第120図 PL.71	2	甗	胴部	覆土	石英粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	縦位条痕文。	弥生
第120図 PL.71	3	甗	胴部	覆土	石英粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	縦位条痕文。	弥生

7-58号土坑

第120図 PL.71	1	甗	胴部	覆土	微砂粒少/黒褐色/良	磨り消し縄文。	弥生
----------------	---	---	----	----	------------	---------	----

7-59号土坑

第121図 PL.71	1	甗	胴部	覆土	石英粒・雲母粒/にぶい茶褐色/良	縦位条痕文。	弥生
----------------	---	---	----	----	------------------	--------	----

7-63号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	出土位置	器種・部位・残存	①胎土 ②色調	特 徴 ・ そ の 他	備 考
第122図 PL.71	1	7-63土	在地土器 内耳土器 胴部片	①良好。燻し。細砂粒少 ②にぶい黄褐	内外面横撫で。外面器表は黒色	中世

7-71号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第123図 PL.71	1	深鉢	口縁部	覆土	砂粒/暗茶褐色/良	肥厚する口縁端部片。	中期後葉
第123図 PL.71	2	深鉢	胴部	覆土	砂粒/明黄褐色/良	条痕文。	弥生

7-74号土坑

第123図 PL.71	1	深鉢	胴部	覆土	微石英粒/にぶい灰褐色/良	沈線による曲線文様描く。薄手で硬質、内外面の研磨顕著。	後期か
第123図 PL.71	2	深鉢	胴部	覆土	微石英粒/にぶい茶褐色/良	縦位の条痕文。	弥生か

7-75号土坑

第123図 PL.71	1	深鉢	胴部	覆土	微石英粒/にぶい灰黄褐色/良	無文、器面研磨、一部剥離見られ、部分的に煤が付着。	後期か
----------------	---	----	----	----	----------------	---------------------------	-----

7-77号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第124図 PL.71	1	深鉢	胴部		覆土	微石英粒/にぶい暗褐色/良	無文胴部片。	後期

7-79号土坑

第125図 PL.71	1	深鉢	口縁部		覆土	石英粒・長石粒/にぶい褐色/良	連続の刻みを有す隆帯で曲線文描くか、地文には燃糸文Lが施文される。	中期後葉 古
----------------	---	----	-----	--	----	-----------------	-----------------------------------	-----------

7-87号土坑

第126図 PL.71	1	甗	胴部		覆土	石英粒/にぶい黒茶褐色/良	無文、器外面に煤付着。	弥生か
第126図 PL.71	2	深鉢	底部		覆土	微石英粒/にぶい灰黄褐色/良	底部片、条痕施文。底部角が丸く、すり減る。	弥生

7-88号土坑

第127図 PL.71	1	甗	胴部		覆土	石英・長石粒多/にぶい暗褐色/良	縦位条痕文。	弥生
第127図 PL.71	2	甗	胴部		覆土	微砂粒/にぶい暗黄褐色/良	縦位条痕文。	弥生

7-89号土坑

第127図 PL.71	1	甗	胴部		覆土	微砂粒/にぶい明黄褐色/良	細縄文施文。	弥生
----------------	---	---	----	--	----	---------------	--------	----

7-90号土坑

第128図 PL.71	1	甗	胴部		覆土	微砂粒/にぶい暗黄褐色/良	縦位条痕文。	弥生
----------------	---	---	----	--	----	---------------	--------	----

7-95号土坑

第128図 PL.71	1	深鉢	口縁部		覆土	微砂・金雲母粒、/にぶい暗褐色/良	口縁部に隆帯巡る、以下縦位の隆帯に沿い縦位、斜位の沈線が見られる。	中期後葉
第128図 PL.71	2	深鉢	口縁部		覆土	石英粒・長石粒/にぶい暗赤褐色/良	瘤状に突起する隆帯結合部分か。	中期後葉

7-96号土坑

第129図 PL.71	1	深鉢	口縁部		覆土	微石英粒/にぶい灰黄褐色/良	大型土器。口縁部横位沈線を巡らし無文部を画す、以下沈線による \cap 状文、蕨手懸垂文を配す。 \cap 状文内は縄文LRを充填施文。	中期後葉
第129図 PL.71	2	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい茶褐色/良	無文か器面の風化顕著で不鮮明。	中期後葉
第129図 PL.71	3	深鉢	底部	低：(6.0)	覆土	砂粒/にぶい茶褐色/良	やや小振りの底部片。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特徴	石材	
第129図 PL.71	4	打製石斧	覆土	完	12.0 5.7 2.0 179.7	撥型打製石斧、刃部やや薄手で片面に自然面残す。両側縁が僅かに抉れる。	頁岩	

7-97号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第129図 PL.71	1	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい茶褐色/普通	隆帯による楕円文様構成か、文様区画内に縄文充填施文。隆帯部分剥離有り。	中期後葉
第129図 PL.71	2	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい黄褐色/普通	沈線による区画文部分か、縄文LRが施文される。	中期後葉
第129図 PL.71	3	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい褐色/普通	沈線か、器面の風化顕著で不鮮明。	中期か

7-100号土坑

第130図 PL.71	1	深鉢	胴部		覆土	砂粒/にぶい灰褐色/良	縄文、沈線見られる。	中期後葉
----------------	---	----	----	--	----	-------------	------------	------

7-104号土坑

第131図 PL.71	1	深鉢	底部		覆土	砂粒少/にぶい灰黄褐色/良	底部片、底面に細沈線見られる。灰色の付着物有り。	中期か
----------------	---	----	----	--	----	---------------	--------------------------	-----

7-105号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第132図 PL.71	1	甗	口縁部	覆土	微砂粒/にぶい暗黒褐色/良	口縁部に小突起有し、突起上部から沈線が始まり、口縁に沿って巡る。以下細縄文施文か。器面やや風化。	弥生
第132図 PL.71	2	甗	口縁部	覆土	微砂粒/にぶい灰褐色/良	口縁部に小突起有し、口縁部に沈線で画したやや肥厚する縄文帯が巡る。	弥生
第132図 PL.71	3	甗	口縁部	覆土	石英粒・長石粒/にぶい暗黒褐色/良	短くやや外傾する口縁、斜位方向に条痕文。	弥生
第132図 PL.71	4	甗	口縁部	覆土	砂粒/にぶい黄褐色/良	無文の口縁部片、口唇部角頭状。	弥生
第132図 PL.71	5	甗	口縁部	覆土	石英粒・長石粒/にぶい暗茶褐色/良	短くやや外傾する口縁、斜位方向に条痕文。6と同一個体。	弥生
第132図 PL.71	6	甗	胴部	覆土	砂粒・小礫/にぶい灰黄褐色/良	条痕文。	弥生
第132図 PL.71	7	甗	胴部	覆土	砂粒少/にぶい灰白黄色/良	横位条痕文。	弥生
第132図 PL.71	8	甗	胴部	覆土	砂粒/にぶい黄褐色/良	条痕文。	弥生
第132図 PL.71	9	甗	胴部	覆土	微砂粒/にぶい暗黒褐色/良	細縄文。	弥生
第132図 PL.71	10	甗	胴部	覆土	微砂粒/にぶい暗黒褐色/良	条痕文。	弥生
第132図 PL.71	11	甗	胴部	覆土	微砂粒/にぶい暗黒褐色/良	細縄文。	弥生
第132図 PL.71	12	甗	胴部	覆土	石英粒/暗黒褐色/良	斜位の条痕文、下位に横位の条痕文。	弥生
第132図 PL.71	13	甗	胴部	覆土	微砂粒/にぶい暗黒褐色/良	細縄文。	弥生
第132図 PL.71	14	甗	胴部	覆土	砂粒/にぶい黄褐色/良	条痕文。	弥生
第132図 PL.71	15	甗	胴部	覆土	砂粒/にぶい黄褐色/良	条痕文。	弥生
第132図 PL.71	16	甗	胴部	覆土	微砂粒/にぶい暗黒褐色/良	沈線、細縄文。	弥生
第132図 PL.71	17	甗	底部 低:(7.2)	覆土	砂粒/にぶい褐色/良	無文の底部片、底面に木葉痕か。	弥生
第132図 PL.71	18	甗	底部 低:(9.8)	覆土	微砂粒/暗褐色/良	条痕文。	弥生

7-107号土坑

第133図 PL.71	1	甗	胴部	覆土	微砂粒/茶褐色/良	条痕文。	弥生
----------------	---	---	----	----	-----------	------	----

8-10号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第135図 PL.72	1	剥片石器	覆土	完形	11.9 7.1 2.3 243.4	大型で三角形の石片を利用、直線的な一側縁部に粗い刃部を作出。上端部に自然面見られる。	粗粒輝石 安山岩

8-11号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第136図 PL.72	1	深鉢	胴部	覆土	微砂粒/にぶい褐色/良	T状に隆帯、交点部分に円形押圧文。器内面部分剥離。	後期初頭
第136図 PL.72	2	深鉢	胴部	覆土	微砂粒/にぶい褐色/良	無文、器面研磨。	後期初頭

8-12号土坑

第136図 PL.72	1	深鉢	口縁部	覆土	微砂粒/にぶい褐色/良	口縁端部角頭状、隆帯で口縁無文帯を画す。器面研磨。	後期初頭
----------------	---	----	-----	----	-------------	---------------------------	------

8-13号土坑

第56図 PL.60	1	深鉢	胴部	覆土	微砂粒/にぶい褐色/良	隆帯が付されるが剥落。器面研磨。	後期初頭
---------------	---	----	----	----	-------------	------------------	------

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第56図 PL.60	2	甗	胴部		覆土	砂粒/にぶい黄褐色/良	条痕文。	弥生

8-15号土坑

第137図 PL.72	1	深鉢	胴部		覆土	微砂粒/にぶい黄褐色/良	隆帯を境に無文部と縄文部見られる。	後期初頭
----------------	---	----	----	--	----	--------------	-------------------	------

15-38号土坑

第59図 PL.60	1	深鉢	胴部		覆土	微砂粒/にぶい橙褐色/良	無文。	後期
第59図 PL.60	2	深鉢	胴部		覆土	長石粒/にぶい暗橙褐色/良	無文。	後期前葉

15-39号土坑

第60図 PL.60	1	深鉢	胴～底部	低:(12.4)	+11～14	石英粒・長石粒/にぶい橙褐色/良	底部片、底面に網代痕。内面に煤付着。	後期
---------------	---	----	------	----------	--------	------------------	--------------------	----

15-44号土坑

第60図 PL.60	1	深鉢	胴部		+27	長石粒/にぶい橙褐色/良	粗く条痕状の沈線。	後期か
第60図 PL.60	2	深鉢	胴部		+27	砂粒・褐色粒/にぶい暗黒褐色/良	無文。器面研磨。	後期前葉

15-72号土坑

第62図 PL.61	1	深鉢	胴部		覆土	砂粒・長石粒/にぶい橙褐色/良	垂下沈線文、縄文RLが縦位施文される。	中期後葉
---------------	---	----	----	--	----	-----------------	---------------------	------

15-73号土坑

第63図 PL.61	1	深鉢	口縁～胴部	口:(23.4)	+4～16	砂粒・褐色粒/にぶい暗褐色/良	口縁部に一對の刺突文有す突起、内面に2条の沈線巡る。外面は沈線による幅広の無文部画し、以下沈線で横位縄文帯を構成。縄文は横位LR。器面研磨。	後期前葉
第63図 PL.61	2	深鉢	口縁部		+11	砂粒・褐色粒/にぶい暗黒褐色/良	僅かに内傾する口縁部片、内面に横位の連続刺突文配し下位には横位沈線が巡る。器面には横位沈線と縄文施文。口唇部に斜めの連続刻み有す。	後期前葉
第63図 PL.61	3	深鉢	胴部		+11	砂粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	縄文施文後、沈線により幾何学紋様を構成か。縄文はLR。15-80土-1と同一個体。	後期前葉
第63図 PL.61	4	深鉢	口縁部		+11	砂粒・褐色粒/にぶい暗褐色/良	口縁部、上端面および内面に3条の沈線巡る。幅広の無文部画し、以下沈線で横位縄文帯を構成。縄文は横位LR。器面研磨。	後期前葉 1と同一個体
第63図 PL.61	5	深鉢	胴部		底	砂粒・褐色粒/にぶい暗黒褐色/良	横位沈線巡り、縄文LRが横位施文される。器面研磨。	後期前葉
第63図 PL.61	6	深鉢	胴部		底	砂粒・褐色粒/にぶい暗黒褐色/良	横位沈線巡り、縄文LRが横位施文される。器面研磨。	後期前葉
第63図 PL.61	7	深鉢	胴部		+9	砂粒・褐色粒/にぶい褐色/良	条痕状の器面調整。	後期か
第63図 PL.61	8	深鉢	胴部		+16～20	砂粒・褐色粒/にぶい橙褐色/良	無文。	後期前葉
第63図 PL.61	9	深鉢	胴部		+11	砂粒・褐色粒/にぶい灰褐色/良	無文、外反する頸部部分か。	後期前葉

15-80号土坑

第64図 PL.61	1	深鉢	胴部		覆土	砂粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	縄文施文後、沈線により幾何学紋様を構成か。縄文はLR。上位に端沈線文。	後期前葉
---------------	---	----	----	--	----	-----------------	-------------------------------------	------

15-82号土坑

第64図 PL.61	1	深鉢	口縁部		覆土	微石英粒・長石粒/暗黒褐色/良	2本単位の横位沈線で無文帯を画す。	後期前葉
---------------	---	----	-----	--	----	-----------------	-------------------	------

15-86号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第64図 PL.61	1	石鏃	覆土	ほぼ完形	(1.8) 1.5 0.3 (0.5)	凹基無茎、脚部僅かに外に開く	黒曜石

96-12号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第66図 PL.61	1	深鉢	胴部		+ 5	長石・石英粒/褐色/良	無文、器面に撫で痕。内面に煤付着。	中期後葉
第66図 PL.61	2	深鉢	胴部		+ 1	長石粒/灰褐色/良	無文、器表面は風化、内面研磨。	中期後葉
第66図 PL.61	3	深鉢	胴部		+ 9	長石・石英粒/暗褐色/良	低隆帯による曲線文描くか。器面に剥離。	中期後葉

96-14号土坑

第67図 PL.61	1	深鉢	胴部		覆土	長石粒・金雲母/明茶褐色/良	縦位の隆帯に斜位の集合沈線文。	中期後葉
第67図 PL.61	2	深鉢	胴部		覆土	長石粒・金雲母/明茶褐色/良	隆帯による曲線文内に重弧状沈線文描く。	中期後葉

96-17号土坑

第139図 PL.72	1	深鉢	胴部		覆土	長石粒少/明黄褐色/普通	縄文施文か、全体に摩滅が顕著。	中期後葉 か
----------------	---	----	----	--	----	--------------	-----------------	-----------

96-18号土坑

第67図 PL.61	1	深鉢	胴部		覆土	長石粒少/明黄褐色/良	2本の垂下沈線により無文帯を画す、縄文部分には沈線により波状の懸垂文描く。縄文はR L縦位。	中期後葉
第67図 PL.61	2	深鉢	胴部		覆土	長石粒少/明黄褐色/良	隆帯による曲線文様描き、間隙には重弧状文。	中期後葉
第67図 PL.61	3	深鉢	胴部		+ 6	長石粒少/明黄褐色/良	低隆帯と浅い沈線により曲線文様を構成か。内面研磨。	中期後葉
第67図 PL.61	4	深鉢	胴部		覆土	砂粒少/明茶褐色/良	縄文L R施文。	中期後葉

96-20号土坑

第139図 PL.72	1	深鉢	口縁部		覆土	石英粒少/にぶい褐色/良	口縁部に隆帯による楕円渦巻き文様を構成か。区画内には縄文が僅かに看取される。	中期後葉
第139図 PL.72	2	深鉢	口縁部		覆土	石英粒少/にぶい灰黒褐色/良	僅かに内湾する、無文で器面研磨。	後期か
第139図 PL.72	3	深鉢	口縁部		覆土	石英粒少/にぶい褐色/良	波頂部片。無文。	中期後葉
第139図 PL.72	4	深鉢	口縁部		覆土	砂粒少/にぶい黄褐色/良	口縁部下に沈線文巡るか。	後期前葉
第139図 PL.72	5	深鉢	口縁部		覆土	石英粒少/にぶい黄褐色/普通	口縁部片、沈線による曲線文描くか、器面風化。	後期初頭
第139図 PL.72	6	深鉢	口縁部		覆土	石英粒少/にぶい褐色/良	横位の隆帯。	中期後葉
第139図 PL.72	7	深鉢	口縁部		覆土	石英粒少/にぶい褐色/良	隆帯による口縁部文様の一部か。文様の連結部分。	中期後葉
第139図 PL.72	8	深鉢	口縁部		覆土	石英・長石粒/にぶい茶褐色/普通	口縁部か、器表面が剥落。	中期後葉 か
第139図 PL.72	9	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒/にぶい黄茶褐色/良	沈線による曲線文描く。器面荒れている。	中期後葉
第139図 PL.72	10	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒/にぶい暗褐色/普通	縦位矢羽根状の集合沈線文。	中期後葉
第139図 PL.72	11	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒/にぶい黄茶褐色/普通	無文、器面の風化顕著。	中期後葉
第139図 PL.72	12	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒/にぶい橙褐色/普通	断面三角の横位隆帯巡る。	中期後葉
第139図 PL.72	13	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒/にぶい灰褐色/普通	無文、器面風化。	中期後葉 か
第139図 PL.72	14	深鉢	胴部		覆土	石英粒少/にぶい茶褐色/良	厚手土器、隆帯部分的に剥落か。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特徴	石材	
第139図 PL.72	15	石鏃	覆土	未製品	(2.1) (2.1) 0.4 (1.2)	製作途中欠損か。	黒曜石	
第139図 PL.72	16	打製石斧	覆土	欠損	(8.5) 5.8 1.5 (125.4)	板状礫利用、やや幅広で両面に自然面残る。	粗粒輝石 安山岩	

96-21号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第140図 PL.72	1	深鉢	胴部	覆土	石英・長石粒/にぶい灰褐色/普通	縦位の隆帯。	中期後葉

96-25号土坑

第68図 PL.61	1	深鉢	胴部	覆土	石英・長石粒/にぶい灰黒褐色/良	無文、器面研磨。	後期前葉
---------------	---	----	----	----	------------------	----------	------

96-27号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	出土位置	器種・部位・残存	①胎土 ②色調	特 徴 ・ そ の 他	備 考
第140図 PL.72	1	96-27土	染付 碗 胴～高台部片	①良好 ②灰白	高台内崩れた銘あり。波佐見系。底径(3.8)cm	18c中～後半

96-36号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第70図 PL.61	1	深鉢	胴部	覆土	石英・長石粒/茶褐色/良	垂下隆帯と縦位の集合沈線文。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重(g)	特 徴	石 材
第70図 PL.61	2	磨石	+19	欠損	(17.0) 8.0 7.0 (1,404.9)	短い大型の棒状礫、両端部分欠く。被熱によるひび割れが顕著。	粗粒輝石 安山岩

96-37号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第71図 PL.61	1	深鉢	胴部	覆土	石英・長石粒少/にぶい茶褐色/良	隆帯による曲線文様描き、地には縄文RLが施文される。	中期後葉
第71図 PL.61	2	深鉢	胴部	覆土	石英・長石粒少/にぶい茶褐色/良	竹管による並行懸垂文描き、中には波状の沈線文か、左右にも沈線文が延びる。	後期前葉
第71図 PL.61	3	深鉢	胴部	覆土	石英・長石粒/黒褐色/良	無文、器面研磨。	後期前葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重(g)	特 徴	石 材
第71図 PL.61	4	磨石	覆土	ほぼ完形	13.0 9.8 4.8 954.2	偏平な礫を利用、両面を磨り面として使用。	石英閃緑岩

96-43号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第141図 PL.72	1	深鉢	胴部	覆土	石英・長石粒/にぶい灰褐色/良	縄文RL縦位施文、垂下沈線の一部見られる。	中期後葉
第141図 PL.72	2	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/にぶい黄褐色/良	沈線による磨り消し曲線文様。文様間には縄文LRが充填施文。	後期初頭
第141図 PL.72	3	深鉢	胴部	覆土	石英・長石粒/にぶい茶褐色/良	貼り付け隆帯文と縦位の集合沈線文。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	出土位置	器種・部位・残存	①胎土 ②色調	特 徴 ・ そ の 他	備 考	
第141図 PL.72	4	96-43土	磁器 小坏か 口縁～胴部	①良好 ②灰白	口紅。瀬戸美濃系か。口径(6.5)cm	近世以降	
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重(g)	特 徴	石 材
第141図 PL.72	5	石錐	覆土	未製品	2.1 1.2 0.5 0.9	石錐の未製品と見られる。	黒曜石

96-44号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第72図 PL.61	1	深鉢	胴部	覆土	砂粒少/にぶい灰褐色/良	垂下沈線で無文帯を画す、縄文RL縦位施文。	中期後葉

96-46号土坑

第72図 PL.61	1	深鉢	胴部	覆土	微石英粒/茶褐色/良	縄文LRが施文される。	中期後葉
---------------	---	----	----	----	------------	-------------	------

96-50号土坑

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第73図 PL.61	1	深鉢	口縁部		覆土	石英・長石粒/暗褐色/良	ほぼ直立する器形。口唇部に連続刻みを有す。胴部には縄文RLが施文されるが、部分的に無文部が残る。	早期か

4-119号ピット

第142図 PL.72	1	深鉢	胴部		覆土	金雲母粒/暗茶褐色/良	隆帯文と斜位集合沈線文。	中期後葉
----------------	---	----	----	--	----	-------------	--------------	------

4-130号ピット

第143図 PL.72	1	深鉢	胴部		覆土	石英粒/暗褐色/良	縄文LR施文。	中期後葉
----------------	---	----	----	--	----	-----------	---------	------

4-134号ピット

第143図 PL.72	1	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒/暗褐色/良	浅い凹線と縄文LRが見られる。	中期後葉
----------------	---	----	----	--	----	--------------	-----------------	------

7-1号石列

第144図 PL.72	1	深鉢	口縁部		7-1号 石列	砂粒・長石粒/暗茶褐色/良	横位の隆帯下に沿って横位細沈線。以下縄文、渦巻き文施文か。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	出土位置	器種・部位・残存		①胎土 ②色調		特徴・その他	備考
第144図 PL.72	2	7-1号 石列	在地土器 内耳部片	内耳土器	①良好。燻し。細砂粒 少やや多 ②にぶい褐色		口縁端部平坦。外面やや粗い横撫で。外面器表は黒色。内耳部扁平か	中世
第144図 PL.72	3	7-1号 石列	在地土器 胴～底部片	内耳土器	①良好。燻し。細砂粒 含 ②灰黄褐色		内外面横撫で。外面器表は黒褐色。底径(30.0) cm	中世
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重(g)		特徴	石材
第144図 PL.72	4	多孔石	覆土	完形	19.6 15.0 9.6 3.110		大型の長円礫利用、両面に凹み穴を穿つが、片面側は数は少ないが定形で深さがある。	粗粒輝石 安山岩
挿図番号 図版番号	掲載 No.	種類	出土位置	残存	計測値		形態の特徴等	備考
第144図 PL.72	5	古銭	7-1号石列	完形	径 2.55 孔径 0.60 厚さ 0.10 重さ 3.0g		寛永通宝(新寛永)	
第144図 PL.72	6	古銭	7-1号石列	完形	径 2.25 孔径 0.68 厚さ 0.10 重さ 1.7g		寛永通宝(新寛永)	

7-1号石垣

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重(g)		特徴	石材
第146図 PL.72	1	石錐	覆土	欠損	1.6 1.0 0.5 (0.5)		錐の欠損品か。	黒曜石

5-1号ヤックラ

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第147図 PL.72	1	深鉢	胴部		5-1号 ヤックラ	石英・長石粒/にぶい褐色/良	縦位の集合条線文。	中期後葉
第147図 PL.72	2	深鉢	胴部		5-1号 ヤックラ	石英・長石粒/にぶい茶褐色/良	隆帯及び縄文施文。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	出土位置	器種・部位・残存		①胎土 ②色調		特徴・その他	備考
第147図 PL.72	3	5-1号 ヤックラ	陶器	徳利	①良好 ②褐色		錆釉徳利。瀬戸美濃系。底径6.6cm	19c

6-1号ヤックラ

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第148図 PL.72	1	深鉢	胴部		6-1号 ヤックラ	長石粒/にぶい褐色/良	沈線で画す、縦位の磨り消し縄文。	中期後葉
第148図 PL.72	2	深鉢	胴部		6-1号 ヤックラ	石英・長石粒/にぶい褐色/良	縦位沈線で垂下無文帯画す、沈線脇に刺突文か。	中期後葉

6-2号ヤックラ

挿図番号 図版番号	掲載 No.	種類	出土位置	残存	計測値	形態の特徴等	備考
第148図 PL.72	1	古銭	6-2号ヤックラ	完形	径2.25 孔径0.68 厚さ0.09 重さ1.8g	寛永通宝(新寛永)	

96-1号ヤックラ

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値			特徴	石材
					長さ	幅	厚さ(cm)・重(g)		
第149図 PL.72	1	磨石	覆土	欠損	(13.6)	5.4	4.3 (565.4)	棒状礫を利用、表面は平滑で端部に打痕見られる。	黒色頁岩
第149図 PL.72	2	凹石	覆土	完形	13.0	11.7	5.5 750	不定型な自然礫の両面に、やや大きな凹み穴を有す。	粗粒輝石 安山岩
第149図 PL.73	3	石皿	覆土	欠損品	(12.6)	(17.3)	8.3 (2,080)	石皿片、楕円形石皿の手前開口部分と見られる。	粗粒輝石 安山岩
第149図 PL.73	4	多孔石	覆土	欠損品	(13.7)	(14.6)	10.4 (3,450)	大型礫利用、片面に複数の浅い凹み穴有し、裏面には敲打面見られる。	粗粒輝石 安山岩
第149図 PL.73	5	石皿	覆土	欠損品	(15.9)	(9.2)	8.4 (1,320)	石皿片、磨り面一部残り、裏面には凹み穴見られる。被熱。	粗粒輝石 安山岩

3区遺構外出土土器

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第74図 PL.62	1	深鉢	口縁部		3トレ	石英・長石粒/黄褐色/良	浅い横位条痕状の調整痕、下部に横位の沈線か。	後期
第74図 PL.62	2	深鉢	胴部		覆土	石英・長石粒/黄褐色/良	地文に縦位捺糸文L施文後、垂下する並行沈線。	中期後葉 古
第74図 PL.62	3	土製円盤	胴部		7トレ	石英・長石粒/黄褐色/良	沈線文。やや不整形。	中期後葉
第74図 PL.62	4	深鉢	突起		7トレ	石英・長石粒/暗茶褐色/良	接合部両側に渦巻き文を有す橋状取手か。	中期後葉
第74図 PL.62	5	深鉢	胴部		7トレ	石英・長石粒/黄褐色/良	縦位捺糸文R施文。	中期後葉 古
第74図 PL.62	6	深鉢	胴部		6トレ	石英・長石粒/黄褐色/良	沈線文による平行磨り消し縄文。	後期前葉

4区遺構外出土土器

第74図 PL.62	1	深鉢	口縁部		覆土	石英・長石粒/暗灰褐色/良	突起状の渦巻き隆帯文。口縁部内側に肥厚。	中期後葉
第74図 PL.62	2	深鉢	口縁部		D-5	石英・長石粒/暗褐色/良	口縁部突起文、垂下隆帯文様。口縁部内側に肥厚。	中期後葉
第74図 PL.62	3	土製円盤	胴部		Q-18	石英・長石粒/暗灰褐色/良	波状口縁、内側肥厚部分に沈線文。	中期後葉
第74図 PL.62	4	深鉢	口縁部		覆土	石英・長石粒/暗茶褐色/良	口縁部に横位沈線。	中期後葉
第74図 PL.62	5	深鉢	口縁部		Q-15	石英・長石粒/暗灰褐色/良	口唇部および口縁部に横位結節沈線文。	中期中葉
第74図 PL.62	6	深鉢	胴部		Q-15	石英・長石粒/暗茶褐色/良	突起状の口縁部か、円孔有す。口縁部に隆帯付され、矢羽根上の短沈線文。	中期後葉
第74図 PL.62	7	深鉢	胴部		Q-15	石英・長石粒/暗茶褐色/良	竹管による渦巻き文、平行線文施文、間に三叉文。	中期後葉
第74図 PL.62	8	深鉢	胴部		Q-13	石英・長石粒/暗茶褐色/良	地文に縄文LR施文、隆帯による曲線文に沈線文が沿い、さらに下位にも沈線による垂下文。	中期後葉
第74図 PL.62	9	深鉢	胴部		Q-16	石英・長石粒/暗茶褐色/良	環状取手部分が欠損、隆線による楕円文構成か、内部に縄文施文。	中期後葉
第74図 PL.62	10	深鉢	胴部		Q-16	石英・長石粒/暗茶褐色/良	隆帯による渦巻き文様構成か。	中期後葉
第74図 PL.62	11	深鉢	胴～底部		Q-15	石英・長石粒/暗茶褐色/良	縄文RL施文後、沈線による4ないし5本単位の垂下文。	中期後葉

5区遺構外出土土器

第74図 PL.62	1	深鉢	口縁部		D-25	石英・長石粒/にぶい黒褐色/良	口縁部内側に横位の連続刺突文と3条の沈線が巡る。外面は沈線で画した、横位の磨り消し縄文。縄文は横位LR。	後期前葉
---------------	---	----	-----	--	------	-----------------	--	------

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第74図 PL.62	2	深鉢	胴部		D-25	石英・長石粒/にぶい黒褐色/良	沈線で画した、横位の磨り消し縄文。縄文は横位LR。内面研磨。	後期前葉
第74図 PL.62	3	深鉢	胴部		E-25	石英・長石粒/にぶい橙褐色/良	斜位の沈線文および縄文施文。	後期前葉

6区遺構外出土土器

第74図 PL.62	1	深鉢	口縁～胴部 口：(19.1)		C-1	石英粒・長石粒/褐色/良	口縁部に2本の沈線巡り、間には連続横位に刻み文。胴部は縄文LRを帯状にやや間隔を開けるように縦位施文。	中期後葉
第74図 PL.62	2	深鉢	口縁部		C-2 D-2	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	口唇部に隆線巡る。2本単位の隆線で弧状文、端部にC状の貼付隆帯文、ここからも1本の垂下隆線が延びる。他には縦位の集合沈線。	中期後葉
第74図 PL.62	3	深鉢	口縁部		F-21	石英・長石粒/にぶい黒茶褐色/良	2本単位の隆帯で楕円渦巻き文様を構成する口縁部文様帯、隆帯脇に沈線が沿う、文様内には縄文RLが横位充填施文。下位横位隆帯と文様を連結する2本の隆帯見られる。	中期後葉 古
第74図 PL.62	4	深鉢	口縁部		6溝	石英・長石粒/にぶい淡黄褐色/良	頸部から口縁にかけ外傾、口縁端部は直立して肥厚、隆帯による一對の円形文。	後期前葉
第74図 PL.62	5	深鉢	口縁部		D-1	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	隆帯による口縁部文様帯構成、楕円文、捻り文。楕円文内には刺突文を充填施文。	中期後葉
第74図 PL.62	6	深鉢	口縁部		D-2	石英粒・長石粒/淡褐色/良	突起状の口縁部片、一對の楕円形透かし孔有す。口縁上端部は隆帯による渦巻き文様。	後期前葉
第74図 PL.62	7	深鉢	突起		I-17	砂粒/橙褐色/良	橋状取手部分か。	中期後葉
第75図 PL.62	8	深鉢	突起		C-3	白色粒・砂粒/黒褐色/良	平坦な上端部に渦巻き文有す取手部分、外面には隆帯で渦巻き文様を構成。	中期後葉
第75図 PL.62	9	深鉢	口縁部		G-1	白色砂粒/暗茶褐色/良	橋状取手から突起部分に続く渦巻き文様。	中期後葉
第75図 PL.62	10	深鉢	口縁部		H-14	白色粒・砂粒/黄褐色/良	口縁部に付く橋状取手、上端部に刺突文、沈線文。取手から左右につながって隆帯が延びる。	後期前葉
第75図 PL.62	11	深鉢	突起		G-13	白色粒・砂粒/にぶい褐色/良	上端部が渦巻き状に成形されるが、やや平坦を為す口縁突起部。	後期初頭
第75図 PL.62	12	深鉢	口縁部		C-2	石英粒・長石粒/暗黒茶褐色/良	波頂部から口縁に沿って隆帯と沈線。	後期
第75図 PL.62	13	深鉢	口縁部		F-13	砂粒/にぶい灰黄褐色/普通	口縁部隆帯文様の端部渦巻き文。	中期後葉
第75図 PL.62	14	深鉢	口縁部		D-3	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	断面台形の隆帯で曲線文様を構成か。器面研磨。	中期後葉
第75図 PL.62	15	深鉢	突起		G-15	石英・長石粒/黄茶褐色/良	口縁突起部片、やや広がった上端部は僅かに凹む。左右に隆帯が垂下し間には縄文が施文される。	後期初頭
第75図 PL.62	16	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/暗淡褐色/良	口縁部に巡る横位隆帯から垂下隆帯延び、縄文充填文様を構成。縄文はLR縦位。	中期末葉
第75図 PL.62	17	深鉢	口縁部		D-21	石英・長石粒/にぶい茶褐色/良	隆帯による楕円文様を構成か、区画内には縄文施文。	中期後葉
第75図 PL.62	18	深鉢	口縁部		D-1	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	口縁はやや内湾する。横位の隆帯、以下隆帯、沈線で文様を構成か。縄文はRL横位施文。	中期後葉
第75図 PL.62	19	深鉢	口縁部		C-1	砂粒/淡橙黄褐色/良	口縁下に横位沈線、以下縄文RL横位施文。	中期後葉
第75図 PL.62	20	深鉢	口縁部		F-3	石英粒・長石粒/暗褐色/良	隆帯と凹線による楕円文様、縄文充填施文。	中期後葉
第75図 PL.62	21	深鉢	口縁部		6溝	石英・長石粒/にぶい茶褐色/良	口縁波頂部片、縄文RL施文後、左右から対向する沈線によるU状文描く。	後期初頭
第75図 PL.62	22	深鉢	口縁部		C-1	石英粒・長石粒/暗黒茶褐色/良	波状口縁、口縁部無文帯画し、以下胴部には縄文、沈線で曲線文様描く磨り消し文。	後期初頭
第75図 PL.62	23	深鉢	口縁部		F-14	石英・長石粒/にぶい茶褐色/良	口縁に横位沈線、以下縄文LR横位施文。	後期
第75図 PL.62	24	深鉢	口縁部		6溝	石英・長石粒/にぶい黒褐色/良	隆帯による渦巻き文構成、縄文LR横位施文。	中期後葉
第75図 PL.62	25	深鉢	口縁部		D-4	石英粒・長石粒/にぶい暗褐色/良	口縁下に隆線巡り無文帯を画し、以下縄文施文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第75図 PL.62	26	深鉢	口縁部		C-2	石英粒・長石粒/にぶい 暗褐色/良	口縁下に横位沈線、以下縄文施文。沈線による 蕨手垂下文か。	中期後葉
第75図 PL.62	27	深鉢	口縁部		C-2	石英粒・長石粒/黒褐色 /良	小波状口縁部、横位の沈線で画された縄文。	後期初頭
第75図 PL.62	28	深鉢	口縁部		J-15	石英粒・長石粒少/暗茶 褐色/良	縄文施文の口縁部。	中期後葉
第75図 PL.62	29	深鉢	口縁部		F-13	石英粒・長石粒/黒褐色 /良	肥厚した波状口縁部片、沈線で画された縄文 帯。	後期初頭
第75図 PL.62	30	深鉢	口縁部		D-2	石英粒・長石粒/にぶい 暗褐色/良	口縁下に横位沈線、以下縄文施文。口縁上端 部に沈線。	後期初頭
第75図 PL.62	31	深鉢	口縁部		J-14	石英粒・長石粒少/黒褐 色/良	口縁部内側肥厚、縦位の集合条線文。	中期後葉
第75図 PL.62	32	深鉢	口縁部		6溝	石英・長石粒/にぶい暗 褐色/良	口唇部は内削ぎ状、縦位の集合条線文。	中期後葉
第75図 PL.62	33	深鉢	口縁部		G-13	石英粒・金雲母粒/黒褐 色/良	口唇部から縦位の複数沈線。	中期後葉
第75図 PL.62	34	深鉢	口縁部		D-4	石英粒・長石粒/暗淡褐 色/良	丸く肥厚した口唇部、横位凹線巡り、以下斜 位の細条線文施文。	中期後葉
第75図 PL.62	35	深鉢	口縁部		D-22	砂粒/にぶい灰黄褐色/ 良	口唇端部が尖る。横位沈線、以下斜位の集合 沈線見られる。	中期後葉
第75図 PL.63	36	深鉢	口縁部		I-21	石英・長石粒/にぶい暗 褐色/良	口縁部浅い凹線下に隆帯巡る、以下縦位の集 合沈線文。	中期後葉
第75図 PL.63	37	深鉢	口縁部		D-16	石英・長石粒/にぶい暗 茶褐色/良	口唇端部は広がり上面に斜位の連続沈線文、 外面は沈線による連続重弧状文を沈線で描く。	中期後葉
第75図 PL.63	38	深鉢	口縁部		C-3	石英粒・金雲母粒/暗褐 色/良	口唇部内側に肥厚、斜位集合沈線文。	中期後葉
第75図 PL.63	39	深鉢	口縁部		D-19	石英粒・長石粒/灰黄褐 色/良	内屈し、口縁端部は外反、円形刺突文、沈線 文見られる。	後期初頭
第75図 PL.63	40	深鉢	口縁部		G-13	細砂粒/灰黄褐色/良	内屈部分に隆帯巡り、以下横位の連続円形刺 突文。	後期初頭
第75図 PL.63	41	深鉢	口縁部		D-3	砂粒/茶褐色/良	口縁部から押圧文有す隆帯垂下、上端部には 円形文。	中期後葉
第75図 PL.63	42	深鉢	口縁部		D-3	石英粒・金雲母粒/暗茶 褐色/良	口縁部に円孔、刺突文、弧状沈線で弧状文描 くか。	後期前葉
第75図 PL.63	43	深鉢	口縁部		D-3	微石英粒・長石粒/にぶ い淡灰褐色/良	口縁部下、横位の低隆帯上に斜位の連続短沈 線文施文。	後期前葉
第75図 PL.63	44	深鉢	口縁部		E-18	石英粒・長石粒/茶褐色 /良	口縁下に横位の隆帯。	後期
第75図 PL.63	45	深鉢	口縁部		F-13	石英粒・長石粒/茶褐色 /良	くの字に内屈した口縁部片、屈曲部には連続 刻み文。	後期初頭
第75図 PL.63	46	深鉢	口縁部		D-3	微石英粒・長石粒/にぶ い淡灰褐色/良	口縁下横位沈線を挟み、矢羽根状に連続の押 圧文施文。	後期前葉
第75図 PL.63	47	深鉢	口縁部		D-4	微石英粒・長石粒/にぶ い淡灰褐色/良	無文口縁部片。	後期
第76図 PL.63	48	深鉢	口縁部		F-13	石英・長石粒/にぶい褐 色/良	口縁下に円形文が付された横位の隆帯巡る。	後期初頭
第76図 PL.63	49	深鉢	口縁部		D-3	石英粒・長石粒/暗灰黄 褐色/良	押圧文有す横位隆帯。	後期初頭
第76図 PL.63	50	深鉢	口縁部		D-3	微砂粒・金雲母粒/暗黒 褐色/良	横位隆帯、器面研磨。	後期初頭
第76図 PL.63	51	深鉢	口縁部		F-14	石英粒/にぶい黒褐色/ 良	口縁に横位の隆帯。	後期
第76図 PL.63	52	深鉢	口縁部		F-13	石英粒少/にぶい黒褐色 /良	口縁部短く屈曲し、内外面に隆帯、沈線巡る。	後期前葉
第76図 PL.63	53	深鉢	口縁部		G-13	石英粒・長石粒少/黄褐 色/良	細縄文施文後、沈線による横位文様。	後期初頭
第76図 PL.63	54	深鉢	口縁部		C-3	石英粒・長石粒少/暗茶 褐色/良	僅かに外反した口縁下に沈線見られる。	後期初頭
第76図 PL.63	55	深鉢	口縁部		D-3	微石英粒・長石粒/茶褐 色/良	口縁くの字に折れ、横位沈線巡る。	後期前葉
第76図 PL.63	56	深鉢	口縁部		D-1	微石英粒・長石粒/淡黄 褐色/良	口縁部に横位沈線。	後期前葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第76図 PL.63	57	深鉢	口縁部		F-1	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	口縁部くの字に内屈、端部に横位の沈線巡る。	後期前葉
第76図 PL.63	58	深鉢	口縁部		D-3	微石英粒・長石粒/黒褐色/良	口縁部の字に折れ、浅い横位沈線巡る。	後期前葉
第76図 PL.63	59	深鉢	口縁部		I-3	石英粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	口縁部に隆帯及び沈線巡る。	後期前半
第76図 PL.63	60	深鉢	口縁部		D-3	微粒/黒褐色/良	肥厚した口縁部に沈線、円形文。	後期前葉
第76図 PL.63	61	深鉢	口縁部		C-3	砂粒少/灰黒褐色/良	内屈し、一部が高まった口縁部に2つの刺突文、横位に沈線。	後期前葉
第76図 PL.63	62	深鉢	口縁部		F-3	微石英粒・長石粒/黒褐色/良	口縁上に沈線、円形刺突文。	後期前葉
第76図 PL.63	63	深鉢	口縁部		F-13	石英粒・長石粒少/黒褐色/良	口縁下に横位に沈線と低隆帯。器面研磨。	後期
第76図 PL.63	64	深鉢	口縁部		D-3	砂粒/淡橙黄褐色/普通	口縁下に横位沈線。	中期後葉
第76図 PL.63	65	深鉢	口縁部		D-3	微石英粒・長石粒/にぶい淡黄褐色/良	口縁下に浅い斜位の沈線。	後期
第76図 PL.63	66	深鉢	口縁部		D-4	石英粒・長石粒/淡灰黄褐色/良	押圧文と沈線見られる。	中期後葉
第76図 PL.63	67	深鉢	口縁部		D-2	石英粒・長石粒/暗灰黄褐色/良	横位沈線。	後期初頭
第76図 PL.63	68	深鉢	口縁部		F-13	砂粒少/茶褐色/良	横位並行沈線。	後期前葉
第76図 PL.63	69	深鉢	口縁部		G-13	石英粒・長石粒少/暗黄褐色/良	口縁内面に刺突文と横位の沈線、外面は沈線で画した縄文見られる。	後期
第76図 PL.63	70	深鉢	口縁部		D-4	石英粒・長石粒/灰黒褐色/良	口縁部肥厚。	後期
第76図 PL.63	71	深鉢	口縁部		D-1	微石英粒・長石粒/にぶい淡灰褐色/良	無文口縁部片、内外面研磨。	後期前半
第76図 PL.63	72	深鉢	突起		C-3	砂粒/橙褐色/良	両面に隆帯による端部渦巻き小垂下文。左右には沈線による矢羽根状文。	中期後葉
第76図 PL.63	73	深鉢	口縁部		L-15	石英・長石粒/にぶい灰茶褐色/良	口縁部に瘤状突起。	後期
第76図 PL.63	74	深鉢	口縁部		G-13	石英・長石粒/にぶい褐色/良	口縁部浅い凹線巡る。以下無文。	後期
第76図 PL.63	75	深鉢	口縁部		F-13	石英・長石粒/にぶい茶褐色/良	口縁端部が尖る。無文。	後期
第76図 PL.63	76	深鉢	口縁部		J-14	石英・長石粒/にぶい灰茶褐色/良	横位の隆帯。	中期
第76図 PL.63	77	深鉢	口縁部		K-13	赤色粒・長石粒/にぶい淡褐色/良	やや外反する無文の口縁部片。	後期
第76図 PL.63	78	深鉢	口縁部		G-1	白色砂粒・金雲母粒/暗茶褐色/良	無文。器面剥離。	後期
第76図 PL.63	79	深鉢	口縁部		F-13	石英粒/にぶい黒褐色/良	口縁部やや薄手で横位の隆帯か。	後期
第76図 PL.63	80	深鉢	口縁部		D-3	砂粒/にぶい淡茶褐色/良	口縁内側に肥厚、無文。器面に剥離。	中期
第76図 PL.63	81	深鉢	口縁部		L-13	砂粒/にぶい黄褐色/普通	口縁肥厚端部片。	中期後葉
第76図 PL.63	82	深鉢	口縁部		D-3	微砂粒/淡黄褐色/良	口縁部内面僅かに肥厚、無文。	後期
第76図 PL.63	83	深鉢	口縁部		C-2	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	やや内湾する。無文。	中期後葉
第76図 PL.63	84	深鉢	口縁部		G-15	砂粒少/にぶい茶褐色/良	無文。	後期
第76図 PL.63	85	深鉢	口縁部		D-1	微砂粒・金雲母粒/暗茶褐色/良	無文。	中期後葉
第76図 PL.63	86	深鉢	口縁部		F-22	白色粒・砂粒/黒褐色/良	口唇部肥厚した口縁部片、内外面研磨。	中期後葉
第77図 PL.63	87	深鉢	口縁部		C-3	細砂粒/灰黄褐色/良	くの字に内屈する口縁部片、無文。	後期初頭

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第77図 PL.63	88	深鉢	口縁部		6溝	石英・長石粒/にぶい暗褐色/良	無文口縁部片、外面部分的に剥離。	中期後葉
第77図 PL.63	89	深鉢	口縁部		D-4	微石英粒・長石粒/にぶい淡黄褐色/良	口縁内面に横位沈線か。器面風化。	後期
第77図 PL.63	90	深鉢	口縁部		D-3	微石英粒・長石粒/にぶい黄褐色/良	口縁下に浅い横位沈線。	後期前葉
第77図 PL.63	91	深鉢	口縁部		L-13	石英粒・長石粒少/暗茶褐色/良	口唇部肥厚、以下無文。	後期
第77図 PL.63	92	深鉢	口縁部		D-3	微砂粒少/にぶい暗茶褐色/良	口縁下に沈線巡り無文帯を画す。内外面研磨。	後期初頭
第77図 PL.63	93	深鉢	口縁部		E-3	微砂粒/淡黄褐色/良	口縁部肥厚、内外面研磨。内面に赤彩痕。	中期後葉
第77図 PL.63	94	深鉢	口縁部		6溝	石英・長石粒/にぶい黄褐色/良	口縁部内側に肥厚、無文。	中期後葉
第77図 PL.63	95	深鉢	口縁部		C-3	微石英粒・長石粒/明黄褐色/良	波状口縁、環状突起部か、環状部、口縁部に沈線文。	後期初頭
第77図 PL.63	96	深鉢	突起		K-14	石英・褐色粒/橙茶褐色/良	取手部分、隆帯による縦楕円文。	後期初頭
第77図 PL.63	97	深鉢	突起		C-3	白色粒・砂粒/にぶい黄茶褐色/良	上端部が渦巻き状にすばまった口縁突起部。	後期初頭
第77図 PL.63	98	深鉢	突起		C-3	白色粒・砂粒/にぶい黄褐色/良	隆帯により加飾された環状取手部分。環状部に沈線が配される。	後期初頭
第77図 PL.63	99	深鉢	取手		D-3	石英粒・長石粒/明橙黄褐色/良	環状取手。	不明
第77図 PL.63	100	深鉢	取手		D-4	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	橋状取手、両脇が高まり中央部低くなる。	中期後葉
第77図 PL.63	101	深鉢	口縁部		F-13	石英粒・長石粒/暗黒茶褐色/良	隆帯による8字状突起。	後期初頭
第77図 PL.63	102	深鉢	突起		I-15	石英・長石粒/にぶい淡黄褐色/良	内側に隆帯による、眼鏡状を呈す口縁部突起、中央部分は嘴状に突起すると思われるが欠損している。円孔部から先端方向に沈線が延びる。外面は剥離。	後期前葉
第77図 PL.63	103	深鉢	胴部		G-13	石英・長石粒少/淡黄褐色/良	中央に連続刺突文が配された環状隆帯貼り付け文。左右に延びる隆帯で画された部分には円形刺突文。下位には沈線による文様を構成。	後期初頭
第77図 PL.63	104	深鉢	口縁部		K-13	白色粒・砂粒/黄茶褐色/良	両脇に沈線を伴う隆帯文。縄文はRL。	中期後葉
第77図 PL.63	105	深鉢	胴部		F-14	微砂粒/黒褐色/良	並行隆帯、沈線で曲線文描く。縄文はLR縦位施文。	後期初頭
第77図 PL.63	106	深鉢	胴部		D-3	微石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	地文にRL縄文を施文後、複数の竹管による矩形区画を作る。区画内縄文施文後に波状沈線垂下。	中期後葉
第77図 PL.63	107	深鉢	胴部		D-1	微石英粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	地文にRL縄文を施文後、複数の竹管による矩形区画を作る。	中期後葉
第77図 PL.63	108	深鉢	胴部		C-3	石英粒・微砂粒/暗褐色/良	縄文充填施文された、J字状文。	後期初頭
第77図 PL.63	109	深鉢	胴部		D-3	石英粒・長石粒/茶褐色/良	3本単位の沈線による曲線意匠文描く、間隙に縄文施文。	後期前葉
第77図 PL.63	110	深鉢	胴部		C-1	微石英粒・長石粒/にぶい淡褐色/良	頸部に4条の横位沈線、以下渦巻き文。縄文施文、LRを横位、縦位に施文。	中期後葉
第77図 PL.64	111	深鉢	胴部		F-13	石英・長石粒少/灰黄褐色/良	沈線による磨り消し曲線文描く。縄文LR施文。	中期後葉
第77図 PL.64	112	深鉢	胴部		E-14	白色粒・砂粒/黄茶褐色/良	隆帯に沿って凹線、縄文施文。	中期後葉
第77図 PL.64	113	深鉢	胴部		表土	微石英粒・長石粒/にぶい淡褐色/良	沈線による重弧状文意匠か、一部に細縄文LR施文。	後期前葉
第77図 PL.64	114	深鉢	胴部		G-13	石英・長石粒少/灰黄褐色/良	低隆帯により曲線文様描き、細縄文LRをややまばらに施文する。	後期初頭
第77図 PL.64	115	深鉢	胴部		J-14	石英・長石粒少/灰黄褐色/良	沈線による磨り消し曲線文描く。縄文LR施文。	後期前葉
第77図 PL.64	116	深鉢	胴部		F-14	石英・長石粒少/灰黒褐色/良	沈線による磨り消し文描く。縄文LR施文。	後期前葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第77図 PL.64	117	深鉢	胴部		F-13	石英粒少/淡黄褐色/良	沈線により磨り消しU状文を構成。縄文はL R。	後期初頭
第77図 PL.64	118	深鉢	胴部		C-3	石英粒少/淡黄褐色/良	沈線による縦位の磨り消し文様。縄文はL R 縦位。	後期初頭
第77図 PL.64	119	深鉢	胴部		H-15	砂粒少/黄褐色/良	沈線、隆帯による磨り消し曲線文描く。縄文L R 施文。	後期初頭
第77図 PL.64	120	深鉢	胴部		F-13	微砂粒少/暗黒茶褐色/良	細縄文施文後、複数の沈線文。	後期前葉
第77図 PL.64	121	深鉢	胴部		E-14	微砂粒少/淡茶褐色/良	沈線で画す、磨り消し縄文による重三角文様。	後期前葉
第77図 PL.64	122	深鉢	胴部		F-14	微砂粒・白色粒/淡黄褐色/良	沈線による磨り消し曲線文。	後期初頭
第78図 PL.64	123	深鉢	胴部		K-15	石英・長石粒少/淡黄褐色/良	縄文L R 施文後、3本単位の沈線により曲線文。	後期前葉
第78図 PL.64	124	深鉢	胴部		G-13	石英・長石粒/淡黄褐色/良	2本の押圧文有す横位隆帯とこれをつなぐ8字状貼付文。以下沈線による曲線文と縄文が見られる。	後期前葉
第78図 PL.64	125	深鉢	胴部		I-15	砂粒・白色粒/淡茶褐色/良	沈線、隆帯による曲線文様、隆帯には連続刺突文付される。	後期初頭
第78図 PL.64	126	深鉢	胴部		G-13	石英・長石粒/灰黒褐色/良	縄文R L 横位施文。	中期後葉
第78図 PL.64	127	深鉢	胴部		E-3	石英粒・長石粒/暗褐色/良	縄文R L 縦位施文。	中期後葉
第78図 PL.64	128	深鉢	注口		C-1	石英粒・白色砂粒/淡黄褐色/良	注口部分。胴部接合部に沈線による磨り消し文様。細縄文充填。	後期前葉
第78図 PL.64	129	深鉢	胴部		D-4	微石英粒・長石粒/にぶい淡褐色/良	横位隆帯から沈線による波状懸垂文、横位沈線が見られる。	中期後葉
第78図 PL.64	130	深鉢	胴部		I-21	石英・長石粒/暗茶褐色/良	垂下沈線により縦位分割。沈線は1本、2本並行、2本単位であるが1本が波状を呈す3種が見られる。分割部分には縦位の弧状綾杉文を沈線で描く。	中期後葉
第78図 PL.64	131	深鉢	胴部		D-1	石英粒・長石粒/にぶい灰褐色/良	隆帯による区画文内に、横位矢羽根状連続刺突文。	中期後葉
第78図 PL.64	132	深鉢	胴部		D-1	石英粒・長石粒/黒茶褐色/良	太い隆帯と横位沈線間に横位の連続する短沈線文。	中期後葉
第78図 PL.64	133	深鉢	胴部		C-1	微石英粒・長石粒/にぶい淡褐色/良	沈線による縦位曲線文様。器面風化。	後期初頭
第78図 PL.64	134	深鉢	胴部		表土	微石英粒・長石粒/にぶい淡褐色/良	2本の垂下隆帯と波状の懸垂文か、間隙部分は斜位の集合沈線文で埋める。	中期後葉
第78図 PL.64	135	深鉢	胴部		C-3	石英・長石粒/にぶい褐色/良	隆帯による口縁部渦巻き楕円文構成、文様内には波状横位沈線文。上位、下位に刺突文や沈線による渦巻き文が描かれる。	中期後葉
第78図 PL.64	136	深鉢	胴部		D-3	石英粒・長石粒/にぶい暗褐色/良	隆帯による横長楕円文、連結部端部が渦巻き文となる。ここから下位につながる2本単位の隆帯が斜めに垂下。楕円文内には横位波状沈線、その多地文には重弧状文、隆帯に沿って、連続刺突文が見られる。	中期後葉
第78図 PL.64	137	深鉢	胴部		D-1	石英粒・金雲母粒/茶褐色/良	4本の横位隆帯を上下にまたぐように隆帯が付いて高まる。横位隆帯下には連続刺突文が巡る。	中期後葉
第78図 PL.64	138	深鉢	胴部		D-1	石英粒・長石粒/にぶい淡茶褐色/良	横位隆帯から、2本単位のU状文が斜めに対向する。地文には縦位の集合沈線文。	中期後葉
第78図 PL.64	139	深鉢	胴部		D-1	微石英粒・金雲母粒/暗黒褐色/良	2本単位の隆帯による矩形区画構成し、区画内に縦位集合沈線文。	中期後葉
第78図 PL.64	140	深鉢	胴部		D-1	石英粒・長石粒/茶褐色/良	半裁竹管による横位沈線下に縦位の集合沈線文。	中期後葉 古
第78図 PL.64	141	深鉢	胴部		D-3	石英粒・石粒/にぶい淡褐色/良	縦位集合沈線と横位の沈線文。	中期後葉
第78図 PL.64	142	深鉢	胴部		D-1	微石英粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	地文に摺糸文Lを縦位施文後、複数の竹管による矩形区画を作る。	中期後葉 古
第78図 PL.64	143	深鉢	胴部		C-1	石英粒・長石粒/茶褐色/良	地文に縦位の矢羽根状沈線文と、2本の垂下隆帯見られる。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第78図 PL.64	144	深鉢	胴部		D-4	微石英粒・長石粒/にぶ い茶褐色/良	弧状隆帯両側に重弧状の沈線文。内面に煤付 着。	中期後葉
第78図 PL.64	145	深鉢	胴部		表土	微石英粒・長石粒/にぶ い淡褐色/良	縦位、斜位方向に複数単位の沈線文。	後期前葉
第78図 PL.64	146	深鉢	胴部		C-2	石英粒・長石粒/明黄褐 色/良	沈線による同心円文。器面剥離見られる。	後期前葉
第78図 PL.64	147	深鉢	胴部		6溝	石英・長石粒多/にぶ い茶褐色/良	2本の垂下降帯と集合沈線文。	中期後葉
第78図 PL.64	148	深鉢	胴部		I-2	微小礫・石英粒/にぶ い淡褐色/良	斜位の条痕文。	弥生
第78図 PL.64	149	深鉢	胴部		I-15	石英粒・白色粒少/淡黄 褐色/良	縦位の隆帯から左右に斜位の集合沈線文。	中期後葉
第78図 PL.64	150	深鉢	胴部		G-13	石英・長石粒少/茶褐色 /良	縦位の隆帯、沈線文施文後、波状隆帯懸垂文。	中期後葉
第79図 PL.64	151	深鉢	胴部		F-15	石英・長石粒少/黄茶褐 色/良	複数沈線文の端部。	後期前葉
第79図 PL.64	152	深鉢	胴部		G-16	微砂粒/淡黄褐色/良	渦巻き文様とこれにつながる沈線。	後期初頭
第79図 PL.64	153	深鉢	胴部		C-2	微石英粒・長石粒/にぶ い黒茶褐色/良	両側に沈線伴うU状の隆帯文、上下に縄文L R縦位施文。	後期初頭
第79図 PL.64	154	深鉢	胴部		D-1	微石英粒・長石粒/にぶ い淡褐色/良	斜位平行沈線両側にやや間隔の開いた斜位沈 線文。	中期後葉
第79図 PL.64	155	深鉢	胴部		C-1	微石英粒・長石粒/にぶ い茶褐色/良	無文器面に、沈線による紡錘状文斜位に描く。	後期初頭 古
第79図 PL.64	156	深鉢	胴部		C-2	微石英粒・長石粒/黄茶 褐色/良	沈線による曲線文様描く。	後期初頭
第79図 PL.64	157	深鉢	胴部		K-14	砂粒少/灰黄褐色/良	沈線による矩形、三角文様描くか。	後期初頭
第79図 PL.64	158	深鉢	胴部		G-13	石英・金雲母/黒褐色/ 良	沈線による重弧状文。	中期後葉
第79図 PL.64	159	深鉢	胴部		E-3	石英粒・長石粒/にぶ い淡茶褐色/良	沈線による渦巻き文構成。	後期前葉
第79図 PL.64	160	深鉢	胴部		D-3	石英粒・長石粒/暗黄褐 色/良	並行縦位沈線および曲線文。	後期前葉
第79図 PL.64	161	深鉢	口縁部		D-3	石英粒・長石粒/淡黄褐 色/良	突起状の口縁部、複数の弧状沈線が付される。	後期前葉
第79図 PL.65	162	深鉢	胴部		D-4	白石礫・石英粒/にぶ い淡褐色/良	低隆帯による楕円文意匠か、沈線によるU状 文見られる。	中期後葉
第79図 PL.65	163	深鉢	胴部		K-14	石英・長石粒少/茶褐色 /良	口縁下低隆帯による文様描く。	中期後葉
第79図 PL.65	164	深鉢	口縁部		D-3	砂粒/淡橙黄褐色/普通	無文か、器面剥離顕著。	中期
第79図 PL.65	165	深鉢	胴部		H-15	石英・長石粒/淡黄褐色 /良	口縁下に押圧文隆帯。	後期初頭
第79図 PL.65	166	深鉢	口縁部		I-3	石英粒・長石粒/淡褐色 /良	渦巻き隆帯文か、横位隆帯との結合部に円形 文。	後期前葉
第79図 PL.65	167	深鉢	口縁部		D-3	微石英粒・長石粒/にぶ い淡黄褐色/良	波状口縁波頂部が肥厚、口縁上端部に沈線が 巡る。	後期前葉
第79図 PL.65	168	深鉢	口縁部		D-3	石英粒・長石粒/にぶ い暗茶褐色/良	口縁部内側が鏝状に突起か、無文。内外面研磨。	中期後葉
第79図 PL.65	169	深鉢	胴部		F-13	微砂粒/淡黄褐色/良	押圧文が付された垂下降帯文。	後期初頭
第79図 PL.65	170	深鉢	胴部		D-3	微石英粒・長石粒/暗黄 褐色/良	沈線による横位沈線文、重弧状文描き、円形 刺突文。	後期前葉
第79図 PL.65	171	深鉢	胴部		D-3	微石英粒・長石粒/暗黒 褐色/良	T状隆線文の交点に円形文付す。	後期初頭
第79図 PL.65	172	深鉢	胴部		D-3	微石英粒・長石粒/にぶ い淡褐色/良	連続押圧文有す横位の隆帯。	後期初頭
第79図 PL.65	173	深鉢	胴部		D-3	微石英粒・長石粒/暗茶 褐色/良	横位隆帯上に連続押圧文と、垂下する隆帯と の交点に一对の円形文。	後期前葉
第79図 PL.65	174	深鉢	胴部(取手)		G-13	石英・長石粒少/淡黄褐 色/良	中央に連続刺突文が配された隆帯貼り付け文。	後期初頭

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第79図 PL.65	175	深鉢	胴部		C-3	石英粒少/淡黄褐色/良	沈線による渦巻き文様か、沈線の脇に連続する刺突文。	後期初頭
第79図 PL.65	176	深鉢	胴部		D-3	微石英粒・長石粒/にぶい淡褐色/良	隆線による円形文と刺突文。	後期初頭
第79図 PL.65	177	深鉢	胴部		F-1	石英粒・石粒/にぶい淡橙色/良	横位の連続爪形刺突文施文。内面に輪積み痕。	後期初頭
第79図 PL.65	178	深鉢	胴部		D-3	微石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	刺突文。	後期初頭
第79図 PL.65	179	深鉢	胴部		C-3	長石粒/淡茶褐色/良	爪形刺突文。	後期初頭
第79図 PL.65	180	深鉢	胴部		E-14	石英・長石粒少/淡黄褐色/良	刺突文。	後期初頭
第79図 PL.65	181	深鉢	貼り付け文		E-20	石英粒少/淡褐色/良	渦巻き文。貼り付け文が剥がれたものか。	後期
第79図 PL.65	182	深鉢	底部	底:(8.0)	G-14	石英粒少/淡褐色/良	無文の底部片、器面荒れる。	後期か
第79図 PL.65	183	深鉢	底部	底:(8.0)	C-3	細砂粒/赤茶褐色/良	無文、底面に網代痕。	後期
第79図 PL.65	184	深鉢	底部	底:(7.2)	C-1	石英粒・長石粒/暗黄褐色/良	底部片、縄文L R縦位施文、下端部が施文部、無文部交互に見られる。	中期後葉
第79図 PL.65	185	土製円盤	胴部		F-24	砂粒・白色粒/黒色/良	沈線による曲線文か。器面摩耗。煤付着。	後期前葉
第79図 PL.65	186	土製円盤	胴部		I-3	微石英粒・長石粒/にぶい淡褐色/良	並行する沈線区画文および縄文。	後期前葉

7区遺構外出土土器

第80図 PL.65	1	鉢	口縁部		覆土	微砂粒・長石粒/暗茶褐色/良	口縁部直立し端部角頭状を呈す。無文器面研磨。表裏面に赤彩痕。	中期後葉
第80図 PL.65	2	深鉢	口縁部		J-20	微石英粒・長石粒/灰黄褐色/良	やや外反する無文口縁部片。	弥生
第80図 PL.65	3	深鉢	口縁部		K-21	石英粒・長石粒/灰黒褐色/良	口縁部僅かに外反、口縁に無文部有し、以下撚糸文Rを横位施文。	弥生
第80図 PL.65	4	深鉢	口縁部		K-22	微石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	小波状口縁、口縁部分は無文部を設け、肩部有段下には斜位の条痕文。	弥生
第80図 PL.65	5	深鉢	口縁部		J-24	砂粒・長石粒/暗茶褐色/良	口縁部短く内屈、横位沈線巡る。	後期前葉
第80図 PL.65	6	深鉢	胴部		J-22	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	押圧文有す横位の隆帯、下位には斜位の集合沈線文か。	後期
第80図 PL.65	7	深鉢	胴部		G-19	石英粒・長石粒/暗黒褐色/良	沈線による矩形文様を意匠か、区画内にはL R縄文施文。	後期前葉
第80図 PL.65	8	壺型土器	胴部		覆土	石英粒・長石粒/暗褐色/良	体部は浅く丸みを持った器形、下部に一部底面部分が見られる。撚糸文Lが横位施文される。	弥生
第80図 PL.65	9	深鉢	胴部		15トレ	石英粒・長石粒/暗灰黒褐色/良	縄文L R施文。器表面に煤付着。	弥生
第80図 PL.65	10	深鉢	胴部		J-21、22	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	横位無節縄文L施文。	弥生
第80図 PL.65	11	深鉢	胴部		10トレ	石英粒・長石粒/暗黒褐色/良	縦位条痕文。外面に煤付着。	弥生
第80図 PL.65	12	深鉢	胴部		K-22	石英粒・長石粒/明茶褐色/良	横位、斜位の条痕文。	弥生
第80図 PL.65	13	深鉢	口縁部		K-22	石英粒・長石粒/暗黒茶褐色/良	横位無節縄文L施文。	弥生
第80図 PL.65	14	深鉢	胴部		I-23	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	横位沈線で無文部縄文部を画す。	弥生
第80図 PL.65	15	深鉢	胴部		K-21	石英粒・長石粒/にぶい灰黄褐色/良	無文下に横位条痕か。	弥生
第80図 PL.65	16	深鉢	胴部		K-21	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	斜位条痕文。	弥生
第80図 PL.65	17	深鉢	胴部		K-21	石英粒・長石粒/にぶい黒褐色/良	撚糸文R施文後、斜位の沈線。	弥生
第80図 PL.65	18	深鉢	胴部		覆土	石英粒・長石粒/にぶい灰黄褐色/良	縦位の細条痕施文後に、間隔が開いた垂下沈線の下端部が見える。	弥生

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第80図 PL.65	19	深鉢	胴部		J-20	石英粒・長石粒/明灰褐色/良	横位沈線と斜位の条痕文。	弥生
第80図 PL.65	20	深鉢	胴部		11トレ	石英粒・長石粒/明茶褐色/良	縦位の条痕文。	弥生
第80図 PL.65	21	深鉢	胴部		K-21	石英粒・長石粒/にぶい 灰黄褐色/良	縦位条痕文。被熱によるものか、器面にひび 割れ。	弥生
第80図 PL.65	22	深鉢	胴部		K-22	石英粒・長石粒/暗黒茶 褐色/良	縦位条痕文。	弥生
第80図 PL.65	23	深鉢	胴部		K-21	石英粒・長石粒/明茶褐色/良	縦位の条痕文。器面やや風化。	弥生
第80図 PL.65	24	深鉢	胴部		K-21	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	縦位条痕文。	弥生
第80図 PL.65	25	深鉢	胴部		K-21	石英粒・長石粒/暗黒茶 褐色/良	縦位条痕文。	弥生
第80図 PL.65	26	深鉢	胴部		覆土	石英粒・長石粒/にぶい 灰褐色/良	縦位条痕文、煤附着。	弥生
第80図 PL.65	27	深鉢	胴部		11トレ	石英粒・長石粒/にぶい 灰褐色/良	縦位条痕文。	弥生
第80図 PL.65	28	深鉢	胴部		11トレ	石英粒・長石粒/暗灰黒 褐色/良	縦位条痕文。	弥生
第80図 PL.65	29	深鉢	胴部		K-21	石英粒・長石粒/暗灰黒 褐色/良	斜位条痕文。	弥生
第80図 PL.65	30	壺型土器	胴部		Y-17	石英粒・長石粒/暗灰黒 褐色/良	丸みを有す体部片、上位に縄文施文後横位に 2本の沈線巡る。外面研磨。	弥生
第80図 PL.65	31	深鉢	胴部		11トレ	石英粒・長石粒/暗灰黒 褐色/良	横位、斜位の沈線文。器面風化。	後期前葉 か
第80図 PL.65	32	深鉢	胴部		K-20	石英粒・長石粒/暗灰黒 褐色/良	横位沈線文様間に縄文施文。	弥生
第80図 PL.65	33	深鉢	胴部		I-23	石英粒・長石粒/暗灰褐色/良	浅い横位沈線。	弥生
第80図 PL.65	34	深鉢	底部	底:(8.0)	K-21 覆土	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	無文の底部片。内面に煤附着。	中期後葉
第80図 PL.65	35	深鉢	底部	底:(7.0)	覆土	微石英粒・長石粒/暗茶 褐色/良	底端部に沈線が巡る。底面に網状痕。器面研磨。	弥生
第80図 PL.65	36	深鉢	底部	底:(9.0)	J-22	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	底端部が張り出し、底面に木葉痕。	弥生
第80図 PL.65	37	深鉢	底部	底:(10.0)	12トレ	精製/灰黒褐色/良	底端部が張り出し、やや上げ底を呈す、体部 は大きく外反して立ち上がる。上端部に横位 沈線の一部が見られる。器面研磨。煤附着。 蓋か。	弥生
第80図 PL.65	38	土製円盤	胴部		T-22	微砂粒・長石粒/暗茶褐色/良	無文か、やや小型で楕円形を呈す。	中期

8区遺構外出土土器

第81図 PL.66	1	深鉢	口縁部		覆土	石英粒・長石粒少/にぶい 茶褐色/良	口縁部下にT字状の隆帯、交点に円形文。器 面研磨。	後期初頭
第81図 PL.66	2	深鉢	口縁部		E-22	石英粒・長石粒少/にぶい 茶褐色/良	口縁下に断面三角の横位隆帯。器面研磨。	後期初頭
第81図 PL.66	3	深鉢	胴部		8トレ	石英粒・長石粒少/にぶい 茶褐色/良	隆帯の一部見られる。器面研磨。	後期初頭

13区遺構外出土土器

第81図 PL.66	1	深鉢	胴部		覆土	石英粒・長石粒少/にぶい 灰褐色/良	浅い沈線および低隆帯による曲線文様か。	後期前葉
---------------	---	----	----	--	----	-----------------------	---------------------	------

15区遺構外出土土器

第81図 PL.66	1	深鉢	口縁部		D-1	石英粒・長石粒/暗黒褐色/良	口縁部瘤状突起部に刻み有し、左右口縁にも 連続刻みが延びる。横位並行沈線をつなぐ弧 状短沈線文。	後期前葉
第81図 PL.66	2	深鉢	口縁部		D-3	石英粒・長石粒/淡黄褐色/良	口縁部短く内傾、縦位の短沈線付し、横位沈 線が延びる。	後期前葉
第81図 PL.66	3	深鉢	口縁部		表土	石英粒・長石粒/茶褐色/良	口縁部内側が肥厚、並行する横位沈線文。	後期初頭

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第81図 PL.66	4	深鉢	口縁部		表土	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	口縁部突起し刻み有す、並行沈線つなぐ弧状短沈線。	後期前葉
第81図 PL.66	5	深鉢	胴部		表土	石英粒・長石粒/明茶褐色/良	R L 縄文施文。	後期
第81図 PL.66	6	深鉢	胴部		表土	石英粒・長石粒/灰黄褐色/良	隆線による連続U状垂下文。間隙には細縄文R Lを縦位充填施文。	後期初頭
第81図 PL.66	7	深鉢	胴部		表土	石英粒・長石粒/黄茶褐色/良	並行沈線間に連続刺突文。	後期
第81図 PL.66	8	深鉢	胴部		表土	微砂粒・長石粒/暗黒褐色/良	2本単位の沈線で曲線文描く、区画文内には縄文施文。	中期後葉
第81図 PL.66	9	深鉢	胴部		表土	石英粒・長石粒/茶褐色/良	縦位隆帯および斜位の集合沈線文。	中期後葉
第81図 PL.66	10	深鉢	胴部		E-1	石英粒・長石粒/明灰黄褐色/良	沈線による対向する重弧状文。	後期前葉
第81図 PL.66	11	深鉢	底部		D-2	石英粒・長石粒/黄茶褐色/良	無文底部片。	後期

96区遺構外出土土器

第81図 PL.66	1	深鉢	口縁部		E-23	石英粒・長石粒/暗褐色/良	口縁部に横位隆線、以下縄文L R施文後、沈線による磨り消し文様描く。	中期末葉
第81図 PL.66	2	深鉢	口縁部		D-24	砂粒/灰黄褐色/良	口縁無文部は僅かに内屈し、隆帯以下縄文施文。	中期末葉
第81図 PL.66	3	深鉢	口縁部		D-24	砂粒/暗灰褐色/良	隆帯による渦巻き楕円文様を構成か。	中期後葉
第81図 PL.66	4	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/黒褐色/良	口縁部内屈、隆帯による矩形区画をなすか、区画内縄文無節縄文R施文。	中期後葉
第81図 PL.66	5	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/灰黒褐色/良	横位隆帯から隆帯垂下し矩形区画を構成か、区画内には縄文L Rを縦位充填施文。	中期末葉
第81図 PL.66	6	深鉢	口縁部		F-24	石英粒・長石粒/黒褐色/良	口縁下に横位沈線、以下2本の沈線による矩形文を画す。区画内には縄文充填施文。	中期後葉
第81図 PL.66	7	深鉢	口縁部		F-24	石英粒・長石粒/黒褐色/良	口縁下に横位沈線、以下2本の沈線による矩形文を画す。区画内には縄文充填施文。6と同一個体。	中期後葉
第81図 PL.66	8	深鉢	口縁部		E-23	石英粒・長石粒/暗褐色/良	口縁部に沈線による楕円文描き、内部には横位に重弧状文充填。	中期後葉
第81図 PL.66	9	深鉢	口縁部		F-23	石英粒・長石粒/暗茶褐色/良	低隆帯による楕円渦巻き文構成か。文様内には縦位集合弧状沈線。	中期後葉
第81図 PL.66	10	深鉢	口縁部		E-24	石英粒・長石粒/暗灰黒褐色/良	隆帯で口縁部無文を画し、以下隆帯による曲線文、縄文施文。	中期後葉
第81図 PL.66	11	深鉢	口縁部		表土	石英粒・長石粒/暗褐色/良	隆帯による口縁部楕円文様構成か、文様内には横位縄文R L施文。	中期後葉
第82図 PL.66	12	深鉢	口縁部		E-23	石英粒・長石粒/暗褐色/良	隆帯による楕円渦巻き文。文様内には縄文充填。	中期後葉
第82図 PL.66	13	深鉢	口縁部		E-24	石英粒・長石粒/灰褐色/良	隆帯による口縁部楕円区画文、区画内には斜位の集合沈線文。楕円文が繋がる下には垂下隆帯。	中期後葉
第82図 PL.66	14	深鉢	口縁部		F-25	石英粒・長石粒/にぶい褐色/良	口縁下に横位隆帯、以下隆帯による曲線文描くものと思われるが、剥落している。一部に刺突文が見られる。	中期後葉
第82図 PL.66	15	深鉢	口縁部		F-23	石英粒・長石粒/にぶい黄褐色/良	短く内屈する口縁部上に横位沈線巡る。	後期前葉
第82図 PL.66	16	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/明黄褐色/良	口縁部内屈し、横位沈線、刺突文見られる。	後期前葉
第82図 PL.66	17	深鉢	口縁部		E-24	石英粒・雲母粒/暗茶褐色/良	口縁部両面に隆帯巡る、以下斜位の集合沈線文。	中期後葉
第82図 PL.66	18	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/茶褐色/良	口縁下に横位の隆帯。	中期
第82図 PL.66	19	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/暗黒褐色/良	隆帯による渦巻き文。	中期後葉
第82図 PL.66	20	深鉢	口縁部		F-24	石英粒・長石粒/にぶい褐色/良	口縁部に沿って走る肥厚隆帯から渦巻き懸垂文か。	中期後葉
第82図 PL.66	21	深鉢	口縁部		G-23	微石英粒・長石粒/にぶい暗褐色/良	沈線による三角意匠の磨り消し縄文。	後期前葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第82図 PL.66	22	深鉢	口縁部		H-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	口縁端部僅かに内湾、横位沈線付し、以下沈線により渦巻き基調の沈線文様描く。文様間部分的に縄文施文。	後期後葉
第82図 PL.66	23	深鉢	口縁部		F-23	石英粒・長石粒/灰褐色 /良	口縁部下に横位低隆帯巡り、円形文貼付。隆帯下には縄文施文か。	後期
第82図 PL.67	24	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/黒色 /良	口縁下に横位の隆帯。	中期
第82図 PL.67	25	深鉢	口縁部		E-23	石英粒・長石粒/橙褐色 /良	無文口縁部片。僅かに赤彩痕。	中期後葉
第82図 PL.67	26	深鉢	口縁部		表土	石英粒・長石粒/橙黄褐色 /良	口縁部肥厚し上部平坦をなす。	中期後葉
第82図 PL.67	27	深鉢	口縁部		E-24	微砂粒/灰褐色/良	小波状口縁、口縁部直下より縦位の波状集合沈線施文後、波頂部から隆帯による波状懸垂文が付される。	中期後葉
第82図 PL.67	28	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/暗褐色 /良	波頂部からつながる隆帯による幅狭の楕円文様構成か、文様下位には縦位の集合沈線。	中期後葉
第82図 PL.67	29	深鉢	口縁部		E-25	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	隆帯による渦巻き文。	中期後葉
第82図 PL.67	30	深鉢	口縁部		E-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	波状口縁、隆帯による渦巻き文意匠。	中期後葉
第82図 PL.67	31	深鉢	胴部		E-23	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	口縁部に隆帯により楕円文構成か、文様内は縦位の集合沈線で埋める。	中期後葉
第82図 PL.67	32	深鉢	口縁部		F-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	口縁部、隆帯による渦巻き文、渦巻き文内に円孔。	中期後葉
第82図 PL.67	33	深鉢	口縁部		D-24	石英粒・長石粒/にぶい 橙黄褐色/良	屈曲部に隆帯が巡り、隆帯上部に横位の連続刻みが付される。	中期後葉
第82図 PL.67	34	深鉢	胴部		E-25	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	無文の屈曲部分、接合面での剥離が見られ、剥離した面には疑似縄文看取される。器面研磨。	中期後葉
第82図 PL.67	35	深鉢	口縁部		E-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	波状口縁、隆帯による渦巻き文を構成。波頂部は突起し、上面が凹む。	中期後葉
第82図 PL.67	36	深鉢	口縁部		F-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	波頂部片、口縁部波頂部におよび左右口縁部には連続円形刺突文、また波頂部から垂下する隆帯には円形文、押圧文が見られる。	後期初頭
第82図 PL.67	37	深鉢	口縁部		E-24	石英粒・長石粒/灰褐色 /良	鼓状を呈す環状突起、両面は平に成形され、渦巻き意匠。	後期
第82図 PL.67	38	深鉢	取手		F-25	石英粒・長石粒/にぶい 暗黄褐色/良	環状取手部、両端部分が肥厚し、側面および接合部に沈線が付される。	中期後葉
第82図 PL.67	39	深鉢	取手		E-23	微石英粒・長石粒/にぶい 黄褐色/良	環状取手部、取手左右に隆帯が延び区画文を表出か。取手部に沈線によるS状文が付される。以下∩状に隆帯が垂下し、左右区画内には縄文か。	中期後葉
第82図 PL.67	40	深鉢	口縁部		E-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	突起部分、直行方向の円孔。	後期
第82図 PL.67	41	深鉢	口縁部		F-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	口縁部波頂突起部分、隆帯による渦巻き文と垂下沈線、刺突文で飾る。	中期後葉
第83図 PL.67	42	深鉢	胴部		E-23	石英粒・長石粒/にぶい 黄白褐色/良	縦位磨り消し縄文。縄文はR L縦位施文。	中期後葉
第83図 PL.67	43	深鉢	胴部		E-24	石英粒・長石粒/にぶい 灰褐色/良	縦位沈線及び対向する臑手懸垂文見られ、縄文は無節Rを縦位施文。	中期後葉
第83図 PL.67	44	深鉢	胴部		E-23	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	沈線で画す縦位磨り消し縄文。縄文はL R縦位施文。	中期後葉
第83図 PL.67	45	深鉢	胴部		F-24	石英粒・長石粒/にぶい 灰褐色/良	2本の沈線で垂下文様、間には縦位方向の刺突文。間隙には縄文L R充填施文。	後期初頭
第83図 PL.67	46	深鉢	胴部		E-23	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	沈線で画す縦位磨り消し縄文。縄文は無節L施文。	中期後葉
第83図 PL.67	47	深鉢	胴部		E-23	石英粒・長石粒/にぶい 灰黄褐色/良	沈線による磨り消し曲線文様描く。	後期初頭
第83図 PL.67	48	深鉢	胴部		E-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	隆帯による渦巻き文から左右、及び上下に隆帯が延びる。横に延びた2本の隆帯間には刺突文が付され、地には縦位矢羽根状の集合沈線文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徵等	備考
第83図 PL.67	49	深鉢	胴部		E-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	隆帯により渦巻き基調の懸垂文。	中期後葉
第83図 PL.67	50	深鉢	胴部		D-24	石英粒・長石粒/暗褐色 /良	捻り隆帯が垂下し矩形文様を画す。区画内には斜位の集合沈線、縦位の集合沈線が見られる。	中期後葉
第83図 PL.67	51	深鉢	胴部		F-24	石英粒・長石粒/にぶい 灰褐色/良	隆帯による楕円文様を構成か、下位には2本の沈線により円形文様か、中には放射状に短沈線文か。	中期後葉
第83図 PL.67	52	深鉢	胴部		E-23	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	隆帯による渦巻文。	中期後葉
第83図 PL.67	53	深鉢	胴部		F-23	石英粒・長石粒/にぶい 黄褐色/良	横位隆帯上に円形文様が付され、上下にも隆帯が続く。隆帯上には刺突文が付される。	後期前葉
第83図 PL.67	54	深鉢	胴部		表土	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	隆帯によるV字状文、外側部には連続刺突文が付される。	中期後葉
第83図 PL.67	55	深鉢	胴部		D-24	石英粒・長石粒/黒色、 橙茶褐色/良	2本の垂下隆帯と斜位集合沈線文。	中期後葉
第83図 PL.67	56	深鉢	胴部		F-24	石英粒・長石粒/にぶい 灰褐色/良	横位の隆帯と沈線で文様帯を構成、横位に連続爪形文。	中期後葉
第83図 PL.67	57	深鉢	胴部		F-25	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	爪形刺突文。	後期初頭
第83図 PL.67	58	深鉢	胴部		E-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	垂下隆帯。	中期後葉
第83図 PL.67	59	深鉢	胴部		表土	石英粒・長石粒/にぶい 淡黄褐色/良	沈線による重V字状文。	後期前葉
第83図 PL.67	60	深鉢	胴部		D-24	石英粒・長石粒多/にぶい 黄褐色/良	縦位隆帯に沿って波状沈線文、刺突文が見られ、反対側には横位集合沈線文。	中期後葉 古
第83図 PL.67	61	深鉢	胴部		D-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	3本の垂下隆帯、斜位の集合沈線文。器面一部に剥離。	中期後葉
第83図 PL.67	62	深鉢	胴部		E-23	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	3本の沈線が垂下、無節R縄文が重V字状に施文か。	中期後葉
第83図 PL.67	63	深鉢	胴部		E-24	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	2本の隆帯による懸垂文、左右には斜位の集合沈線文。	中期後葉
第83図 PL.67	64	深鉢	胴部		E-23	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	2本の隆帯による懸垂文、左右には斜位の集合沈線文。	中期後葉
第83図 PL.67	65	深鉢	胴部		F-23	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	2本の隆帯による懸垂文、左右には斜位の集合沈線文。	中期後葉
第83図 PL.67	66	深鉢	胴～底部		表土	石英粒・長石粒多/にぶい 茶褐色/良	器面風化により砂粒目立つ。無文。	中期
第83図 PL.67	67	深鉢	底部		D-24	石英粒・長石粒/にぶい 橙褐色/良	小型の底部片、下端部が張り出し、体部は外傾して立ち上がる。	後期か
第83図 PL.67	68	深鉢	胴～底部		F-23	石英粒・長石粒少/にぶい 茶褐色/良	無文、外面研磨。	後期か
第83図 PL.67	69	土製円盤	胴部		D-23	石英粒・長石粒/にぶい 褐色/良	沈線により菱形文描き、中には渦巻き文様、間隙に縄文LR施文。	後期前葉

3区遺構外出土石器

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特徴	石材
第84図 PL.68	1	石鏃	J-25	欠損	(2.3) 1.4 0.4 (0.7)	凹基無茎、身はやや長く、袈りは弧状。	黒曜石
第84図 PL.68	2	石鏃	M-23	欠損	(2.5) 1.3 0.4 (0.8)	突基有茎、先端を僅かに欠く。	頁岩
第84図 PL.68	3	石鏃	覆土	欠損	(1.2) (0.8) 0.3 (0.2)	先端部片と見られる。	黒曜石

4区遺構外出土石器

第84図 PL.68	1	石鏃	R-15	欠損	(1.8) 1.4 0.5 (0.7)	凹基であるが、袈りは極めて浅い。身の中央部に膨らみを有す。	黒曜石
第84図 PL.68	2	石鏃	P-18	欠損	(1.5) 1.4 0.3 (0.6)	先端部を欠く、身はやや薄い、袈り浅く短脚。	黒曜石
第84図 PL.68	3	石鏃	覆土	欠損	(0.9) 1.3 0.4 (0.5)	基部の欠損品か。一部に自然面。	黒曜石

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値				特 徴	石 材
					長さ	幅	厚さ (cm)	重さ (g)		
第84図 PL.68	4	打製石斧	Q-14	完形	10.5	4.4	1.6	88.3	撥型、両面に自然面残る。刃部僅かに欠損見られる。	黒色頁岩
第84図 PL.68	5	打製石斧	D-5	欠損	(8.3)	6.5	2.2	162.6	刃部片、やや丸みを有し先端部分一部自然面残る。摩耗痕有り。	粗粒輝石 安山岩
第84図 PL.68	6	二次加工 片	R-15	完形	2.7	2.2	0.6	4.3	偏五角形を呈す。下辺を除き側縁に粗く刃部を作出。楔形石器か。	頁岩

5区遺構外出土石器

第84図 PL.68	1	石鏃	表土	欠損	(1.9)	(1.4)	0.2	(0.4)	凹基無茎。やや小型で側縁は細かな鋸歯状剥離が見られる。	チャート
---------------	---	----	----	----	-------	-------	-----	-------	-----------------------------	------

6区遺構外出土石器

第84図 PL.68	1	石鏃	6-6溝	完形	1.9	1.4	0.2	0.3	凹基無茎、扱りは浅く薄手の作り。	チャート
第84図 PL.68	2	石鏃	K-12	完形	2.3	1.5	0.3	0.6	凹基無茎、扱りは浅い。偏平な作り。	黒曜石
第84図 PL.68	3	石鏃	F-24	完形	(2.1)	1.3	0.3	(0.7)	凹基無茎、扱りは丸い。	黒曜石
第84図 PL.68	4	石鏃	H-1	完形	1.6	0.7	0.2	0.2	凹基無茎、小型で細身に作られる。	黒曜石
第84図 PL.68	5	石鏃	D-2	欠損	1.5	1.2	0.4	0.5	未製品か。	黒曜石
第84図 PL.68	6	石鏃	G-22	欠損	(1.7)	(1.6)	(0.2)	(0.4)	偏平で、両側縁が開く形状、基部および先端部を僅かに欠く。	黒曜石
第84図 PL.68	7	石鏃	D-16	欠損	(1.7)	(0.9)	0.4	(0.3)	片脚部片。凹基無茎で扱りは深い。	黒曜石
第84図 PL.68	8	石鏃	D-2	欠損	(1.5)	(1.2)	0.4	(0.8)	凹基であるが扱りは浅い、先端部を欠く。	黒曜石
第84図 PL.68	9	石鏃	J-14	完形	1.5	1.3	0.5	0.9	平基無茎、片側の側縁に厚みを有す。	黒曜石
第84図 PL.68	10	石鏃	G-20	欠損	1.5	(1.1)	0.3	(0.6)	平基か、偏平で縁部に丸みを有す。未製品か。	黒曜石
第84図 PL.68	11	石鏃	C-3	欠損	(0.7)	1.4	(0.4)	(0.3)	凹基であるが扱りは極めて浅い、基部片。	黒曜石
第85図 PL.68	12	石錐	6-6溝	完形	2.7	1.2	0.9	2.2	基部は瘤状に膨らみを持つ、錐部は円錐状に尖る。	黒曜石
第85図 PL.68	13	石匙	H-21	完形	1.1	2.2	0.3	0.4	小型品、直刃で、つまみ部下両面に磨り面見られる。	黒曜石
第85図 PL.68	14	石鏃	D-4	欠損	2.2	1.3	1.0	3.1	厚手の石片、未製品か。	黒曜石
第85図 PL.68	15	スクレイ パー	O-13	完形	5.7	4.0	1.8	33.2	器肉厚い石片の縁部に粗く刃部作出。	黒色安山 岩
第85図 PL.68	16	スクレイ パー	D-3	完形	1.6	2.5	0.6	1.7	小剥片の縁辺に刃部を作出。	頁岩
第85図 PL.68	17	打製石斧	D-4	完形	11.3	5.0	2.3	138.8	撥型、片面に大きく自然面残る。刃部摩耗。	粗粒輝石 安山岩
第85図 PL.68	18	打製石斧	表土	欠損	10.6	5.4	2.4	114.9	撥型、中央部分器肉厚く、刃部は剥離欠損か。	粗粒輝石 安山岩
第85図 PL.68	19	打製石斧	F-18	欠損	(7.3)	4.8	2.6	102.6	打製石斧刃部片か、片面が膨らみ両面に自然面残る。	黒色安山 岩
第85図 PL.68	20	打製石斧	H-16	欠損	(7.1)	4.6	1.5	53.4	打製石斧基部片、頂端部が尖る。	粗粒輝石 安山岩
第85図 PL.68	21	打製石斧	K-15	欠損	(8.2)	5.6	2.2	(109.7)	撥型、両面に自然面見られる。基部および刃部を欠く。	粗粒輝石 安山岩
第85図 PL.68	22	石板	表土	欠損	(3.8)	(2.2)	(0.2)	(2.9)	石板小破片。近現代。	頁岩
第85図 PL.68	23	磨石	K-14	完形	9.7	9.0	6.0	755.7	不定型な饅頭形を呈す、上面磨り面として使用、中央に小穴が見られる。	粗粒輝石 安山岩
第85図 PL.68	24	石板	覆土	欠損	(5.0)	(4.0)	0.4	(13.0)	石板片。両面平らで平滑、側縁に僅かに制作時の縁部分残る。近現代。	頁岩

7区遺構外出土石器

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	出土位置	残存	計測値				特徴	石材
					長さ	幅	厚さ(cm)	重さ(g)		
第85図 PL.68	1	石鏃	E-3	完形	2.1	1.4	0.4	0.5	凹基無茎、両脚はハの字に開き、先端部は細身に作られる。	黒曜石
第85図 PL.68	2	石鏃	O-23	完形	1.8	1.4	0.4	0.5	凹基無茎、両脚は開き、端正な作り。	黒曜石
第85図 PL.68	3	石鏃	W-23	完形	3.0	1.7	0.4	1.4	凹基無茎、扱りは浅い。端正な作り。	チャート
第85図 PL.68	4	石鏃	J-24	完形	2.1	1.6	0.5	1.1	凹基無茎、扱りは浅い。	チャート
第86図 PL.68	5	石鏃	表土	欠損	(2.2)	1.3	0.4	(1.0)	凹基無茎、脚を欠く、先端部は鋭さに欠けた作り。	黒曜石
第86図 PL.68	6	石鏃	P-18	欠損	(1.6)	1.1	0.4	(0.6)	凹基有茎、小型で厚みを有す。	黒曜石
第86図 PL.68	7	石鏃	T-19	欠損	(1.5)	1.6	0.5	(0.9)	平基無茎、厚みがあり先端部を欠く。	黒曜石
第86図 PL.68	8	石鏃	J-23	欠損	(1.6)	1.6	0.3	(0.7)	凹基で、茎を意識したわずかな突起が見られる。先端部を欠く。	黒曜石
第86図 PL.68	9	石鏃	J-22	欠損	(2.9)	1.3	0.5	(1.3)	木葉状で作りはやや粗い。	変質珪質岩
第86図 PL.68	10	打製石斧	K-19	完形	9.7	5.0	1.9	101.7	器長短く、小ぶりの撥型。片面に自然面残る。	黒色頁岩
第86図 PL.68	11	剥片石器	L-22	完形	7.4	5.1	1.2	49.1	器長短く、下部がやや開き、側縁部および下辺部を刃部として使用か。	黒色頁岩
第86図 PL.68	12	打製石斧	11トレ	欠損	(4.1)	4.5	1.2	(32.1)	両面に自然面残る、板状素材の打製石斧基部片。	黒色安山岩
第86図 PL.68	13	スクレイパー	S-16	完形	6.2	3.8	0.9	23.6	ほぼ四角形を呈す剥片の下辺部に、片面剥離による細かい刃部を作出。	黒色安山岩
第86図 PL.68	14	円盤形石器	I-18	完形	4.4	3.7	1.5	29.7	楕円を呈す円盤形。両面、側面研磨による整形。	粗粒輝石安山岩

8区遺構外出土石器

第86図 PL.68	1	硯	14トレ	欠損	(3.2)	(2.3)	0.3	~1.2	側縁部片、使用面深くすり減る。近世か。	凝灰岩
					(8.2)					

15区遺構外出土石器

第86図 PL.68	1	石鏃	E-3	欠損	(2.7)	(1.8)	(0.8)	(2.1)	未製品か。	黒曜石
---------------	---	----	-----	----	-------	-------	-------	-------	-------	-----

96区遺構外出土石器

第86図 PL.69	1	石鏃	E-25	完形	1.6	1.2	0.3	0.5	凹基無茎、両側縁が弧状に膨らみを有す。	黒曜石
第86図 PL.69	2	石鏃	D-24	欠損	(1.8)	(1.1)	0.3	(0.5)	凹基無茎、片側半分を欠く。	黒曜石
第86図 PL.69	3	打製石斧	E-23	完形	11.0	5.4	1.7	148.4	撥型で刃部丸みを有す、板状の素材から作り出し、両面に自然面。	粗粒輝石安山岩
第86図 PL.69	4	打製石斧	E-24	完形	10.3	4.6	1.8	118.0	撥型の小型品、片面に自然面残す。	黒色頁岩
第86図 PL.69	5	打製石斧	I-25	完形	13.6	5.6	2.7	255.6	大型礫からの薄片、片面に大きく自然面残す、両側縁中位に弱い括れ。	黒色頁岩
第87図 PL.69	6	スクレイパー	H-23	完形	4.1	4.5	1.0	26.4	台形を呈し、両側縁に刃部作出。	黒色頁岩
第87図 PL.69	7	打製石斧	D-25	欠損	(7.8)	5.5	1.7	(107.1)	打製石斧の基部片か、幅広で側縁部に僅かな調整痕見られる。	粗粒輝石安山岩
第87図 PL.69	8	打製石斧	D-24	欠損	(7.1)	4.3	2.6	(101.8)	撥型か、上端部および片面一部に自然面、厚手の基部片。	粗粒輝石安山岩
第87図 PL.69	9	打製石斧	E-24	欠損	(5.6)	4.2	1.5	(57.4)	撥型基部片か、基部両側縁に弱い括れ有す。片面に自然面残る。	細粒輝石安山岩
第87図 PL.69	10	打製石斧	F-24	欠損	(5.6)	4.3	1.2	(41.3)	撥形の基部片か。	黒色頁岩
第87図 PL.69	11	打製石斧	I-25	欠損	(8.8)	4.9	1.2	(84.9)	短冊形か、板状で刃部を欠く。	細粒輝石安山岩
第87図 PL.69	12	打製石斧	H-23	欠損	(8.9)	4.2	1.5	68.8	撥型か、刃部が開くと見られるが欠損している。	黒色頁岩

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値				特 徴	石 材
					長さ・幅・厚さ(cm)	重さ(g)				
第87図 PL.69	13	敲石	E-23	欠損	(14.7)	6.5	4.1	582.0	やや細長い礫の一端を使用、一部欠損しているが、周囲に打痕見られる。	石英閃緑岩
第87図 PL.69	14	磨製石斧	D-24	欠損	(11.0)	5.1	2.8	(284.9)	定格式、側縁部の稜線明瞭、刃部を欠く。	緑泥片岩
第87図 PL.69	15	磨石	E-24	完形	7.5	6.1	5.1	288.5	卵形の小平礫、打痕と見られる小穴が見られる。表面鉄分の沈着顕著。	粗粒輝石 安山岩

遺構外出土須恵器

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部 位	出土位置	胎土/色調/焼成	成 形 の 特 徴 等	備 考
第151図 PL.73	1	須恵器 甕	胴部片	6区	砂粒/暗灰色/良	甕の体部片か、器面風化。	
第151図 PL.73	1	須恵器 杯	口縁部片	7区	微砂粒/明灰色/良	ロクロ目明瞭でやや薄手作り。	
第151図 PL.73	2	須恵器 杯	底部片	7区	微砂粒/明灰色/良	底部片、左回転糸切り。	

遺構外出土陶磁器

挿図番号 図版番号	掲載 No.	出土位置	器種・部位・残存	①胎土 ②色調	特 徴 ・ そ の 他	備 考
第152図 PL.73	1	3区	陶器 碗 口縁部片	①良好 ②褐灰	内外面、白化粧土による施文。肥前系	17c中～ 18c
第152図 PL.73	2	3区	陶器 甕 胴部片	①良好 ②灰褐色	内面押圧痕、灰釉付着。	
第152図 PL.73	3	3区	陶器 すり鉢 胴部片	①良好 ②黄灰	肥前系	
第152図 PL.73	4	3区	陶器 すり鉢 胴部片	①良好 ②褐灰	肥前系か	
第152図 PL.73	5	3区	陶器 碗 高台部	①良好 ②にぶい黄褐	呉器手碗高台部周辺を打ち欠き、円盤状に成形。肥前系。底径4.6cm	17c中～ 18c
第152図 PL.73	6	3区	陶器 碗 高台部片	①良好 ②にぶい褐	内外面に白化粧土による刷毛目文様。碗高台部の周辺を打ち欠き、円盤状に成形。肥前系	17c中～ 18c
第152図 PL.73	7	3区	陶器 皿 胴～高台部片	①良好 ②灰黄	内野山諸窯。底径(6.3)cm	17c中～ 18c
第152図 PL.73	8	3区	青磁 香炉 胴～底部40%	①良好 ②灰白	小型の香炉。3足が付く。肥前系。底径2.5cm	近世
第152図 PL.73	9	3区	陶器 小碗 胴～高台部40%	①良好 ②灰白	灰釉。瀬戸美濃系。底径3.2cm	18c
第152図 PL.73	10	3区	陶器 皿 胴～高台部片	①良好 ②にぶい黄橙	高台内に目痕を残す。瀬戸美濃系。底径(6.0)cm	近世
第152図 PL.73	11	3区	陶器 皿 胴～高台部片	①良好 ②灰白	見込みに目痕1カ所。瀬戸美濃系。底径(6.2)cm	17c
第152図 PL.73	1	4区	陶器 碗 口縁～胴部片	①良好 ②灰白	天目茶碗。中国か。口径11.5cm	中世
第152図 PL.73	2	4区	陶器 碗 口縁～胴部片	①良好 ②灰白	天目茶碗。瀬戸美濃系。口径(12.9)cm	中世末～ 近世 前半
第152図 PL.73	3	4区	染付 碗 口縁部片	①良好 ②灰白	小碗または仏飯器。外面に笹文。肥前系。口径(6.8)cm	18c中～ 後
第152図 PL.73	4	4区	陶器 香炉 口縁～胴部片	①良好 ②灰黄	口縁端部が欠損しており、灰落ととしても使用か。被熱。瀬戸美濃系。口径(11.5)cm	近世
第152図 PL.73	5	4区	陶器 徳利 口縁～頸部片	①良好 ②灰	被熱。瀬戸美濃系。口径4.8cm	18c
第152図 PL.73	6	4区	陶器 皿 胴～高台部40%	①良好 ②灰白	摺絵皿。瀬戸美濃系。底径6.5cm	17c後～ 18c
第152図 PL.73	7	4区	陶器 皿 高台部片	①良好 ②灰白	被熱。瀬戸美濃系。底径(6.0)cm	大窯期
第152図 PL.73	1	6区	在地土器 内耳土器 内耳部片	①良好。細砂粒少 ②にぶい褐	鍋形。口縁端部、平坦でシャープ。外面横撫で。信濃型。	中世
第152図 PL.73	2	6区	陶器 碗 胴～高台部40%	①良好 ②にぶい黄橙	鉄釉。生産地不詳。底径(3.5)cm	近世
第152図 PL.73	3	6区	陶器 碗 胴～高台部片	①良好 ②浅黄	被熱。瀬戸美濃系。底径4.8cm	近世

挿図番号 図版番号	掲載 No.	出土位置	器種・部位・残存	①胎土 ②色調	特 徴 ・ そ の 他	備 考
第152図 PL.73	4	6区	陶器 皿 胴～高台部片	①良好 ②黄灰	内禿皿。鉄釉。瀬戸美濃系。底径(4.6)cm	大窯期
第152図 PL.73	1	7区	陶胎染付 碗 口縁～胴部片	①良好 ②灰白	外面に連続唐草文か。肥前系。口径(10.2)cm	18c 前
第152図 PL.73	2	7区	染付 碗 口縁～胴部 30%	①良好 ②灰白	筒形碗。外面崩れた氷裂地に菊花文。肥前系 口径(6.8)cm	18c 後半
第152図 PL.73	3	7区	陶器 碗 胴～高台部片	①良好 ②にぶい赤褐	内外面に白化粧土による刷毛目文様。肥前系。 底径(4.0)cm	17c 中～ 18c
第152図 PL.73	4	7区	染付 碗 胴部片	①良好 ②灰白	肥前系	19c 以降
第152図 PL.73	5	7区	陶器 皿 口縁部片	①良好 ②灰白	折縁深皿。被熱のため、詳細は不明。瀬戸美 濃系	古瀬戸後 期か
第152図 PL.73	6	7区	在地土器 内耳土器 口縁部片	①良好。酸化。細砂粒少 ②にぶい黄橙	口縁端部平坦でシャープ。内外面横撫で。	中世
第152図 PL.73	7	7区	陶器 皿 口縁部片	①良好 ②灰白	内野山諸窯。口径(17.8)cm	近世
第153図 PL.73	8	7区	染付 皿 胴部片	①良好 ②灰白	中国	染付皿B1 群
第153図 PL.73	9	7区	青磁 碗 胴部片	①良好 ②灰白	鎗蓮弁文碗。龍泉窯系	青磁碗B1 類
第153図 PL.73	10	7区	陶器 皿 胴～高台部40%	①良好 ②灰白	志野丸皿。高台内に墨書あり。判読不明。底 径(6.0)cm	連房3～5 小期か
第153図 PL.73	11	7区	陶器 皿 胴～高台部片	①良好 ②灰白	志野丸皿。見込み及び高台内に目痕を残す。 瀬戸美濃系。底径(7.0)cm	
第153図 PL.73	12	7区	陶器 徳利か 胴～高台部片	①良好 ②灰黄	尾呂徳利か有耳壺と思われる。瀬戸美濃系。 底径(7.8)cm	近世
第153図 PL.73	13	7区	陶器 碗 胴～高台部片	①良好 ②灰黄	呉器手碗。肥前系。底径(4.4)cm	17c 中～ 18c
第153図 PL.73	14	7区	陶器 碗 高台部片	①良好 ②灰白	呉器手碗高台部周辺を打ち欠き、円盤状に成 形。肥前系	17c 中～ 18c
第153図 PL.73	15	7区	陶器 小碗 高台部	①良好 ②灰白	小碗高台部周辺を打ち欠き円盤状に成形。瀬 戸美濃系。底径3.4cm	近世
第153図 PL.73	16	7区	陶器 鉢 高台部片	①良好 ②にぶい黄褐	内面に重ね焼き時の砂の痕跡を残す。肥前系 か	
第153図 PL.73	17	7-12ト レンチ	在地土器 内耳土器 内耳～底部片	①良好。酸化。細砂粒含 ②褐色	鍋形。平底。内面撫で。外面粗い撫で。器高低い。 信濃型。底径(30.0)cm	中世
第153図 PL.73	18	7区	在地土器 内耳土器か 底部片	①良好。細砂粒含 ②褐	平底。器壁厚い。	中世?
第153図 PL.73	1	8区	陶器 すり鉢 胴部片	①良好 ②黄灰	口縁部鉄釉を施釉。肥前系	17c
第153図 PL.73	2	8区	染付 碗 胴～高台部40%	①良好 ②灰白	被熱か。筒丸形碗。肥前系。底径3.1cm	19c
第153図 PL.73	3	8区	陶器 碗 胴～高台部片	①良好 ②にぶい褐	内外面に白化粧土による刷毛目文様。肥前系。 底径(4.0)cm	17c 中～ 18c
第153図 PL.73	4	8区	陶器 碗 胴～高台部片	①良好 ②灰黄	呉器手碗。肥前系。底径(4.8)cm	17c 中～ 18c
第153図 PL.73	1	13区	陶器 香炉 口縁部片	①良好 ②灰白	瀬戸美濃系か。口径(13.0)cm	近世
第153図 PL.73	2	13区	陶器 灯明皿 口縁～胴部片	①良好 ②橙	志戸呂か。口径(11.7)cm	近世
第153図 PL.73	1	15-1溝	染付 碗 胴部片	①良好 ②灰白	筒形碗。外面、氷裂地に菊花文。肥前系	18c 中～ 後半
第153図 PL.73	2	15-1溝	白磁 皿 胴～高台部片	①良好 ②灰白	中国。底径6.0cm	16c
第153図 PL.73	3	15-1溝	磁器 碗 高台部片	①良好 ②灰白	見込み蛇の目釉剥ぎ、砂付着。肥前系。底径 (3.3)cm	18c
第153図 PL.73	1	96区	染付 碗 口縁～胴部30%	①良好 ②灰白	筒形碗。外面崩れた氷裂地に菊花文。肥前系。 口径(7.2)cm	18c 後半
第153図 PL.73	2	96区	染付 碗 胴～高台部50%	①良好 ②灰白	波佐見系。底径4.0cm	18c

遺構外出土鉄製品

挿図番号 図版番号	掲載 No.	種類	出土位置	残存	計測値	形態の特徴等	備考
第154図 PL.74	1	鉄釘	3区表土	先端部欠損	0.8 × 0.8 × < 7.5 > 26.1g	上端部扁平	
第154図 PL.74	2	古銭	3区5トレンチ	完形	径 2.3 孔径 0.65 厚さ 0.12 重さ 2.5g	寛永通宝(新寛永)	
第154図 PL.74	1	古銭	6区I-2	完形	径 2.12 孔径 0.65 厚さ 0.09 重さ 1.6g	寛永通宝(新寛永)	
第154図 PL.74	2	古銭	6区I-20	1/3	厚さ 0.10 重さ (0.7)g	銭文不明瞭	
第154図 PL.74	1	古銭	7区R-23	完形	径 2.52 孔径 0.60 厚さ 0.11 重さ 2.6g	寛永通宝(新寛永)	
第154図 PL.74	1	古銭	8区13トレンチ	完形	径 2.45 孔径 0.56 厚さ 0.11 重さ 3.3g	寛永通宝(古寛永)	

補遺編出土遺物観察表

長野原一本松遺跡(2)

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第156図 PL.74	1	深鉢	口縁部		5-40住	石英粒・長石粒/にぶい 暗茶褐色/良	口縁部下に横位沈線、以下隆帯による渦巻き文、間隙部分には短沈線文で埋める。	中期後葉
第156図 PL.74	2	深鉢	口縁部		5-40住	石英粒・長石粒少/にぶい 茶褐色/良	口縁部隆帯による渦巻き文、間隙部分には短沈線文。	中期後葉
第156図 PL.74	3	深鉢	口縁部		5-40住	石英粒・長石粒多/灰黒 褐色/良	波状口縁突起部、楕円透かし孔有し、脇に円形刺突文が付く。	後期前葉
第156図 PL.74	4	深鉢	胴部		5-40住	石英粒・長石粒/にぶい 黄茶褐色/良	横位刺突文を2段に配し、以下沈線による∩状文、S状文を横位連続に描く。∩文内は状文が充填施文され、蕨手沈線文描く。	中期後葉
第156図 PL.74	5	深鉢	胴部		5-40住	石英粒・長石粒多/にぶい 灰褐色/良	沈線で縦位無文帯画す、縄文RL縦位施文。	中期後葉
第156図 PL.74	6	深鉢	胴部		5-40住	石英粒・長石粒多/にぶい 赤茶褐色/良	縦位条線文施文。器面に砂粒目立つ。	中期後葉
第156図 PL.74	7	深鉢	胴部		5-40住	石英粒・長石粒/にぶい 暗黒褐色/良	沈線による縦位無文帯画す、間を斜位の集合沈線文。	中期後葉
第156図 PL.74	8	深鉢	胴部		5-40住	石英粒・長石粒少/にぶい 暗茶褐色/良	縦位並行沈線、および重弧状沈線文。	中期後葉
第156図 PL.74	9	深鉢	胴部		5-40住	石英粒・長石粒多/灰黒 褐色/良	横位隆帯から垂下する2本の沈線で無文帯を画す。縄文RL縦位施文。	中期後葉
第156図 PL.74	10	深鉢	胴部		5-40住	石英粒・長石粒少/にぶい 茶褐色/良	隆帯により曲線文、縄文RL施文。	中期後葉
第156図 PL.74	11	深鉢	胴部		5-40住	石英粒・長石粒多/暗褐色 /良	凹線伴う隆帯により曲線文、縄文LR施文。	中期後葉
第156図 PL.74	1	深鉢	口縁部		4-40土	石英粒・長石粒/淡橙褐色 /良	波状口縁突起部、波頂部を欠く、波頂下に突起有す。以下沈線による曲線文様を描き、縄文を施文する。	後期初頭
第156図 PL.74	1	深鉢	胴部		4-41土	石英粒・長石粒/にぶい 淡褐色/良	垂下沈線による磨り消し帯、縄文LRを縦位施文。	中期後葉
第156図 PL.74	1	深鉢	胴部		4-42土	石英粒・長石粒/にぶい 淡褐色/良	隆帯懸垂文。	後期初頭
第156図 PL.74	1	深鉢	口縁部		4-44土	石英粒・長石粒多/にぶい 黒褐色/良	口縁内側に隆帯、口縁下には沈線を伴う隆帯が巡る。以下斜位の集合沈線を埋める。	中期後葉
第156図 PL.74	2	深鉢	口縁部		4-44土	石英粒・金雲母粒/にぶい 暗茶褐色/良	波頂部に隆帯による渦巻き文。	中期後葉
第156図 PL.74	3	深鉢	口縁部		4-44土	石英粒・長石粒/にぶい 暗茶褐色/良	沈線伴う隆帯で矩形文様画す。区画文内にはLR縄文施文。	中期後葉
第156図 PL.74	4	深鉢	取手		4-44土	石英粒・長石粒/にぶい 黄褐色/良	橋状取手片、片側側縁、および接合部に刻み有す。	後期
第157図 PL.74	5	深鉢	口縁部		4-44土	石英粒・長石粒多/にぶい 茶褐色/良	口縁部に沈線で連続楕円文を描く、文様内は縦位燃糸文Lを充填施文。肩部には隆帯で文様を画し、同じく燃糸文Lを縦位充填施文。	中期後葉 古
第157図 PL.74	6	深鉢	取手部		4-44土	石英粒・長石粒/黒褐色 /良	口縁部取手部、波状頂部に隆帯が捻れるように上端部へ繋がる。上端面は渦巻き文様。また両側縁部には刺突文が付される。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第157図 PL.74	7	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒/黄茶褐色/良	隆帯による連弧状文。文様内には縦位短沈線文。	中期後葉
第157図 PL.74	8	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒/黒褐色/良	横位沈線下に縄文施文。	中期後葉
第157図 PL.74	9	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・金雲母粒/にぶい暗茶褐色/良	縄文LRを縦位施文後、垂下波状沈線文。	中期後葉
第157図 PL.74	10	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒多/にぶい灰黒褐色/良	沈線で縦位磨り消し、縄文はRL縦位施文。	中期後葉
第157図 PL.74	11	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒多/にぶい茶褐色/良	隆帯による曲線文、渦巻き文様描く、文様間は斜位の集合沈線を埋める。	中期後葉
第157図 PL.74	12	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒/にぶい黄褐色/良	屈曲部が大きく突出、上面に沈線による曲線文様。	中期後葉
第157図 PL.74	13	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒/茶褐色/良	2本単位の隆帯で縦位、横位の区画文、区画内に縦位集合沈線文。	中期後葉
第157図 PL.74	14	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒多/にぶい茶褐色/良	隆帯による曲線文、渦巻き文様描く、文様間は斜位の集合沈線を埋める。	中期後葉
第157図 PL.74	15	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒多/にぶい茶褐色/良	隆帯による曲線文、渦巻き文様描く、文様間は斜位の集合沈線を埋める。	中期後葉
第157図 PL.74	16	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒/茶褐色/良	横位細条線施文後、間隔を置いて横位沈線文。	中期後葉
第157図 PL.74	17	深鉢	胴部		4-44土	石英粒・長石粒/にぶい暗茶褐色/良	3本隆帯垂下、両側に斜位の集合沈線文。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材	
第157図 PL.74	18	石鏃	4-44土	完形	1.6 1.2 0.7 0.7	小型の凹器無茎鏃、中央部分にやや厚みを有す。	黒曜石	
第157図 PL.74	19	石鏃	4-44土	欠損	(1.0) 1.3 0.3 (0.4)	小型の凹器無茎鏃、先端部を欠く。	黒曜石	
第157図 PL.74	20	打製石斧	4-44土	完形	11.9 5.5 1.9 138.3	撥形、刃部はやや広がり、使用による摩耗見られる。	細粒輝石 安山岩	
第157図 PL.75	21	打製石斧	4-44土	欠損	(5.4) (8.2) 2.0 (98.6)	撥形、刃部を欠く。片面に大きく自然面を残し、側面の調整は粗い。	黒色頁岩	
第158図 PL.75	22	磨石	4-44土	完形	12.9 7.1 2.6 368.2	扁平で不定型な川原石利用。	細粒輝石 安山岩	
第158図 PL.75	23	石皿	4-44土	欠損	(21.2) 25.5 7.9 (5,850)	半分を欠く、使用面は敲打されたように、凹凸が顕著。	細粒輝石 安山岩	
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第158図 PL.75	1	深鉢	口縁部		5-383土	石英粒・長石粒少/にぶい黄茶褐色/良	内屈する口縁部に横位沈線文。	後期前葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材	
第158図 PL.75	1	多孔石	5-515土	完形	33.7 21.1 16.3 15,300	大型の自然礫利用、上部にやや小ぶりの凹み孔有す。	細粒輝石 安山岩	
第158図 PL.75	1	石棒	5-561土	欠損	(13.9) 11.0 10.3 (2,150)	大型品、両端を欠く。被熱か。	片岩	
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第158図 PL.75	1	深鉢	胴部		5-581土	石英粒・長石粒多/にぶい茶褐色/良	無文、器面に砂粒目立つ。	後期
第158図 PL.75	2	深鉢	胴部		5-581土	石英粒・長石粒/にぶい黄褐色/良	沈線文、縄文が看取される。器面風化。	中期後葉
第158図 PL.75	3	深鉢	胴部		5-581土	石英粒・長石粒多/灰褐色/良	縦位の隆帯。器面一部剥離。	後期
第158図 PL.75	4	深鉢	胴部		5-581土	石英粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	縦位の隆帯、縦位刺突文伴う沈線文。	中期後葉
第158図 PL.75	1	深鉢	口縁部		5-582土	石英粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	やや外反する無文口縁部片、器面研磨。	後期
第158図 PL.75	2	深鉢	胴部		5-582土	石英粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	隆帯による楕円区画文様描出か。	中期後葉
第158図 PL.75	3	深鉢	胴部		5-582土	石英粒・長石粒/にぶい茶褐色/良	縦位隆帯で無文帯を画す、縄文LR縦位施文。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第158図 PL.75	4	深鉢	胴部	5-582土	石英粒・長石粒/にぶい 灰褐色/良	沈線による縦位文様。区画内に縄文充填施文。	中期後葉
第159図 PL.75	1	深鉢	口縁部	5-583土	石英粒・長石粒少/にぶい 黄褐色/良	口縁部から縦位沈線。	中期後葉
第159図 PL.75	1	深鉢	胴部	5-584土	石英粒・長石粒多/にぶい 黄褐色/良	沈線で無文帯画す、縦位磨り消し縄文。縄文はR L縦位施文。	中期後葉
第159図 PL.75	1	深鉢	口縁部	5-585土	石英粒・長石粒少/暗茶 褐色/良	口縁上端部が肥厚し8字状呈す。円孔有し、下部には刻みを有す2本の横位隆帯を縦8字状文が繋ぐ。	後期前葉
第159図 PL.75	2	深鉢	胴部	5-585土	石英粒・長石粒多/にぶい 茶褐色/良	縦位無文帯に3本の沈線。	中期後葉
第159図 PL.75	3	深鉢	胴部	5-585土	石英粒・長石粒多/にぶい 暗褐色/良	凹線による曲線文、両縁が隆線様に高まる。縄文L R施文。	中期後葉
第159図 PL.75	4	深鉢	底部 底(6.1)	5-585土	微砂粒少/にぶい茶褐色 /良	無文、底面に網代痕。	後期
第159図 PL.75	1	深鉢	胴部	5-590土	石英粒・長石粒少/にぶい 黄白色/良	沈線による三角意匠文様画し、細縄文充填施文。沈線交点部に刺突文。	後期前葉
第159図 PL.75	1	深鉢	胴部	5-591土	石英粒・長石粒多/にぶい 黄褐色/良	磨り消し縄文による矩形文。	後期前葉
第159図 PL.75	1	深鉢	口縁部	5-593土	石英粒・長石粒少/黒褐 色/良	口縁部やや肥厚、以下縄文が施文。	中期後葉
第159図 PL.75	2	深鉢	胴部	5-593土	石英粒・長石粒/にぶい 黄茶褐色/良	R L縄文縦位施文。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第159図 PL.75	3	多孔石	5-593土	完形	34.9 25.5 17.2 15,200	やや扁平な自然礫利用、上面に複数の凹み孔有す。	細粒輝石 安山岩
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第159図 PL.75	1	深鉢	胴部	5-595土	微石英粒・長石粒/にぶい 黄褐色/良	隆帯で楕円文様か、縄文充填施文。	中期後葉
第159図 PL.75	1	深鉢	取手	5-599土	石英粒・長石粒少/にぶい 淡褐色/良	波頂部取手部分、上面部分渦巻き文、複数の円孔有す。	後期前葉
第159図 PL.75	1	深鉢	口縁部	5区	微砂粒/にぶい暗茶褐色 /良	櫛状工具による横位波状文。	弥生後期
第159図 PL.75	2	深鉢	口縁部	5区	石英粒・長石粒多/暗褐 色/良	口縁部に横位沈線、以下半裁竹管による横位波状文を多段施文。	前駆中葉
第159図 PL.75	3	深鉢	胴部	5区	石英粒・長石粒少/暗茶 褐色/良	ループ文横位多段施文。	前期前葉
第159図 PL.75	4	深鉢	胴部	5区	石英粒・長石粒多/にぶい 明褐色/良	連続結節浮線文。	前期後葉
第159図 PL.75	5	深鉢	胴部	5区	石英粒・長石粒/にぶい 明茶褐色/良	縄文施文後、並行する刺突文で平行線、曲線文様描く。	前期後葉
第159図 PL.75	6	深鉢	胴部	5区	石英粒・長石粒/にぶい 灰茶褐色/良	横位沈線による無文帯画し、縦位矢羽根状沈線文施文か。	後期
第159図 PL.75	7	深鉢	胴部	5区	石英粒・長石粒少/にぶい 黒茶褐色/良	集合沈線。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第160図 PL.76	8	多孔石	5-F 13	完形	29.5 19.5 7.6 4,480	やや扁平な自然礫利用、表裏面に複数の凹み孔有す。	細粒輝石 安山岩
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第160図 PL.76	1	深鉢	胴部	95区	砂粒多/にぶい灰黒色/ 不良	縦位の隆帯。強く被熱し発泡顕著。	中期後葉
第160図 PL.76	2	深鉢	胴部	95区	石英粒・長石粒少/にぶい 灰褐色/良	沈線による三角意匠文様か。	後期前葉
第160図 PL.76	3	耳栓	高:2.2 巾1.8~2.2 径:上2.2、下2.1	95区	石英粒・長石粒/にぶい 灰黒褐色/良	やや小振りで鼓形を呈す。文様は外側三方から沈線による弧状文描き、中央部分に細い棒状工具による刺突文で埋める。	中期

挿図番号 図版番号	掲載 No.	出土位置	器種・部位・残存	①胎土 ②色調	特 徴 ・ そ の 他	備 考	
第160図 PL.76	4	95区	陶器 碗 口縁～胴部片	①良好 ②灰黄褐	瀬戸美濃系。口径(8.4)cm	中世末～近 世前半か	
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第160図 PL.76	5	石鏃	95-Q22	欠損	(2.7) 1.9 0.8 (1.8)	平基無茎、粗い作りで、先端部僅かに欠く。	チャート
第160図 PL.76	6	軽石製品	95区	完形	4.7 3.7 1.0 6.9	長方形で下部が僅かに狭くなっている。上部に孔を有す。研磨による成形。	軽石
第160図 PL.76	7	軽石製品	95区	欠損	(5.7) 4.5 1.0 (8.9)	薄い板状で下部はやや丸みを有す。上部を欠損、孔の痕跡見られる。	軽石
第160図 PL.76	8	軽石製品	95区	欠損	(2.8) (4.8) 4.0 (6.6)	碗状と思われる、底は平らに磨られている。	軽石

長野原一本松遺跡(3)

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第160図 PL.76	1	深鉢	底部 底:(14.0)	95-6土	石英粒・長石粒多/にぶ い黄褐色/普通	大型の底部片、器面風化。被熱か。	中期
第160図 PL.76	1	深鉢	底部 底:(9.0)	95-9土	石英粒・金雲母粒/茶褐色/良	底部片、割れ口に調整痕。	中期

長野原一本松遺跡(4)

第160図 PL.76	1	深鉢	取手	5-58住	石英粒・長石粒少/にぶ い茶褐色/良	口縁部に付く環状取手、上面は平らに広がり、円孔を持つ。器面研磨。	中期後葉
第160図 PL.76	2	深鉢	口縁部	5-58住	石英粒・長石粒多/にぶ い灰黒色/良	波頂部から下がった隆帯が渦巻き文を作る、さらに下方に繋がる隆帯により文様を構成。区画文内には縄文施文。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第161図 PL.76	3	石鏃	5-58住	完形	2.0 1.8 0.3 0.8	凹基無茎、脚は開き、袂は弧状を呈す。	黒曜石
第161図 PL.76	4	石鏃	5-58住	欠損	(3.4) (1.8) 0.4 1.7	大型鏃、凹基で脚はやや短く作られる、片脚を欠く。	黒色安山岩
第161図 PL.76	5	石鏃	5-58住	欠損	(2.3) 1.8 0.4 1.4	凹基無茎、先端部を僅かに欠く。	黒色頁岩
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第161図 PL.76	1	深鉢	胴部	5-60住	石英粒・長石粒多/にぶ い明黄色/良	爪形刺突文。	後期初頭
第161図 PL.76	2	深鉢	胴部	5-60住	石英粒・長石粒多/黒褐色/良	爪形刺突文。	後期初頭
第161図 PL.76	3	深鉢	胴部	5-60住	石英粒・長石粒少/黒褐色/良	円形刺突文。	後期初頭
第161図 PL.76	4	土製円盤	底部	5-60住	石英粒・長石粒/明黄褐色/良	底部片利用の土製円盤。	中期か
第161図 PL.76	5	土製円盤	胴部	5-60住	石英粒・長石粒少/にぶ い暗褐色/良	刺突文。	後期初頭
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第161図 PL.76	1	石鏃	95-3住	完形	1.6 1.1 0.2 0.3	小型凹基無茎、袂部深い。	黒曜石
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第161図 PL.76	1	深鉢	胴部	95-4住	精製/にぶい灰茶褐色/良	沈線による円形文。器面研磨。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第161図 PL.76	2	石鏃	95-4住	欠損	(2.1) 1.2 0.5 0.9	先端部片。片面が肥厚。	黒色頁岩
第161図 PL.76	3	石鏃	95-4住	完形	3.2 2.5 0.6 4.6	平基であるが、基部に弱い膨らみ見られる。全縁辺部に両面からの調整痕。	チャート
第161図 PL.76	1	石鏃	95-5住	欠損	(1.8) 1.8 0.4 1.1	凹基無茎、袂部浅い、先端部を欠く。	黒曜石

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器種	部位	口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文様の特徴等	備考
第161図 PL.76	1	深鉢	口縁部		95-6住	石英粒・長石粒少/に ぶい茶褐色/良	口縁部突起、口唇部に沈線が付され、突起上 端面で渦巻き文様を描く、内外面に沈線によ り円形文、垂下文様を描く。	中期後葉
第161図 PL.76	2	深鉢	口縁部		95-6住	石英粒・金雲母粒/に ぶい灰茶褐色/良	口縁部折り返されて肥厚、以下縄文RLを縦 位施文。	中期後葉
第161図 PL.76	3	深鉢	口縁部		95-6住	石英粒・金雲母粒多/に ぶい灰黒褐色/良	波状口縁部、隆帯が波頂部に延び、渦巻き文 を構成か、波頂部下から隆帯による端部渦巻 隆帯文が垂下。	中期後葉
第161図 PL.76	4	深鉢	口縁部		95-6住	石英粒・長石粒多/に ぶい黒褐色/良	口縁部肥厚し突起状を呈す、口唇部には溝状 の沈線。	中期後葉
第161図 PL.76	5	深鉢	口縁部		95-6住	石英粒・長石粒少/に ぶい茶褐色/良	くの字に内屈、無文で内外面研磨。	
第161図 PL.76	6	深鉢	口縁部		95-6住	石英粒・長石粒少/に ぶい淡茶褐色/良	口縁部を横位隆帯で画す、中央に2本の隆帯 が巡り、縄文RLが施文された部分を上下2 分割する。	中期後葉 古
第161図 PL.76	7	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒少/に ぶい暗茶褐色/良	貼り付け隆帯で斜格子状文、以下縦位の沈線 文、連続刺突文が見られる。	中期後葉
第161図 PL.76	8	深鉢	口縁部		95-6住	石英粒・長石粒多/に ぶい茶褐色/良	口唇部内側がくの字に張り出す。口縁下に横 位隆帯、以下縄文RL横位施文。	中期後葉
第162図 PL.76	9	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒多/に ぶい黄褐色/良	屈曲部、口縁部には渦巻き文、横位懸手文、 楕円文を描く。楕円文内には縄文を施文。	中期後葉
第162図 PL.76	10	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒/に ぶい茶褐色/良	口縁屈曲部片、2本の横位隆帯巡り、連続刻 み文配す。上の隆帯から口縁部文様を描く隆 帯が繋がる。文様区画内には縦位の集合沈線。	中期後葉
第162図 PL.77	11	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒/に ぶい灰茶褐色/良	隆帯による楕円文を横位連続構成。楕円文内 は沈線を巡らし、縦位集合沈線で埋める。内 面に煤付着。	中期後葉
第162図 PL.77	12	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒/に ぶい暗茶褐色/良	隆帯による渦巻き文から続く2本の隆帯が垂 下、横位にも2本の隆帯が続く。隆帯による 区画内には縦位縄文RLが充填施文される。	中期後葉
第162図 PL.77	13	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒/に ぶい黄褐色/良	頸部に横位3本の沈線を巡らし、縄文施文後 描いた、波状懸垂文の一部が看取される。縄 文は縦位LR。	中期後葉
第162図 PL.77	14	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒多/茶 褐色/良	2本の隆帯で曲線文描く、外側、内側に縄文 LR施文。	中期後葉
第162図 PL.77	15	深鉢	胴部		95-6住 炉	石英粒・長石粒多/に ぶい褐色/良	地文には縄文RL施文し、横位3本単位の沈 線を複数段巡らし、間には横位波状沈線文。	中期後葉
第162図 PL.77	16	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・金雲母粒/に ぶい赤茶褐色/良	縦位並行沈線で縦位区画を構成か、中央に沈 線による波状垂下文。	中期後葉 古
第162図 PL.77	17	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒/に ぶい橙褐色/良	2本の並行隆帯が垂下、区画内には縦位燃糸 文R施文。	中期後葉 古
第162図 PL.77	18	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒少/に ぶい暗茶褐色/良	横位2本単位の沈線下に縄文RL縦位施文。	中期後葉
第162図 PL.77	19	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・金雲母粒/に ぶい茶褐色/良	隆帯による連続U状懸垂文、文様内には縦位 綾形状の沈線文。	中期後葉
第162図 PL.77	20	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒少/に ぶい茶褐色/良	垂下隆帯の下端部が見られ、隆帯を挟み縦位 の斜位沈線が看取される。	中期後葉
第162図 PL.77	21	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒/赤茶 褐色/良	2本隆帯で曲線文、集合沈線及び連続結節文 が付される。	中期後葉
第162図 PL.77	22	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒多/に ぶい茶褐色/良	横位隆帯、縦位の集合沈線文施文後、2条の 連続結節文付す。	中期後葉
第162図 PL.77	23	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒少/に ぶい茶褐色/良	縦位の集合沈線文施文後、2条の連続結節文 付す。	中期後葉
第162図 PL.77	24	深鉢	胴部		95-6住	石英粒・長石粒多/に ぶい茶褐色/良	縦位の集合沈線文施文後、2条の連続結節文 付す。	中期後葉
第162図 PL.77	1	深鉢	胴部		95-7住	石英粒・長石粒/に ぶい茶褐色/良	頸部に交互刺突文有す横位隆帯、以下縦位集 合沈線施文し、横位の沈線を複数巡らす。	中期後葉
第162図 PL.77	2	深鉢	胴部		95-7住	微石英粒・長石粒少/に ぶい茶褐色/良	屈曲部、2本の横位隆帯巡る、下位の隆帯か ら短いJ字状の懸垂文。懸垂文間に横位連続 刻みが付される。また、上部にも刻み文が 見られる。	中期後葉
第163図 PL.77	3	深鉢	胴部		95-7住	石英粒・長石粒多/に ぶい茶褐色/良	隆帯による懸垂文、縄文LRを縦位施文し、 沈線による矩形文様。	中期後葉 古
第163図 PL.77	4	深鉢	胴部		95-7住	石英粒・長石粒/黒 褐色/良	沈線で縦位磨り消し帯画す。縄文は縦位RL 施文、沈線による波状懸垂文。	中期後葉
第163図 PL.77	5	深鉢	胴部		95-7住	石英粒・長石粒多/に ぶい暗茶褐色/良	幅広の隆帯が垂下、隆帯間は丁寧な撫で、隆 帯両側に沿って沈線、縄文RLが横位施文さ れる。	中期後葉

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第163図 PL.77	6	深鉢	胴部	95-7住	石英粒・長石粒多/に ぶい茶褐色/良	3本単位の垂下沈線で文様区画、縄文RLが 縦位施文される。	中期後葉
第163図 PL.77	1	深鉢	口縁部	95-9住	石英粒・長石粒少/に ぶい茶褐色/良	口縁部環状突起、突起部分に沈線が付され、 手前側は高まる。以下隆帯による渦巻き懸垂 文様が描かれる。	中期後葉
第163図 PL.77	2	深鉢	口縁部	95-9住	石英粒・長石粒多/に ぶい茶褐色/良	口縁内側に横位隆帯、器面研磨。	中期
第163図 PL.77	3	深鉢	胴部	95-9住 炉	石英粒・長石粒少/に ぶい茶褐色/良	縦位の隆線、沈線、地文には綾杉状沈線文。 沈線文は方向を変えて重複施文している。	中期後葉
第163図 PL.77	4	深鉢	胴部	95-9住	石英粒・金雲母粒多/に ぶい黒褐色/良	無文。	中期
第163図 PL.77	5	深鉢	胴部	95-9住	石英粒・金雲母粒多/に ぶい黒褐色/良	頸部に隆帯。	中期
第163図 PL.77	6	深鉢	脚台部	95-9住	石英粒・長石粒/にぶい 赤褐色/良	脚部片、沈線による円状文、透かし孔見られる。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第163図 PL.77	7	石鏃	95-9住	欠損	2.2 1.3 0.5 1.2	側縁部に粗い調整見られる、未製品か。	黒曜石
第163図 PL.77	8	石錐	95-9住	完形	3.2 0.9 0.5 1.2	棒状錐、つまみ部薄くなる。錐部の断面は三角。	黒色頁岩
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第163図 PL.77	1	深鉢	胴部	95-10住	石英粒・長石粒少/に ぶい暗茶褐色/良	頸部に幅狭の横位隆帯、内側には連続結節文 施文。以下隆帯による渦巻き懸垂文。地文に は斜位の集合沈線文。	中期後葉
第163図 PL.77	2	深鉢	胴部	95-10住	石英粒・長石粒多/に ぶい暗茶褐色/良	山状に肥厚した隆帯文、地文には縦位集合沈 線文。	中期後葉
第163図 PL.77	3	深鉢	胴部	95-10住	石英粒・長石粒多/に ぶい灰黒褐色/良	縄文LR縦位施文後、3本の垂下沈線。	中期後葉
第164図 PL.77	1	深鉢	胴部	95-11住	石英粒・長石粒多/に ぶい灰黒褐色/良	縄文LR縦位施文後、3本の垂下沈線。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第164図 PL.78	1	石鏃	5-1 縦	ほぼ完形	1.7 1.7 0.4 1.2	平基無茎、側縁部に弱い膨らみが見られ、鋭 利さは無い、未製品か。	黒曜石
第164図 PL.78	1	石錐	5-716土	完形	2.5 2.0 0.65 1.5	四角形のつまみ部有し、錐部は短い。	黒曜石
第164図 PL.78	1	石鏃	5-150pit	欠損	(0.9) 1.2 0.3 (0.3)	小型の凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石
第164図 PL.78	1	石鏃	5区	欠損	1.4 (0.7) 0.3 (0.2)	凹基無茎、挟れ部三角に深くなる、縦半分を 欠く。	黒曜石
第164図 PL.78	2	石錐	5区	欠損	(2.2) 1.1 0.5 (1.0)	棒状錐、つまみ部やや太くなる。先端部欠損。	黒曜石
第164図 PL.78	1	石鏃	95区	ほぼ完形	1.6 1.4 0.3 0.5	凹基無茎、やや幅広で、粗い作り。	黒曜石
第164図 PL.78	2	石鏃	95区	欠損	(1.7) (1.1) 0.3 (0.2)	先端部片。片面に平坦な剥離面残る。	黒曜石
第164図 PL.78	3	石鏃	95区	欠損	(1.6) 1.6 0.3 (0.9)	凹基無茎、先端部を欠く。	黒曜石
第164図 PL.78	4	石鏃	95区	欠損	(1.4) 1.5 0.3 (0.5)	小型の凹基無茎、先端部を欠く。	黒色頁岩
第164図 PL.78	5	石鏃	95区	欠損	(2.2) 1.7 0.4 (0.9)	凹基無茎、挟れ部は深い。	チャート
第164図 PL.78	6	石錐	95区	欠損	(1.9) 0.6 0.4 (0.3)	錐部を作出した痕跡があることから、小型の 錐と見られる。	黒曜石
第164図 PL.78	7	石錐	95区	欠損	2.1 0.6 0.5 0.6	棒状錐、基部欠損か。	黒曜石

長野原一本松遺跡(5)

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第164図 PL.78	1	深鉢	口縁部	5-83住	石英粒・長石粒少/に ぶい暗褐色/良	やや内湾する無文の口縁部片。	後期
第164図 PL.78	2	深鉢	胴部	5-83住	石英粒・長石粒/黄茶褐 色/良	横位縄文帯。	後期前葉
第164図 PL.78	3	深鉢	胴部	5-83住	石英粒・長石粒多/に ぶい淡褐色/良	2本の沈線で磨り消し曲線文様。縄文はRL 縄文を斜位方向施文。	後期初頭

挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第164図 PL.78	4	深鉢	胴部	5-83住	石英粒・長石粒/にぶい 黄橙褐色/良	微隆線による曲線文か。器面風化。	後期初頭
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第164図 PL.78	5	石鉢	5-83住	完形	1.7 1.7 0.3 0.3	凹基無茎、挟りが深く入り、脚は長く開脚。 逆V字形を呈す。	チャート
第164図 PL.78	6	石鉢	5-83住	欠損	(1.3) 1.4 0.3 (0.5)	凹基無茎、挟りは浅い、先端部分丸くなって おり、欠損後再利用か。	黒曜石
第164図 PL.78	7	石鉢	5-83住	欠損	1.2 1.3 0.4 0.3	凹基無茎、挟りは浅く、作りが粗い。	黒曜石
第164図 PL.78	8	石鉢	5-83住	ほぼ完形	1.9 1.3 0.3 0.5	凹基無茎。	黒色頁岩
第164図 PL.78	9	石鉢	5-83住	欠損	1.9 (1.2) 0.3 (0.3)	凹基無茎、挟り深く脚が細い作り。片脚を欠く。	黒曜石
第164図 PL.78	10	石鉢	5-83住	欠損	(1.7) (1.1) 0.2 (0.2)	凹基無茎、挟り深い、片脚を欠く。	黒曜石
第164図 PL.78	11	石鉢	5-83住	欠損	2.1 (1.2) 0.3 (0.5)	凹基無茎、挟りは浅い、片側側縁部大きく欠く。	黒曜石
第164図 PL.78	12	石鉢	5-83住	欠損	(1.4) 1.4 0.2 (0.4)	凹基無茎、挟り深い、先端部を欠く。	チャート
第164図 PL.78	13	石鉢	5-83住	欠損	(1.4) 1.6 0.4 (0.9)	平基無茎、先端部を欠く。	黒曜石
第164図 PL.78	14	石鉢	5-83住	欠損	(1.3) 1.1 0.2 (0.3)	小型の平基無茎、先端部および片脚部僅かに 欠く。	チャート
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	部位 口・高・底(cm)	出土位置	胎土/色調/焼成	文 様 の 特 徴 等	備 考
第165図 PL.78	1	深鉢	口縁部	5-98住	微砂粒/褐色/良	波頂部突起、隆帯により縦楕円文が付され、 左右口縁に沿って隆帯が延びる。	後期初頭
第165図 PL.78	2	深鉢	口縁部	5-98住	砂粒/暗褐色/良	口縁部くの字に内屈か、内屈した器面は平ら で、口縁部に沿って沈線が巡り以下、縄文L Rが施文される。	後期初頭
第165図 PL.78	3	深鉢	口縁部	5-98住	金雲母粒/暗黒褐色/良	口縁下に曲線文を描くと思われる沈線及び縄 文が見られる。	中期後葉
第165図 PL.78	4	深鉢	胴部	5-98住	微砂粒、金雲母/褐色/ 良	垂下沈線で無文帯を画す、縄文はLR縦位施 文。	中期後葉
第165図 PL.78	5	深鉢	胴部	5-98住	石英・長石粒/赤茶褐色 /良	沈線による紡錘文様を上下に描き、内側には 縄文LRが充填施文される。	後期初頭
第165図 PL.78	6	深鉢	胴部	5-98住	砂粒/にぶい茶褐色/良	沈線による2本単位の懸垂文、地文には縄文 LR縦位施文。	中期後葉
第165図 PL.78	7	深鉢	胴部	5-98住	石英・長石粒/赤茶褐色 /良	沈線による2本単位の懸垂文、地文には縄文 LR縦位施文。	中期後葉
第165図 PL.78	8	深鉢	胴部	5-98住	金雲母/黒褐色/良	縄文無節LR充填施文。	前期後半 か
第165図 PL.78	9	深鉢	胴部	5-98住	砂粒/にぶい灰黄褐色/ 良	隆帯による懸垂文、縦位状文LR施文。	中期後葉
第165図 PL.78	10	深鉢	胴部	5-98住	砂粒/にぶい灰黄褐色/ 良	横位沈線、地文には縦位の集合細条線文。	中期後葉
第165図 PL.78	11	深鉢	胴部	5-98住	砂粒/にぶい灰黄褐色/ 良	断面三角の隆帯による懸垂文、曲線文様を画 す、隆帯側縁部は撫で調整。地文には縄文R L縦位施文。	中期後葉
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第165図 PL.78	1	多孔石	5-902土	完形	35.7 25.7 23.5 19,600	大型の自然礫利用、表面は小凹凸顕著、凹み 孔と見られるものは少ない。	細粒輝石 安山岩
挿図番号 図版番号	掲載 No.	種 類	出土位置	残 存	計測値	形 態 の 特 徴 等	備 考
第165図 PL.78	1	鉄釘	4-5号竪穴	先端・上 端部欠損	0.5×0.7×<7.9> 6.5g		
第165図 PL.78	1	鉄釘	4-E10	上端部欠 損	0.5×0.5×<12.9> 13.7g		
挿図番号 図版番号	掲載 No.	器 種	出土位置	残 存	計測値 長さ・幅・厚さ(cm)・重さ(g)	特 徴	石 材
第165図 PL.78	1	石鉢	5-W12	完形	1.8 1.2 0.5 0.9	小型凹基無茎、厚みを有す。	チャート

長野原一本松遺跡(6)

第165図 PL.78	1	二次加工 品	5-6 焼土	欠損	2.1 1.6 0.6 1.7	石鉢の未製品か。	黒曜石
----------------	---	-----------	--------	----	-----------------	----------	-----

表6 遺構一覧表

住居

番号	区	位置	形状	規模 (cm)	方位	炉・竈	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
22	4	Q・R-18	円形	360×350×33	N-70° -W	石囲い、土器炉	—		炉体土器	中期後葉	平15・17年度調査
13	6	D-18・19	隅丸方形	460×450×24	N-18° -E	石囲い炉	(6)		土器片	中期後葉	平13・17年度調査
18	6	F-15・16	隅丸方形	350×330×20	N-30° -E	石囲い炉	4か		土器、石器		
19	6	G-13	円形	280×(280)×18	N-14° -W		3		土器、石器	不明	
20	6	E・F-15・16	長円形	(265)×(250)×27	N-26° -E	埋設土器炉	—		土器、石器、埋甕		
21	6	G・H-18・19	長円形	(300)×280×20	N-27° -E	石囲い炉	—		土器、石器		
22	6	E-23・24、F-23	円形	270×260×40	N-37° -E	石囲い炉	4		土器、石器		土坑を埋めて構築
23	6	G・H-15・16	円形	545×535×—	N-45° -E		7		—		
24	6	B・C-3・4	円形	520×—×65	N-17° -E	地床炉	4		土器、石器	中期後葉	6-255土坑が重複
1	7	T・U-20・21	方形	(600)×(600)×—	N-15° -E	地床炉	—	一部硬化面	須恵器	平安?	掘立柱建物跡に切られる
2	7										7-9掘立柱建物跡に変更

掘立柱建物一覧

1	6	I・J-18・19	長方形	470×270	N-80° -W		6			縄文	
1	7	T・U-19～21	長方形	925×335	N-6° -E		10			近世	
2	7	Q-19～21、R～U-20・21	長方形	1610×380	N-80° -W		13			近世	
3	7	T・U-20・21	方形	550×540	N-77° -W		6			近世	
4	7	R・S-16～18	長方形	430×345	N-25° -E		6			近世	
5	7	S・T-19・20、U・V-19～21	長方形	1250×500	N-77° -W		10			近世	
6	7	P～R-17・18	長方形	670×395	N-68° -W		8			近世	
7	7	R-14、S・T-14・15	長方形	590×330	N-73° -W		8			近世	
8	7	R-14、S-13～15、T-14・15	長方形	605×330	N-70° -W		7			近世	
9	7	U・V-18・19	長方形	455×310	N-7° -W		6			近世	厩か、7-2住を変更

埋甕

番号	区	位置	形状	残存	形態・特徴	備考
1	3	R-23	正位	胴～底部	土器内に礫が詰められる。	土器は脆弱

竪穴状遺構

番号	区	位置	形状	規模 (cm)	方位	炉	柱穴	床面	出土遺物	時期	備考
7	4	Q-14	方形か	250×(150)×25	N-S	無し	壁際	凹凸あり	礫、若干の炭化	中世	壁際に小ピット、南側は未調整

土坑

番号	区	位置 (グリッド)	形状	規模 (長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
14	3	T-2	長円形	173×93×189	N-35° -W	土器1	平安以降	陥し穴
15	3	R・S-5	長円形	180×142×113	N-3° -E		平安以降	陥し穴
16	3	N-10	長円形	191×160×119	N-50° -W		平安以降	陥し穴
17	3	T-4・5	長円形	(207)×165×187	N-8° -W		平安以降	陥し穴
117	4	S-18	長円形	153×120×32	N-79° -W	土器1	中世以降	
118	4	S-17	円形	145×126×48	N-87° -E	土器1・石器1	中世以降	
119	4	T-18	円形	67×65×35	N-8° -E		中世以降	
120	4	R-17	長円形	103×72×73	N-59° -E		縄文か	
121	4	B-1、94B-25	長円形	50×33×41	N-78° -W		近世以降	
122	4	B-1	円形	126×121×44	—			
123	4	B・C-2	円形	101×96×32	N-12° -E			
124	4	C・D-5	長円形	273×200×119	N-22° -W	土器1	平安以降	陥し穴
125	4	C-2	円形	148×146×46	N-13° -E			
1276	5	Q-25	長円形	56×41×31	N-85° -E			平20 5-1号土坑を変更
215	6	L-13	長円形	170×118×134	N-81° -W	土器2	平安以降	陥し穴
216	6	I-15	円形	51×45×30	—			
217	6	G-14	不整形	107×57×32	N-87° -W			
218	6	G-15	円形	67×61×25	—	土器2		
219	6	G-15	円形	79×63×32	N-32° -E			
220	6	H-16	長円形	81×62×51	N-37° -E	土器1		
221	6	H-16	不整形	68×53×30	—			

土坑

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
222	6	G-14	不整形	91×67×33	—			
223	6	F-16	円形	53×47×17	N-47° -W	石器1		
224	6	F-16	円形	73×70×24	N-31° -W			
225	6	I-18	円形	82×74×17	N-65° -W	土器2		
226	6	G-15	円形	64×55×20	—			
227	6	I-16	長円形	119×66×35	N-11° -E			
228	6	I-18・19	長円形	79×60×50	N-82° -W			6-1号掘立P-5
229	6	H-22	長円形	68×41×20	N-28° -E			
230	6	G・H-23	長円形	109×86×26	N-78° -W			
231	6	D-22	長円形	154×89×110	N-39° -W	土器6	平安以降	陥し穴
232	6	E-24	円形	157×147×49	N-65° -W	土器1・石器1		
233	6	D-23	円形	183×180×74	—	土器3・石器1 ・炭化物		
234	6	E-23	円形	166×146×119	N-60° -W	土器4		
236	6	F-23	円形	63×62×41	—	土器2		
237	6	I-16	長円形	74×38×23	N-56° -E			
238	6	J-16	円形	66×63×24	—			
239	6	I-18	円形	59×49×35	—			6-1号掘立P-2
240	6	F-12・13	(円形)	(84)×(70)×68	—	土器3		
241	6	F・G-14	長円形	49×34×20	N-70° -W	土器2		
242	6	H-14	円形	72×68×32	N-61° -E			
243	6	G-15	円形	46×42×15	—			
244	6	H-18	円形	41×38×31	—			
245	6	I-18	円形	67×60×49	—			6-1号掘立P-6
246	6	J-18	長円形	57×40×41	N-83° -W			6-1号掘立P-3
247	6	I-18	長円形	88×60×29	N-90° -W			6-1号掘立P-1
248	6	J-19	円形	54×52×36	—			6-1号掘立P-4
249	6	J-18	長円形	46×30×20	N-20° -W			
250	6	G-19	円形	61×56×15	—			
251	6	E-20	円形	119×107×22	N-54° -E	土器3		
252	6	H-20	円形	92×85×32	—			
253	6	I-21	円形	96×(46)×95	N-32° -E	土器1	平安以降	陥し穴、西半分は調査区外
254	6	E-22	円形	80×70×39	—			
255	6	C-3・4	長円形	277×226×121	N-20° -E	土器33・石器4	平安以降	陥し穴、6-24号住に重複
256	6	D・E-3・4	長円形	153×97×98	N-8° -E	土器6	平安以降	陥し穴
257	6	D・E-2・3	長円形	236×174×145	N-54° -W	土器18・石器1	平安以降	陥し穴
258	6	K-1	円形	137×126×88	N-14° -E	土器2		
259	6	H・I-1	円形	116×114×36	N-59° -E	石器1	近世以降	
260	6	K・L-2	円形	156×153×62	N-82° -E			
261	6	L-1	円形	147×145×62	—			
262	6	L-1	円形	91×84×35	—			
263	6	M-1	円形	98×75×14	N-13° -W	土器3		
264	6	M-1	円形	146×145×58	N-42° -E	土器4		
265	6	M-1	円形	102×95×35	—			
266	6	N-1	長円形	(112)×101×47	N-S			
267	6	N-1	円形	105×103×67	—			
268	6	N-1、96N-25	円形	164×(146)×57	N-59° -E			6-269土を変更
269	6	L-1	円形	120×110×25	N-84° -W			6-273土を変更
270	6	F-3	円形	53×48×21	—	土器3		6-274土を変更
37	7	Y-22	長円形	210×162×196	N-5° -E		平安以降	陥し穴
38	7	U-21・22	長円形	188×102×96	N-31° -E		平安以降	陥し穴
39	7	R-22	長円形	196×162×154	N-5° -E	土器1	平安以降	陥し穴
40	7	Y-22・23	長円形	188×156×130	N-6° -E	土器1	平安以降	陥し穴
41	7	R-22	長円形	204×138×164	N-10° -E		平安以降	陥し穴
42	7	S-21	長円形	180×108×105	N-5° -E		平安以降	陥し穴
43	7	V・W-22・23	長円形	200×148×74	N-11° -W		平安以降	陥し穴
44	7	W・X-21	長円形	204×164×128	N-53° -E		平安以降	陥し穴
45	7	T-22	長円形	244×224×158	N-3° -W		平安以降	陥し穴
46	7	U・V-22・23	長円形	262×190×172	N-32° -E		平安以降	陥し穴
47	7	V-21・22	長円形	204×160×146	N-50° -W		平安以降	陥し穴
48	7	T・U-21・22	円形	262×230×203	N-7° -E	土器3	平安以降	陥し穴
49	7	P-19	長円形	160×80×106	N-37° -E	土器2	平安以降	陥し穴
50	7	N-18・19	長円形	152×72×92	N-54° -E		平安以降	陥し穴
51	7	O・P-16・17	長円形	150×64×32	N-87° -W		平安以降	陥し穴

土坑

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
52	7	Q-19	長円形	170×110×114	N-64° -W	土器5・石器1	平安以降	陥し穴
53	7	L-17	長円形	252×192×158	N-85° -W	炭化材多量、 軽石	平安以降	陥し穴
54	7	Q-18	円形	148×116×(38)	—		近世以降	
55	7	Q-18	円形	(146)×(120)×44	—	土器1	近世以降	
56	7	Q・R-18	長円形	184×106×94	N-48° -W	土器3	平安以降	陥し穴
57	7	I・J-18	隅丸長方形	198×68×87	N-52° -W		平安以降	陥し穴
58	7	L-19	長円形	184×104×78	N-27° -W	土器1	平安以降	陥し穴
59	7	Q-17	長円形	208×112×117	N-81° -W	土器1	平安以降	陥し穴
60	7	Q-16・17	長円形	160×116×88	N-64° -W		平安以降	陥し穴
61	7	Q・R-15	長円形	178×110×104	N-87° -E		平安以降	陥し穴
62	7	T-16	長円形	184×118×112	N-50° -W		平安以降	陥し穴
63	7	I-17	長円形	178×124×36	N-88° -E	内耳銅片	平安以降	陥し穴
64	7	U-15	長円形	192×108×127	N-21° -W		平安以降	陥し穴
65	7	T-12・13	円形	132×124×92	—		縄文か	
66	7	S-12・13	円形	144×136×74	—		縄文か	
67	7	T-14	長円形	166×140×90	N-58° -E		縄文か	
68	7	U-12・13	円形	114×106×78	—		縄文か	
69	7	R・S-12	円形	118×116×68	—		縄文か	
70	7	U-17・18	円形	144×132×28	N-37° -W			
71	7	R-14	(長円形)	306×(252)×23	N-36° -E	土器2	平安か	浅い落ち込み、上層にAs-Kk
72	7	V-16	円形	72×64×34	—			
73	7	P-22	長円形	124×52×36	N-12° -E			
74	7	Q-19	長円形	184×108×105	N-62° -W	土器2	平安以降	陥し穴
75	7	P-21	長円形	168×102×92	N-48° -E	土器1	平安以降	陥し穴
76	7	P・Q-22	長円形	222×188×187	N-7° -W		平安以降	陥し穴
77	7	Q-23・24	長円形	228×160×140	N-37° -W	土器1	平安以降	陥し穴
78	7	P-24	長円形	158×94×85	N-79° -W		平安以降	陥し穴
79	7	C・D-23	長円形	192×112×102	N-14° -W	土器1	平安以降	陥し穴
80	7	U-19	円形	72×62×32	N-S		平安以降	陥し穴
81	7	U-18	円形	56×46×24	N-90° -W		平安以降	陥し穴
82	7	V-18	円形	68×56×24	—			
83	7	K-24・25	長円形	184×90×66	N-56° -W			
84	7	O-22	長円形	190×128×82	N-28° -E		平安以降	陥し穴
85	7	N-21・22	長円形	180×88×57	N-19° -W		平安以降	陥し穴
86	7	M-21・22	円形	240×210×142	N-2° -W		平安以降	陥し穴
87	7	L・M-21	長円形	172×100×87	N-52° -E	土器2	平安以降	陥し穴
88	7	L-21	長円形	160×110×126	N-23° -E	土器2	平安以降	陥し穴
89	7	K-23	長円形	(178)×164×164	N-89° -E	土器1	平安以降	陥し穴
90	7	M-19・20	長円形	158×108×153	N-55° -W	土器1	平安以降	陥し穴
91	7	S-15	円形	72×72×24	—			
92	7	T-22	長円形	88×56×24	N-32° -W			
94	7	C-23	長円形	156×106×114	N-15° -W		平安以降	陥し穴
95	7	D-24	長円形	172×72×108	N-20° -W	土器2	平安以降	陥し穴
96	7	D-17・18	長円形	224×172×224	N-14° -E	土器3・石器1	平安以降	陥し穴
97	7	E・F-17	長円形	172×72×68	N-12° -E	土器	平安以降	陥し穴
98	7	F-17・18	長円形	168×100×140	N-28° -E		平安以降	陥し穴
99	7	G-17	長円形	172×108×95	N-10° -E		平安以降	陥し穴
100	7	J-23・24	長円形	204×160×160	N-62° -W	土器1	平安以降	陥し穴
101	7	D-21	長円形	108×84×16	N-S			
102	7	E・F-25	円形	134×128×34	—			
103	7	H・I-20	長円形	176×146×139	N-62° -E		平安以降	陥し穴
104	7	G・H-19・20	長円形	212×190×174	N-30° -E	土器1	平安以降	陥し穴
105	7	K-20・21	(長円形)	(286)×(208)×214	N-22° -E	土器18	平安以降	陥し穴
106	7	I・J-19	長円形	206×186×168	N-18° -E		平安以降	陥し穴
107	7	J-19	長円形	227×172×150	N-38° -E	土器1	平安以降	陥し穴
108	7	C・D-24	長円形	62×56×28	N-17° -E			
109	7	E-18	円形	90×80×31	—			
110	7	E・F-22	長円形	182×120×134	N-25° -W		平安以降	陥し穴
111	7	I-25	長円形	198×80×98	N-52° -W		平安以降	陥し穴か底面長方形、内壁に工具痕あり
112	7	G-20	長円形	172×144×49	N-21° -E			
7	8	C-22	長円形	(180)×(132)×191	N-21° -W		平安以降	陥し穴
8	8	C-21	長円形	(164)×(98)×125	N-56° -E		平安以降	陥し穴

土坑

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
9	8	A・B-22・23	長円形	(208)×(184)×146	N-26° -W		平安以降	陥し穴
10	8	A・B-21	長円形	(208)×(114)×155	N-33° -E	石器1	平安以降	陥し穴
11	8	D・E-21	長円形	194×124×118	N-14° -W	土器2	平安以降	陥し穴
12	8	D-21	長円形	(194)×(154)×210	N-35° -W	土器1	平安以降	陥し穴
13	8	E-22	円形	106×98×60	—	土器2		
14	8	C-20・21	長円形	(208)×(138)×116	N-18° -W		平安以降	陥し穴
15	8	F-21	長円形	214×(156)×198	N-5° -E	土器1	平安以降	陥し穴
1	13	L-1	長円形	172×152×157	N-60° -E		平安以降	陥し穴
2	15	R-1	長円形	62×34×15	N-S			
3	15	R-1	(長円形)	(98)×65×36	N-42° -W			
4	15	Q-2	(円形)	206×(113)×21	—			
5	15	P-2	長円形	148×95×22	N-63° -E			
6	15	P-1	長円形	83×50×20	N-39° -E			
7	15	J・K-2	円形	94×93×30	—			
8	15	J-1	長円形	45×33×15	—			
9	15	J-1	長円形	55×43×18	—			
10	15	I-1	長円形	62×50×22	N-78° -E			
11	15	I-1	長円形	43×30×18	N-70° -E			
12	15	I-1	長円形	38×33×15	N-18° -E			
13	15	H-1	長円形	51×46×21	—			
14	15	J-1	長円形	104×80×24	—			
15	15	H-5	円形	39×39×10	—			
16	15	H-6・7	円形	70×70×43	—			
17	15	F-6	長円形	68×62×24	—			
18	15	F-6	長円形	55×28×18	N-25° -E			
19	15	F-6	長円形	37×31×14	—			
20	15	E-6	長円形	59×45×30	N-50° -W			
21	15	D-7	円形	43×42×17	—			
23	15	F・G-7	不整形	40×34×15	N-55° -W			
24	15	F-7	円形	95×90×38	—			
25	15	F-7	円形	32×31×15	—			
26	15	F-7	長円形	77×45×20	N-14° -W			
27	15	E-7	円形	35×33×8	—			
28	15	E-8	長円形	78×60×7	N-41° -W			
29	15	E-7	円形	35×34×20	—			
30	15	E-7	円形	38×34×18	—			
31	15	E-8	長円形	38×28×12	N-45° -E			
32	15	D-8	長円形	35×30×18	—			
33	15	D-7	円形	75×73×13	N-29° -W			
34	15	E-7	長円形	63×54×15	—			
35	15	E-7	円形	45×41×25	—			
36	15	E-7	長円形	54×45×34	N-85° -E			
37	15	E-7	長円形	51×37×20	N-10° -W			
38	15	F-7・8	(長円形)	(92)×82×27	N-29° -W	土器2		
39	15	F-7	円形	142×140×60	—	土器1		
40	15	E-7	長円形	47×35×20	N-73° -E			
41	15	F-7	長円形	49×40×23	N-23° -E			
42	15	F-6	長円形	79×42×30	N-65° -E			
43	15	D-7	円形	35×32×15	—			
44	15	E-6	長円形	75×60×20	N-67° -E	土器2		
45	15	E-5	長円形	70×44×39	N-89° -E			
46	15	E-5	円形	54×52×12	—			
47	15	E-5	円形	43×40×18	—			
48	15	F-5	円形	23×21×19	—			
49	15	F-6	円形	145×142×38	N-23° -W			
50	15	F-6	長円形	85×57×15	N-66° -E			
51	15	F-6・7	長円形	74×53×15	N-35° -W			
52	15	F-6	円形	43×39×14	—			
53	15	F-5	長円形	29×23×16	—			
54	15	F-5	長円形	42×34×18	—			
55	15	D-3	長円形	178×101×78	N-9° -E			
56	15	F-3	長円形	49×37×14	—			
57	15	F-3	円形	29×27×13	—			
58	15	F・G-3	長円形	54×51×13	N-28° -W			

土坑

番号	区	位置(グリッド)	形状	規模(長径・短径・深さ)	主軸方位	出土遺物	時期	備考
23	96	H-25	長円形	(159)×97×94	N-38° -W		平安以降	陥し穴、6-259土と接する
24	96	L-25	円形	97×86×38	—			
25	96	L-24	円形	49×48×13	—	土器1		
26	96	M-22・23	円形	152×150×26	—			
27	96	N-23・24	円形	97×92×21	—	陶磁器1	近世以降	
28	96	N-24・25	円形	115×107×38	N-70° -E			
29	96	N-25	長円形	109×84×24	—			
30	96	O-24・25	円形	110×109×36	—			
31	96	O-23	円形	(100)×116×74	—			
32	96	M・N-25	円形	104×100×77	—			
33	96	N-24	長円形	135×105×39	N-90° -W			
34	96	M-25	長円形	112×90×54	N-46° -W			
35	96	M-25、6 M-1	円形	95×85×46	N-17° -E			
36	96	M-24	円形	161×154×55	—	土器1・石器1		
37	96	M-23	円形	130×117×51	N-18° -E	土器3・石器1		
38	96	N-23	円形	113×(48)×35	—			
39	96	N・O-24	円形	130×120×45	N-77° -W			
40	96	O-24	円形	(113)×113×31	—			
41	96	O・P-23・24	円形	203×198×90	—			
42	96	P-24	円形	160×152×58	N-11° -E		平安以降か	
43	96	F-23	長円形	222×138×166	N-43° -W	土器3・石器1	平安以降	陥し穴
44	96	G-24	円形	43×42×29	—	土器1		
45	96	F-23	円形	50×45×39	—			
46	96	M-25	円形	133×122×55	N-15° -W	土器1		
47	96	O-25	長円形	(137)×129×23	N-30° -W			96-30土と接する
48	96	N-25	円形	143×117×87	N-60° -E			6-268土を変更
49	96	O-25	円形	100×96×55	N-71° -E			6-270土を変更
50	96	O-25	円形	105×(102)×60	—	土器1 撚糸文系		6-271土を変更
51	96	P-25	長円形	105×83×31	N-24° -W			6-272土を変更

ピット

106	4	S-16・17	長円形	26×21×25				
107	4	S-16	長円形	30×23×25				
108	4	R-16	円形	21×19×19				
109	4	R-16	隅丸方形	24×23×25				
110	4	Q-16	隅丸方形	24×22×22				
111	4	R-16	長円形	32×29×26				
112	4	R-15	不整形	32×25×38				
113	4	R-15	長円形	34×28×42				
114	4	Q-15	長円形	29×23×31				
115	4	Q-15	隅丸方形	39×34×32				
116	4	R-16	方形	26×26×18				
117	4	Q-15	円形	23×22×19				
118	4	Q-16	円形	22×21×30				
119	4	P-16	長円形	24×19×24			土器1	
120	4	P-16	長円形	(32)×(8)×26				
121	4	P-16	円形	31×30×45				
122	4	P・Q-16	円形	36×35×27				
123	4	P-15・16	円形	27×26×23				
124	4	Q-14	円形	33×30×26				
125	4	Q-14	円形	22×22×21				
126	4	Q-14	長円形	38×(30)×36				
127	4	R-14	長円形	24×20×35				
128	4	Q-14	不整形	18×17×22				
129	4	Q-14	長円形	36×30×43				
130	4	P-16	長円形	25×22×30			土器1	
131	4	P-16	長円形	33×29×56				
132	4	Q-14	長円形	29×23×53				
134	4	R-18	長円形	33×25×30			土器1	
135	4	Q-16	隅丸方形	28×28×43				
136	4	Q・R-16	不整形	28×27×15				
137	4	P-16	円形	27×27×25				
138	4	R-15	長円形	16×12×34				
1	16	E-2	不整形	38×36×44				
2	16	D-3	長円形	50×44×40				

